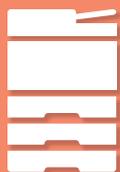


ユーザーズマニュアル



お使いになる前に

本機のはたらき、原稿や用紙の
セット方法などについて



本機の操作方法

タッチパネルの操作やユーザーインター
フェースのカスタマイズ方法について



コピー

コピー機能の使いかた



プリンター

プリンター機能の使いかた



ファクス

ファクス機能の使いかた



スキャナー

スキャナーの使いかた



本機を便利に使う

本機の便利な機能について



設定モード

本機をより使いやすくするため
の設定について



こまったときは

Q&Aやお手入れの方法について



仕様

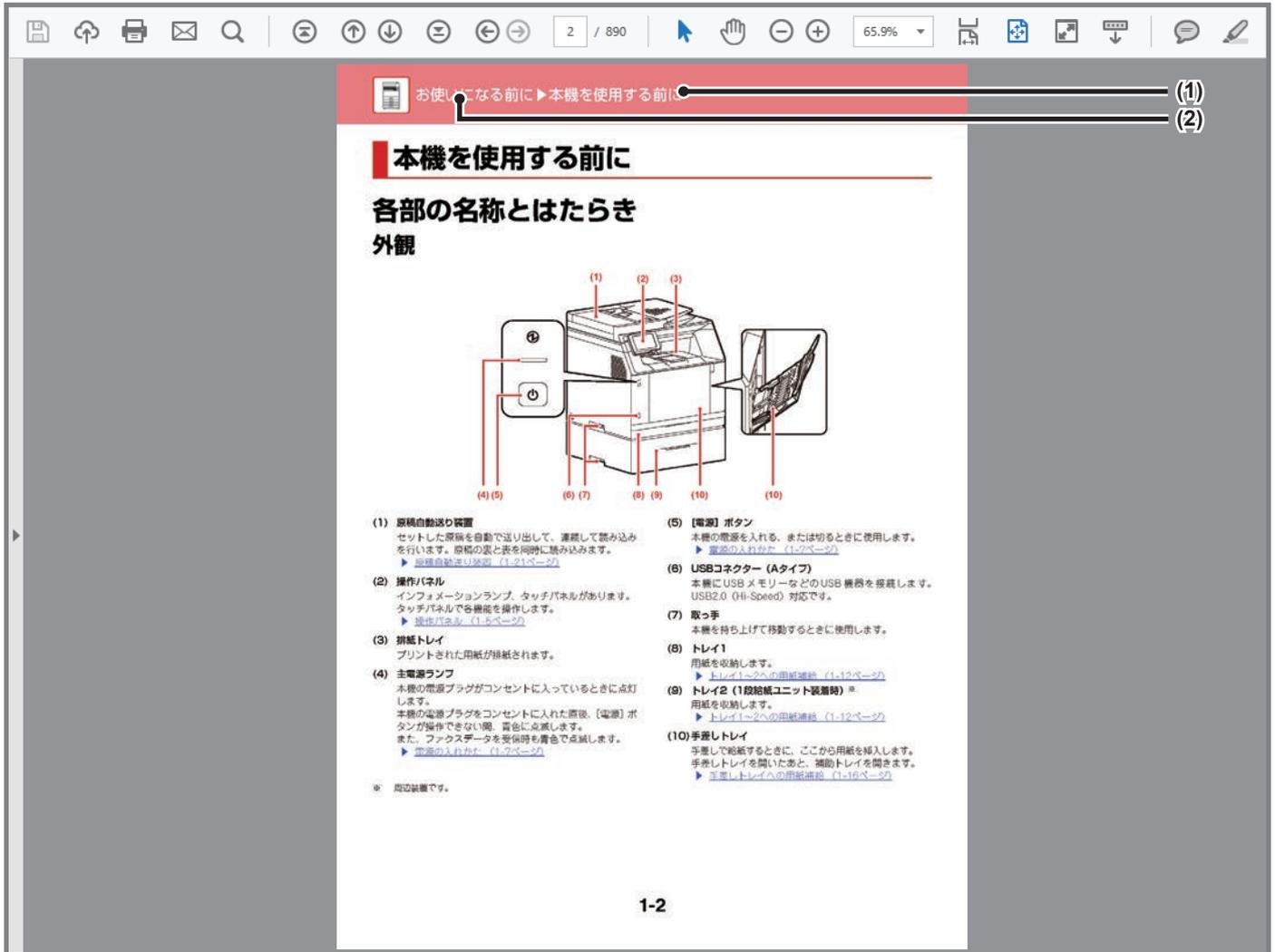
仕様やライセンスコードについて

クリックすると
章もくじへ
ジャンプします

このマニュアルの使いかた

下記のボタンをクリックして目的のページへ移動してください。

以降の説明ではAdobe Readerで説明しています（標準状態では表示されていないボタンがあります）。



(1) タイトルボタン

表示されているタイトルのページを表示します。

(2) もくじボタン

各章のもくじページを表示します。

たとえば、現在のページがプリンターについて書かれた章の本文のページであれば、プリンターの章のもくじページを表示します。



表示されていないボタンがある場合、Adobe Readerのヘルプを参照してボタンを表示させてください。

本書の記載内容について

本書はデジタルフルカラー複合機BP-C131WDについて説明しています。

お願い

- この取扱説明書に記載のドライバーおよびソフトウェアのインストールについては、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- OS（オペレーティングシステム）に関する事柄については、必要に応じてOSの説明書またはヘルプ機能を参照してください。
- この取扱説明書では、Windows環境での画面の説明や操作手順は、Windows® 10でお使いになる場合を主体に説明しています。OS（オペレーティングシステム）のバージョンやアプリケーションソフトにより表示される画面が異なることがあります。
- この取扱説明書では、macOS環境での画面の説明や操作手順は、macOSの場合はmacOS 14でPPDドライバーをインストールした状態でお使いになる場合を主体にそれぞれ説明しています。OS（オペレーティングシステム）のバージョンやアプリケーションソフトにより表示される画面が異なることがあります。
- この取扱説明書でBP-xxxxxと記載しているところは、“xxxxx”にお使いのモデル名を入れてお読みください。
- この取扱説明書では、日本郵政株式会社製のはがきを郵便はがきと記載しています。
- この取扱説明書は内容について十分注意し作成しておりますが、万一ご使用中にご不審な点・お気づきのことがありましたら、スタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
- この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店、またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
- お客様もしくは第三者がこの製品および別売品の使用を誤ったことにより生じた故障、不具合、またはそれらに基づく損害については、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

ご注意

- この取扱説明書の内容の全部または一部を、当社に無断で転載、あるいは複製することを禁止します。
- この取扱説明書の内容は、改良のため予告なく変更することがあります。

本文中で説明しているイラスト、操作パネル、タッチパネルについて

周辺装置は基本的に別売品ですが、お買いあげいただいた本機の種類によっては、一部標準装備されているものもあります。本機の機能や使いかたを説明するために、上記と異なる周辺装置の装着状態で説明している場合があります。

本機の内蔵サーバー（Webページ）について

Webブラウザから本機の内蔵サーバーにアクセスし、表示されるWebページで本機の設定を変更することができます。本書内で「Webページ」と表記する場合、この内蔵サーバーを指しています。

取扱説明書に記載している操作画面、表示されるメッセージ、キー名称などは改良変更などにより実際の表示と一部異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

絵表示について

各取扱説明書で使用している絵表示は、次の事柄を説明しています。

	人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。また、人がけがをしたり、財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。		操作の中止や訂正のしかたを説明しています。
	本機を傷つけたり、故障させる危険がある内容について説明しています。		設定モードに関する内容を記載しています。
	機能や操作手順を補足しています。		



お使いになる前に

本機を使用する前に

各部の名称とはたらき	1-2
外観	1-2
内部、側名、背面	1-3
原稿自動送り装置と原稿台（ガラス面）	1-4
操作パネル	1-5
インフォメーションランプ	1-6
電源の入れかた	1-7
電源を入れる	1-7
電源を切る	1-7
再起動する	1-7
節電モードにする	1-7

用紙補給について

用紙補給する前に	1-8
トレイの位置と名称	1-8
使用できる用紙の種類	1-9
トレイ1～2への用紙補給	1-12
トレイに郵便はがき/往復はがき/封筒をセットする場合	1-14
手差しトレイへの用紙補給	1-16
用紙のセット	1-16

原稿のセット

原稿の種類や状態からセット方法を選択	1-21
原稿自動送り装置	1-21
原稿台（ガラス面）	1-23

周辺装置について

周辺装置の種類	1-24
---------	------

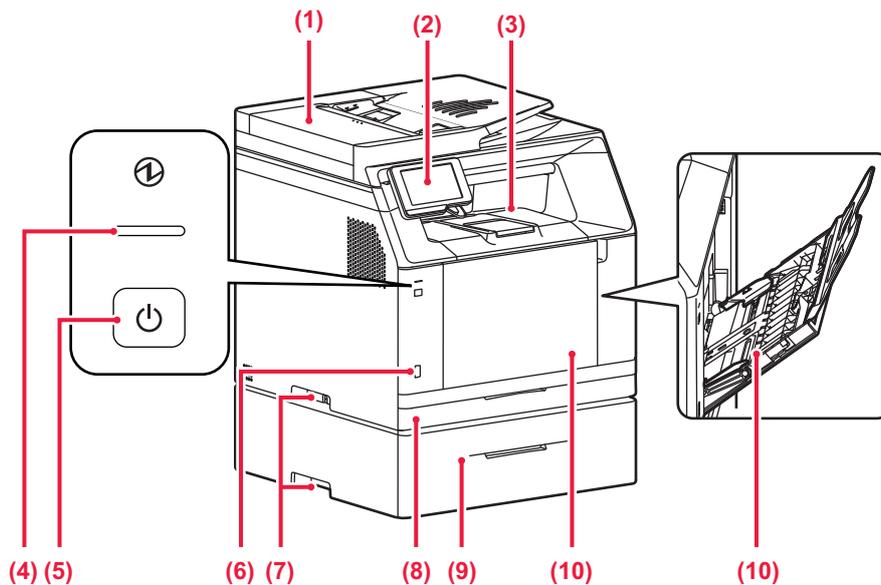
お手入れについて

日常のお手入れ	1-25
原稿台・原稿自動送り装置部の清掃について	1-25
書き込みユニットの清掃	1-28
手差し給紙ローラーの清掃	1-31
原稿給紙ローラーの清掃	1-31
トレイの給紙ローラーの清掃	1-31
トナーカートリッジの交換	1-32
交換のメッセージ	1-32
トナー回収容器の交換	1-35



本機を使用する前に

各部の名称とはたらき 外観



(1) 原稿自動送り装置

セットした原稿を自動で送り出して、連続して読み込みを行います。原稿の裏と表を同時に読み込みます。

▶ [原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

(2) 操作パネル

インフォメーションランプ、タッチパネルがあります。タッチパネルで各機能を操作します。

▶ [操作パネル \(1-5ページ\)](#)

(3) 排紙トレイ

プリントされた用紙が排紙されます。A4サイズ以上の用紙をプリントするときや大量にプリントするときは、排紙延長トレイを引き出します。

(4) 主電源ランプ

本機の電源プラグがコンセントに入っているときに点灯します。

本機の電源プラグをコンセントに入れた直後、[電源] ボタンが操作できない間、青色に点滅します。

▶ [電源の入れかた \(1-7ページ\)](#)

(5) [電源] ボタン

本機の電源を入れる・切るときや節電モードに移行するときに使用します。

[電源] ボタンを長押しすると、本機は再起動します。

▶ [電源の入れかた \(1-7ページ\)](#)

(6) USBコネクタ (Aタイプ)

本機にUSBメモリーなどのUSB機器を接続します。USB2.0 (Hi-Speed) 対応です。

(7) 取っ手

本機を持ち上げて移動するときに使用します。

(8) トレイ1

用紙を収納します。

▶ [トレイ1~2への用紙補給 \(1-12ページ\)](#)

(9) トレイ2 (1段給紙ユニット装着時) ※

用紙を収納します。

▶ [トレイ1~2への用紙補給 \(1-12ページ\)](#)

(10) 手差しトレイ

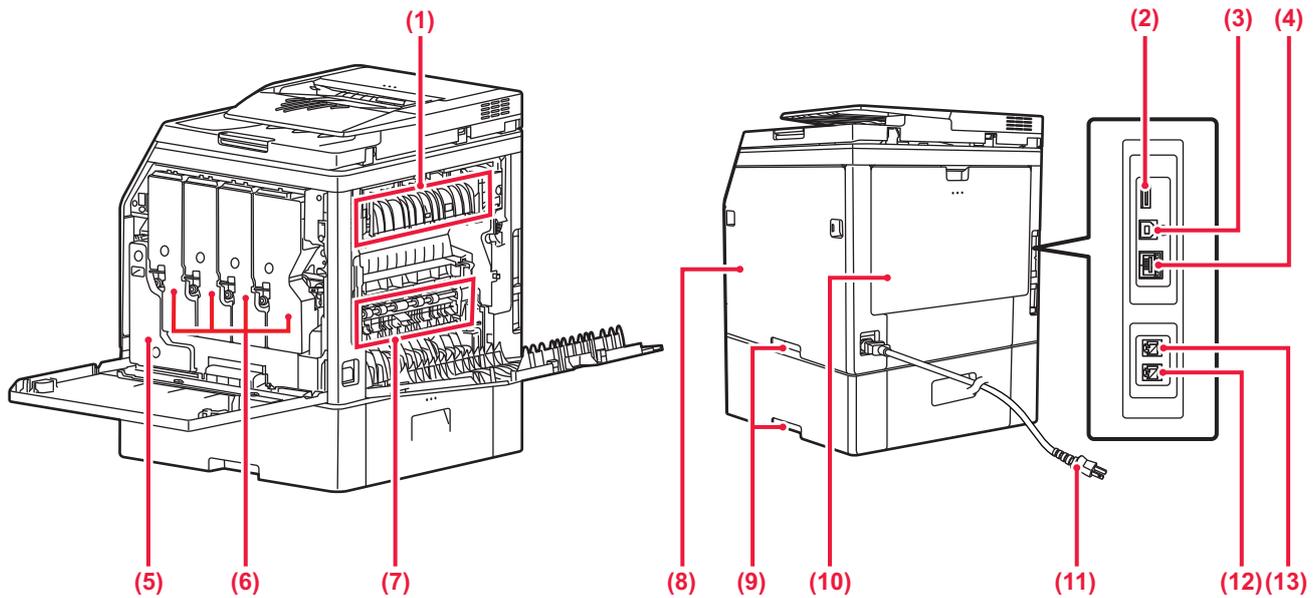
手差しで給紙するときに、ここから用紙を挿入します。手差しトレイを開いたあと、補助トレイを開きます。

▶ [手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)

※ 周辺装置です。



内部、側名、背面



(1) 定着部

用紙上に転写した画像を熱により定着するところです。



定着部は高温になっています。
紙づまりの処置をするときは、やけどをしないように
十分注意します。

(2) USBコネクター (Aタイプ)

本機にUSBメモリーなどのUSB機器を接続します。
USB2.0 (Hi-Speed) 対応です。

(3) USBコネクター (Bタイプ)

本機では、このコネクターを使用しません。

(4) LANコネクター

本機をネットワークで使用するとき、LANケーブルを
接続します。
LANケーブルは、シールドタイプを使用します。

(5) トナー回収容器

プリントしたときに、余分になったトナーを収納する
ボックスです。

▶ [トナー回収容器の交換 \(1-35ページ\)](#)



サービス担当者が交換したトナー回収容器を回収し
ます。

(6) トナーカートリッジ

トナーが入っている容器です。
トナーがなくなった場合、新しいカートリッジと交換します。

▶ [トナーカートリッジの交換 \(1-32ページ\)](#)

(7) 転写ベルト

転写ベルトは、フルカラープリントのとき、4色それぞれの
感光体上のトナーイメージを転写ベルト上で重ねるは
たらきをします。
白黒プリントのときは、黒色のみのトナーイメージを転
写ベルト上に写します。



触れたり、キズをつけないようにします。
画像不良の原因となります。

(8) 右側面カバー

トナーカートリッジを交換するときなどに開きます。

▶ [トナーカートリッジの交換 \(1-32ページ\)](#)

▶ [トナー回収容器の交換 \(1-35ページ\)](#)

(9) 取っ手

本機を持ち上げて移動するときに使用します。

(10) 背面カバー

用紙がつまったときに開きます。

(11) 電源プラグ

(12) 回線端子 (LINE)

本機でファクス機能を使用するとき、電話線に接続し
て使用します。

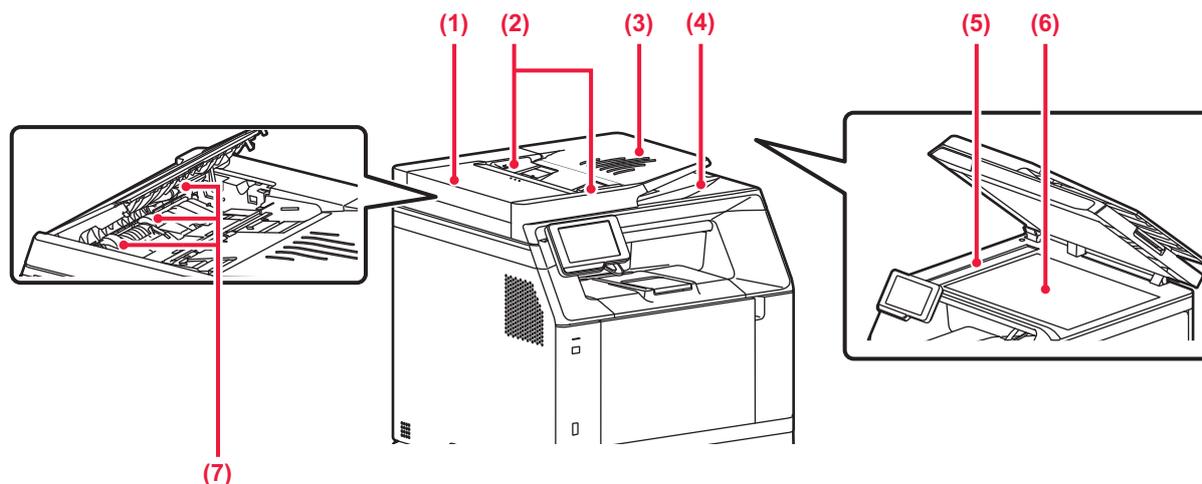
(13) 外部電話機接続端子 (TEL)

本機でファクス機能を使用するとき、外部電話機を接
続します。



お使いになる前に ▶ 本機を使用する前に

原稿自動送り装置と原稿台（ガラス面）

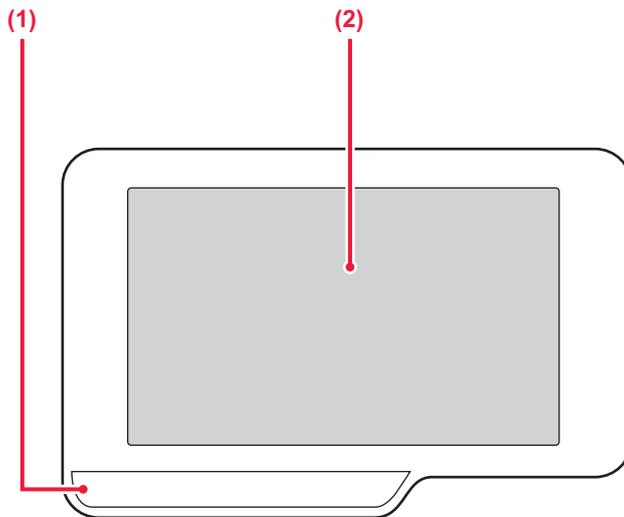


- (1) **原稿給紙部カバー**
原稿の紙づまりの処置のときに開きます。
原稿給紙ローラーを清掃するときに開きます。
▶ [原稿給紙ローラーの清掃（1-31ページ）](#)
- (2) **原稿ガイド**
原稿を正しく読み取るためのガイドです。
セットした原稿サイズの幅に合わせてます。
- (3) **原稿セット台**
原稿をセットします。
上向きに原稿をセットします。
▶ [原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)
- (4) **原稿出紙部**
読み取りを終了した原稿が出てきます。
- (5) **原稿読み取り部**
原稿自動送り装置にセットした原稿は、ここで読み取られます。
▶ [原稿台・原稿自動送り装置部の清掃について（1-25ページ）](#)
- (6) **原稿台（ガラス面）**
厚手の原稿やブック物などの原稿で、原稿自動送り装置を使うことのできない原稿をセットするときに使います。
▶ [原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)
- (7) **原稿給紙ローラー**
ローラーが回転して、原稿を自動的に搬送します。



操作パネル

操作パネルの各部の名称とはたらきを説明します。



(1) インフォメーションランプ

ジョブの実行中や紙づまりを起こしたときなど、ランプが発光してお知らせします。

▶ [インフォメーションランプ \(1-6ページ\)](#)

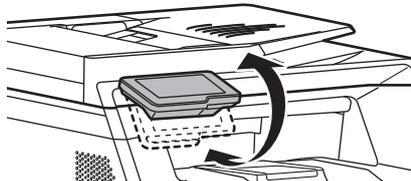
(2) タッチパネル

液晶画面にメッセージやキーを表示します。表示されているキーを指で直接タップして操作します。

▶ [タッチパネルについて \(2-2ページ\)](#)



- 操作パネルのデザインは変わる場合があります。
- タッチパネルは角度が変えられます。



- タッチパネルを操作するときは指で操作してください。
- 本機の起動中は、タッチパネルに触れないでください。タッチパネルに触れてしまうと、正常に動作しないことがあります。

例：

電源プラグをコンセントに差し込み、[電源]ボタンを押し、ホーム画面が表示されるまでの間
オートパワーシャットオフからの復帰中



インフォメーションランプ

本機の操作パネルでジョブを開始したとき、トナー補給のとき、またファクスの受信や本機でエラーなどが発生したときなどに、ユーザーの指示/操作に反応しコミュニケーションをはかるためLEDランプが青色、橙色に点灯や点滅して、本機の状態をユーザーに知らせます。



本機の前にいるユーザーに対して、コミュニケーションをはかるためのランプなので、リモート操作による発光は行いません。

点灯パターンについて

状況によって点灯パターンは異なります。

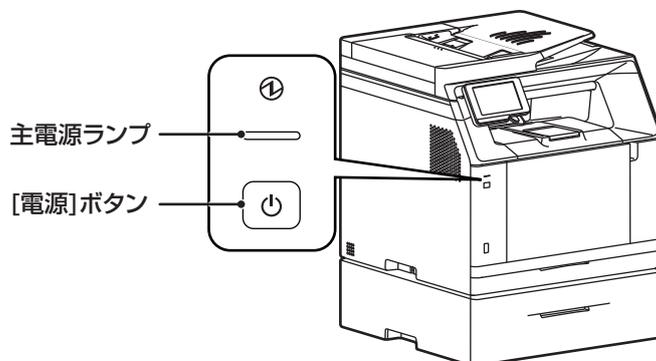
発光色	点灯パターン	状況
青色	点灯パターン1	給紙や排紙などジョブ実行中
	点灯パターン2	待機状態などジョブ受付が可能な状態
	点灯パターン3	原稿送り装置に原稿がセットされた状態
	点滅	ファクスデータ受信
橙色	点灯※	トナー回収容器の交換時期が近づいたときなど、本機は作動する状態
	点滅※	紙づまりやトナー切れを起こしたときなど、本機が作動しない状態

※ 点灯と点滅が重なった場合、点滅が優先されます。



電源の入れかた

本機の電源の入／切と再起動のしかたを説明します。
本機の左側面にある「電源」ボタンで操作します。



- 必ず「電源」ボタンを押し、タッチパネルで「電源を切る」キーをタップしてから、電源プラグをコンセントから抜いてください。
停電などで、突然主電源が切れた場合は、本機の電源を入れ直し、正しい順序で電源を切ります。
電源を「電源」ボタンより先に切った状態で本機を長時間放置すると、異音や画質低下、故障の原因となります。
- 故障のおそれのあるときや、近くに強い雷が発生したとき、本機を移動するときなどは「電源」ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



- ファクス機能で夜間の受信や時刻指定送信をするときは、本機の電源を切らずに、節電モードにしてください。
- 本機では、設定した内容を有効にするために再起動が必要になる場合があります。本機の状態によっては、「電源」ボタンによる再起動では設定が有効にならない場合があります。この場合は電源プラグをコンセントから一旦抜いて、差し直してください。
- 電源を入れてすぐや、スリープモードから復帰した直後は、本機が正常にプリントできるようにするために、一時的に本機でプリントなどが使用できない時間があります。これをウォームアップといいます。

電源を入れる

- 電源プラグをコンセントに挿入します。
- 主電源ランプが青色に点灯したら、「電源」ボタンを押します。

電源を切る

「電源」ボタンを押したあとに、タッチパネルで「電源を切る」キーをタップします。

長時間電源を切るときは、「電源」ボタンを押して電源を切り、操作パネルの画面表示が消えてから電源プラグをコンセントから抜いてください。

再起動する

「電源」ボタンを押して電源を切り、タッチパネルで「電源を切る」キーをタップします。そのあと、もう一度「電源」ボタンを押して電源を入れます。

節電モードにする

本機を省電力機能の節電モードに切り替えるときに使用します。

「電源」ボタンを押したあとに、タッチパネルで「節電モードにする（ファクス受信待機）」キーをタップすると、本機が節電モードに移行します。

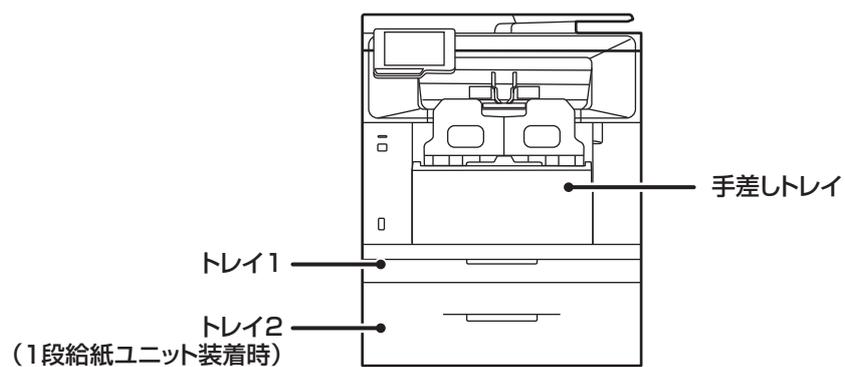
節電モードについては、「[Ecoについて \(7-2ページ\)](#)」を参照してください。



用紙補給について

用紙補給する前に

トレイの位置と名称





使用できる用紙の種類

使用できる用紙の種類と使用できない用紙の種類を説明します。
普通紙以外の用紙を特殊紙と呼びます。



- 市販の用紙にはさまざまな種類のものがあり、なかには本機で使用できないものもあります。ご使用になるときは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。
- 環境、使用条件、用紙の特性によって画質、定着性が変化し、シャープ標準用紙のような画質が得られない場合があります。ご使用になるときは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。
- 推奨しない用紙や使用できない用紙を使用すると、斜め送り、紙づまり、定着不良（用紙へのトナーの融着力が弱くなり、こすると画像が消える現象）、故障などの原因となります。
- 推奨しない用紙を使用すると、プリント品位が低下したり、紙づまりなどの原因となりますので、事前に正しくプリントできるか確認してください。

使用できる用紙

普通紙、厚紙の仕様

普通紙※	普通紙1	60g/m ² ~79g/m ²
	普通紙2	80g/m ² ~105g/m ²
厚紙	厚紙1	106g/m ² ~176g/m ²
	厚紙2	177g/m ² ~200g/m ²

※ 通常使用する用紙が再生紙、パンチ済み用紙、印刷済み用紙、レターヘッド紙、色紙の場合は、Web ページの [システム設定] → [共通設定] → [用紙設定] → [給紙トレイ設定] → [坪量設定] で適切な坪量を設定してください。



- 上記の「使用できる用紙」の区分はシャープ推奨紙によるものです。
- 推奨しない用紙を使用すると、上記の用紙の区分に合わせた用紙タイプの設定を行っても、プリント品位に影響が出る場合があります。そのときは用紙タイプを通常より厚め、または薄めの設定に切り替えてプリントしてください。詳しくは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。
- 用紙の仕様はスタートガイドの「シャープ標準用紙仕様基準」を参照してください。
- 再生紙、色紙、パンチ済み用紙などの用紙を使用するときは普通紙と同様の制約があります。ご使用になるときは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。
- 排出された用紙に大幅なカールが発生している場合、カセット内の用紙を一度取り出し、開封面を表裏ひっくり返して使用してください。

ファクスで使用できる用紙

A5、B5、A4、8-1/2" x 11"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13-1/2"

両面印刷できる用紙の仕様

用紙タイプ	普通紙、再生紙、色紙、レターヘッド紙、印刷済み用紙、パンチ紙、厚紙1 (106g/m ² ~176g/m ²)
用紙サイズ	A4、B5、A5、8-1/2" x 14"、8-1/2" x 13-1/2"、8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13"、8-1/2" x 11"、7-1/4" x 10-1/2"、5-1/2" x 8-1/2"、16K、カスタムサイズ (X方向210mm~356mm、Y方向140mm~216mm)



お使いになる前に▶用紙補給について

各トレイにセットできる用紙の種類



- 各トレイにセットできる用紙のサイズや種類の詳細については、「仕様 (10-2ページ)」と「給紙トレイ設定 (8-61ページ)」を参照してください。
- 再生紙、色紙、パンチ済み用紙などの用紙を使用するときは普通紙と同様の制約があります。ご使用になるときは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様相談窓口へお問い合わせください。

	トレイ1	トレイ2※1	手差しトレイ
普通紙1※2	使用可	使用可	使用可
普通紙2※2	使用可	使用可	使用可
厚紙1※3	使用可	使用可	使用可
厚紙2※3	—	使用可	使用可
印刷済み用紙	使用可	使用可	使用可
再生紙	使用可	使用可	使用可
レターヘッド紙	使用可	使用可	使用可
パンチ済み用紙	使用可	使用可	使用可
色紙	使用可	使用可	使用可
ラベル紙	—	—	使用可
光沢紙	—	—	使用可
封筒※4	使用可	使用可	使用可
郵便はがき	使用可	使用可	使用可
往復はがき (縦)	使用可	使用可	使用可

※1 1段給紙ユニット装着時

※2 「普通紙1」は60g/m²～79g/m²までの普通紙、「普通紙2」は80g/m²～105g/m²までの普通紙です。

※3 「厚紙1」は176g/m²までの厚紙、「厚紙2」は200g/m²までの厚紙です。

※4 フラップ形状や種類によっては、使用できない場合があります。使用できる封筒については、「仕様」を参照してください。



セットするときのプリント面の向き

トレイによって、セットするプリント面の向きが異なります。「レターヘッド紙」や「印刷済み用紙」は逆の向きにセットします。

プリントしたい面を以下の通りにセットします。

トレイ	通常時	レターヘッド紙、印刷済み用紙セット時
トレイ1~2、手差しトレイ	上向き	下向き



「レターヘッド紙」や「印刷済み用紙」について、[両面機能の使用禁止]を設定しているときは、通常時と同じ向きにプリント面をセットします。

使用できない用紙

- インデックス紙
- エンボス紙
- OHPフィルム
- 四面連刷はがき
- 薄紙
- インクジェットプリンター用特殊紙
(ファイン紙/光沢紙/光沢フィルム紙/郵便はがきなど)
- カーボン紙/感熱紙
- 糊がついた用紙
- クリップのついた用紙
- 折り跡のある用紙
- 破れのある用紙
- オイルフィード用OHPフィルム
(例：S4BG746)
- SF4A6CS/SF4A6FSのOHPフィルム
- 60g/m²未満の薄紙
- 201g/m²以上の厚紙
- 折り目のある往復はがき
- 形状が不規則な用紙
- ステープルした用紙
- 濡れている用紙
- カールした用紙
- プリントする面または裏面が、他のプリンターや複合機で一度プリントした用紙
- 吸湿して波打ちした用紙
- しわのある用紙
- ほこりのついた用紙

推奨しない用紙

- アイロンプリント紙
- ミシン目がある用紙



トレイ1～2への用紙補給

トレイ1には、A6からA4（5-1/2"x8-1/2"から8-1/2"x14"）サイズまでの用紙を最大250枚、トレイ2にはA6からA4（5-1/2"x8-1/2"から8-1/2"x14"）サイズまでの用紙を最大500枚までセットできます。



用紙の種類（タイプ）やサイズを変更した場合は、給紙トレイ設定を確認します。正しく設定していないと、用紙の自動選択に影響します。プリントできない、異なるサイズや種類（タイプ）の用紙にプリントされる、紙がつまるなどの原因となります。



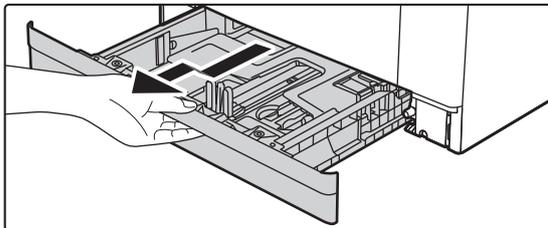
トレイを引き出したときに重い物を載せたり、上から強く押さえつけないでください。



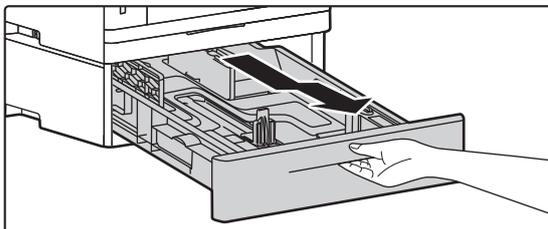
用紙の種類（タイプ）やサイズを確認するには
Webページの [ステータス] → [マシン情報] → [給紙トレイ情報] で確認します。
用紙の種類（タイプ）やサイズを設定するには
ホーム画面の [給紙トレイ設定] で設定します。

1

トレイ1



トレイ2



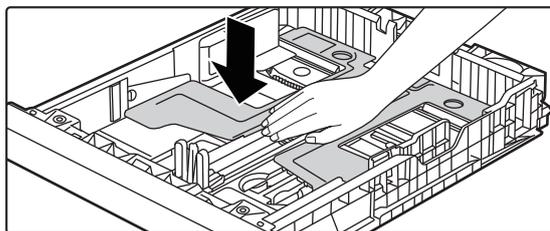
トレイを本機から取り出す

トレイを引き出すと、途中で止まり、そのままでは取り出せません。

止まったところで、トレイ全体を上へ軽く持ち上げて、引き出すとトレイは本機より取り出すことができます。

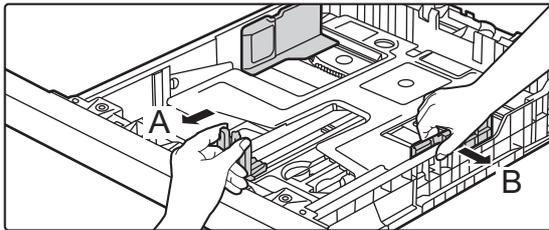


トレイを使用する場合は、用紙圧板の中央をロックがかかる場所まで押し下げます。





2

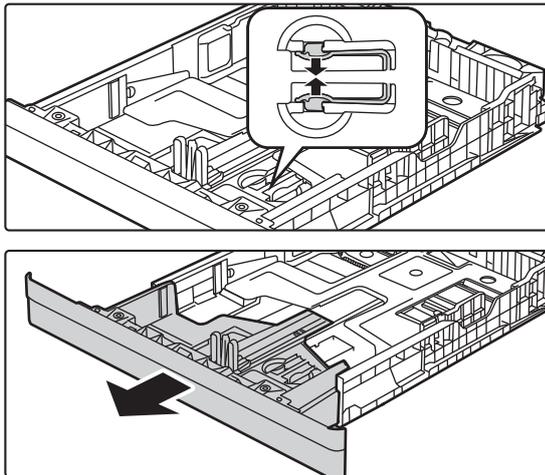


トレイ内の仕切り板A、Bを、最大の位置まで移動する

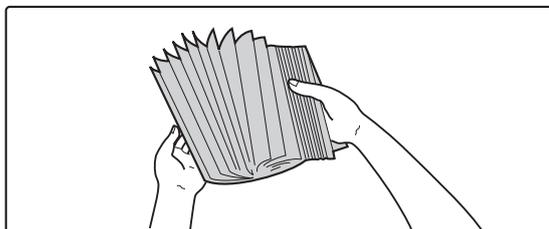
仕切り板A、Bはスライド式です。仕切り板のレバーをつまみながら、スライドしてください。



トレイ1またはトレイ2で8-1/2" x 14"サイズの内紙をセットする場合は、つまみを解除してロックがかかる場所でトレイを引き伸ばします。引き伸ばしたら、仕切り板Aをトレイ前方に移動します。



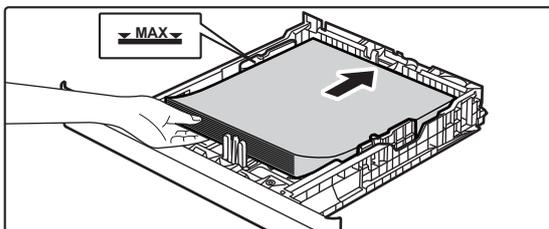
3



用紙をさばく

用紙はセットする前によくさばいてください。さばかないと用紙が重なって複数枚給紙され、紙づまりの原因となります。

4



用紙をトレイに入れる

用紙はプリントしたい面を上向きにして、指示線をこえない枚数（トレイ1：最大250枚、トレイ2：最大500枚）をセットします。

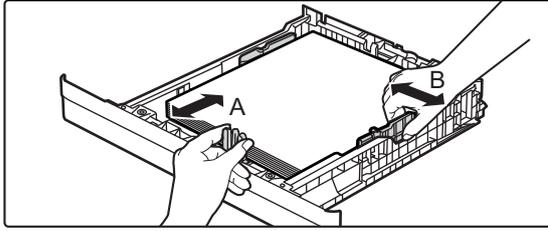


紙づまりが発生した場合は、用紙のセット方向を表裏や前後を入れ替えてセットしなおしてください。
用紙がカールしている場合は、カールをなおしてからセットしてください。
用紙と仕切り板の間にすき間がなくなるように、仕切り板を調整してください。
用紙のつぎたしはしないでください。
下図のようにならないように用紙をセットしてください。





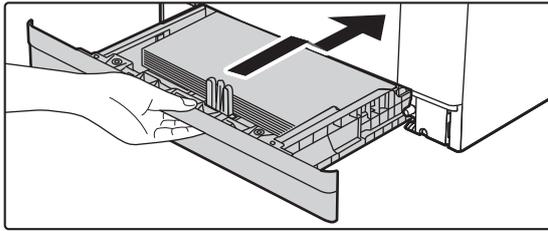
5



仕切り板A、Bを、用紙に合わせる

用紙はゆるかたりきつくないようにして用紙サイズに合わせてください。

6



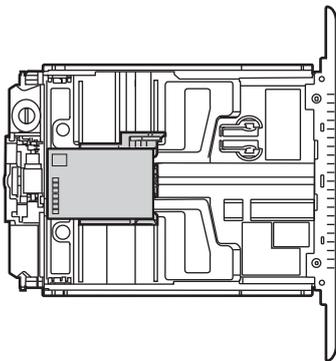
トレイを本機に取り付ける

ゆっくりと本機にトレイを挿入し、トレイが途中で止まったら、トレイ全体を下に下げて、そのまま奥まで差し込みます。勢いよく強く押し込むと、用紙が斜め送りになり、紙づまりの原因になります。

トレイに郵便はがき/往復はがき/封筒をセットする場合

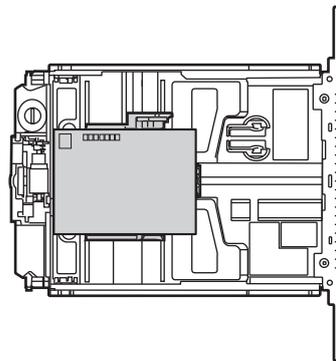
郵便はがきをセットする

必ずコピーやプリントする面を上向きにしてセットします。図は宛名面にプリントする場合の例です。上限枚数（100枚）以内で指示線をこえてはいけません。



往復はがきをセットする

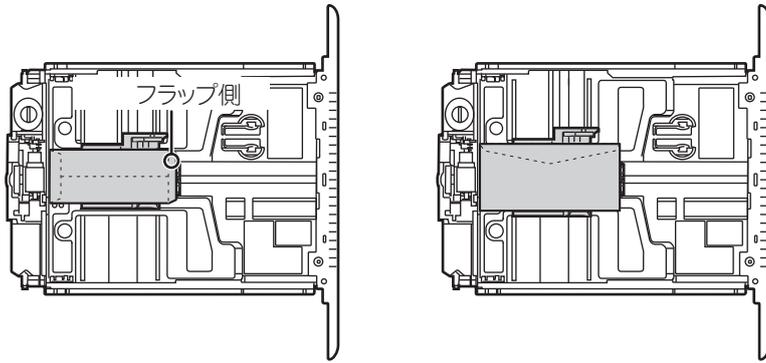
必ずコピーやプリントする面を上向きにしてセットします。図は宛名面にプリントする場合の例です。上限枚数（100枚）以内で指示線をこえてはいけません。





封筒をセットする

必ずコピーやプリントする面を上向きにしてセットします。図は宛名面にプリントする場合の例です。トレイ1では上限枚数（20枚）以内、トレイ2では上限枚数（50枚）以内で、指示線をこえてはいけません。

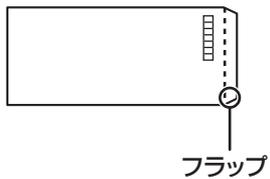


封筒をセットするときに注意

- カールをとる
- 平らにならして空気を抜く
- 四辺（フラップが開いているものは三辺）をおさえる
- 平らな場所でそろえる

長形3号、長形4号、長形40号をセットするとき

- 封筒のフラップを開きます。
- フラップがトレイの取っ手側の方に向くようにセットします。



- トレイで封筒を使う前に、試しにプリントして仕上がりを確かめることをおすすめします。
- 封筒に折り目がしっかりついていなかったり、反っていたり、曲がっている場合、紙づまりの原因になることがあります。



手差しトレイへの用紙補給

普通紙や郵便はがき、ラベル紙などの特殊紙にプリントするときに手差しトレイを使用します。

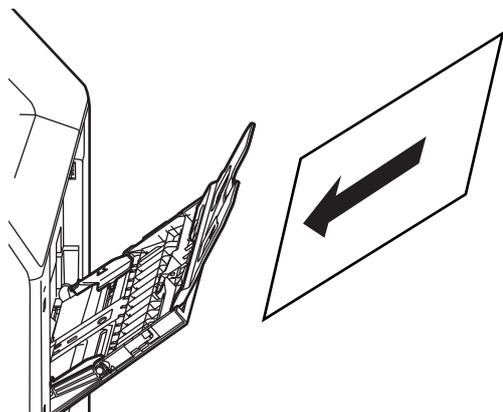
用紙を最大50枚（106g/m²～200g/m²用紙の厚紙の場合は20枚、郵便はがき、往復はがき、封筒は10枚まで）セットでき、他のトレイと同じように連続プリントします。



- シャープ標準用紙以外の普通紙や、シャープ推奨の特殊紙、光沢紙、片面印刷している用紙の裏面へのプリントの場合は、1枚ずつ挿入します。2枚以上挿入すると、紙づまりの原因となります。
- 用紙をセットする前にカールをよくのばします。
- 用紙をつぎたすときは、用紙圧板をロックするまで押し下げて、手差しトレイ上の用紙をいったん取り出し、つぎたす用紙と一緒にそろえてからもう一度セットします。そのままつぎたすと、紙づまりの原因となります。また、指定枚数以上または上限以上にセットすると、紙づまりの原因となります。
- 手差しトレイに用紙をセットしたときは、用紙タイプとサイズを必ず確認してください。

用紙のセット

用紙や郵便はがきは横長方向にセットします。用紙のセット方法については、「[用紙のセット（1-19ページ）](#)」を参照してください。



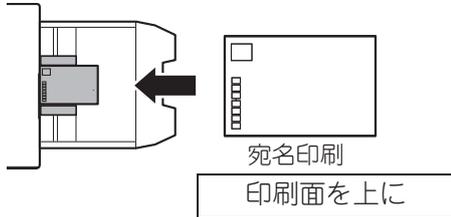


郵便はがき／往復はがき／封筒のセット

手差しトレイに郵便はがき、往復はがきおよび封筒をセットする場合は、それぞれ図のような向きでセットします。

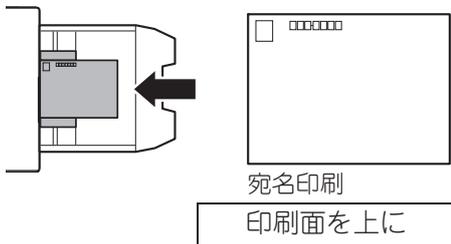
郵便はがきのセット例

必ずコピーやプリントする面を上向きにしてセットします。図は宛名面にプリントする場合の例です。



往復はがきのセット例

必ずコピーやプリントする面を上向きにしてセットします。図は宛名面にプリントする場合の例です。

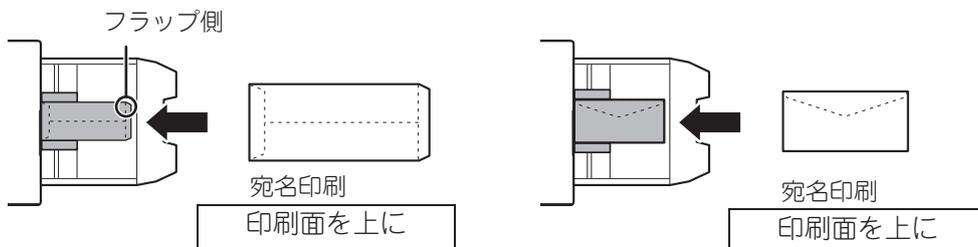


封筒のセット例

封筒は宛名面にのみコピーやプリントをします。宛名面を上向きでセットします。

- 封筒のフラップを開きます。
- フラップの位置に注意してください。

封筒を使用する際は、必要に応じて画像の向きを180度回転させてプリントする必要があります。詳しくは、「[データを180度回転してプリント（180度回転）（4-37ページ）](#)」を参照してください。



郵便はがきや封筒を使う前に、試しにプリントして仕上がりを確かめることをおすすめします。



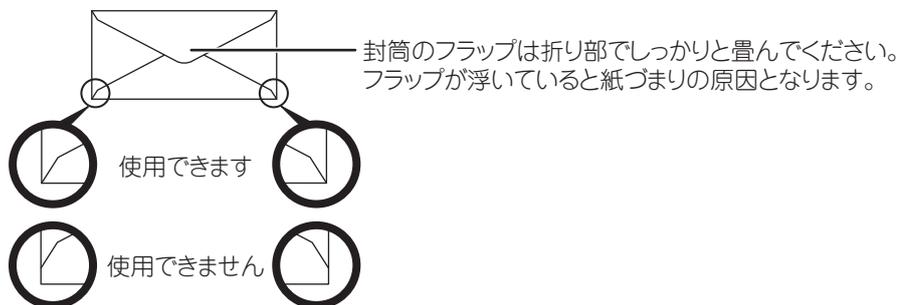
郵便はがきや往復はがきを使用する場合の注意事項

郵便はがきや往復はがきの両面にコピーやプリントをする場合は、一面目にプリントしたあと、カールがついてしまった場合はカールを直してからセットします。

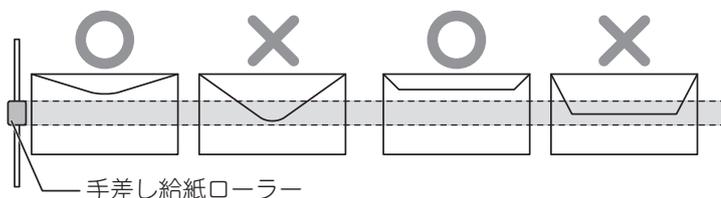
詳しくは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。

封筒を使用する場合の注意事項

- 封筒の裏面（貼り合わせがある面）にはプリントしないでください。紙づまりや写り不良の原因となります。
- 使用する封筒によっては制限があります。詳しくは指定のサービス担当者にご相談ください。
- 使用する環境によってはシワ寄りや汚れ、紙づまりや定着不良、また故障の原因となる場合があります。
- 封筒を複数枚セットした際に、印刷面が水平にならず傾いた状態では給紙できない場合があります。
- 紙厚の厚い封筒は給紙できない場合があります。
- 表面の平滑性が低い封筒は給紙できない場合があります。
- 次のような封筒は使用しないでください。
 - 糸で閉じるようになっているもの
 - 金属片またはプラスチックのフックやリボンフックなどがついているもの
 - 裏あてがついているもの
 - 箔押しやエンボス加工など表面に凸凹のあるもの
 - 二重封筒、封をするための接着剤やその他合成物がついているものは、定着の熱により意図せず溶ける場合があります。
 - 手作り封筒
 - 中に空気が入っているもの
 - しわや折り曲げ跡、切れ目など損傷のあるもの
 - 長期保管や吸湿により、表面が劣化、形状が変形した封筒は使用できません。
 - 封筒の貼り合わせが4重以上あるものについては給紙できません。
 - 窓がついているもの



- 封筒裏側の角部分の貼り合わせ位置が角の先端からずれているものは、シワ寄りの原因となるため使用できません。
- 封筒の周囲10mmは、プリント品位を保証していません。
- 封筒の4重になっている部分や3重以下の部分で、極端に段差がある部分についてはプリント品位を保証していません。
- 横長の封筒の場合、手差し給紙ローラーの通過する範囲にフラップがかからないようにしてください。



- 封筒を押さえて中の空気を抜き、四辺の折り目をしっかりと押さえてからセットしてください。また封筒がそっているときや曲がっているときは、鉛筆や定規などの固いものを使用して伸ばしてまっすぐに直してからセットしてください。
- 平らな場所でそろえる
- 封筒は、フラップの形状、種類によっては、使用出来ない場合があります。

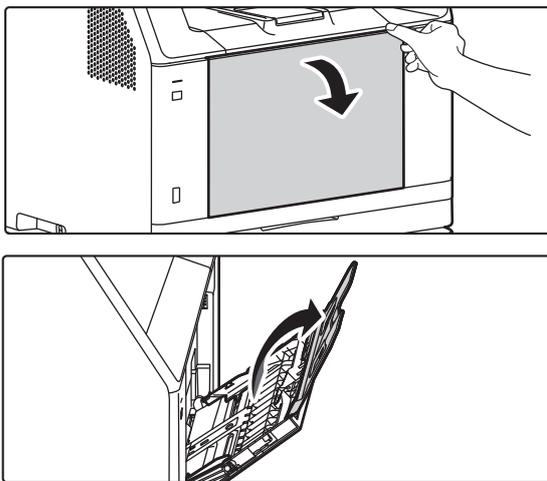


ラベル紙を使用する場合の注意事項

- ラベル紙は、用紙によっては給紙方向が指定されている場合がありますので、その方向に従って手差しトレイに用紙をセットしてください。
用紙にあらかじめフォームなどが印刷されており、印刷画像と用紙のフォームが合わない場合は、お使いのアプリケーションやプリンタードライバーの設定変更により、印刷画像を回転させてください。
- 次のようなラベル紙は使用しないでください。
 - 糊控えまたはラベル控えのないラベル紙
 - 糊のはみ出したラベル紙
 - 通紙指定方向が本機で対応できないラベル紙
 - 一度通紙したラベル紙や部分的にラベルを剥がしてあるラベル紙
 - 複数枚で構成されたラベル紙
 - レーザー方式に対応していないラベル紙
 - 熱に耐えきれない材質のラベル紙
 - 台紙にミシン目が入ったラベル紙
 - 台紙にスリットの入ったラベル紙
 - 規格外のラベル紙
 - 長期保管等で糊が変質しているラベル紙
 - 型抜きされて台紙面が露出しているラベル紙
 - カール等変形したラベル紙
 - 破れ／しわのあるラベル紙
 - 3枚以上で構成されたラベル紙

用紙のセット

1

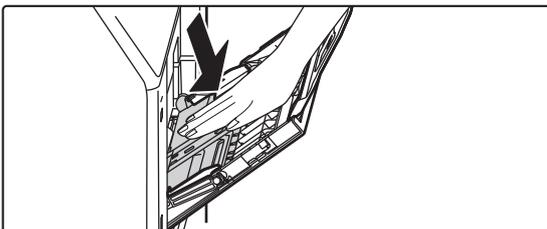


手差しトレイを開き、補助トレイを開く



手差しトレイに重い物を載せたり、上から強く押さえたりしないでください。

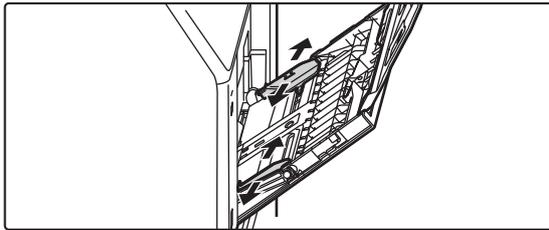
2



用紙圧板の中央をロックするところまで押し下げる

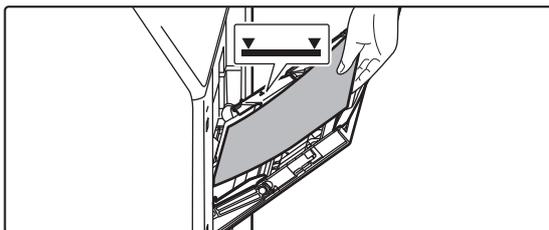


3



手差しガイドを用紙サイズに合わせて調節する

4



印刷したい面を上にして、手差しガイドに沿って用紙を突きあたるところまで確実に挿入する

紙づまりを防止するため、手差しガイドが用紙に当たっているか再度確認してください。



- 「レターヘッド付き用紙」や「印刷済み用紙」のときは、プリントしたい面を下向きにセットします。ただし、[両面機能の使用禁止]を設定しているときは、プリントしたい面を通常時と同じ向き（上向き）にプリント面をセットします。
- 用紙をつぎたすときは、用紙圧板をロックするまで押し下げて、手差しトレイ上の用紙をいったん取り出し、つぎたす用紙と一緒にそろえてからもう一度セットします。そのままつぎたすと、紙づまりの原因となります。また、指定枚数以上または上限以上にセットすると、紙づまりの原因となります。



- セットする用紙は強く押し込まないでください。紙づまりの原因となります。
- 用紙と手差しガイドの間にすき間がある場合は、もう一度手差しガイドを用紙の幅にきちんと軽く当てるように合わせます。すき間があると斜め送りやシワ寄りの原因となります。
- **手差しトレイの閉じ方**
手差しトレイ上の用紙を取り除き、用紙圧板の中央をロックするところまで押し下げます。その後、補助トレイを閉じてから、手差しトレイを閉じます。



手差しトレイで用紙を検知したときに給紙トレイ設定を表示させるには
Webページの [システム設定] → [共通設定] → [用紙設定] → [給紙トレイ設定] → [手差しトレイで用紙検知時に給紙トレイ設定を表示する] で設定します。



原稿のセット

原稿の種類や状態からセット方法を選択

原稿は原稿自動送り装置にセットします。原稿の種類や状態によって原稿台（ガラス面）を使います。説明に従って原稿のセット方法を選択します。

原稿自動送り装置にセットするには「[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)」を参照してください。

原稿サイズの設定

AB系/インチ系の設定

原稿サイズを選択する際に、AB系とインチ系のどちらを通常で表示するかを設定します。

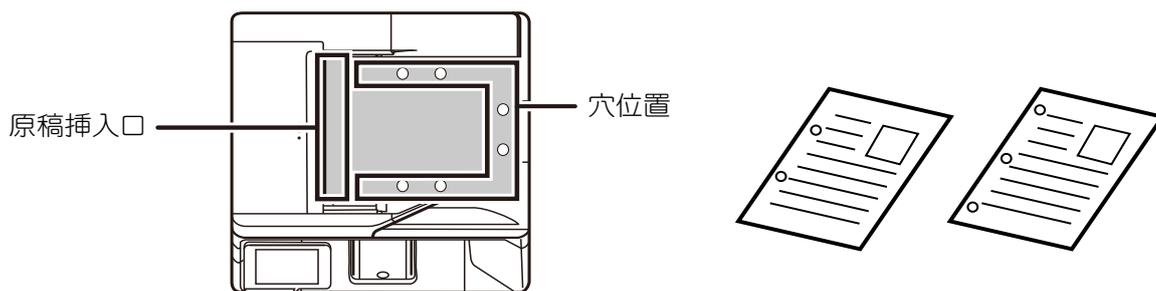
標準原稿サイズ設定

コピー、ファクス/イメージ送信で原稿を読み込む際の、初期値を設定します。よく使う原稿サイズを設定すると便利です。

原稿自動送り装置

原稿を原稿自動送り装置にセットする操作を説明します。

- クリップやステーブルの針は、原稿から取りはずしてセットします。
- のり、インク、修正液が乾いていない原稿はよく乾かします。本機の内部や原稿台（ガラス面）の汚れの原因となります。
- 次のような原稿は使用しないでください。原稿がつまったり、送信画像やコピー結果に汚れが写る原因となります。OHPフィルムや第2原図用紙、トレーシングペーパー、カーボン紙、感熱紙、しわやソリの大きいもの、破れている原稿、折れのある原稿、貼り合わせや切り抜きのある原稿、ファイル用の穴がたくさんあいている原稿（2穴、3穴のファイル穴原稿は使用できます。）、インクリボン（熱転写方式）でプリントした原稿（熱転写用紙など）
- ファイル用の穴のあいている原稿（2穴、3穴のファイル穴原稿）は、穴位置が原稿セット台の原稿挿入口以外の場所になるようにセットします。[原稿]で原稿の向きを設定します。



- 原稿の状態や紙の種類、使用時の温度、湿度環境によっては用紙が重なり複数枚同時に給紙され正しく読み込めない、排出された原稿がきれいにそろわない場合があります。下記の設定により改善される場合があります。
- コピーの場合：読込解像度600x600dpiに設定
- ファクスモード時、原稿自動送り装置で長尺原稿を送信するときは、同じ幅で異なる用紙サイズを同時に送信することができます。



セットできる原稿の大きさ

最小原稿サイズ	最大原稿サイズ
定形サイズ A5 : 148mm (縦) x 210mm (横) 5-1/2" (縦) x 8-1/2" (横)	定形サイズ A4 : 210mm (縦) x 297mm (横) 8-1/2" (縦) x 14" (横)
不定形サイズ (手動設定できる最小サイズ) 140mm (縦) x 140mm (横) 5-1/2" (縦) x 5-1/2" (横)	不定形サイズ (手動設定できる最大サイズ) コピーモード/イメージ送信モード : 216mm (縦) x 356mm (横) 8-1/2" (縦) x 14" (横) ファクスモード : 216mm (縦) x 500mm (横) 8-1/2" (縦) x 19-5/8" (横)



- 不定形サイズの原稿をセットするときは、それぞれの機能の説明を参照してください。
- イメージ送信「[原稿の読み込みサイズを数値で指定 \(6-27ページ\)](#)」
- ファクスモードで500mmの長尺原稿を読み込むためには、読み込みサイズを[長尺]にする必要があります。「[原稿の読み込みサイズを用紙サイズで指定 \(5-39ページ\)](#)」を参照してください。

セットできる原稿の用紙坪量

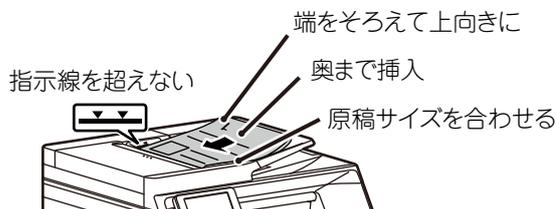
片面時: 50g/m²~105g/m²

両面時: 50g/m²~105g/m²

1

原稿台 (ガラス面) に原稿が残っていないことを確認する

2



原稿をセットする

最大50枚セットできます。

原稿自動送り装置で読み取りを終了した原稿は、原稿出紙部から取り除きます。



お使いになる前に▶原稿のセット

原稿台（ガラス面）

原稿を原稿台（ガラス面）にセットする操作を説明します。



- 原稿自動送り装置はゆっくりと閉じてください。勢いよく閉じると故障の原因となります。
- 原稿自動送り装置を閉じるときは、手をはさまないように注意してください。

セットできる原稿の大きさ

最小原稿サイズ	最大原稿サイズ
定形サイズ A6: 148mm (縦) x 105mm (横) 8-1/2" (縦) x 5-1/2" (横)	定形サイズ A4: 210mm (縦) x 297mm (横) 8-1/2" (縦) x 14" (横)
不定形サイズ (手動設定できる最小サイズ) 25mm (縦) x 25mm (横) 1" (縦) x 1" (横)	不定形サイズ (手動設定できる最大サイズ) 216mm (縦) x 297mm (横) 8-1/2" (縦) x 11" (横)



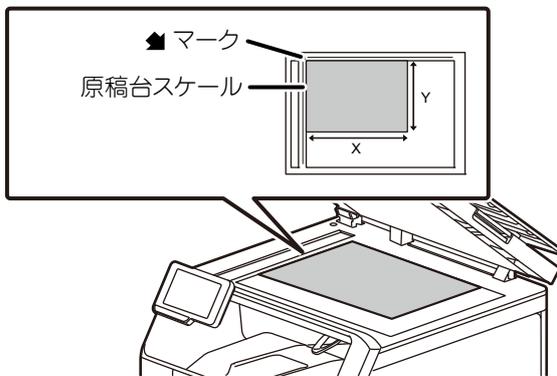
不定形サイズの原稿をセットするときは、それぞれの機能の説明を参照してください。

- イメージ送信「[原稿の読み込みサイズを数値で指定 \(6-27ページ\)](#)」

1

原稿自動送り装置を開く

2



原稿を下向きにセットする

原稿は下向きにして原稿台（ガラス面）の左奥（マークの先）に原稿左上の角を合わせます。

3

原稿自動送り装置を閉じる

原稿をセットしたあとは、原稿自動送り装置を閉じます。開いたままだと、原稿以外の部分を黒くコピーしてトナーの過剰消費につながります。



- 閉じるときはいったん原稿自動送り装置を全開にしてから閉じます。
- のり、インク、修正液が乾いていない原稿はよく乾かします。本機の内部や原稿台（ガラス面）の汚れの原因となります。



周辺装置について

周辺装置の種類

本機に周辺装置を装着することで、本機をより便利に使えます。
周辺装置は基本的に別売品ですが、お買いあげいただいた製品によっては、一部標準装備しているものもあります。
(2024年7月現在)

商品名	品番	説明
1段給紙ユニット	BP-CS13	トレイ1~2への用紙補給 (1-12ページ)
ICカードリーダーライター	MX-EC13 N	ICカードを使ってユーザー認証するときに必要です。非接触式ICカードを読み取ります。
Sharpdesk 5ライセンスキット	MX-USX5	書類やコンピューターのファイルを統合管理するソフトウェアです。5ライセンスが付属しています。



お手入れについて

日常のお手入れ

末永くお使いいただくために、本機をときどき清掃してください。



清掃するときは可燃性のスプレーなどを使用しないでください。スプレーのガスが内部の電気部品や定着部の高温部分に触れて火災や感電の原因になります。



- 清掃するときはベンジンやシンナーなどは使用しないでください。キャビネットの表面が変質したり、色が変わったりすることがあります。
- 操作パネルの汚れは柔らかい布で軽く拭き取ってください。硬い布で拭いたり強くこすったりすると表面に傷がつきます。

原稿台・原稿自動送り装置部の清掃について

原稿台（ガラス面）や原稿押さえシートが汚れると、読みとった画像に汚れや、色すじや白すじが写ることがあります。つねにきれいな状態でご使用ください。

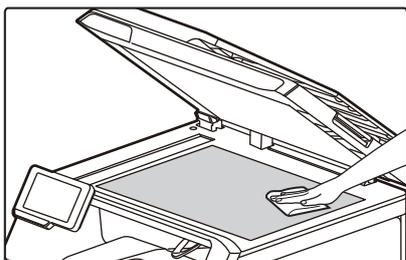
きれいな柔らかい布で拭いてください。

汚れが落ちにくいときは、水または中性洗剤を少し含ませた布で拭いたあと、きれいな布でからぶきしてください。

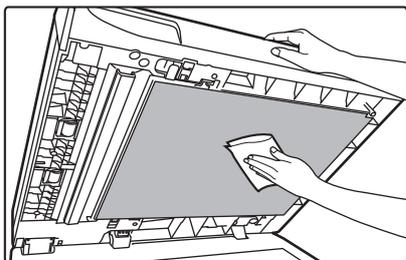
印刷汚れの例



原稿台



原稿押さえシート

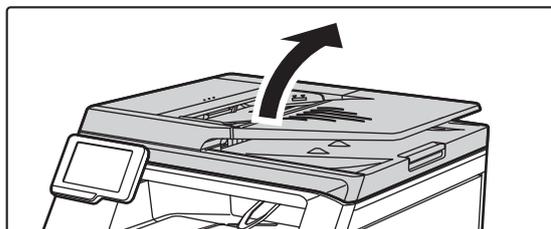




原稿読み取り部分

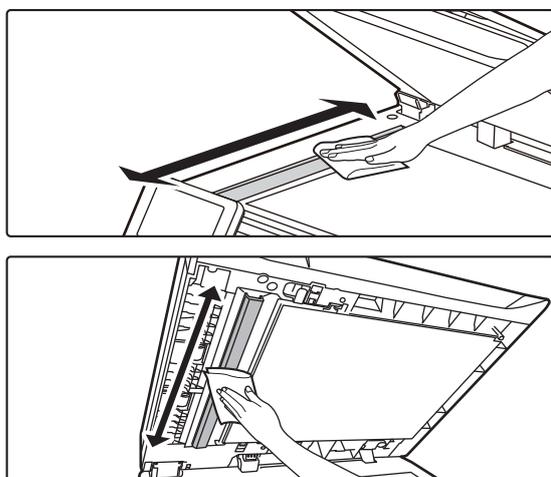
原稿自動送り装置を使用して読み取った画像に黒すじや白すじなどの汚れが発生するときは、原稿を読み取る部分（原稿台（ガラス面）の横にある細長いガラス面）を清掃します。

1



原稿自動送り装置を開く

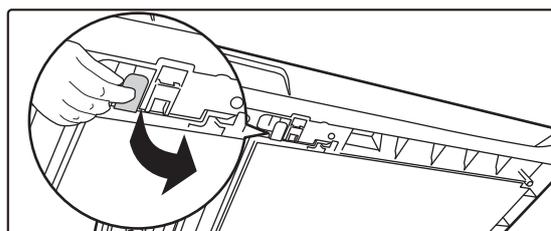
2



原稿台側の原稿読み取り部を清掃する

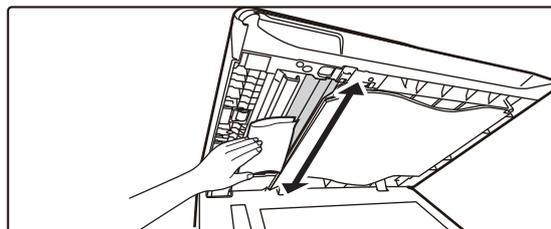
原稿読み取り部は原稿台側と原稿自動送り装置側にあります。

3



原稿自動送り装置の原稿読み取り部のカバーを開く

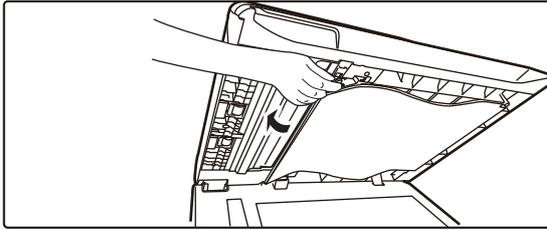
4



原稿自動送り装置の原稿読み取り部を清掃する



5



原稿読み取り部のカバーを閉じる



書き込みユニットの清掃

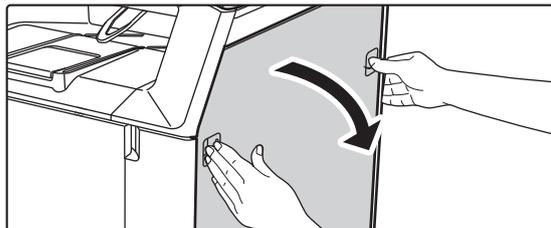
本体内部の書き込みユニットが汚れると、印字画像にすじ状の色むら（色すじ）が発生する可能性があります。

書き込みユニットの汚れが原因となるすじ（色すじ）の見極めかた

- すじ（色すじ）は、常に同じ場所に現れます。
- すじ（色すじ）は、プリント用紙の送り方向に対して水平に現れます。
- すじ（色すじ）は、コピーだけでなくコンピューターからプリントしたときにも現れます。（プリントとコピーの両方で同じ現象が起こります。）

以上のような症状があらわれたときは、次の手順で書き込みユニットの清掃を行ってください。

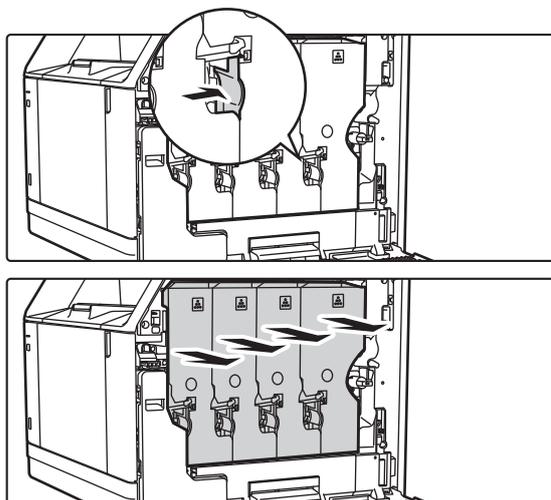
1



右側面カバーを開ける

両サイドを持って開けてください。

2



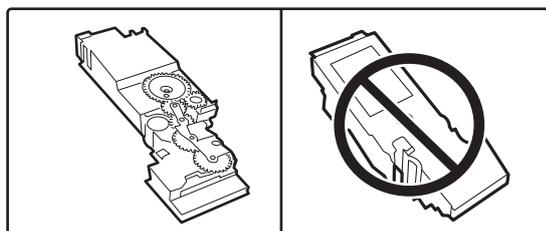
すべてのトナーカートリッジを取りはずす

あらかじめトナーカートリッジを置く場所に新聞紙などを敷いておきます。

トナーカートリッジの下部にあるロックを押して、ロックを解除し、トナーカートリッジを手前に引き抜きます。

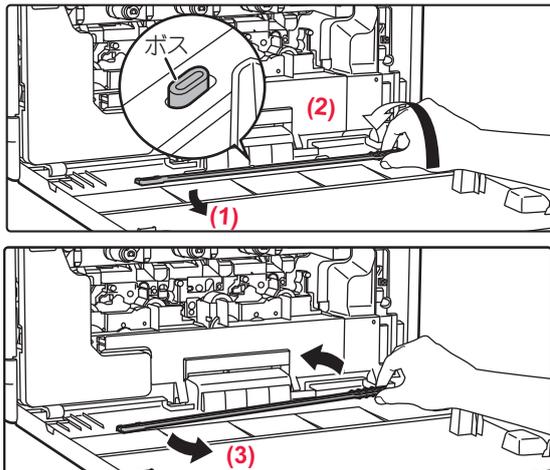


取り外したトナーカートリッジを置くときは、必ずギア取り付け面を上に向けてください。





3

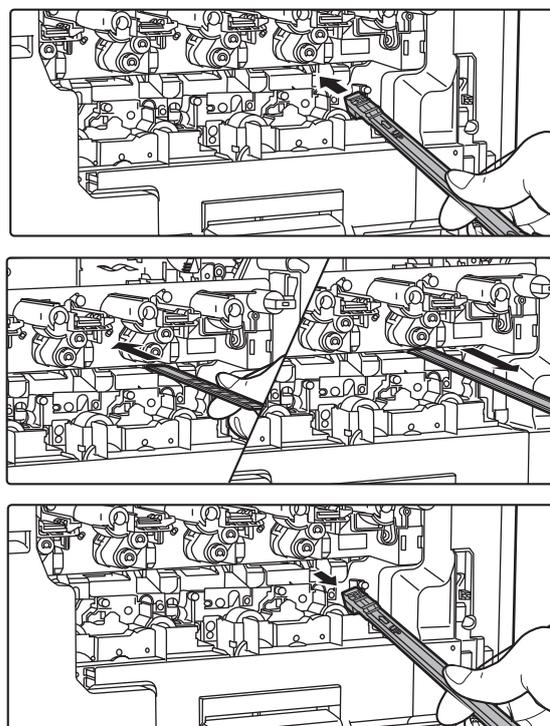


書き込みユニットの清掃器具を取りはずす

清掃器具は本機の前カバーに取り付けられています。

- (1) 清掃器具の右側の取手を引いて爪からははずす
- (2) 取手を爪の上をまたいで奥側に置く
- (3) ボスを中心に回転させて清掃器具を左側の爪からははずす

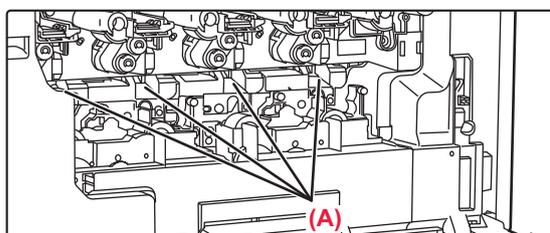
4



書き込みユニットを清掃する

- (1) クリーナーを下に向けて、清掃する穴に清掃器具をゆっくりと挿入する
クリーナーは必ず下に向けてください。
- (2) 清掃器具を奥まで挿入したあと、清掃器具を引き戻す
書き込みユニットのクリーニング面から清掃器具の先端がはずれた感触があるまで引き戻してください。
- (3) 手順(2)を2~3回繰り返したあと、清掃器具を取り出す

5

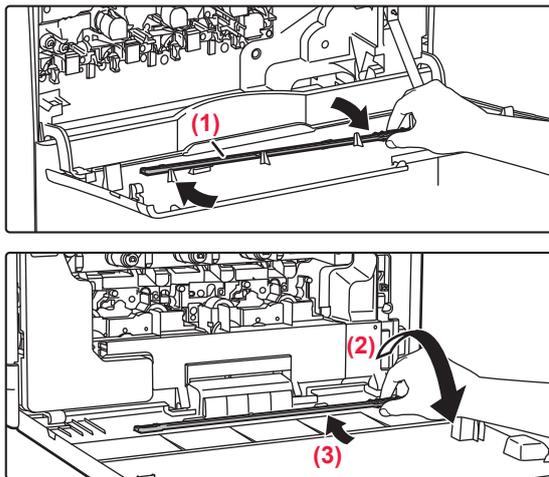


すべての書き込みユニットの清掃箇所(A)に手順4と同様の作業を行う

書き込みユニットの清掃箇所は手順4で行った箇所を含めて4箇所あります。すべての箇所ですべての箇所で行ってください。



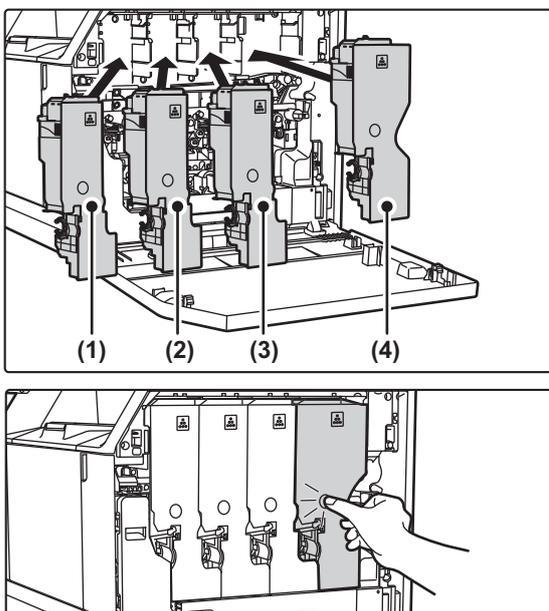
6



清掃器具を元に戻す

- (1) 清掃器具をボスにはめて回転させ、先端（クリーナーがある方）を左側の爪に引っかける
- (2) 清掃器具の右側を、爪の上をまたいで手前側に置く
- (3) 清掃器具を爪に引っかける

7



すべてのトナーカートリッジを水平に取り付ける

- (1) イエロー
 - (2) マゼンタ
 - (3) シアン
 - (4) ブラック
- (1) トナーカートリッジをそれぞれの色の場所に差し込む
 - (2) 「カチッ」と音がするところまで確実に押し込む
各トナーカートリッジの丸くへこんでいる部分を押し込んでください。



色の違うトナーカートリッジは取り付けできません。必ず同色のトナーカートリッジを取り付けます。

8



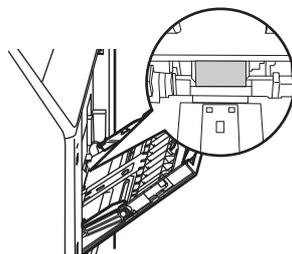
右側面カバーを閉じる

両サイドを持って閉めてください。



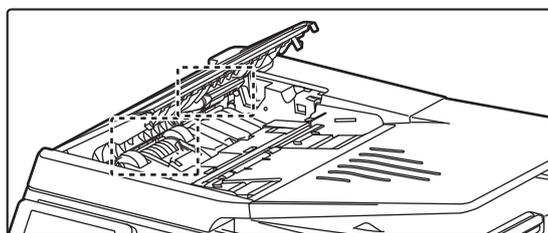
手差し給紙ローラーの清掃

手差しトレイを通る郵便はがきや封筒、厚みのある紙などの紙づまりがたびたび起こる場合は、メンテナンスカバーを取り外し給紙ローラーの表面を水または中性洗剤を含ませたきれいな柔らかい布で拭いてください。



原稿給紙ローラーの清掃

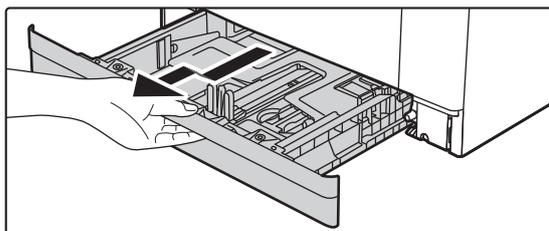
原稿自動送り装置を使用するときに、読み込まれた原稿にすじなどの汚れが発生する、または紙詰まりが起こる場合は、原稿給紙ローラーの表面を水または中性洗剤を含ませたきれいな柔らかい布でローラーの表面を拭いてください。



トレイの給紙ローラーの清掃

トレイを通る紙の紙づまりがたびたび起こる場合は、用紙圧板の中央をロックがかかる場所まで押し下げ、給紙ローラーの表面を水を含ませたきれいな柔らかい布で拭いてください。

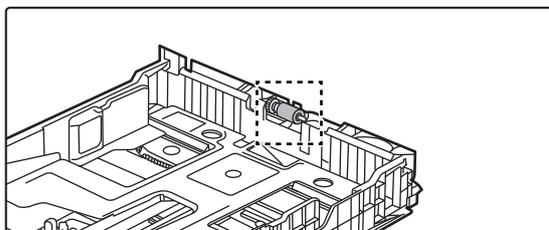
1



トレイを引き抜く

両手でトレイを持ち、ゆっくりと斜め上に持ち上げながら引き抜きます。

2



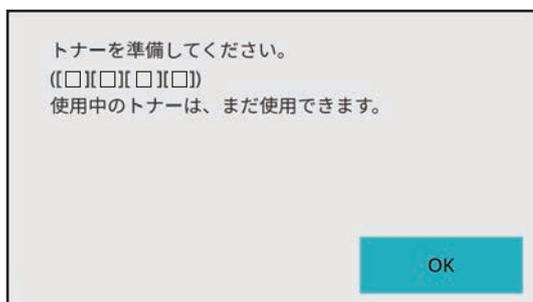
給紙ローラーを清掃する



トナーカートリッジの交換

トナーカートリッジは必ず、「トナーカートリッジを交換してください。」のメッセージが表示されてから交換してください。トナーがなくなったとき、すぐにトナーカートリッジを交換できるように、前もって交換用のトナーカートリッジを1セット準備しておくことをおすすめします。

交換のメッセージ

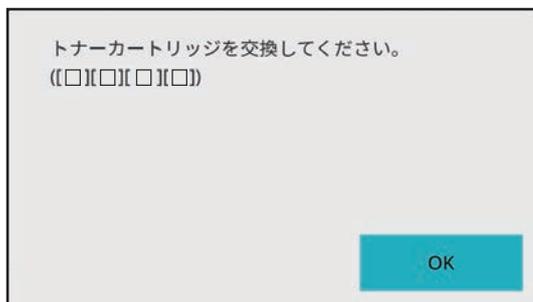


「トナーを準備してください。」のメッセージが表示されたら、交換用のトナーカートリッジを準備してください。(□□□□)の箇所には準備すべきトナーカートリッジの色を表示します。

Y: イエロー (黄色系) トナー、M: マゼンタ (赤色系) トナー、C: シアン (青色系) トナー、Bk: ブラック (黒色) トナー
「トナーカートリッジを交換してください。」と表示されたら、それぞれの色のトナーカートリッジを交換します。



そのまま使用し続けると、やがてトナーがなくなり、「トナーカートリッジを交換してください。」と表示されます。



1

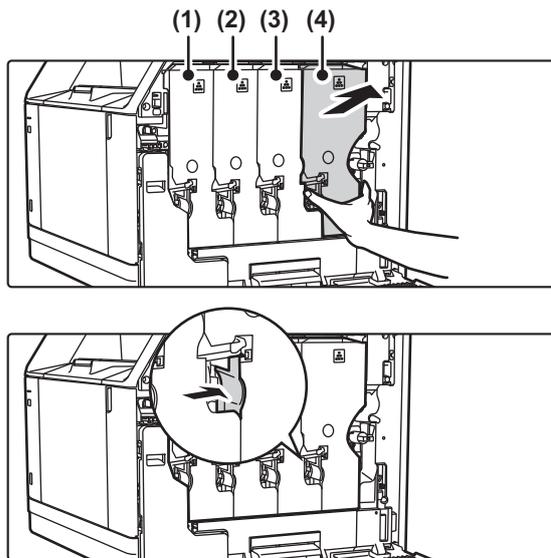


右側面カバーを開ける

両サイドを持って開けてください。



2



トナーカートリッジを手前に引き抜く

- (1) イエロー
- (2) マゼンタ
- (3) シアン
- (4) ブラック

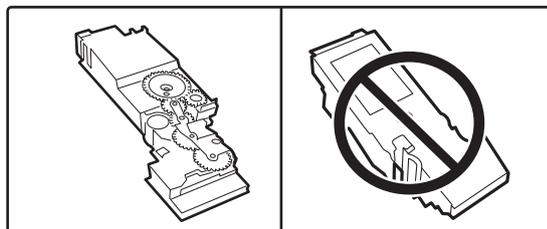
あらかじめトナーカートリッジを置く場所に新聞紙などを敷いておきます。

(例) ブラックのトナーカートリッジを交換する場合

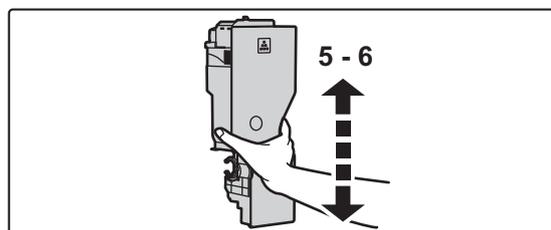
トナーカートリッジの下部にあるロックを押して、ロックを解除し、トナーカートリッジを手前に引き抜きます。



取り外したトナーカートリッジを置くときは、必ずギア取り付け面を上に向けてください。



3



新しいトナーカートリッジを取り出し、垂直方向に5、6回振る

4



新しいトナーカートリッジを水平にゆっくりと挿入する

丸くへこんでいる部分を押して込んで、「カチッ」と音がするところまで確実に押し込んでください。



色の違うトナーカートリッジは取り付けできません。必ず同色のトナーカートリッジを取り付けます。



5



右側面カバーを閉じる

- 両サイドを持って閉めてください。
- トナーカートリッジを交換したあと、自動的に画質調整モードに入ります。このとき右側面カバーを開かないでください。



- トナーカートリッジを火中に投じないでください。トナー粉がはねて、やけどの原因となることがあります。
- トナーカートリッジは、小さなお子様の手の届かない場所に保管してください。
- トナーカートリッジは横にして保管しておく、トナーが固まって使用できないおそれがあります。トナーカートリッジは必ず立てた状態で保管してください。
- 当社が指定していないトナーカートリッジを使用した場合、本機の本来の品質や性能が発揮できないおそれがあり、また、故障の原因になるおそれもあります。当社が指定するトナーカートリッジを使用してください。



- いずれか1色のトナーがなくなるとカラープリントはできません。カラートナーがなくなっても、黒色トナーがなくなっていなければ白黒プリントできます。
- お客様の使用状況によっては、色が薄くなったりかすれる場合があります。

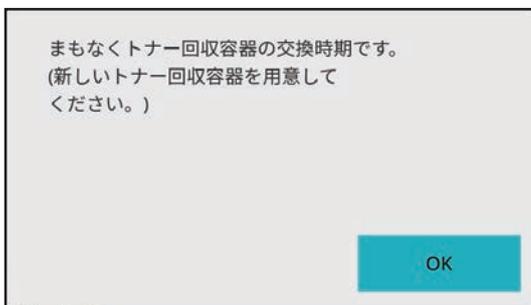


- トナーカートリッジは必ず4本（Y/M/C/Bk）装着します。
- 取りはずしたトナーカートリッジは捨てないで同梱されているビニール袋に入れて梱包されていた箱に収納して保管してください。メンテナンスのときに担当者が回収します。
- プリント中、または待機状態のとき、[ホーム画面] キーを長押しすると、トナー残量の目安（%表示）を表示します。この表示が「25-0%」になっているときは、トナーがなくなったときに備え、あらかじめ交換用のカートリッジを準備してください。
- 本機に同梱されているトナーカートリッジを装着したときは、トナー残量が最初から「50-25%」と表示されます。（設置時にセットさせていただきますトナーカートリッジの印字可能枚数は、通常のトナーカートリッジよりも少なくなっております。）
- ホーム画面表示中にトナーがなくなると、「トナー切れ」のメッセージが表示されます。また、ホーム画面でトナー残量が表示されているとき、トナーがなくなった色の上に⚠が表示されます。



トナー回収容器の交換

トナー回収容器は、プリントするときに発生する余分なトナー粉を蓄積している装置です。トナー回収容器が満杯に近づくと、以下のメッセージが表示されます。トナー回収容器を準備してください。



トナー回収容器が満杯になると、以下のメッセージが表示されます。



このようなときは、タッチパネルに表示されているトナー回収容器の交換方法を見るための[次へ]キーをタップしてください。

キーをタップすると、トナー回収容器の交換方法のガイダンスが表示されるので、ガイダンスに従ってトナー回収容器の交換を行ってください。トナー回収容器を交換すると、メッセージは自動的に終了します。



- トナー回収容器を火中に投じないでください。トナー粉がはねて、やけどの原因となることがあります。
- トナー回収容器は、お子様の手の届かない場所に保管してください。

1

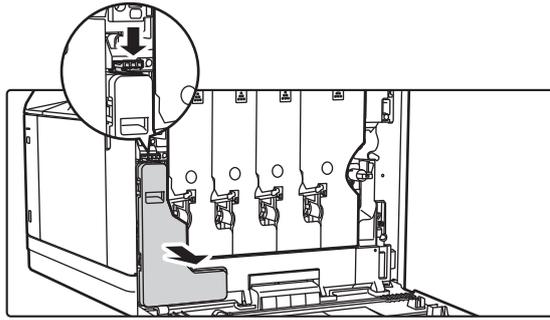


右側面カバーを開ける

両サイドを持って開けてください。



2



トナー回収容器を取りはずす

トナー回収容器の上部にあるフックを軽く押しながら、トナー回収容器を手前にまっすぐ引き出します。

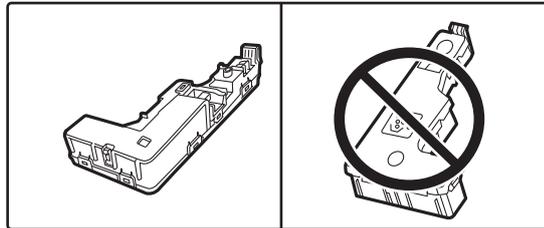
3

取り外したトナー回収容器を保管する

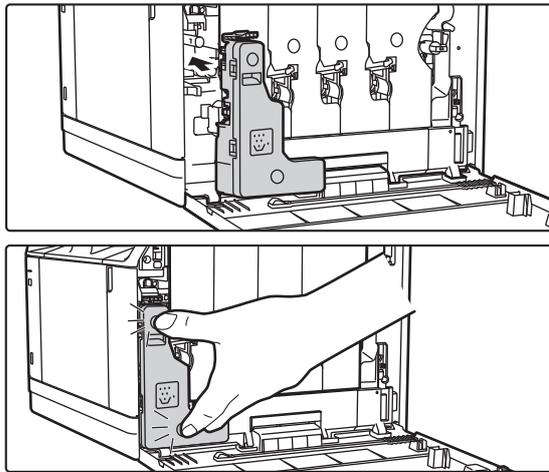
いったん、トナー回収容器を置く場所に新聞紙などを敷いておきます。



トナー回収容器を置くときは、中に入っている廃トナーがこぼれますので、穴の部分を下に向けないでください。



4



新しいトナー回収容器を取り付ける

丸くへこんでいる部分を押し込んで、「カチッ」と音がするところまで確実に押し込んでください。

5



右側面カバーを閉じる

両サイドを持って閉めてください。



お使いになる前に ▶ お手入れについて



- 取りはずしたトナー回収容器は捨てないで同梱されているビニール袋に入れて梱包されていた箱に収納して保管してください。メンテナンスのときに担当者が回収します。
- 箱に収納したトナー回収容器は、倒さずに立てた状態で保管してください。



本機のお操作方法

タッチパネルについて

タッチの種類	2-2
操作の種類	2-2
よく使うキーの操作	2-4
マシン情報画面	2-5

ホーム画面について

ホーム画面	2-6
ホーム画面の概要	2-6
本機の状態を示すアイコン	2-7

タッチパネルの表示を変更する

ホーム画面を編集する	2-9
ショートカットキーを登録する	2-9
ショートカットキーを削除する	2-11
ショートカットキーを工場出荷時の状態に戻す	2-13
本機の一時的に表示言語を切り替える	2-15

文字入力について

文字入力	2-17
ソフトキーボードの名称とはたらき	2-17
文字入力のしかた	2-18
ひらがなの変換	2-19
JISコードを使った文字入力	2-20
キーボードの設定を行う	2-20



タッチパネルについて

タッチの種類

操作の種類

本機のタッチパネルは、従来のタッチを意味するタップやロングタッチを使います。



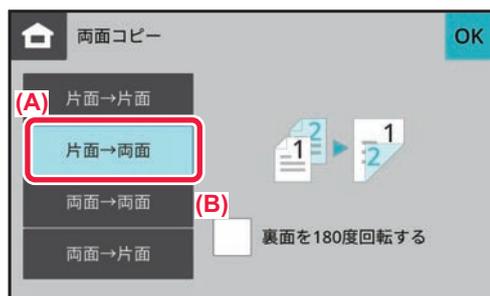
マルチタッチは対応していません。

	<p>タップ 画面を触って指をすぐに離します。キーまたはタブ、チェックボックスなどを選択するときに使います。</p>		<p>ロングタッチ タッチした指をすぐに離さず、少しの間タッチし続けます。 キーボードの[Shift]キーを押し続ける（ロングタッチすると、[Shift]キーがロック状態になり、大文字を続けて入力することができます。（この状態で[Shitt]キーをタップするとロックを解除できます。）</p>
--	---	--	---

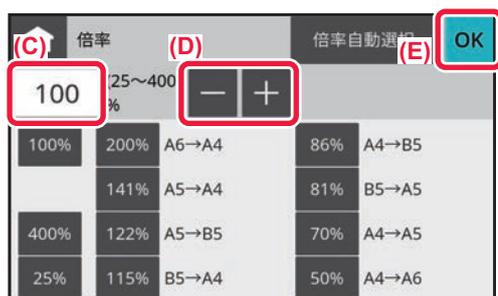
各画面での操作

キー（タップ）

- A. タップして選択します。選択中のキーは色が変わります。
- B. タップすると になり、設定が有効になります。



- C. タップして、数字キー（10キー）で数字を入力します。
- D. タップして値を増減します。ロングタッチすると、タッチをやめるまで値を増減します。
- E. タップして画面を閉じます。





リスト (タップ)

A. タップして選択します。選択中の項目は色が変わります。

B. バーが上下にスライドします。項目が画面に収まらないときに表示します。



タブ (タップ)

A. 各タブをタップすると表示内容を切り替えます。



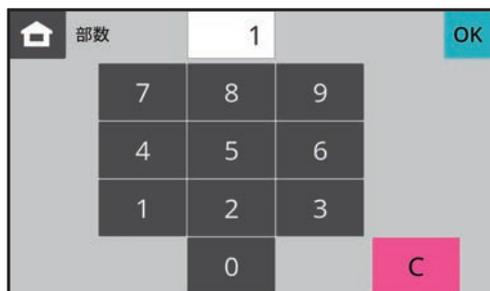


よく使うキーの操作

数字キー（10キー）

数字をタップして入力します。

入力した数字を取り消すときは [C] キーをタップします。



ファクスの宛先入力では、数字以外の文字が入力でき、キー配列が異なります。

【白黒スタート】キー、【カラースタート】キー

コピーや送信をするときにタップします。



ファクスモードでは、[スタート] キーを表示します。

【コピー中止】キー、【中止】キー

コピー、プリントや送信を中止するときにタップします。



【リセット】キー



すべての設定を取り消し、各モードの最初の状態に戻すときにタップします。



マシン情報画面

タッチパネルの下部のマシン情報アイコンをタップすると、マシン情報画面が表示されます。



(1) マシン情報

ネットワーク接続状況やファームウェアバージョン等の本機の状態が表示されます。



ホーム画面について

ホーム画面

[ホーム画面] キーをタップすると、タッチパネルにホーム画面が表示されます。ホーム画面は、モードや機能を選択するキーが表示されます。

ホーム画面の概要



- (1) **モードタイトル**
各機能のタイトルが表示されます。
- (2) **[ホーム画面]キー**
ホーム画面に切り替わります。
- (3) **ショートカットキー**
モードや機能のショートカットキーを選びます。
▶ [ホーム画面を編集する \(2-9ページ\)](#)
- (4) **固定領域エリア**
トナーの状態や本機の状態を知らせるアイコンが表示されます。
- (5) **メニューアイコン**
本機の詳細な設定を表示します。
- (6) **ホーム画面ページ切替キー**
ショートカットキーを表示するページを切り替えます
- (7) **マシン情報アイコン**
マシン情報画面を表示します。
▶ [マシン情報画面 \(2-5ページ\)](#)



本機の状態を示すアイコン

アイコン	本機の状態	アイコン	本機の状態
	マシン情報アイコン マシン情報画面 (2-5ページ)		無線LANインフラモード接続中 (レベル1)
	メンテナンス情報あり		無線LANインフラモード接続中 (レベル2)
	ICカード未接続時※		無線LANインフラモード接続中 (レベル3)
	受信ホールドデータあり		無線LANインフラモード接続中 (レベル4)
	USBメモリー接続時		フィールドサポートシステム有効/ シャープパワーネットシステムご利用時
	LANケーブル非接続時		ファームウェアアップデート機能有効時
	無線LAN未接続		ファームウェアアップデート情報がある
	本機内部にある無線LANデバイスの接続不良※		ファームウェアアップデートに失敗
	無線LAN有効		ファームウェアアップデートインフォメーションアイコン
	リモートオペレーション実行中		

※ サービス担当者にご相談ください。



、はホーム画面では表示されません。



ホーム画面への切り替え



ホーム画面の編集は、「[ホーム画面を編集する \(2-9ページ\)](#)」を参照してください。



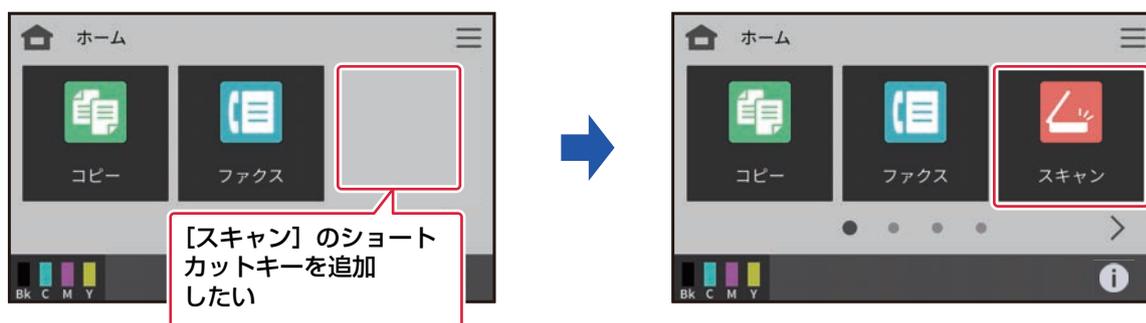
タッチパネルの表示を変更する

ホーム画面を編集する

ホーム画面では、ショートカットキーの表示件数を変更できます。

ショートカットキーを登録する

ホーム画面にショートカットキーを登録する方法について説明します。
Webページで登録できます。



1

Webブラウザに本機のIPアドレスを入力し、Webサーバーにアクセスする

工場出荷時の状態では、IPアドレス入力後、ユーザーパスワードの入力が必要です。

2

Webページの [システム設定] タブ→ [ホーム画面設定] の順にクリックする

設定によっては、[ホーム画面設定] をクリックしたあと、ユーザーパスワードの入力が必要となります。ユーザー認証していない場合は、管理者パスワードの入力が必要となります。





3

[基本設定] をクリックし、登録したいショートカットキーをクリックする



4

登録する機能を選択する



5

設定が完了したら、[登録] ボタンをクリックする

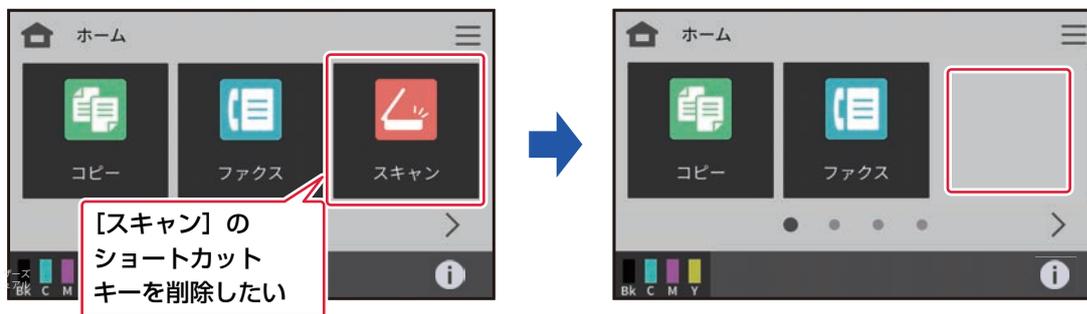
設定内容が本機に登録され、設定が有効になります。

設定が終わったら [ログアウト] ボタンをクリックし、Webブラウザを閉じてください。



ショートカットキーを削除する

ホーム画面のショートカットキーを削除する方法について説明します。
Webページで登録できます。



1

Webブラウザに本機のIPアドレスを入力し、Webサーバーにアクセスする

工場出荷時の状態では、IPアドレス入力後、ユーザーパスワードの入力が必要です。

2

Webページの [システム設定] タブ→ [ホーム画面設定] の順にクリックする

設定によっては、[ホーム画面設定] をクリックしたあと、ユーザーパスワードの入力が必要となります。ユーザー認証していない場合は、管理者パスワードの入力が必要となります。



3

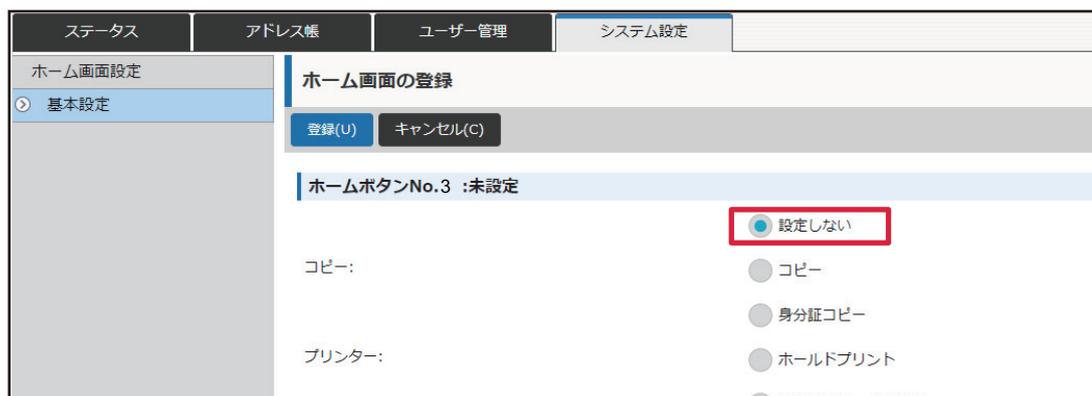
[基本設定] をクリックし、削除したいショートカットキーをクリックする





4

【設定しない】を選択する



5

設定が完了したら、【登録】ボタンをクリックする

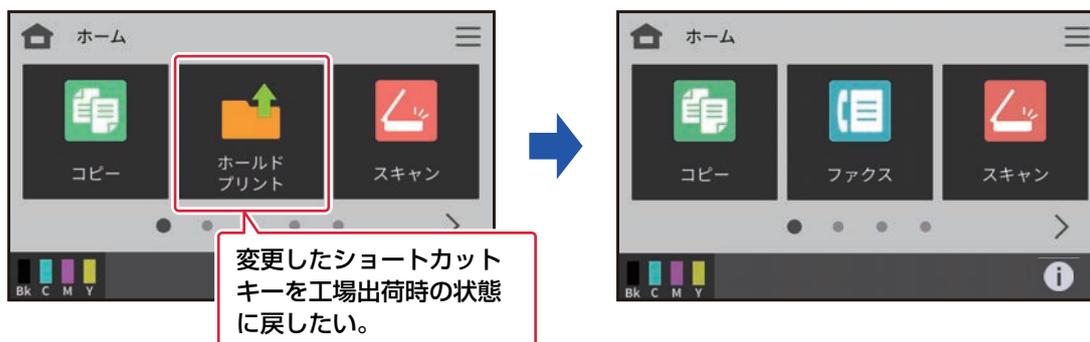
設定内容が本機に登録され、設定が有効になります。

設定が終わったら【ログアウト】ボタンをクリックし、Webブラウザを閉じてください。



ショートカットキーを工場出荷時の状態に戻す

ホーム画面のショートカットキーを工場出荷時の状態に戻す方法について説明します。
Webページで登録できます。



1

Webブラウザに本機のIPアドレスを入力し、Webサーバーにアクセスする
工場出荷時の状態では、IPアドレス入力後、ユーザーパスワードの入力が必要です。

2

Webページの [システム設定] タブ→ [ホーム画面設定] の順にクリックする
設定によっては、[ホーム画面設定] をクリックしたあと、ユーザーパスワードの入力が必要となります。ユーザー認証していない場合は、管理者パスワードの入力が必要となります。

ステータス	アドレス帳	ユーザー管理	システム設定
ホーム画面設定			
基本設定			
更新(R)			
No.	ホームボタン		
1	コピー		
2	ホールドプリント		
3	スキャン		
4	ファクス		
5	ファクス状況		
6	ファクス宛先登録		
7	給紙トレイ設定		



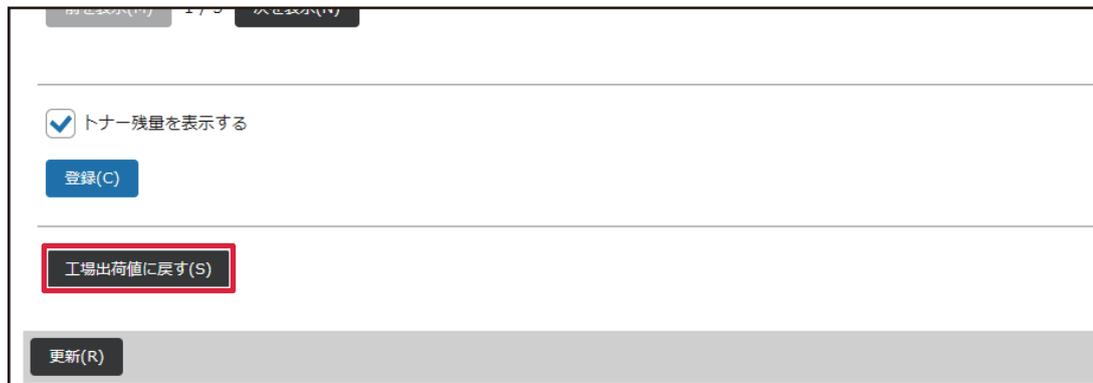
3

【基本設定】 をクリックし、【工場出荷値に戻す】 ボタンをクリックする

確認のウィンドウが表示されるので、【OK】 ボタンをクリックします。

設定内容が本機に登録され、設定が有効になります。

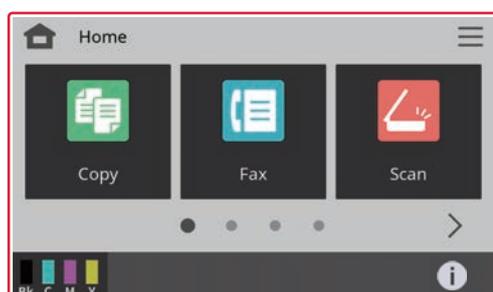
設定が終わったら【ログアウト】 ボタンをクリックし、Webブラウザを閉じてください。





本機の一時的に表示言語を切り替える

表示言語を一時的に変更します。本機の再起動したときなどは、元の表示言語に戻ります。



1



メニューアイコンをタップする

2



[言語設定]キーをタップする



3



変更したい言語を選択し、**OK** をタップする

表示が選択した言語に切り替わります。

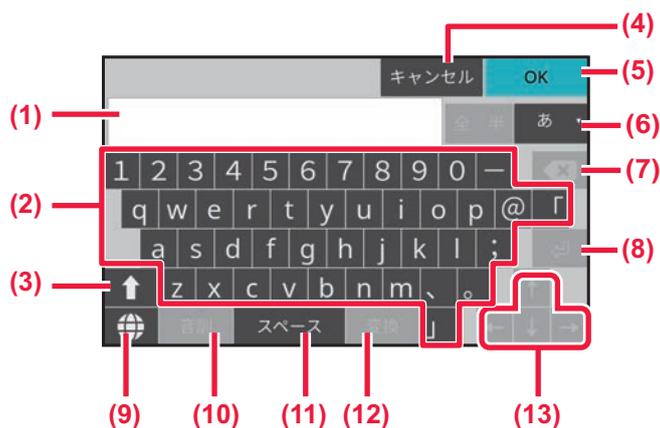


文字入力について

文字入力

ソフトキーボードの名称とはたらき

ファイル名、プログラム名、フォルダー名、ユーザー名などを登録するときにソフトキーボードを表示します。
例：ローマ字のひらがな入力画面



- | | |
|---|--|
| <p>(1) テキスト入力エリア
入力した文字を表示します。</p> <p>(2) キーボード
キーをタップして文字を入力します。
選択している文字入力モードによっては表示されるキーの種類は異なります。</p> <p>(3) [Shift] キー
アルファベットを大文字に切り替えたり、記号を入力するときに、タップします。また、長押しするとロックがかかります。連続して大文字を入力するときなどに使用します。ロックがかかった状態でタップするとロックが解除されます。</p> <p>(4) [キャンセル]キー
ソフトキーボードを閉じます。</p> <p>(5) [OK]キー
入力した文字を確定してソフトキーボードを閉じます。</p> <p>(6) [全角/半角切り替え]キー /入力切り替えキー
半角と全角を切り替えたり、ローマ字入力やひらがな入力、JISコード入力などの入力コードの切り替えを行います。</p> | <p>(7) [バックスペース]キー
カーソルの左の文字を1文字ずつ削除します。漢字変換中は確定前のひらがな表記に戻します。</p> <p>(8) [Enter]キー
変換文字を確定します。</p> <p>(9) [キーボード切替]キー
キー配列を切り替えます。</p> <p>(10) [音訓] キー
漢字に変換する際に音訓変換します。</p> <p>(11) [スペース]キー
文字の間に空白を入れます。</p> <p>(12) [変換] キー
ひらがなを漢字やカタカナに変換するときを使用します。</p> <p>(13) [カーソル]キー
カーソルの移動、変換対象範囲の変更などに使用します。</p> |
|---|--|



掲載されているソフトキーボードはイメージです。実際の文字入力する状況や入力状態などにより、有効になるキーは異なります。



文字入力のしかた

文字を入力するときは、文字の種類によって入力切り替えキーで入力モードを切り替えます。ひらがなやカタカナはローマ字で入力します。

入力モードは、「あ」（ひらがな）、「ア」（カタカナ）、「A」（アルファベット）、「記号」、「コード」があります。

例：ローマ字でひらがなを入力する場合の画面



文字の種類	反転表示するキー	入力例	
ひらがな	ローマ字入力	“かいしゃ” と入力する場合	[k] [a] [i] [s] [y] [a]
カタカナ	ローマ字入力全角： [全] [ア]	“ レポート ”（全角）または “レポート”（半角）と入力する場合	[r] [e] [p] [o] [-] [t] [o]
	ローマ字入力半角： [半] [ア]		
アルファベットや数字	全角：[全] [A]	“No. 7”（全角）または “No.7”（半角）と入力する場合	[Shift] [N] [o] [.] [7]
	半角：[半] [A]		
記号※	ローマ字入力全角： [あ]、[全][ア]、[全][A]	<>を入力する場合	[Shift] [<] [Shift] [>] または [Shift] を長押し [<] [>]

※ ファイル名やフォルダー名には次の半角文字は使用できません。

¥ \ ? / " : < > * |

また、「スペース」と次の記号は、コンピューターの使用環境によっては、使用できない場合があります。

たとえば、ハイパーリンクが正しく動作しない、文字化けが発生することがあります。

\$ % ^ () + - . = @ [] ^ ` { } ? _



• [Shift] キーについて

小文字のアルファベットを入力しているときに、1文字だけ大文字で入力したい場合に [Shift] キーをタップします。

[Shift] キーが反転表示し、キーボードのアルファベットが大文字表記に切り替わります。（数字や記号キーの表記も切り替わります。）いずれかのキーをタップして文字を入力すると、[Shift] キーの反転表示は解除され、キーの表示も元に戻ります。

[Shift] キーを長押しすると、ロックがかかります。

大文字を連続して入力する場合に適しています。

通常の入力画面に戻るときは、[Shift] キーをタップします。

• 入力切り替えキーで [コード] を選択した場合、JIS コードを使って文字を入力します。

入力方法については、「[JIS コードを使った文字入力 \(2-20 ページ\)](#)」を参照してください。



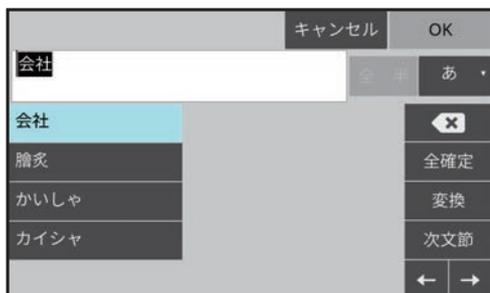
ひらがなの変換

ひらがなを入力したときに漢字やカタカナに変換する方法を説明します。

単語

漢字やカタカナに変換するとき [変換] キーをタップします。

画面に変換候補を表示するので、選択する候補をタップすると変換が確定します。



[変換] キーをタップするごとに変換候補を切り替えます。その場合は、仮選択している候補をタップするか、[全確定] キーをタップすることで候補を確定します。

文章

文章を入力したときは、[変換] キーをタップすると文節単位で変換します。

例：“会社のカラー複合機”と入力した場合



- 変換の対象となる文節を反転表示するので、[変換] キーをタップして候補から選択します。
[次文節] キーをタップすると、選択している候補を確定し、次の文節の候補を表示します。
- 変換の対象となる文節の範囲を変更するときは、[←] [→] キーをタップします。
- 最初に [変換] キーをタップした時点で、すべての文節が目的の文字に変換されていたときは、[全確定] キーをタップすることで一括で確定します。

【変換】キーと【音訓】キーの使い分け

[変換] キーは、入力した文字を自動的に適切な文節に分けて変換します。文章を変換する場合に適しています。

[音訓] キーは、入力したすべての文字に該当する言葉（読み）を漢字一字（単漢字）に変換します。[変換] キーでは単漢字の候補が表示されにくいので、単漢字に変換するときに適しています。

例：「かいぎのしりょう」という文字を [変換] キーと [音訓] キーで漢字に変換する

[変換] キー	会議の資料(「かいぎの」と「しりょう」と適切な文節に分けてそれぞれに適した漢字に変換します。)
[音訓] キー	(「かいぎのしりょう」という読みに該当する一文字の漢字がないため変換できません。)



JISコードを使った文字入力

変換候補に表示されない文字や難しい人名漢字などは、JISコードを使って入力します。

[その他] キーをタップして [コード] を選択し、「[JIS漢字コード表 \(10-5ページ\)](#)」を参照して4桁のJISコードを入力します。

例：“愈”と入力する場合

		横の列					
		第2バイト16進					
		40	41	42	43	44	
縦の列	第1バイト16進	50	勿	尙	仟	价	伉
	51	肅	愈	兮	冀	冂	
	52	卒	卅	卅	卉	卍	
	53	喟	啻	啾	喘	啣	

入力画面には、JISコード表の「第1バイト16進コード」（縦の列）と「第2バイト16進コード」（横の列）を続けて入力します。

“愈”の第1バイト16進コードは“51”、第2バイト16進コードは“41”ですので、“5141”と入力すると“愈”を自動的に入力します。

入力するコードをまちがえたときは [C] キーをタップして正しいコードを入力し直します。

キーボードの設定を行う

操作パネルから [システム設定] → [共通設定] → [操作設定] → [キーボード切替] で設定します。

キーボード切替

キーボードのキー配列や表示を設定した言語に従って切り替えます。



コピー

コピーとして使用する前に

コピーモードについて	3-2
基本画面	3-2
メニュー	3-4

基本的なコピーのとりかた

コピーする	3-5
原稿のセット方向	3-6
コピーする用紙トレイの選択	3-7
自動両面コピーする	3-8
原稿自動送り装置で両面コピー	3-8
原稿台（ガラス面）で両面コピー	3-9
コピーの原稿種類や濃度を変える	3-11
コピー濃度の自動調整	3-11
原稿種類・コピー濃度の手動調整	3-11
拡大・縮小コピーする	3-13
倍率の自動選択	3-13
倍率の手動選択	3-14
任意の倍率を指定する	3-15
用紙サイズを指定する	3-15
原稿サイズの指定	3-16
原稿サイズを指定する	3-16
不定形の原稿サイズを指定する	3-16
手差しトレイを使ってコピーする	3-18
手差しトレイを使ったコピー	3-18
手差しトレイの用紙タイプとサイズの設定	3-19
仕上げ	3-20
ソート／グループ設定	3-20
まとめてコピーする機能	3-21
複数の原稿を1枚にまとめてコピー（ページ集約）	3-21
カードの表裏を1枚にまとめてコピー（カード スキャン）	3-23
身分証をコピーする（身分証コピー）	3-25

その他の機能について

その他の機能	3-26
濃度の薄い部分を地色として薄く調整する（地色調 整）	3-26
読み込み時の解像度を調整する（読み込み解像 度）	3-28
赤・緑・青の濃淡を調整する（RGB調整）	3-29
画像の輪郭を調整する（シャープネス）	3-30

便利なコピー機能

よく使う設定（プログラム）の登録	3-31
プログラムを登録	3-31
プログラムの呼び出し	3-32
プログラムの削除／名称変更	3-33



コピーとして使用する前に

コピーモードについて

コピーモードには基本画面とメニューの2種類があります。
基本画面は、よく使う機能など必要最小限の機能で構成され、大半のコピー操作がスムーズに行えます。
詳細な設定や特殊な機能を使用する場合はメニューで操作します。

基本画面

基本画面は、コピーの基本的な設定をかんたんに行うことができます。

【1画面目】



【2画面目】





【3画面目】



- (1) すべての設定をリセットします。
- (2) 原稿自動送り装置に原稿をセットしたときに表示されません。
- (3) コピー部数を入力します。
- (4) メニューに切り替えます。
[メニュー \(3-4ページ\)](#)
- (5) 設定する機能を選びます。
- (6) 機能の表示を切り替えます。
- (7) 白黒またはカラーコピーを開始します。

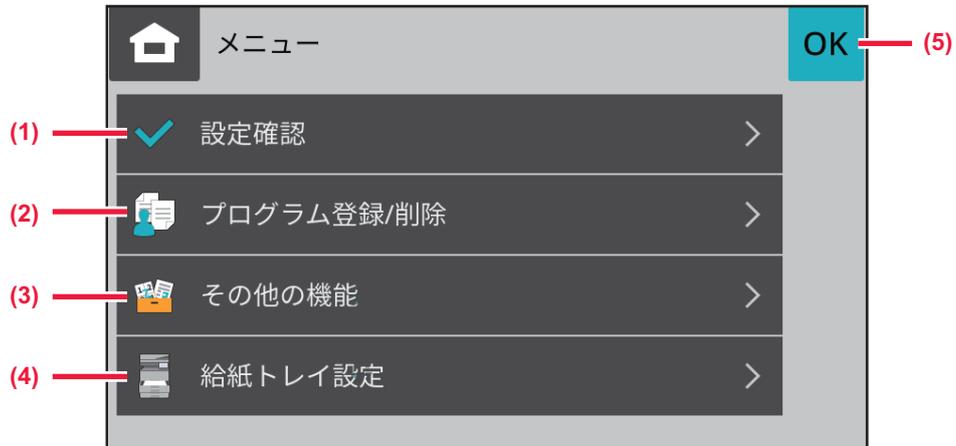
基本画面で設定できる機能は以下の通りです。

- 用紙選択
[コピーする用紙トレイの選択 \(3-7ページ\)](#)
- 両面コピー
[自動両面コピーする \(3-8ページ\)](#)
- 倍率
[拡大・縮小コピーする \(3-13ページ\)](#)
- 原稿
[原稿サイズの指定 \(3-16ページ\)](#)
- コピー濃度
[コピーの原稿種類や濃度を変える \(3-11ページ\)](#)
- グループ/ソート
[ソート/グループ設定 \(3-20ページ\)](#)
- プログラム呼び出し
[プログラムを登録 \(3-31ページ\)](#)
- 身分証コピー
[身分証をコピーする \(身分証コピー\) \(3-25ページ\)](#)
- その他の設定



メニュー

メニューは、ホーム画面およびコピーモードでの補助的な設定、使用頻度の高い項目の設定を行うことができます。



- (1) 現在設定中の内容が確認できます。
- (2) プログラムの登録や削除を行います。
- (3) その他の機能呼び出します。
- (4) 給紙トレイ設定を行います。
- (5) メニューを閉じます。



基本的なコピーのとりかた

コピーする

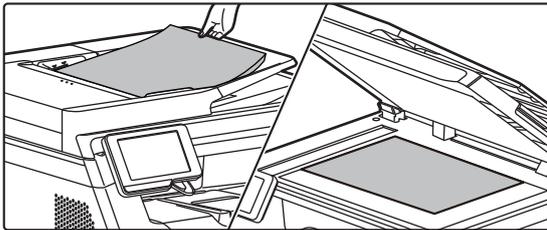
ここでは、コピーの基本的な手順を説明しています。下記の順に設定を行うと、円滑にコピーが行えます。詳しい設定方法については、それぞれの説明ページを参照してください。

1

コピーモードに切り替える

[ホーム画面への切り替え \(2-8ページ\)](#)

2



原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）のどちらかにセットします。

[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

[原稿台（ガラス面） \(1-23ページ\)](#)

3



機能を設定する

原稿の読み込みサイズや濃度、画質などを設定します。

[コピーする用紙トレイの選択 \(3-7ページ\)](#)

[自動両面コピーする \(3-8ページ\)](#)

[拡大・縮小コピーする \(3-13ページ\)](#)

[原稿サイズの指定 \(3-16ページ\)](#)

[コピーの原稿種類や濃度を変える \(3-11ページ\)](#)

[ソート/グループ設定 \(3-20ページ\)](#)

[プログラムを登録 \(3-31ページ\)](#)

[身分証をコピーする \(身分証コピー\) \(3-25ページ\)](#)

4

[カラースタート]キーまたは[白黒スタート]キーをタップして、コピーを開始する

1部だけコピーするときは、部数設定は不要です。



- すべての設定を解除するときには、[リセット] キーをタップします。
[リセット] キーをタップすると、それまで入力した内容や設定をすべて解除して基本画面に戻ります。
- コピーを実行中に、中止したいときは、[コピー中止] キーをタップします。



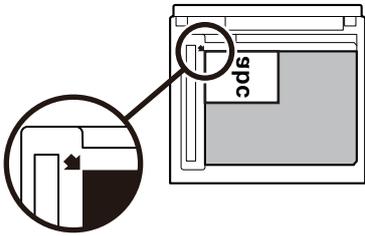
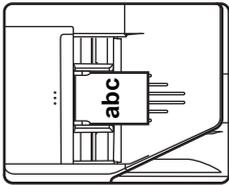
- 2部以上コピーしたいときは
部数入力キーをタップして、コピーしたい部数を設定します。





原稿のセット方向

原稿は、下図を参考にセットします。

原稿台（ガラス面）	
原稿セット台	



コピーする用紙トレイの選択

本機は、セットした原稿と同じサイズの内紙が入っているトレイを自動的に選択するように設定しています（自動用紙トレイ選択）。

用紙サイズを変更してコピーしたい場合は、使用したい用紙トレイを手動で変更します。



- コピー中に使用しているトレイの内紙がなくなった場合、同じサイズ・タイプの内紙をセットした別のトレイがあれば、自動的にコピーを継続します。
- 最適なサイズのコピー用紙がセットされていない場合は、コピーが中止する場合があります。

1

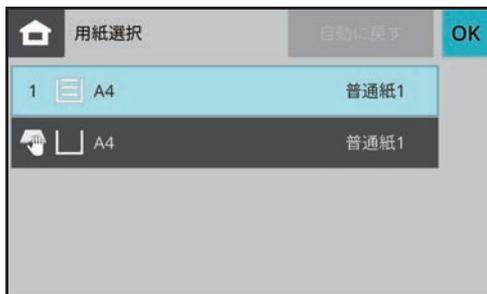
【用紙選択】 キーをタップする

[コピーする \(3-5ページ\)](#)

2

使用したいトレイのキーをタップする

設定が終わったら [OK] キーをタップします。

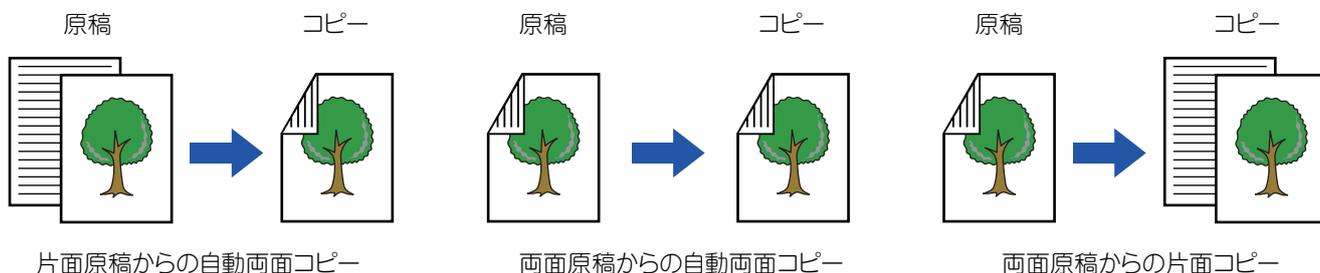


トレイの選択を自動にしたいときは、[自動に戻す] キーをタップします。



自動両面コピーする

原稿自動送り装置で両面コピー



- 両面原稿を読み込む場合は原稿を読み込む前に両面コピーを設定します。
- 用紙の両面にコピーすることで用紙の節約になります。

1

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットする

[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

2

[両面コピー] キーをタップする

[コピーする \(3-5ページ\)](#)

3



両面コピーを設定する

- (1) 両面コピーの種類を選択する
- (2) 必要に応じて [裏面を 180 度回転する] にチェックを入れる
- (3) 設定が終わったら [OK] キーをタップする

4

コピーしたい用紙 (トレイ) を確認し、他の設定を行うときは各設定項目のキーをタップする

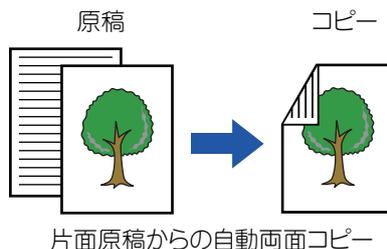
設定できる機能については、「[コピーする \(3-5ページ\)](#)」の手順2を参照してください。

5

[カラースタート]キーまたは[白黒スタート]キーをタップして、コピーを開始する



原稿台（ガラス面）で両面コピー



用紙の両面にコピーすることで用紙の節約になります。

1 原稿を原稿台（ガラス面）にセットする

[原稿台（ガラス面）](#)（1-23ページ）

2 [両面コピー] キーをタップする

[コピーする](#)（3-5ページ）

3



両面コピーを設定する

- (1) [片面→両面] キーをタップする
- (2) 必要に応じて [裏面を180度回転する] にチェックを入れる
- (3) 設定が終わったら [OK] キーをタップする



- [両面→両面] キーと [両面→片面] キーは原稿台（ガラス面）では使用できません。
- セットした原稿のサイズによっては、自動的に原稿と同じサイズ of 用紙を選択しない場合があります。その場合は手で給紙トレイを変更します。

4 コピーしたい用紙（トレイ）を確認し、他の設定を行うときは各設定項目のキーをタップする

設定できる機能については、「[コピーする](#)（3-5ページ）」の手順2を参照してください。

5

[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーをタップする



6

次の原稿をセットして、[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーをタップし、コピーを開始する

手順5でタップしたキーと同じキーをタップします。
原稿をすべて読み込むまで、この操作を繰り返します。



コピーの原稿種類や濃度を変える

コピー濃度の自動調整

標準状態では、コピーする原稿に合わせて濃度を自動的に調整する機能がはたらいています。([自動] を表示します。) 白黒コピーやフルカラーコピー時に最適なコピーができるように自動で調整します。



原稿種類・コピー濃度の手動調整

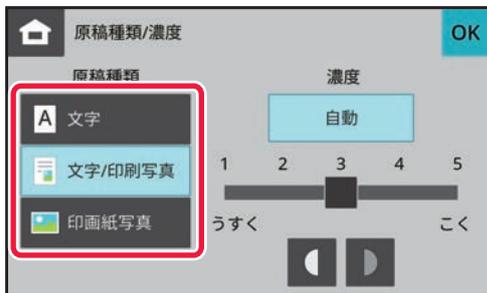
コピーする原稿に応じて原稿種類を選択したり、自分で濃度を調整したいときの操作を説明しています。

1

[原稿種類/濃度] キーをタップする

[コピーモードについて \(3-2ページ\)](#)

2



原稿種類選択キーをタップして原稿種類を設定する

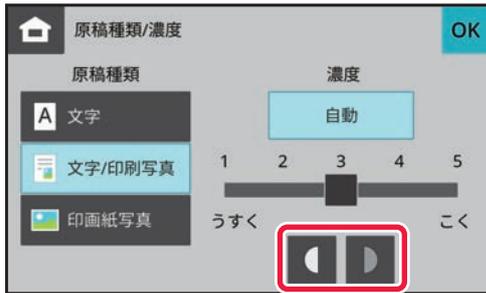
原稿の種類に合ったキーをタップします。

原稿種類選択キーについて

- 文字：通常の文字原稿に適しています。
- 文字／印刷写真：雑誌やカタログなどの印刷物を原稿としてコピーする場合、グラフィック写真部分の画質だけでなく、記事などの文字部分の画質も重視したいときに適しています
- 印刷紙写真：印刷紙の写真のコピーするのに適しています。



3



◀ ▶ をタップしてコピー濃度を調整する

調整が終わったら [OK] キーをタップします。



「コピー濃度/原稿種類」選択で「文字」を選択しているときの濃度の目安

1~2：新聞などの濃い原稿

3：普通の濃さの原稿

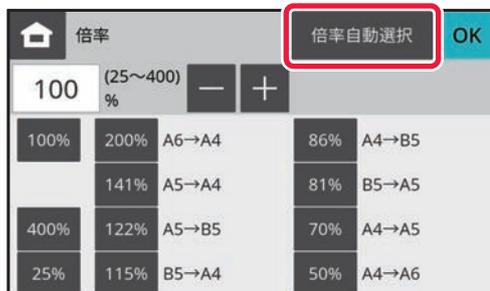
4~5：鉛筆書きや薄い色文字の原稿



拡大・縮小コピーする

倍率の自動選択

手動で用紙トレイを変更し、原稿と異なるサイズ of 用紙にコピーするとき、用紙サイズに合わせて最適な倍率を自動選択する機能について説明します。



不定形サイズの原稿は、サイズを入力したときのみ倍率自動選択をはたらかせます。

1 手動で用紙トレイを選択し、原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[コピーする用紙トレイの選択（3-7ページ）](#)

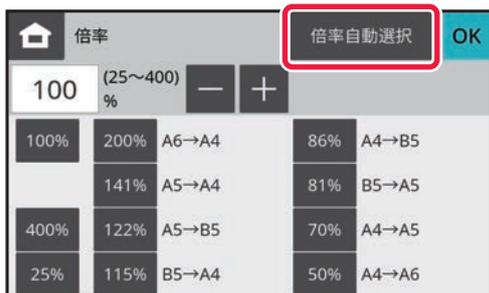
[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2 [倍率] キーをタップする

[コピーモードについて（3-2ページ）](#)

3



[倍率自動選択] キーをタップする

セットした原稿サイズと選択した用紙サイズに応じた拡大／縮小倍率を自動的に選択します。

自動選択した倍率を、倍率表示部に表示します。



- 倍率自動選択の設定を解除するには
[倍率自動選択] キーをタップして、選択を解除します。
- 倍率を100%に戻すには
[100%] キーをタップします。



倍率の手動選択

原稿と異なるサイズの内紙にコピーするときや、画像のサイズを変えてコピーするとき任意の倍率を設定する方法を説明しています。

倍率の設定方法には、以下の2つの方法があります。

任意の倍率を指定する

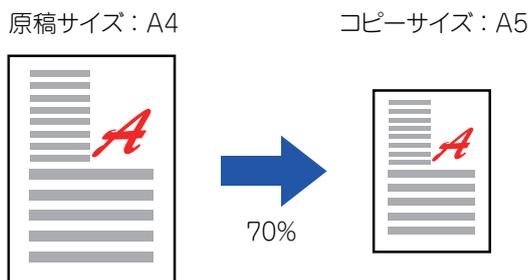
1%きざみで倍率を調整できる **[-]** **[+]**、または10キーから任意の倍率を指定します。

また、良く使用される定形サイズ間での拡大、縮小倍率があらかじめ登録された固定倍率キーから選択できます。

用紙サイズを指定する

原稿の内紙サイズと仕上りの用紙サイズを指定して、最適な倍率を自動計算します。

例：原稿サイズにA4を、用紙サイズにA5を選択すると、倍率は70%に自動設定される。



原稿自動送り装置を使用するときは、縦横ともに25～200%の範囲で倍率設定します。



倍率を100%に戻すには
[100%] キーをタップします。

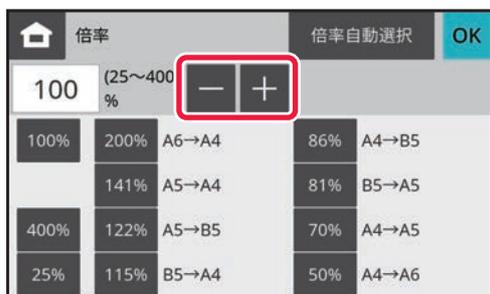


任意の倍率を指定する

1 [倍率] キーをタップする

[コピーモードについて \(3-2ページ\)](#)

2



- + をタップして倍率を設定する

設定が終わったら [OK] キーをタップします。
設定した倍率に応じた用紙サイズが選択されていることを確認します。



固定倍率キーで希望に近い値を設定してから - + で調整すると、手早く設定できます。



すべての設定を解除するときは
[リセット] キーをタップします。

用紙サイズを指定する

1 [倍率] キーをタップする

[コピーモードについて \(3-2ページ\)](#)

2



原稿（セットした原稿の用紙サイズ）と、 用紙（仕上りの用紙サイズ）を設定する

設定が終わったら [OK] キーをタップします。



すべての設定を解除するときは
[リセット] キーをタップします。



原稿サイズの指定

原稿サイズを変更したいときは、[原稿] キーをタッチして、原稿サイズを設定します。



原稿のサイズの指定は、原稿の読み込み前に設定します。

原稿サイズを指定する

1

[原稿] キーをタップする

[コピーモードについて \(3-2ページ\)](#)

2



指定したい原稿サイズキーをタップする

設定が終わったら [OK] キーをタップします。

不定形の原稿サイズを指定する

1

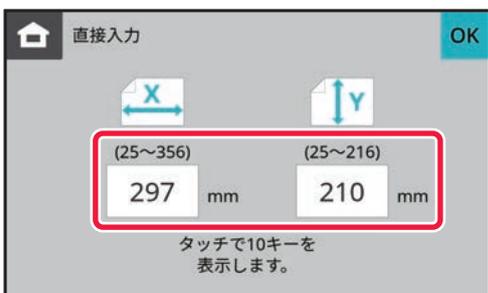
[原稿] キーをタップする

[コピーモードについて \(3-2ページ\)](#)

2

[直接入力] キーをタップする

3



原稿サイズを設定する

設定が終わったら [OK] キーをタップします。



X、Y方向それぞれのサイズ表示部をタップして、数字キー（10キー）でサイズを入力します。



4

[OK] キーをタップする



手差しトレイを使ってコピーする

手差しトレイを使ったコピー

手差しトレイを使用すると普通紙のほかに、封筒などにコピーできます。



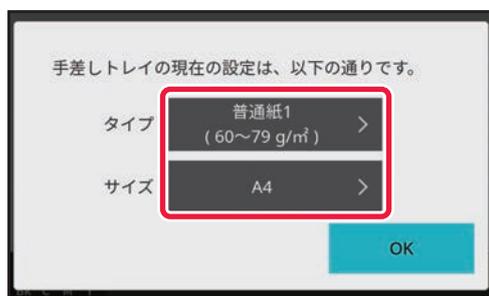
手差しトレイにセットできる用紙の詳細は、「[使用できる用紙の種類 \(1-9ページ\)](#)」を、手差しトレイに用紙をセットする場合の注意事項などは「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)」をそれぞれ参照してください。

1

手差しトレイに用紙をセットする

[手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)

2



ダイアログが表示されるので、設定を変更したい場合は、ダイアログで[タイプ]または[サイズ]をタップして、用紙のサイズとタイプを選択する

[手差しトレイの用紙タイプとサイズの設定 \(3-19ページ\)](#)
表示されている用紙タイプと用紙サイズを使用する場合は、[OK]キーをタップしてください。

3

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

[原稿台（ガラス面） \(1-23ページ\)](#)

4

[カラースタート]キーまたは[白黒スタート]キーをタップして、コピーを開始する



手差しトレイの用紙タイプとサイズの設定

1

【用紙選択】 キーをタップする

[コピーする用紙トレイの選択 \(3-7ページ\)](#)

2

【タイプ】 タブをタップして、セットした用紙タイプのキーをタップする



手差しトレイがセットした用紙を検知した場合、用紙タイプと用紙サイズを設定する画面が自動表示されます。

3



【サイズ】 タブをタップして、セットした用紙サイズのキーをタップする

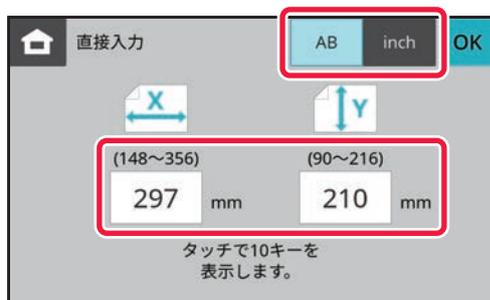
セットした用紙のサイズを数値入力したいときは [直接入力] キーをタップします。

設定が終わったら [OK] キーをタップします。



用紙サイズを直接入力するときは

用紙単位をmm単位で設定する場合は [AB] キーを、インチ単位で設定する場合は [インチ] キーをタップします。数字キー（10キー）で希望の数値を入力したら、[OK] キーをタップします。

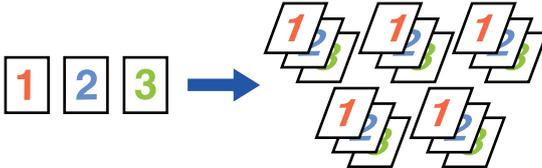




仕上げ

ソート／グループ設定

読み込んだ原稿を出力するときの仕分け方法を選択します。

自動	原稿を原稿自動送り装置にセットするとソートを、ガラス面にセットするとグループを選択します。
ソート	読み込んだ原稿を、1部ずつ仕分けして出力します。 例：ソートでコピー部数を5部とした場合 
グループ	読み込んだ原稿を、ページ単位で仕分けして出力します。 例：グループでコピー部数を5部とした場合 

1

[ソート/グループ] キーをタップする

2

仕分け方法を選択する

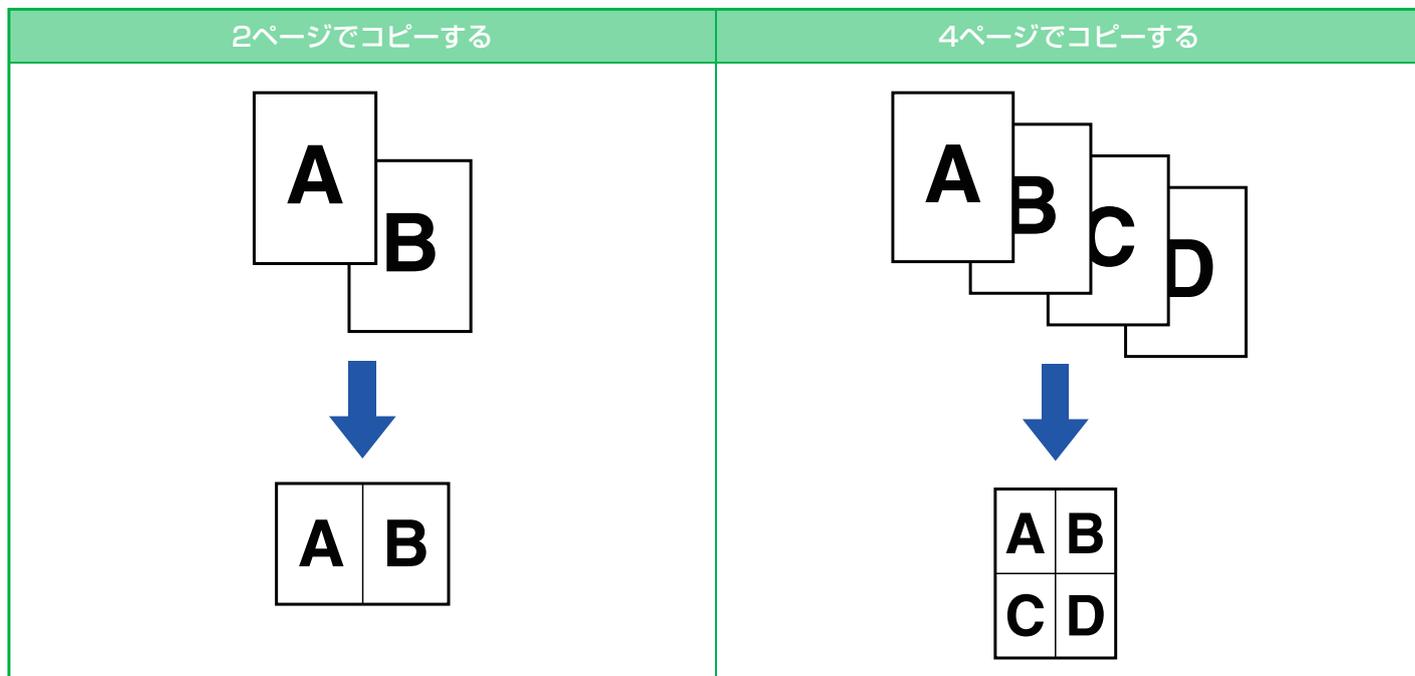
設定が終わったら [OK] キーをタップします。



まとめてコピーする機能

複数の原稿を1枚にまとめてコピー（ページ集約）

複数ページの原稿を1枚の用紙に均等に割り付けてコピーします。
1枚の用紙に原稿2枚分を割り付ける2ページ、4枚分を割り付ける4ページのいずれかを選択します。
ページ数の多い資料をコンパクトにまとめたり、全ページを一覧したいときに便利です。



1

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)
[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



原稿台（ガラス面）を使って複数枚の原稿を読み込む場合は、原稿を入れ替えて「カラースタート」キーまたは「白黒スタート」キーをタップします

2

【その他の機能】 キーをタップして「ページ集約」キーをタップする

3



集約したい原稿の枚数と、レイアウトが表示されているキーをタップする



レイアウトによって倍率が25%未満になる場合、最小倍率の25%に変更するため画像が欠けます。自動補正した場合はメッセージが表示されます。



- ページ集約の設定を解除するには
[Off] キーをタップします。
- すべての設定を解除するときは
[リセット] キーをタップします。

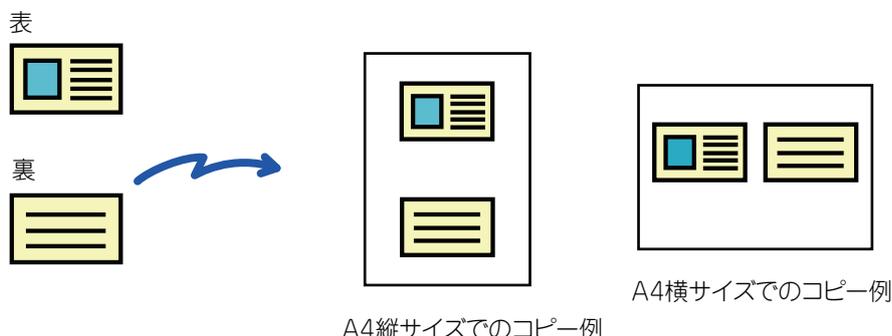
4

[カラースタート]キーまたは[白黒スタート]キーをタップして、コピーを開始する



カードの表裏を1枚にまとめてコピー（カードスキャン）

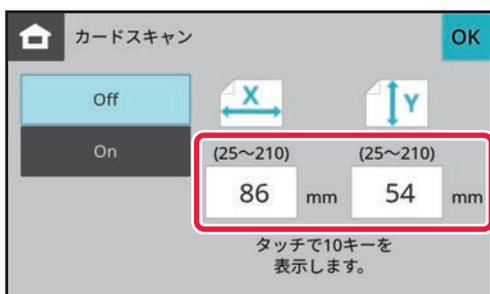
各種カードの表と裏を別々の用紙にコピーすることなく1枚の用紙に並べてコピーします。
お客様の証明用コピーなどを効率的にコピーでき、用紙の節約にもつながります。



1

【その他の機能】 キーをタップして【カードスキャン】 キーをタップする

2



【On】 キーをタップして、必要に応じて原稿のサイズを設定する

設定が終わったら【OK】 キーをタップします。

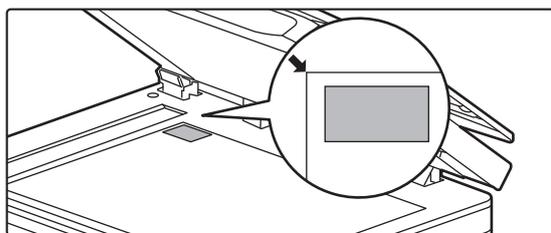


- 原稿のX（横）、Y（縦）方向それぞれのサイズを示す数値表示部をタップして、数字キー（10キー）でサイズを入力します。
- 画像が欠ける場合は、少し大きめにサイズを入力してください。



カードスキャンの設定を解除するには【Off】 キーをタップします。

3



カードの表面を下にして原稿台（ガラス面）にセットし、【カラースタート】 キーまたは【白黒スタート】 キーをタップする

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



画像が欠ける場合は、原稿を内側にずらしてセットしてください。



4

カードの裏面を下にして原稿台（ガラス面）にセットし、[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーをタップして、裏面を読み込む



- 追加で読み込むときにコピーの設定を変更できません。
- すべての設定を解除するときは [リセット] キーをタップします。

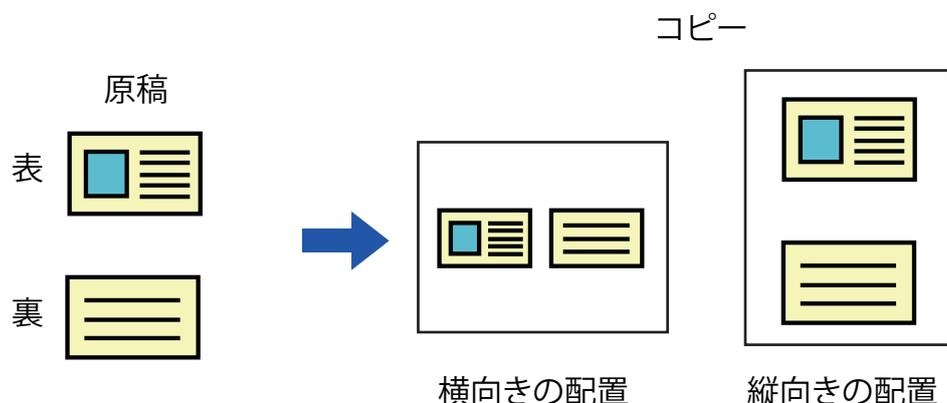
5

[読み込み終了] キーをタップし、コピーを開始する



身分証をコピーする（身分証コピー）

身分証の裏/表を別々の用紙にコピーすることなく1枚の用紙に並べてコピーします。お客様の身分証のコピーなどを効率的にコピーでき、用紙の節約にもつながります。



1 [身分証コピー] キーをタップする

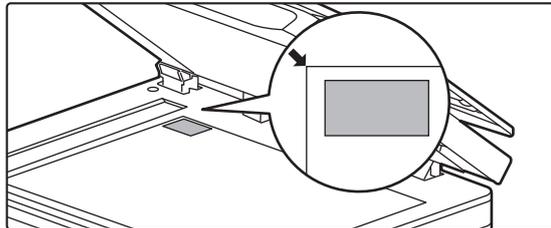
[身分証コピー]キーにチェックマークが付きます。



身分証コピーの設定を解除するには

[身分証コピー] キーをタップして、チェックマークを外します。

2



身分証の表面を下にして原稿台（ガラス面）にセットし、[カラースタート] キーまたは[白黒スタート] キーをタップする
[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



身分証コピーでは、読み込み範囲や読み込み枚数は変更できません。読み込み範囲はX方向86 mm× Y方向54 mmです。

3

身分証の裏面を下にして原稿台（ガラス面）にセットし、[カラースタート] キーまたは[白黒スタート] キーをタップして、裏面を読み込み、コピーを開始する



すべての設定を解除するときは

[リセット] キーをタップします。



その他の機能について

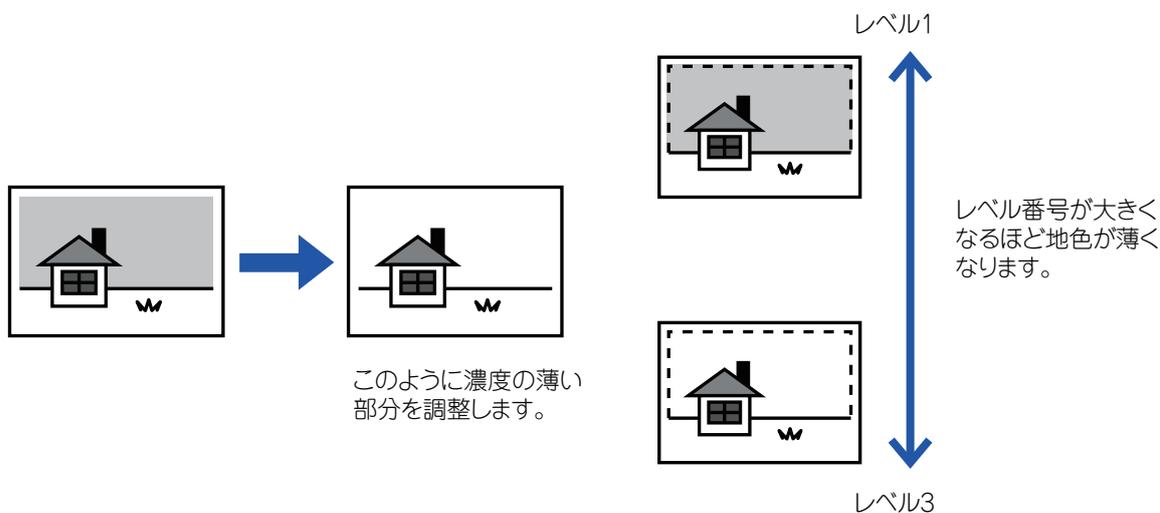
その他の機能

濃度の薄い部分を地色として薄く調整する（地色調整）

原稿の濃度の薄い部分を地色として薄く調整します。

[地色調整] のレベル番号が大きくなるほど地色が薄くなります。

このように濃度の薄い部分を調整します。



地色調整は、原稿を読み込む前に設定します。

1

【その他の機能】 キーをタップして【地色調整】 キーをタップする

2



調整したいレベルのキーをタップする

設定が終わったら [OK] キーをタップします。



地色調整の設定を解除するには
[Off] キーをタップします。

3

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



すべての設定を解除するときは
[リセット] キーをタップします。

4

[カラースタート]キーまたは[白黒スタート]キーをタップして、コピーを開始する



読み込み時の解像度を調整する（読み込み解像度）

原稿読み込み時の解像度を調整し、用途に応じて高画質な仕上がりや速度を優先した仕上がりを選択できます。



読み込み解像度は、原稿の読み込み前に設定します。

1 [その他の機能] キーをタップして [読み込み解像度] キーをタップする

2



[カラー] タブまたは [白黒] タブをタップして、解像度を選択する

原稿自動送り装置、原稿台（ガラス面）それぞれに解像度を設定できます。

設定が終わったら [OK] キーをタップします。

3

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

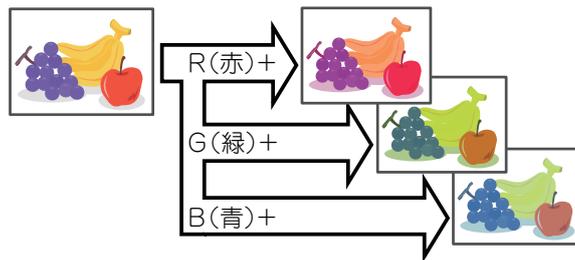
4

[カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーをタップしてコピーを開始する



赤・緑・青の濃淡を調整する（RGB調整）

R（赤）、G（緑）、B（青）から色調を選択して、選択した色調を画像全体に強調したり弱めたりします。



RGB調整は、原稿を読み込む前に設定します。

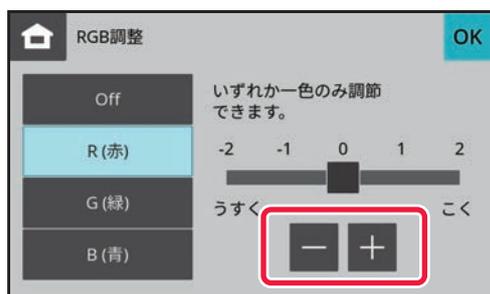
1

【その他の機能】 キーをタップして【RGB調整】 キーをタップする

2

調整したいカラーのキーをタップする

3



− + をタップまたはスライダーをスライドして色味を調整する

設定が終わったら【OK】 キーをタップします。



- いずれか一色のみ調整できます。（調整完了後、別の色をタップすると、先に調整した色の設定は無効になります。）
- RGB調整の設定を解除するには【Off】 キーをタップします。

4

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



すべての設定を解除するときは【リセット】 キーをタップします。

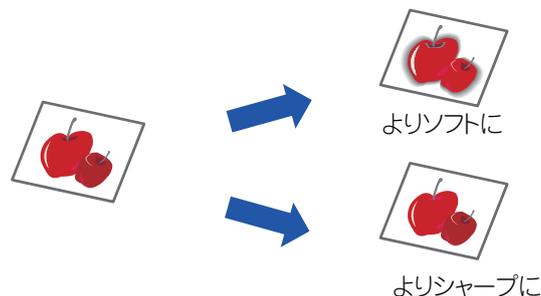
5

【カラースタート】 キーをタップして、コピーを開始する



画像の輪郭を調整する（シャープネス）

画像の輪郭を調節して、シャープな画像にしたり、ソフトな画像にしたりします。

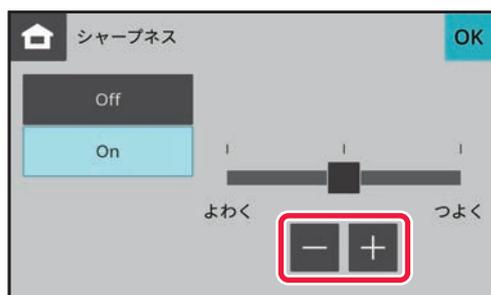


シャープネスは、原稿を読み込む前に設定します。

1

【その他の機能】 キーをタップして 【シャープネス】 キーをタップする

2



[-] [+] をタップまたはスライダーをスライドして輪郭を調整する

【つよく】 にするとよりシャープに、【よわく】 にするとよりソフトになります。

設定が終わったら 【OK】 キーをタップします。



シャープネスの設定を解除するには
【Off】 キーをタップします。

3

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



すべての設定を解除するときは
【リセット】 キーをタップします。

4

【カラースタート】キーまたは【白黒スタート】キーをタップして、コピーを開始する



便利なコピー機能

よく使う設定（プログラム）の登録

プログラムはメニュー画面で登録します。

プログラムを登録

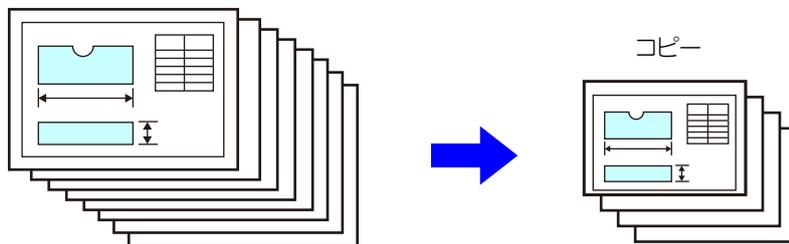
さまざまなコピー設定を1つにまとめ、プログラムとして登録できます。登録したプログラムは、簡単な操作で呼び出しが可能です。

プログラムの呼び出し方法については、「[プログラムの呼び出し \(3-32ページ\)](#)」を参照してください。

たとえば、毎月A4サイズのCAD図面を保管のため次の設定でコピーするとします。

- A4サイズのCAD 図面をA5サイズに縮小してコピーする。
- 用紙を半減したいので、両面にコピーする。

A4サイズのCAD図面



プログラムを登録していない場合	プログラムを登録している場合
A4からA5へ縮小する設定 ↓ 濃度設定を変更 ↓ 両面コピーを設定 ↓ [カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーをタップする	登録したプログラムを呼び出す ↓ [カラースタート] キーまたは [白黒スタート] キーをタップする
毎月コピーするごとにこのような設定をする必要があり、手間がかかります。 また、途中で設定をまちがうこともあり、コピーミスもあります。	プログラムを登録するとワンタッチで設定が完了し、かんたんで手間がかかりません。 また、登録内容に従ってコピーするので設定によるコピーミスはありません。



- プログラムは、8件まで登録が可能です。
- 主電源が切れてもプログラム設定は残ります。

1

登録するコピー機能を設定する

2

[メニュー] アイコンをクリックし、[プログラム登録/削除] をタップする



3 [プログラム登録] をタップする

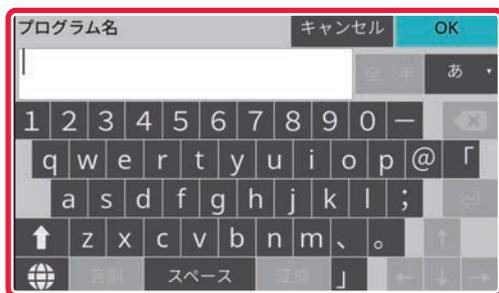
4



未登録のキーをタップする

すでにプログラムを登録しているキーはチェックマークが付いています。

5



プログラムに名前をつけ、[OK] キーをタップする

登録完了メッセージが表示されます。



コピー枚数の設定は登録できません。

プログラムの呼び出し

1 [プログラム呼び出し] をタップする

2 呼び出したいプログラムキーをタップする



プログラムの削除／名称変更

コピー設定のプログラムの削除方法、および名称の変更方法について説明しています。

プログラムを削除する

1 [メニュー]アイコンをクリックし、[プログラム登録/削除] をタップする

2 [プログラムの削除] をタップする

3 削除するプログラムキーをタップして [削除] をタップする

プログラムの名称を変更する

1 [メニュー]アイコンをクリックし、[プログラム登録/削除] をタップする

2 [プログラム名の変更] をタップする

3 名称を変更するプログラムキーをタップしてプログラムの名前を変更し、[OK] キーをタップする

設定が終わったら [OK] キーをタップします。



プリンター

本機のプリンター機能

プリンター機能について	4-3
Windows環境	4-3
macOS環境	4-3

Windows環境からプリントする

基本的なプリントのしかた	4-4
プリンタードライバの設定画面について／ヘルプの参照	4-6
用紙の給紙方法	4-7
郵便はがきや封筒にプリントする方法	4-8
ユーザー認証機能が設定されている場合のプリント方法	4-10
よく使うプリント設定を登録して使用する	4-11
プリント時に設定した内容を登録	4-11
登録した設定を使用してプリント	4-12
プリンタードライバの初期設定値を変更	4-13
お気に入り設定をサーバー/クライアント間で共有する	4-14

macOS環境からプリントする

基本的なプリントのしかた	4-15
用紙の給紙方法	4-16
郵便はがきや封筒にプリントする方法	4-17
ユーザー認証機能が設定されている場合のプリント方法	4-19

よく使うプリント機能について

カラーモードを選択してプリント	4-21
画質を選択してプリント	4-23
用紙の両面にプリント	4-24
用紙のサイズに合わせてプリント	4-26
1ページに複数ページのデータをプリント	4-28
白紙ページを飛ばしてプリント	4-30

便利なプリント機能について

冊子やポスターの作成に役立つ仕上げ機能	4-31
中とじの冊子を作る(製本)	4-31
とじしろを作ってプリント(とじしろ)	4-33
大判のポスターを作る(ポスター印刷)	4-35
データのサイズや向きなどを補正する機能	4-36
奇数・偶数ページ別に印刷位置を調整してプリント(印刷位置設定)	4-36
データを180度回転してプリント(180度回転)	4-37
データを拡大/縮小してプリント(ズーム/拡大縮小)	4-38
線幅を調節してプリント(線幅調整設定)	4-40
鏡に映したように反転してプリント(鏡像反転/視覚効果)	4-43
カラーモード調整機能	4-44
画像の明るさやコントラストを調整してプリント(イメージ調整/RGB調整)	4-44
薄くて見づらい文字や線を黒色でプリント(文字を黒色で印刷する/線を黒色で印刷する)	4-45
データに応じたカラー設定でプリント(高度なカラー設定)	4-46
文字や画像の合成機能	4-49
すかし文字を入れてプリント(ウォーターマーク)	4-49
画像をデータに重ねてプリント(イメージスタンプ)	4-51
定型フォームを作成してプリントデータを重ねる(オーバーレイ)	4-52
特殊な用途に使えるプリント機能	4-54
特定のページを異なる用紙でプリント(表紙挿入)	4-54
各ページの前または後に同じデータを挿入(ページ挿入)	4-57
JPEGイメージのレンダリング方法を変更してプリント(Jpeg形式の画像をドライバーで処理する)	4-58
知っておくと便利なプリント機能	4-59
プリントデータを保存して使用(リテンション)	4-59

プリンタードライバを介さずにプリント

プリント可能な拡張子	4-62
USBメモリー内のファイルを直接プリント	4-63
コンピューターからファイルを直接プリント	4-64
FTPプリント	4-64





付録

プリンタードライバー仕様一覧	4-65
メイン	4-65
給紙	4-65
レイアウト	4-65
ジョブハンドリング	4-66
挿入	4-66
スタンプ	4-66
画質	4-66
詳細設定	4-67



本機のプリンター機能

プリンター機能について

本機はフルカラープリント機能を標準装備しています。プリンタードライバーをインストールすることで、お使いのコンピュータからのプリントが可能になります。

お使いの環境で使用できるプリンタードライバーを下表でご確認ください。

Windows環境

プリンタードライバーの種類

SPDL2-c

シャープの提供するページ記述言語SPDLに対応したプリンタードライバーです。高速で高機能なプリント処理をします。

PS

- シャープの提供するページ記述言語SPDLに対応したプリンタードライバーで本機をPostScript3互換プリンターとして使用することができます。
- Windows OS標準のPSプリンタードライバーを使用したい場合は、PPDドライバーを使用します。



- Windows環境でのプリンタードライバーのインストール方法やプリンタードライバーの設定方法については、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- プリント方法の説明には、主にSPDL2-cプリンタードライバーの画面を使用しています。お使いのプリンタードライバーによっては画面の内容が一部異なる場合があります。

macOS環境

プリンタードライバーの種類

PS

シャープの提供するページ記述言語SPDLに対応したプリンタードライバーで本機をPostScript3互換プリンターとして使用することができます。



- macOS環境でのインストール方法やプリンタードライバーの設定方法については、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- macOS環境での画面の説明や操作手順は、macOS 14でPPDドライバーをインストールした状態で説明しています。OSのバージョンやアプリケーションソフトにより表示される画面が異なる場合があります。



注意通告ページがプリントされたときは…

指定したとおりのプリントが行えない場合で、その原因が操作パネルに表示されないときは、指定されたとおりにプリントが行えない原因を記載した注意通告ページがプリントされます。プリントされた内容をよく読んで対処してください。たとえば、次のような場合に注意通告ページがプリントされます。

- プリントデータが多くてメモリーに入りきらないとき
- 管理者によって禁止されている機能が指示されているとき



Windows環境からプリントする

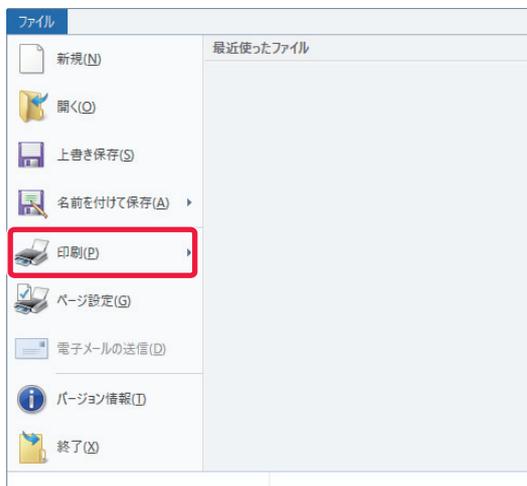
基本的なプリントのしかた

Windowsに標準で付属しているアプリケーションソフト「ワードパッド」からプリントする場合を例に説明します。



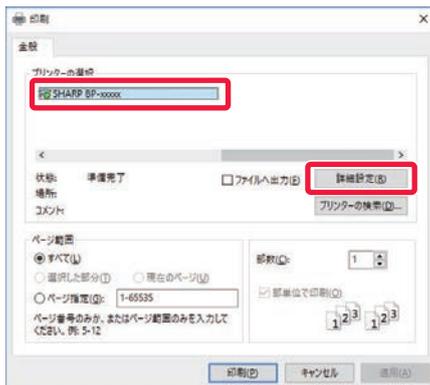
- プリントを実行するメニューは、[プリント] などお使いのアプリケーションソフトによって異なります。
- プリンタードライバの設定画面を開くためのボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションソフトによって異なります。
- [プリンタ] メニューには本機の名称を通常 [BP-xxxxx] と表示します。(“xxxxx” には、お使いの製品によって異なる文字列を表示します。)

1



ワードパッドの [ファイル] メニューから [印刷] を選択する

2

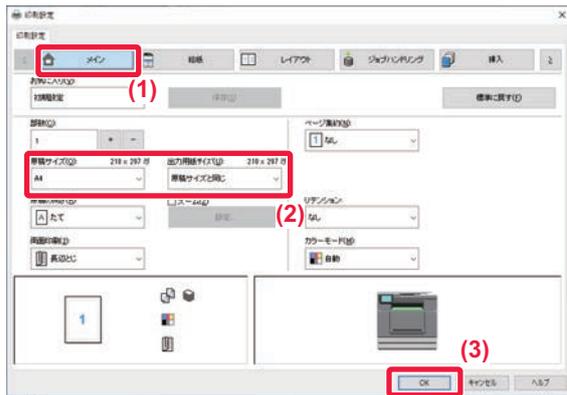


本機のプリンタードライバを選択して [詳細設定] ボタンをクリックする

プリンタードライバの設定画面を開くためのボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションソフトによって異なります。



3



プリント設定を行う

(1) [メイン] タブをクリックする

(2) 原稿サイズを選択する

原稿サイズ（印刷データの用紙サイズ）がメニューにない場合は、任意のサイズを7種類まで登録できます。原稿サイズは、メニューから [カスタム用紙] または [ユーザー 1] ~ [ユーザー 7] のいずれかを選択し、[OK] ボタンをクリックして登録します。その他の設定項目は各タブをクリックして切り替えて設定してください。

[プリンタードライバの設定画面について / ヘルプの参照 \(4-6ページ\)](#)

- 本機でサポートしている用紙サイズより大きい原稿を設定した場合、「出力用紙サイズ」で印刷する用紙サイズを選択します。
- 「出力用紙サイズ」で「原稿サイズ」と異なるサイズを選択すると、選択した用紙サイズに合わせて印刷されます。

(3) [OK] ボタンをクリックする

4

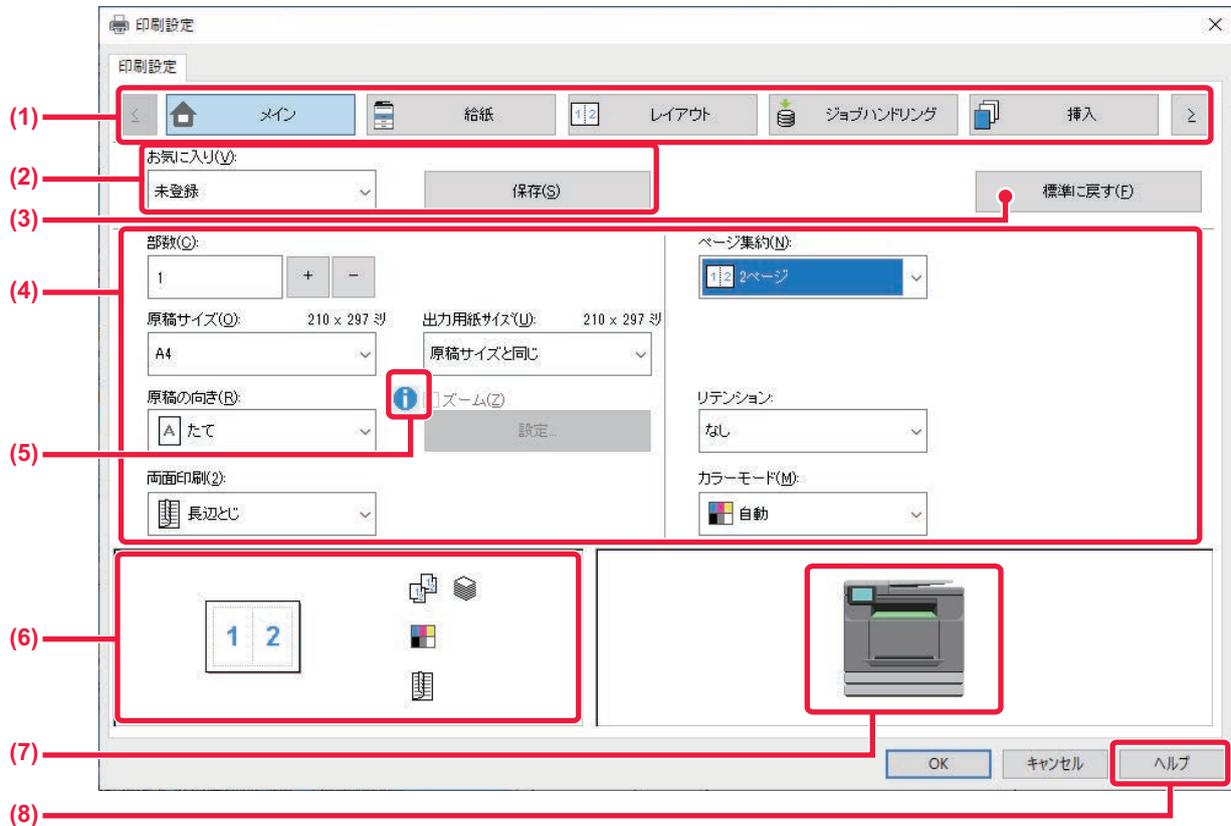
[印刷] ボタンをクリックする

プリントが実行されます。



プリンタードライバーの設定画面について / ヘルプの参照

プリンタードライバーの設定画面は、8種類のタブで構成され、それぞれのタブを切り替えて設定します。各設定項目については、ヘルプ画面で確認することができます。画面右下の [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。



(1) **タブ** : < > をクリックするとタブの表示が切り替わります。

- [メイン] : よく使う機能が集約されています。設定項目は他のタブにもあり連動しています。
- [給紙] : 印刷に使用する用紙サイズ/タイプ、給紙トレイを設定します。
- [レイアウト] : 両面印刷や製本などレイアウトに関する機能を設定します。
- [ジョブハンドリング] : リテンションとユーザー認証を設定します。
- [挿入] : 表紙や合紙などの挿入機能を設定します。
- [スタンプ] : ウォーターマークやスタンプ機能を設定します。
- [画質] : 画質に関するさまざまな機能を設定します。
- [詳細設定] : 印刷に関する詳細な設定が行えます。

(2) **お気に入り**

プリント時に各タブで設定した内容をお気に入りとして登録します。

[よく使うプリント設定を登録して使用する \(4-11ページ\)](#)

(3) **標準に戻す**

タブ単位で設定値を標準状態に戻します。

(4) **設定項目**

各タブの設定項目を表示します。

(5) **インフォメーションアイコン (i)**

プリンタードライバーの設定画面では、設定項目の組み合わせによっては使用できない機能があります。その場合、設定項目に (i) (インフォメーションアイコン) を表示します。このアイコンをクリックすると、制限事項の説明を表示します。

(6) **印刷イメージ**

設定した項目に応じて、その場合の印刷状態をイメージ表示します。また、仕上げやカラーモードをアイコンで表示します。



(7) 本体イメージ

周辺装置の装着状態と使用する給紙トレイを表示します。

(8) [ヘルプ] ボタン

プリンタードライバのヘルプ画面を表示します。



- 参照したい設定項目をクリックし、[F1] キーを押すと、その設定項目に対するヘルプを確認できます。
- サブウィンドウなどは、設定画面右上の  ボタンをクリックしたあと設定項目をクリックすると、その設定項目に対するヘルプを確認できます。

用紙の給紙方法

プリントする前に本機用の紙トレイに設定している用紙サイズ、用紙タイプ、用紙残量を確認します。[給紙] タブの [トレイ状況] ボタンをクリックすると、最新のトレイ情報を確認できます。

「出力用紙サイズ」の設定と「給紙トレイ」の設定の関係は次のとおりです。

- 「給紙トレイ」を **[自動給紙]** に設定したときは
「出力用紙サイズ」、「用紙タイプ」で指定した用紙をセットしたトレイを自動的に選択してプリントします。
- 「給紙トレイ」を **[自動給紙]** 以外に設定したときは
「出力用紙サイズ」の設定にかかわらず、指定したトレイにセットした用紙にプリントします。
「給紙トレイ」を [手差し] に設定したときは、「用紙タイプ」も選択してください。本機の手差しトレイに設定している用紙タイプを確認し、実際に手差しトレイにその用紙タイプをセットしているか確認したうえで、適切な用紙タイプを選択してください。
- 「用紙タイプ」を **[自動給紙]** に設定したときは
「出力用紙サイズ」で指定したサイズの普通紙または再生紙を設定しているトレイを自動的に選択してプリントします。(工場出荷時は普通紙1のみ)
- 「用紙タイプ」を **[自動給紙]** 以外に設定したときは
「出力用紙サイズ」で指定したサイズで、指定したタイプの用紙をセットしたトレイからプリントします。



給紙トレイや手差しトレイには、郵便はがきや封筒などの特殊紙がセットできます。

トレイ 1~2 に用紙をセットする方法については、「[トレイ1~2への用紙補給 \(1-12ページ\)](#)」を参照してください。

手差しトレイに用紙をセットする方法については、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)」を参照してください。



Webページの [システム設定] → [プリンター設定] → [基本設定] → [手差し給紙設定] → [手差し指定サイズ検知有効設定] (工場出荷時は無効) や [手差し指定タイプ検知有効設定] (工場出荷時は無効) が有効の場合は、プリンタードライバで指定した用紙サイズまたは用紙タイプと、手差しトレイに設定している用紙サイズまたは用紙タイプが異なっているとプリントしません。



郵便はがきや封筒にプリントする方法

郵便はがきや往復はがきにプリント

ここでは、手差しトレイを使用して、郵便はがきにプリントする場合を例に説明します。



- トレイにセットできる用紙は、「[使用できる用紙の種類 \(1-9ページ\)](#)」を参照してください。
- 手差しトレイへの用紙のセット方法は、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)」を参照してください。
- 給紙方法の詳細は、「[用紙の給紙方法 \(4-7ページ\)](#)」を参照してください。
- 郵便はがきを使う前に、試しにプリントして仕上がりを確認することをお勧めします。

アプリケーションソフトの「ページ設定」などで、データを郵便はがきサイズに設定してから操作します。



(1) [給紙] タブをクリックする

(2) 「出力用紙サイズ」から、[はがき] または [往復はがき] を選択する

「出力用紙サイズ」を [はがき] に設定すると、「用紙タイプ」も自動的に [はがき] に設定されます。
[メイン] タブの「原稿サイズ」で [はがき] また [往復はがき] を選択した場合は、「出力用紙サイズ」で [原稿サイズと同じ] を選択すると、「用紙タイプ」が自動的に [はがき] に設定されます。

(3) 「給紙トレイ」から [手差しトレイ] を選択する



郵便はがきをセットしたトレイの用紙タイプを [厚紙2] に設定にしてください。

用紙タイプについて

はがきを使用する場合、トレイによってWebページにある「システム設定」の「はがき印刷時の用紙タイプ設定」から用紙タイプを変更する必要があります。詳細は「[はがき印刷時の用紙タイプ設定 \(8-61ページ\)](#)」を参照してください。また、ホーム画面にある「給紙トレイ設定」で「用紙タイプ」を次のように設定してください。

- **トレイ 1 から給紙する場合**
[厚紙1]に設定してください。
- **手差しトレイまたはトレイ2から給紙する場合**
[厚紙2]に設定してください。



封筒にプリント

手差しトレイまたはトレイを使用して、封筒にプリントします。



- トレイにセットできる用紙は、「[使用できる用紙の種類 \(1-9ページ\)](#)」を参照してください。
- トレイにセットできる用紙は、「[使用できる用紙の種類 \(1-9ページ\)](#)」を参照してください。
- 手差しトレイへの用紙のセット方法は、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)」を参照してください。
- トレイへの用紙のセット方法は、「[トレイに郵便はがき/往復はがき/封筒をセットする場合 \(1-14ページ\)](#)」を参照してください。
- 給紙方法の詳細は、「[用紙の給紙方法 \(4-7ページ\)](#)」を参照してください。
- 封筒の種類や状態、印刷する環境によっては、印刷後にしわが発生する場合があります。大量に印刷する前に、試しにプリントすることをお勧めします。
- 封筒など一定の向きでしか本機にセットできない用紙の場合は、画像の向きを180度回転してプリントできます。詳しくは、「[データを180度回転してプリント \(180度回転\) \(4-37ページ\)](#)」を参照してください。

(1) [給紙] タブをクリックする

(2) 「出力用紙サイズ」から封筒のサイズ（長形3号など）を選択する

「出力用紙サイズ」を封筒に設定すると、「用紙タイプ」も自動的に [封筒] に設定されます。

[メイン] タブの「原稿サイズ」で封筒を選択した場合は、「出力用紙サイズ」で [原稿サイズと同じ] を選択すると、「用紙タイプ」が自動的に [封筒] に設定されます。

(3) 「給紙トレイ」から [手差しトレイ]、[トレイ1]、[トレイ2] を選択する



ユーザー認証機能が設定されている場合のプリント方法

本機を使用するために必要なユーザー情報（ログイン名やパスワードなど）は、設定している認証方式によって異なりますので、あらかじめ本機の管理者にご確認ください。



- 「オプション」タブの「印刷機能の制限」で常にユーザー認証を行うように設定した場合は、印刷ジョブごとにユーザー認証が必要です。印刷のたびに表示されるダイアログボックスで入力します。
- PPDドライバー※をインストールしてWindows標準のPSプリンタードライバーを使うときは、本機のユーザー認証機能は利用できません。
そのため、本機の設定で、本機にユーザー情報を登録していないユーザーのプリントを禁止している場合は、プリントできません。

※ Windows 標準の PS プリンタードライバーを使用して本機でプリントできるようにするためのものです。

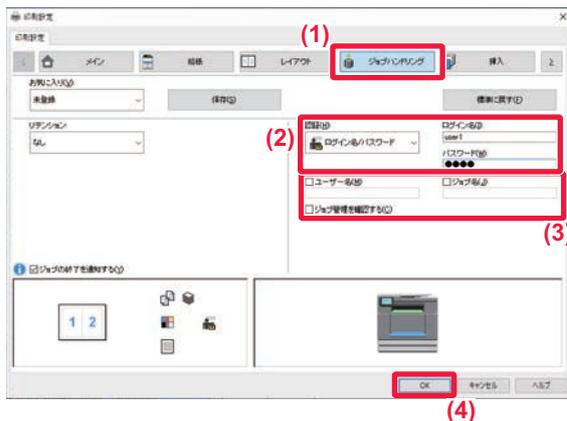
1

アプリケーションソフトのプリンタードライバーの設定画面で、本機のプリンタードライバーを選択し、[詳細設定] ボタンをクリックする



プリンタードライバーの設定画面を開くためのボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションソフトによって異なります。

2



ユーザー情報を入力する

(1) [ジョブハンドリング] タブをクリックする

(2) ユーザー情報を入力する

- ログイン名方式で認証している場合、[ログイン名] を選択し、ログイン名を入力します。
- ログイン名/パスワード方式で認証している場合、[ログイン名/パスワード] を選択し、ログイン名とパスワードを入力します。パスワードは半角1~32文字（英数文字）で入力します。
- ユーザー番号方式で認証している場合、[ユーザー番号] を選択し、ユーザー番号を半角5~8桁で入力します。

(3) 必要に応じてユーザー名、ジョブ名を入力する

- [ユーザー名] チェックボックスをクリックして、ユーザー名を全角16文字（半角32文字）以内で入力します。入力したユーザー名は、本機のタッチパネル上で表示します。入力しない場合、本機にはコンピュータのログイン名を表示します。
- [ジョブ名] チェックボックスをクリックして、ジョブ名を全角15文字（半角30文字）以内で入力します。入力したジョブ名は本機のタッチパネル上でファイル名として表示します。入力しない場合、アプリケーションソフトで設定したファイル名を表示します。
- [ジョブ管理を確認する] チェックボックスをクリックすると、プリント開始前に確認画面を表示します。

(4) [OK] ボタンをクリックして印刷を実行する



よく使うプリント設定を登録して使用する

プリント時に設定した内容を登録

プリント時に各タブで設定した内容はお気に入りとして登録します。よく使用する設定や複雑なカラー設定を行った場合などに名前を付けて登録しておくことで、次に同じ設定でプリントしたいときに操作が簡単です。プリンタードライバ設定画面のどのタブからも登録操作ができます。各タブで設定した内容を登録時に一覧表示するので、設定内容を確認しながら登録します。



登録した設定を削除するときは

「登録した設定を使用してプリント (4-12ページ)」の手順2で、削除するお気に入りを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

1

アプリケーションソフトのプリント画面で本機のプリンタードライバを選択して [詳細設定] ボタンをクリックする



プリンタードライバの設定画面を開くボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションによって異なります。

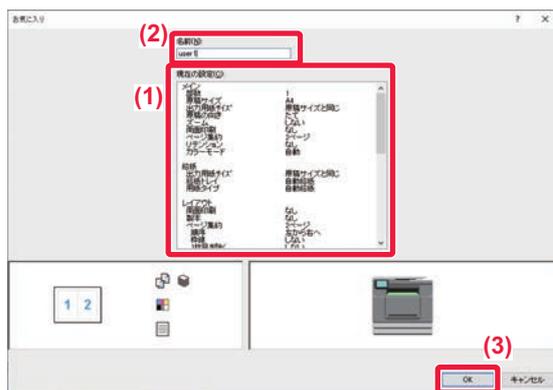
2



プリント設定を登録する

- (1) 各タブでプリント設定を行う
- (2) [保存] ボタンをクリックする

3



設定内容を確認して登録する

- (1) 表示された設定内容を確認する
- (2) 登録名を10文字 (半角20文字) 以内で入力する
- (3) [OK] ボタンをクリックする



登録した設定を使用してプリント

登録したお気に入りを指定して、よく使用する設定や複雑なカラー設定などをワンクリックでプリント設定に反映します。

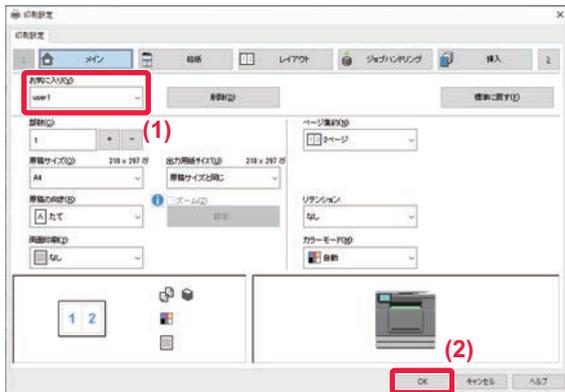
1

アプリケーションソフトのプリント画面で本機のプリンタードライバーを選択して [詳細設定] ボタンをクリックする



プリンタードライバーの設定画面を開くためのボタンは、[プロパティ] や [印刷設定] など、お使いのアプリケーションソフトによって異なります。

2



お気に入りを選択する

- (1) 使用するお気に入りを選択する
- (2) [OK] ボタンをクリックする

3

プリントを実行する



プリンタードライバーの初期設定値を変更

プリンタードライバーの初期設定値を変更します。

アプリケーションソフトからのプリント時に、プリンタードライバーの設定画面で変更した設定内容は、アプリケーションソフトを終了すると、ここで設定した初期設定値に戻ります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] → [デバイス] → [プリンターとスキャナー] をクリックする



Windows 11をお使いの場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] → [Bluetoothとデバイス] → [プリンターとスキャナ] をクリックします。

- 2



本機のプリンター名をクリックし、[管理] をクリックする

- 3

「印刷設定」をクリックする。

- 4

各項目を設定して [OK] ボタンをクリックする

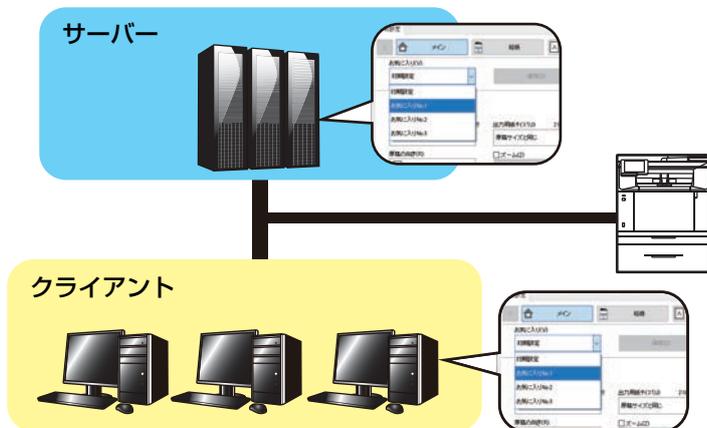
設定項目については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。



お気に入り設定をサーバー / クライアント間で共有する

共有プリンターとして本機を使用している場合、共有元のプリンタードライバーで「お気に入り」を設定しているときは、その設定を共有先のコンピューターでも使用することができます。

「お気に入り印刷設定共有」を有効にすると ...



サーバー側で設定したお気に入りの設定を共有先のコンピューターで使用できる。

共有元のプリンタードライバーで以下の設定を行います。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] → [デバイス] → [プリンターとスキャナー] をクリックする

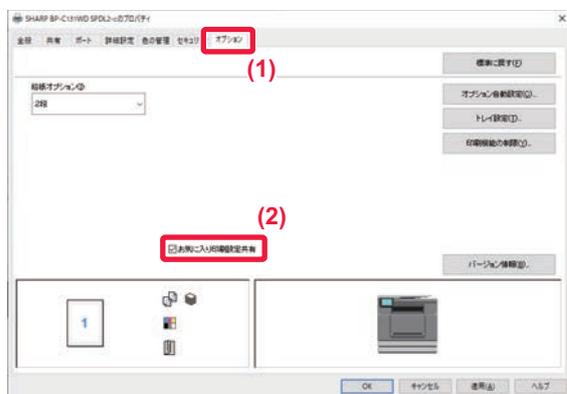


Windows 11をお使いの場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] → [Bluetoothとデバイス] → [プリンターとスキャナ] をクリックします。

- 2 本機のプリンターアイコンをクリックし、[管理] を選択する

- 3 [プリンターのプロパティ] をクリックする。

4



共有設定を行う

- (1) [オプション] タブをクリックする
- (2) [お気に入り印刷設定共有] にチェックを入れる



macOS環境からプリントする

基本的なプリントのしかた

macOSに標準で付属しているアプリケーションソフト「テキストエディット」からプリントする場合を例に説明します。



- PPDファイルのインストール方法やプリンタードライバーの設定方法については、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- macOS環境での画面の説明や操作手順は、macOS 14でPPDドライバーをインストールした状態で説明しています。OSのバージョンやアプリケーションソフトにより表示される画面が異なることがあります。
- プリントを実行するメニューは、[印刷] などお使いのアプリケーションソフトによって異なります。

1



[ファイル] メニューから [ページ設定] を選択して使用するプリンターを選択する

プリンタードライバー名が一覧表示されているときは、使用するプリンタードライバー名を一覧から選択します。

2



用紙設定を行う

(1) 使用するプリンターが選択されているか確認する

(2) 用紙設定を行う

用紙サイズ、用紙の向き、拡大縮小を設定できます。

(3) [OK] ボタンをクリックする

3



[ファイル] メニューから [プリント] を選択する



4



プリント設定を行う

- (1) 使用するプリンターが選択されているか確認する
- (2) メニューから項目を選択して必要な設定を行う
- (3) [プリント] ボタンをクリックする



macOS 12以前では設定画面のレイアウトが異なります。

用紙の給紙方法

プリント設定画面の「給紙」設定について説明します。

- **[自動選択] を選択したときは**
ページ設定画面の「用紙サイズ」で指定したサイズの普通紙、または再生紙を設定しているトレイ（工場出荷時は普通紙1のみ）を自動的に選択してプリントします。
- **用紙トレイを指定したときは**
ページ設定画面の「用紙サイズ」設定にかかわらず、指定したトレイにセットした用紙にプリントします。
手差しトレイは、用紙タイプも指定してください。本機の手差しトレイに設定している用紙タイプを確認し、実際に手差しトレイにその用紙タイプをセットしているか確認したうえで、適切な手差しトレイ（用紙タイプ）を選択してください。
- **用紙タイプを指定したときは**
ページ設定画面の「用紙サイズ」で指定したサイズで、指定したタイプの用紙をセットしたトレイからプリントします。



手差しトレイには、郵便はがきや封筒などの特殊紙もセットできます。
手差しトレイに用紙をセットする方法については、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)」を参照してください。



Webページの [システム設定] → [プリンター設定] → [基本設定] → [手差し指定サイズ検知有効設定]（工場出荷時は無効）や [手差し指定タイプ検知有効設定]（工場出荷時は無効）が有効の場合は、プリンタードライバーで指定した用紙サイズまたは用紙タイプと、手差しトレイに設定している用紙サイズまたは用紙タイプが異なっているとプリントしません。



郵便はがきや封筒にプリントする方法

郵便はがきや往復はがきにプリント

ここでは、手差しトレイを使用して、郵便はがきにプリントする場合を例に説明します。
アプリケーションソフトの「ページ設定」などで、データを郵便はがきサイズに設定してから操作します。



- トレイにセットできる用紙は、「[使用できる用紙の種類 \(1-9ページ\)](#)」を参照してください。
- 手差しトレイへの用紙のセット方法は、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)」を参照してください。
- 給紙方法の詳細は、「[用紙の給紙方法 \(4-16ページ\)](#)」を参照してください。
- 郵便はがきを使う前に、試しにプリントして仕上がりを確認することをお勧めします。

1



プリント設定画面を開く

- (1) 「用紙サイズ」から【はがき】または【往復はがき】を選択する
- (2) プリンタオプションから【プリンタの機能】を選択し、【給紙】を選択する
macOS12以前の場合、【プリンタの機能】を選択し、【給紙】を選択してください。
- (3) 「給紙トレイ」から【手差し】を選択する
- (4) 「用紙タイプ」から【はがき】を選択する



Webページの [システム設定] → [プリンター設定] → [基本設定] → 「手差し指定タイプ検知有効設定」(工場出荷時は無効) が有効に設定されている場合は、郵便はがきをセットしたトレイの用紙タイプを [厚紙2] に設定してください。

用紙タイプについて

はがきを使用する場合、トレイによってWebページにある「システム設定」の「はがき印刷時の用紙タイプ設定」から用紙タイプを変更する必要があります。詳細は「[はがき印刷時の用紙タイプ設定 \(8-61ページ\)](#)」を参照してください。また、ホーム画面にある「給紙トレイ設定」で「用紙タイプ」を次のように設定してください。

- **トレイ 1 から給紙する場合**
[厚紙 1] に設定してください。
- **手差しトレイまたはトレイ 2 から給紙する場合**
[厚紙 2] に設定してください。



封筒にプリント

手差しトレイまたはトレイを使用して、封筒にプリントします。
アプリケーションソフトの「ページ設定」などで、データを封筒サイズに設定してから操作します。



- トレイにセットできる用紙は、「[使用できる用紙の種類 \(1-9ページ\)](#)」を参照してください。
- 手差しトレイへの用紙のセット方法は、「[手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)」を参照してください。
- トレイへの用紙のセット方法は、「[トレイに郵便はがき/往復はがき/封筒をセットする場合 \(1-14ページ\)](#)」を参照してください。
- 給紙方法の詳細は、「[用紙の給紙方法 \(4-16ページ\)](#)」を参照してください。
- 封筒など一定の向きでしか本機にセットできない用紙の場合は、画像の向きを180度回転してプリントできます。詳しくは、「[データを180度回転してプリント \(180度回転\) \(4-37ページ\)](#)」を参照してください。
- 封筒の種類や状態、印刷する環境によっては、印刷後にしわが発生する場合があります。大量に印刷する前に、試しにプリントすることをお勧めします。

1



プリント設定画面を開く

- (1) 「用紙サイズ」から封筒のサイズ（長形3号など）を選択する
- (2) プリンタオプションから【プリンタの機能】を選択し、【給紙】を選択する
macOS12以前の場合、【プリンタの機能】を選択し、【給紙】を選択してください。
- (3) 「給紙トレイ」から【自動給紙】を選択する



Webページの「手差し指定タイプ検知有効設定」（工場出荷時は無効）が有効に設定されている場合は、手差しトレイの用紙タイプを「封筒」に設定してください。



ユーザー認証機能が設定されている場合のプリント方法

本機を使用するために必要なユーザー情報（ログイン名やパスワードなど）は、設定している認証方式によって異なりますので、あらかじめ本機の管理者にご確認ください。



プリントを実行するメニューは、[印刷] などお使いのアプリケーションソフトによって異なります。

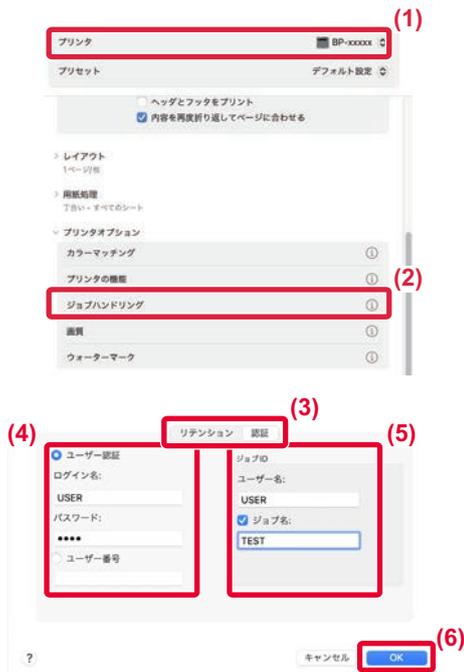
1



アプリケーションソフトの [ファイル] メニューから [プリント] を選択する



2



ユーザー情報を入力する

(1) 本機のプリンター名が選択されているか確認する

(2) プリンタオプションから [ジョブハンドリング] を選択する

macOS 12以前の場合、[ジョブハンドリング] を選択してください。

(3) [認証] タブをクリックする

(4) ユーザー情報を入力する

- ログイン名/パスワード方式で認証している場合は、「ログイン名」にログイン名を入力し、「パスワード」にパスワードを半角1~32文字（英数文字）で入力します。
- ユーザー番号方式で認証している場合は、「ユーザー番号」にユーザー番号を半角5~8桁で入力します。

(5) 必要に応じてユーザー名、ジョブ名を入力する

- ユーザー名
ユーザー名を全角16文字（半角32文字）以内で入力します。入力したユーザー名は本機のタッチパネル上で表示されます。入力しない場合、本機にはコンピュータのログイン名が表示されます。
- ジョブ名
ジョブ名を全角15文字（半角30文字）以内で入力します。入力したジョブ名は本機のタッチパネル上でファイル名として表示されます。入力しない場合、アプリケーションソフトで設定したファイル名が表示されます。

(6) [OK] ボタンをクリックする



よく使うプリント機能について

カラーモードを選択してプリント

「カラーモード」(プリントするカラー)は、次の3つの項目から選択します。

自動	ページごとに色を判断してプリントします。白黒以外の色が使われているページはY (イエロー)・M (マゼンタ)・C (シアン)・Bk (ブラック) トナーを使用し、白黒のみが使われているページはBk (ブラック) トナーのみを使用してプリントします。カラーと白黒が混じっている原稿をプリントするときに便利ですが、プリント速度は遅くなります。
カラー	すべてのページをカラーでプリントします。カラーのデータ、白黒のデータのいずれもY (イエロー)・M (マゼンタ)・C (シアン)・Bk (ブラック) トナーを使用してプリントします。
グレースケール	すべてのページを白黒でプリントします。画像やプレゼンテーション資料など、カラーのデータもBk (ブラック) トナーのみを使用してプリントします。レイアウトの確認や文字校正など、カラープリントする必要のない場合に使用するとカラートナーの節約につながります。



「カラーモード」で【自動】を選択した場合

プリント結果が白黒であっても、下記のようなプリントデータはY (イエロー)・M (マゼンタ)・C (シアン)・Bk (ブラック) の4色のカラーとしてカウントします。

常に白黒としてカウントしたいときは、[グレースケール] を選択してください。

- データがカラーデータとして作成されているとき
- データが白黒であっても、アプリケーションソフトがカラーデータとして扱うとき
- 白黒画像の下に画像が隠れているとき

Windows



(1) [メイン] タブをクリックする

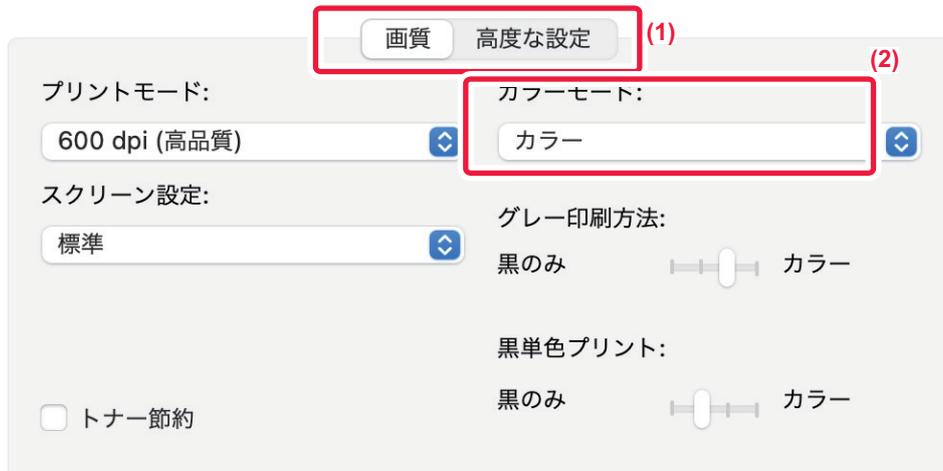
(2) 「カラーモード」を選択する



[メイン] タブで設定する [カラーモード] は、[画質] タブでも設定できます。



macOS



(1) プリンタオプションから【画質】を選択する

macOS 12以前の場合、【画質】を選択します。

(2) 「カラーモード」を選択する



画質を選択してプリント

「プリントモード」(画質)は、次の2つの項目から選択します。

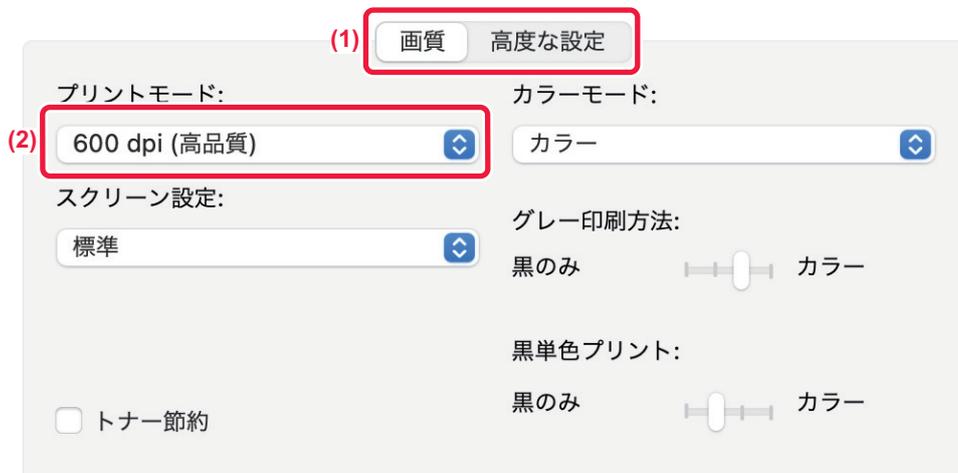
600 dpi	文章や表などのプリントに適しています。
600 dpi (高品質)	カラー写真や文字をきれいにプリントします。

Windows



- (1) [画質] タブをクリックする
- (2) 「プリントモード」を選択する

macOS



- (1) プリンタオプションから [画質] を選択する
macOS 12以前の場合、[画質] を選択します。
- (2) 「プリントモード」を選択する



用紙の両面にプリント

本機はデータを用紙の両面にプリントします。かんたんな冊子を作成したいときなどさまざまな用途に使用します。また、両面プリントは用紙の節約にもなります。

用紙の向き	プリント結果	
たて	長辺とじ	短辺とじ
よこ	短辺とじ	長辺とじ
	用紙の左側または右側でとじることができるようにプリントします。	用紙の上側でとじることができるようにプリントします。

Windows



- (1) [メイン] タブをクリックする
- (2) 原稿の向きを選択する
- (3) [長辺とじ] または [短辺とじ] を選択する



必要に応じて、両面プリントの実現方法を選択できます。[詳細設定] タブの [その他の設定] ボタンをクリックし、「両面形式」から選択してください。



macOS



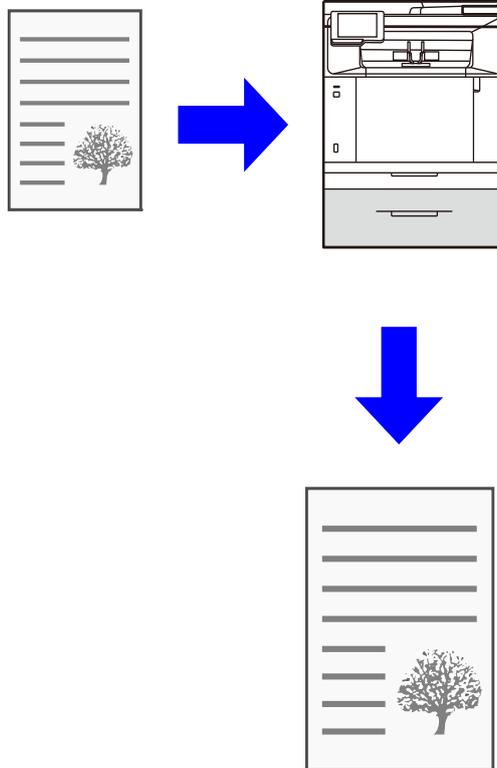
(1) [両面] から長辺とじは、[オン]、短辺とじは[オン(短辺)]を選択する

macOS 12以前の場合は、[レイアウト] を選択し、[長辺とじ] または [短辺とじ] を選択します。



用紙のサイズに合わせてプリント

本機にセットしている用紙サイズに合わせて、データを自動で拡大または縮小してプリントします。
A5サイズのデータをA4サイズに拡大して見やすくプリントしたり、データと同じサイズの用紙をセットしていない場合にプリントしたりするときなどに便利です。



A5サイズのデータを、A4サイズの用紙に合わせてプリントする場合を例に説明します。

Windows



- (1) [メイン] タブをクリックする
- (2) [原稿サイズ] から原稿サイズ (例：A5) を選択する
- (3) 「出力用紙サイズ」から実際にプリントする用紙のサイズ (例：A4) を選択する
出力用紙サイズが原稿サイズより大きい場合、自動的に拡大して印刷します。



「原稿サイズ」でA0、A1、A2、B1、B2、B3、A3、B4、レジャー、8Kサイズを選択すると、「出力用紙サイズ」でA4が自動的に選択されます。



macOS

The image shows a macOS printer settings window. The following elements are highlighted with red boxes and numbered:

- (1) The '用紙サイズ' (Paper Size) dropdown menu, currently set to 'A5 148 x 210 mm'.
- (2) The '用紙処理' (Paper Handling) section header.
- (3) The '用紙サイズに合わせる' (Match Paper Size) toggle switch, which is currently turned off.
- (4) The '出力用紙サイズ' (Output Paper Size) dropdown menu, currently set to 'A4 210 x 297 mm'.

Other visible settings include: '両面' (Duplex) set to 'オフ' (Off); '向き' (Orientation) set to '縦' (Portrait); '丁合い' (Gutter) toggle is off; 'プリントするシート' (Print Pages) set to 'すべてのシート' (All Pages); 'シートの順序' (Page Order) set to '自動' (Automatic); and '縮小のみ' (Shrink Only) toggle is off.

- (1) プリントデータの用紙サイズ（例：A5）を確認する
- (2) 「用紙処理」を選択する
- (3) 「用紙サイズに合わせる」を選択する
- (4) 「出力用紙サイズ」から実際にプリントする用紙のサイズ（例：A4）を選択する

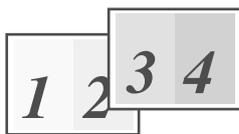
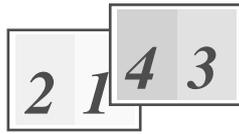
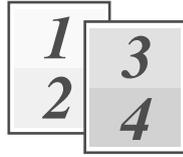


1ページに複数ページのデータをプリント

プリントする画像を縮小して1ページ上に複数ページを割り付けてプリントします。最初のページだけ通常プリントし、2ページ目から複数ページを割り付けてプリントすることもできます。

たとえば、[2ページ] (2ページ/枚) または [4ページ] (4ページ/枚) を選択した場合、選択した順序によって次に示すようなプリント結果になります。

写真など複数の画像データを1枚の用紙にプリントしたいときや、用紙を節約したいときに便利です。両面プリント機能と併用すると、さらに用紙を節約します。

2ページ (2ページ/枚)			
左から右へ 	右から左へ 	上から下へ (印刷の向きが横の場合) 	
4ページ (4ページ/枚)			
左上から右方向へ 	左上から下方向へ 	右上から左方向へ 	右上から下方向へ 



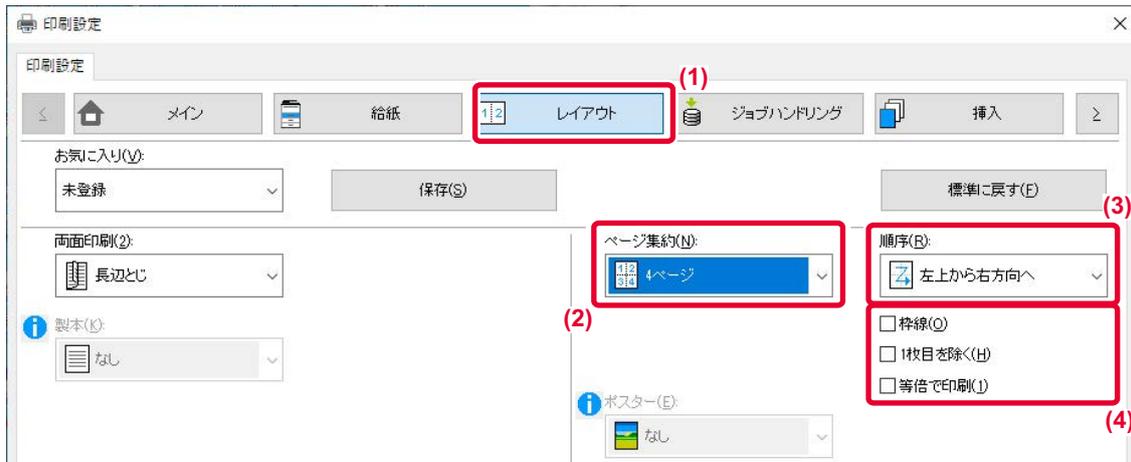
- [レイアウト] タブで設定する [ページ集約] は、[メイン] タブでも設定できます。(「順序」は [レイアウト] タブでのみ設定できます。)
- 割り付けるときは以下の点に注意してください。
 - 6ページ、8ページ、9ページ、16ページのプリント順序は4ページと同様です。
 - Windows 環境でお使いの場合、割り付け順序はプリンタードライバー設定画面のプリントイメージで確認してください。
 - macOS環境でお使いの場合は、割り付け順序を選択項目として表示します。
 - macOS環境でお使いの場合、1ページに割り付け可能なページ数は、2、4、6、9、16ページです。8ページの割り付けは対応していません。



最初のページだけ通常印刷する機能は、SPDL2-cプリンタードライバーでのみ使用できます。



Windows



- (1) [レイアウト] タブをクリックする
- (2) 1ページに割り付けるページ数を選択する
- (3) 割り付ける順序を選択する
- (4) ページの境界線をプリントするときは、[枠線] チェックボックスをクリックして にする
 - 最初のページだけ通常プリントしたい場合、[1枚目を除く] チェックボックスをクリックして にします。(SPDL2-cのみ)
 - A5サイズの原稿をA4用紙に2ページ集約するときなどに [等倍で印刷] を にすると、原稿サイズを等倍で印刷します。この場合、[枠線] を にすると、境界線のみ印刷されます。

macOS

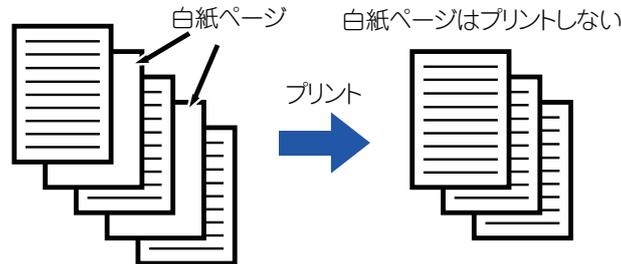


- (1) [レイアウト] を選択する
- (2) 1ページに割り付けるページ数を選択する
- (3) 割り付ける順序を選択する
- (4) ページの境界線をプリントするときは、境界線の種類を選択する



白紙ページを飛ばしてプリント

読み込んだ原稿の中に白紙のページがある場合、白紙ページを飛ばして、白紙以外の原稿をプリントします。本機が白紙のページを判断するため、原稿内の白紙の有無を確認しなくても無駄なプリントを省きます。

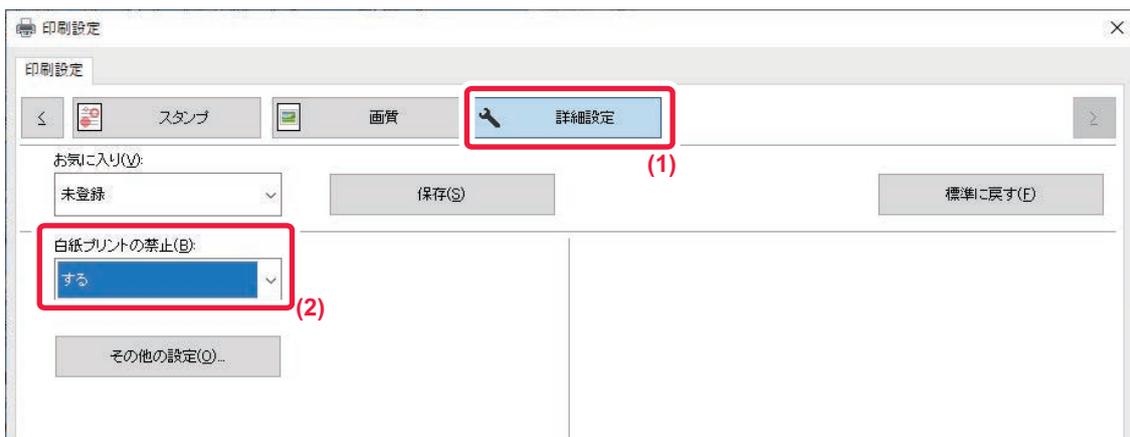


この機能はWindows環境で使用できます。



- 原稿によっては、意図しないページが白紙と判断されプリントされなかったり、逆に白紙として判断されずにプリントされることがあります。
- ページ集約印刷時は、白紙ページは除去されずにそのままプリントされます。

Windows



(1) [詳細設定] タブをクリックする

(2) 「白紙プリントの禁止」 から [する] を選択する

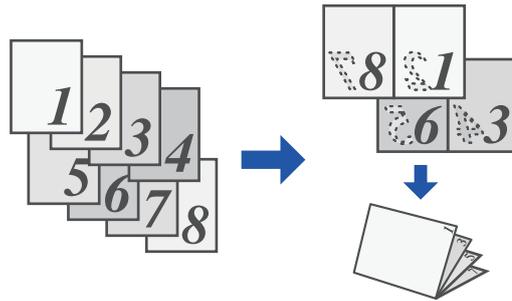


便利なプリント機能について

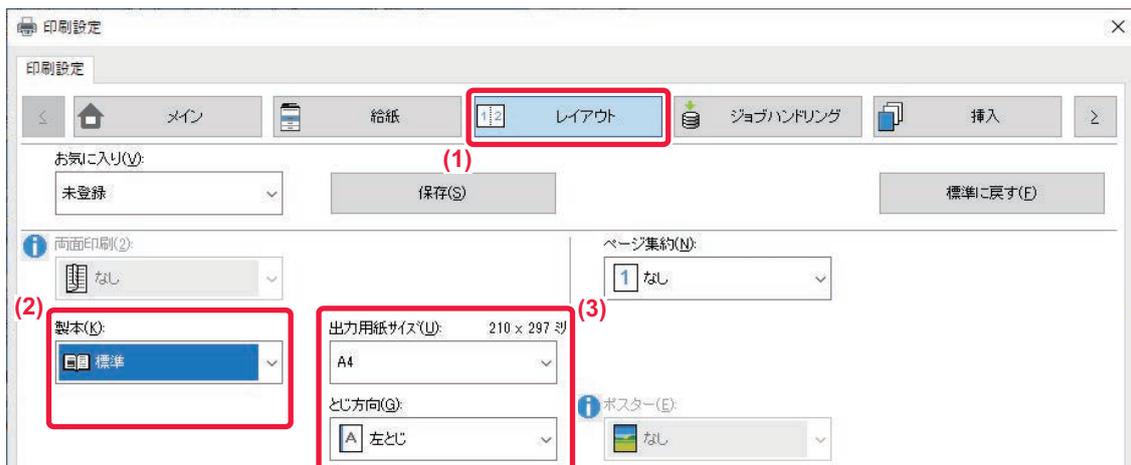
冊子やポスターの作成に役立つ仕上げ機能

中とじの冊子を作る（製本）

二つ折りにすると、中とじの冊子になるように用紙の表裏にプリントします。



Windows



(1) [レイアウト] タブをクリックする

(2) 「製本」から「標準」を選択する

「標準」を選択した場合は、「出力用紙サイズ」で選択した用紙に合わせて拡大・縮小して製本します。

(3) 出力用紙サイズととじ方向を選択する



macOS

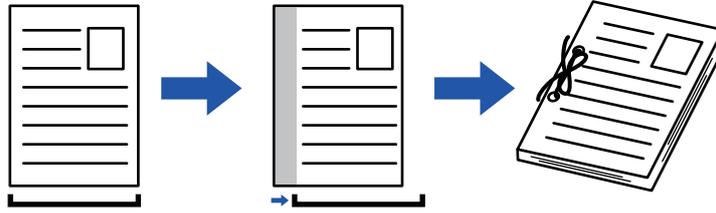


- (1) プリンタオプションから【プリンタの機能】を選択し、【排紙方法】を選択する
macOS 12以前の場合は、【プリンタの機能】を選択し、【排紙方法】を選択してください。
- (2) 「とじ位置」を選択する
- (3) 「製本」を選択する



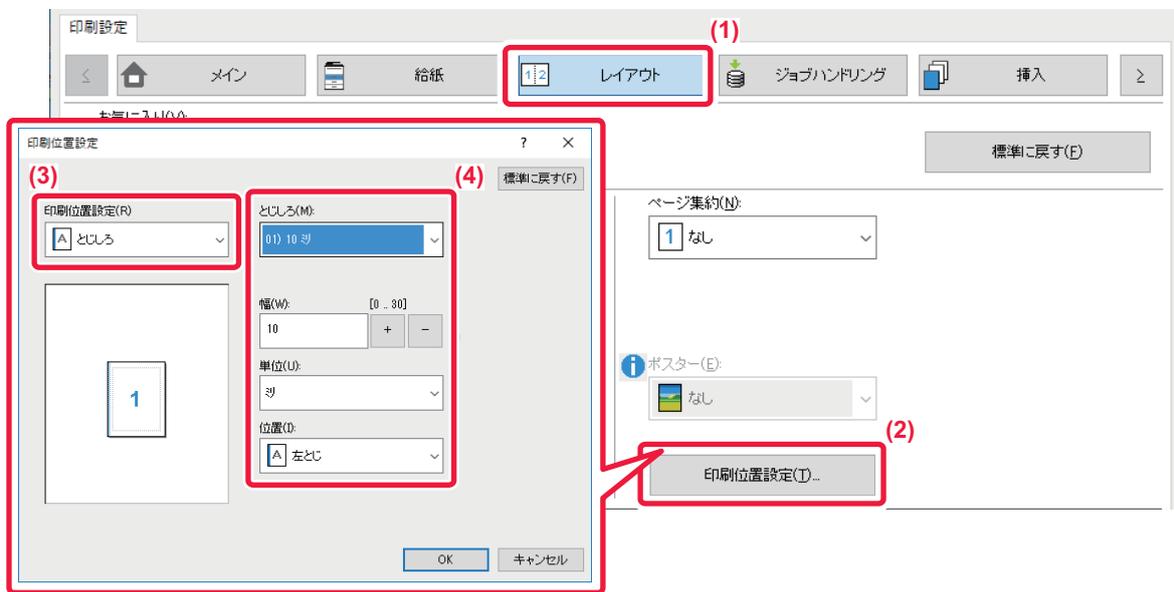
とじしろを作ってプリント（とじしろ）

プリントデータを移動して、用紙の左/右/上のいずれかにとじしろを作ります。



画像をずらすことによって印刷領域からはみ出た部分の画像は、印刷されません。

Windows



- (1) [レイアウト] タブをクリックする
- (2) [印刷位置設定] ボタンをクリックする
- (3) [とじしろ] を選択する
- (4) シフト幅を選択する

「とじしろ」メニューから選択します。その他の数値を設定したい場合は、いずれかを選択したあと ボタンをクリックするか、直接入力することもできます。



macOS

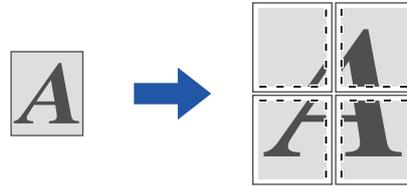


- (1) プリンタオプションから【プリンタの機能】を選択し、【排紙方法】を選択する
macOS 12以前の場合は、【プリンタの機能】を選択し、【排紙方法】を選択してください。
- (2) 「とじ位置」を選択する
- (3) 「とじしろ」を選択する



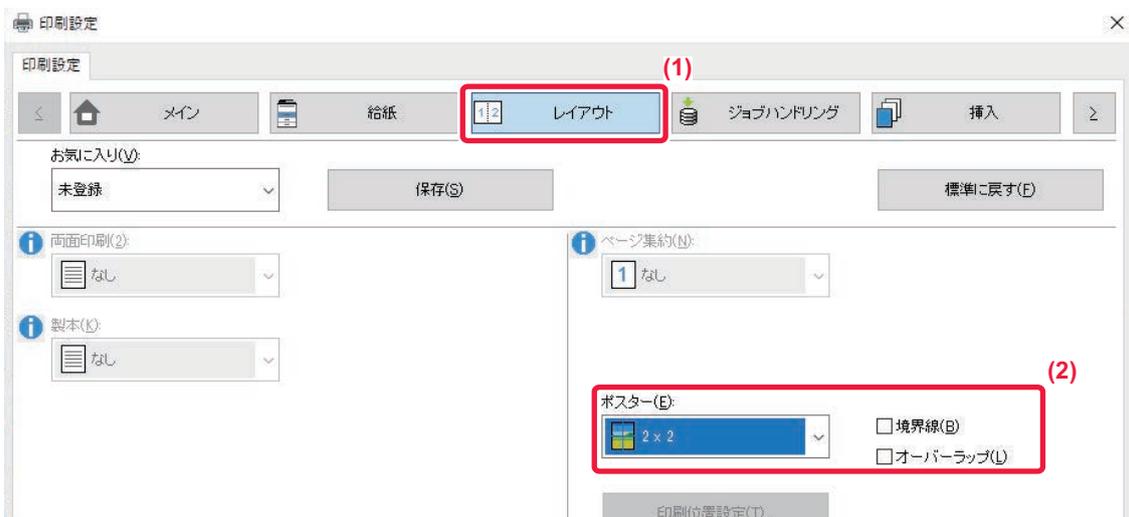
大判のポスターを作る（ポスター印刷）

1ページのプリントデータを拡大して、複数枚の用紙（2枚（1x2）、4枚（2x2）、9枚（3x3）、16枚（4x4）のいずれか）に分割してプリントします。プリント後、用紙を貼り合わせることによって、1枚の大判ポスターに仕上がります。各用紙を貼り合わせる時に連結部分を隙間なくきれいに貼り合わせることができるよう、境界線をプリントしたり、各用紙と重なり合う部分を作成して（オーバーラップ機能）プリントしたりします。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows



(1) [レイアウト] タブをクリックする

(2) 「ポスター」から分割の枚数を選択する

境界線をプリントしたり、オーバーラップ機能を有効にしてプリントするときは、それぞれのチェックボックスをクリックして にします。



データのサイズや向きなどを補正する機能

奇数・偶数ページ別に印刷位置を調整してプリント（印刷位置設定）

奇数ページと偶数ページで別々に印刷位置（マージン）を設定してプリントします。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows

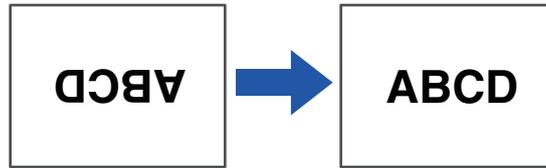


- (1) [レイアウト] タブをクリックする
- (2) [印刷位置設定] ボタンをクリックする
- (3) [カスタム] を選択する
- (4) 奇数ページと偶数ページの印刷位置の移動量をそれぞれ設定する
- (5) [OK] ボタンをクリックする



データを180度回転してプリント（180度回転）

一定の向きでしか本機にセットできない用紙（封筒、パンチ用紙など）に対し、正しくプリントできるように画像の向きを180度回転します。



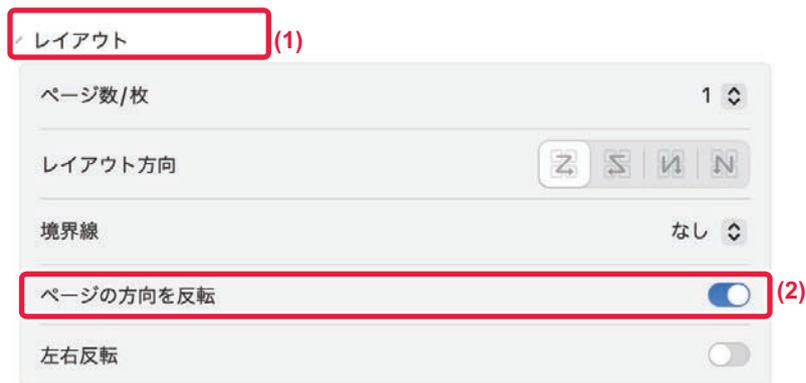
Windows



(1) [メイン] タブをクリックする

(2) 「原稿の向き」から「たて（180度回転）」または「よこ（180度回転）」を選択する

macOS



(1) [レイアウト] を選択する

(2) [ページを反転] を有効にする

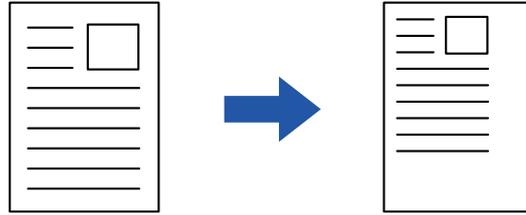
macOS 12以前の場合は、[ページを反転] チェックボックスをクリックして にします。



データを拡大／縮小してプリント（ズーム／拡大縮小）

画像を数値（％）で拡大または縮小してプリントします。

画像を少し小さくして用紙に余白を作りたいときや、小さな画像を大きくプリントしたいときに使用します。



PSプリンタードライバー（Windows）をお使いの場合は、たとよこの比率を個別に設定することができ、画像を変形させてプリントすることができます。

Windows



(1) [メイン] タブをクリックする

(2) [ズーム] のチェックボックスをクリックして にし、[設定] ボタンをクリックする

(3) 数値（％）を入力する

+ - ボタンをクリックして1%刻みでも指定できます。

また、用紙のどの位置を基準としてプリントするか、[左上] または [中央] から選択します。

(4) [OK] ボタンをクリックする



macOS



- (1) [ファイル] メニューの [ページ設定] で倍率 (%) を入力する
- (2) [OK] ボタンをクリックする



線幅を調節してプリント（線幅調整設定）

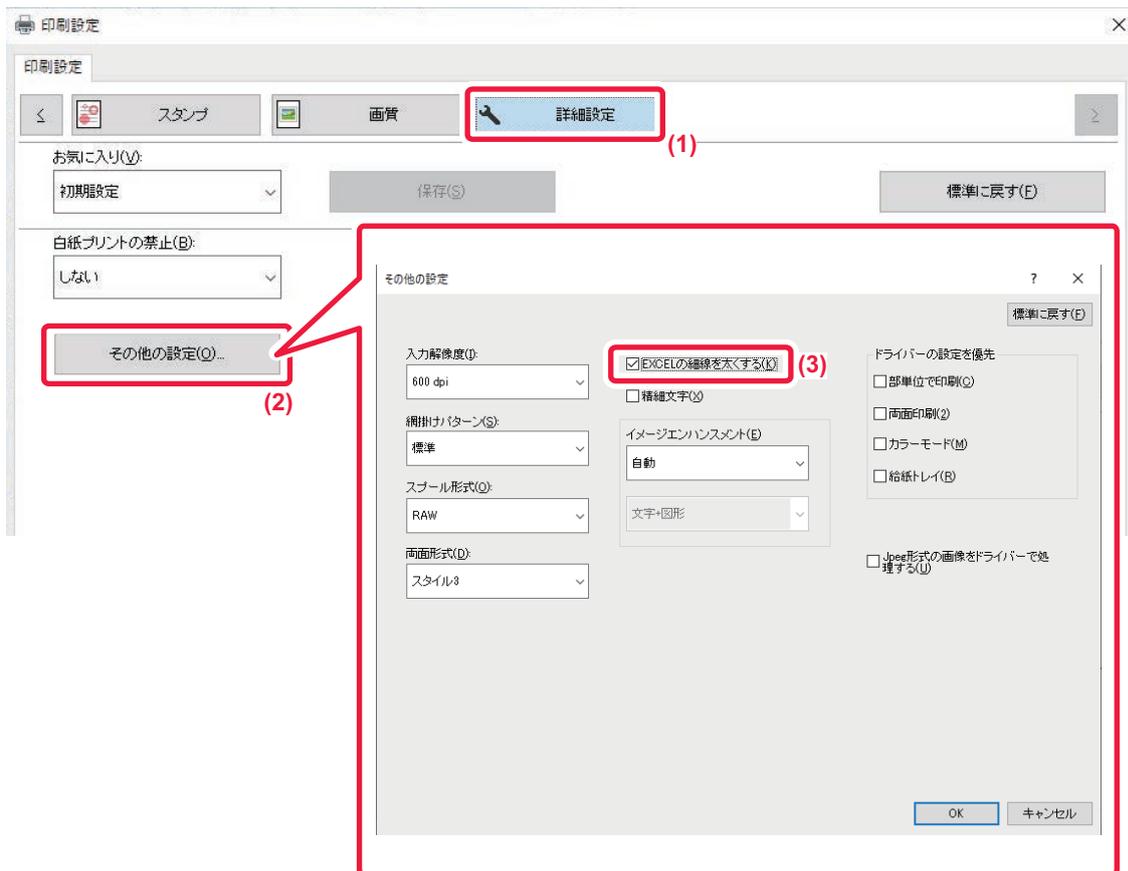
Excelの細線を太くして印刷する

Excelの細い罫線が正しくプリントできないときに線幅を太くします。



- この機能はWindows環境で使用できます。
- 使用できるプリンタードライバーはSPDL2-cです。
- 通常は設定する必要ありません。

Windows



(1) [詳細設定] タブをクリックする

(2) [その他の設定] ボタンをクリックする

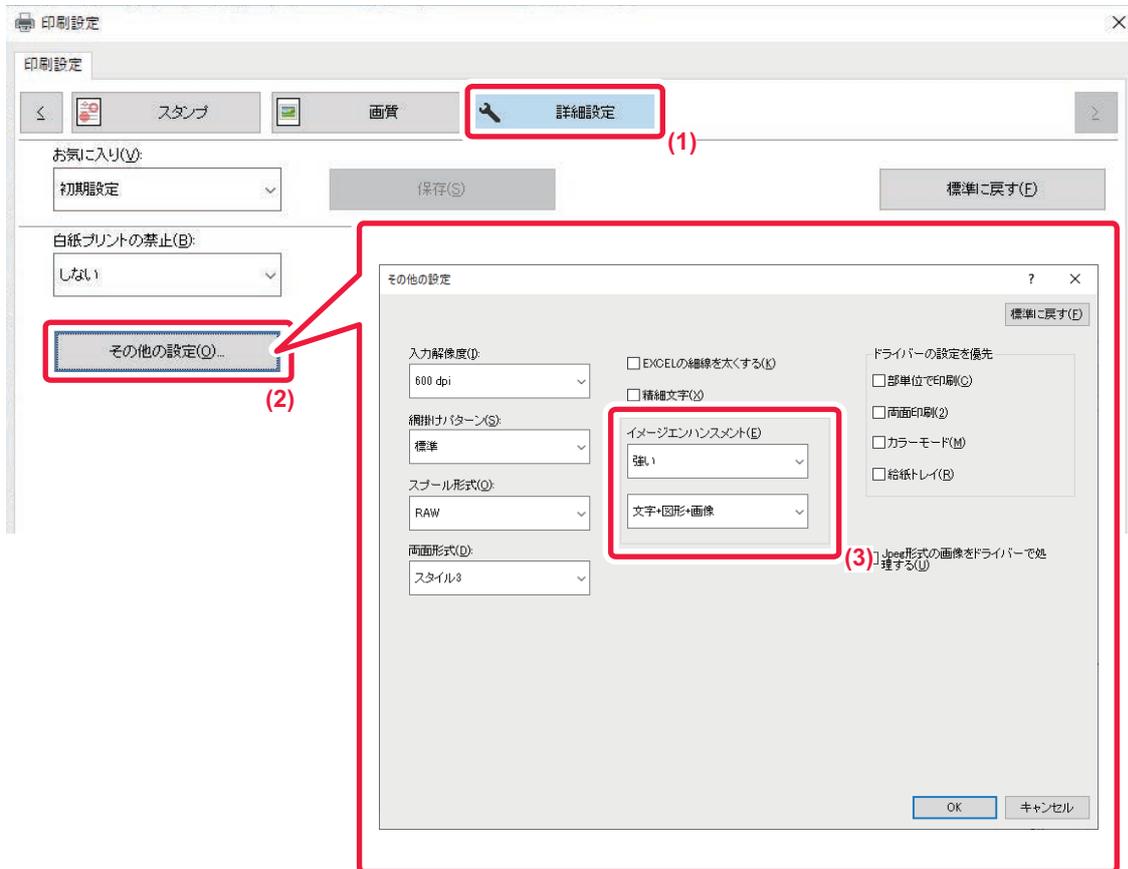
(3) [EXCELの細線を太くする] チェックボックスをクリックして にする



イメージエンハンスメントを使用する

イメージエンハンスメントを使用して文字や線の太さを調整することができます。

Windows

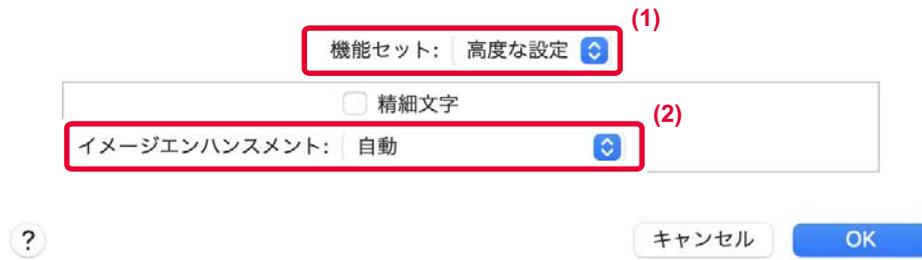


- (1) [詳細設定] タブをクリックする
- (2) [その他の設定] ボタンをクリックする
- (3) 設定を行う

設定項目		説明	
イメージエンハンスメント	自動	文字や図形、画像のふちをなめらかにしたり、鮮明にすることができます。 自動：最適なイメージエンハンスメントを行います。 なし：イメージエンハンスメントを行いません。 強い：イメージエンハンスメントを強めに行います。	
	なし		
	強い		文字
			文字+図形
	文字+図形+画像		



macOS



(1) プリンタオプションから【プリンタの機能】を選択し、【高度な設定】を選択する

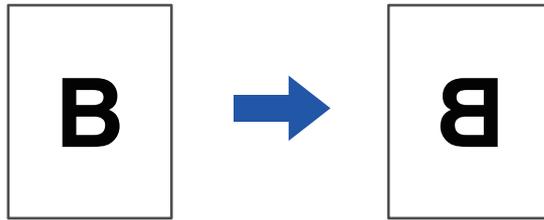
macOS 12以前の場合は、【プリンタの機能】を選択し、【高度な設定】を選択してください。

(2) 設定を行う



鏡に映したように反転してプリント（鏡像反転／視覚効果）

画像を鏡に映したように反転してプリントします。
版画用や転写用の下絵をかんたんにプリントします。



Windowsでこの機能を使用できるプリンタードライバーは、PSのみです。

Windows



(1) [詳細設定] タブをクリックする

(2) 左右に反転したいときは [水平に反転] を、上下に反転したいときは [垂直に反転] を選択する

macOS



(1) [レイアウト] を選択する

(2) [左右反転] を有効にする

macOS 12以前の場合は、[左右反転] チェックボックスをクリックして にします。



カラーモード調整機能

画像の明るさやコントラストを調整してプリント（イメージ調整／RGB調整）

写真画像などをプリントするときに、プリント時の設定で明るさやコントラストを補正します。画像の編集ソフトがお使いのコンピューターになくても簡易補正します。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows



(1) [画質] タブをクリックする

(2) [イメージ調整] ボタンをクリックする

PSプリンタードライバをお使いの場合は、[RGB調整] ボタンをクリックします。手順(4)へ進んでください。

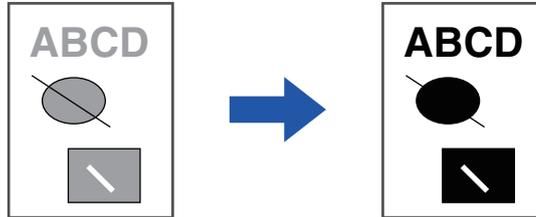
(3) オブジェクト（文字、図形、写真）ごとに調整する場合は、[オブジェクト毎に調整する] チェックボックスを にし、オブジェクトを選択する

(4) （スライダー）をドラッグ、または ボタンをクリックして調整する



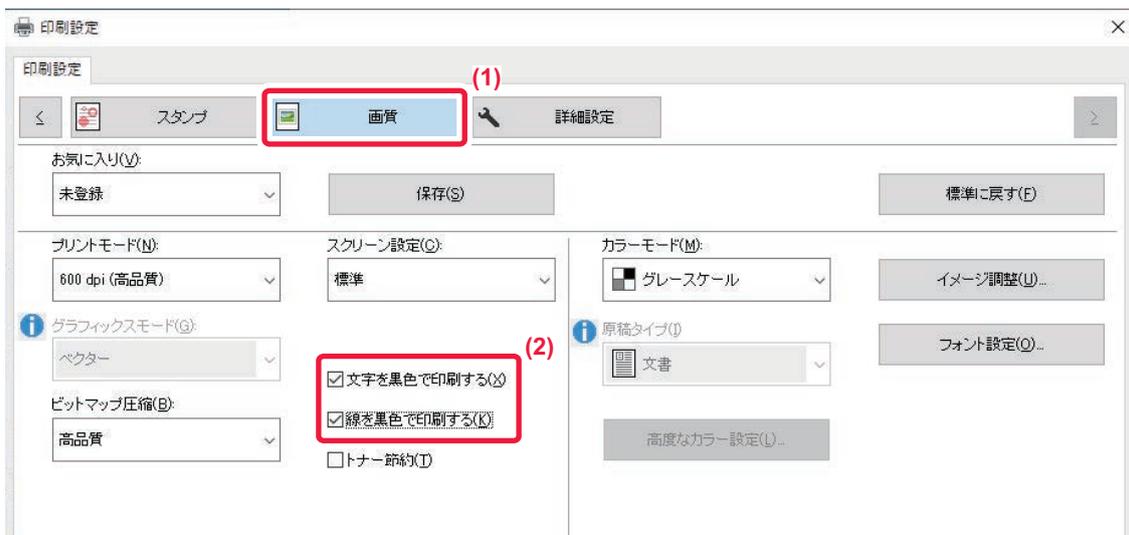
薄くて見づらい文字や線を黒色でプリント（文字を黒色で印刷する／線を黒色で印刷する）

カラーデータをグレースケールでプリントするときに、淡くプリントされるカラーの文字や線を、黒色に変換してプリントします。カラーの文字や線がグレースケールプリントでは薄くて見づらい場合に、より見やすくします。



- ビットマップ画像などのラスターデータは補正できません。
- この機能はWindows環境で使用できます。

Windows



(1) [画質] タブをクリックする

(2) [文字を黒色で印刷する] または [線を黒色で印刷する] チェックボックスをクリックして にする

- [文字を黒色で印刷する] を選択すると、白色以外の文字をすべて黒色に変換してプリントします。
- [線を黒色で印刷する] を選択すると、白色以外の線や面などベクターグラフィック部分をすべて黒色に変換してプリントします。



データに応じたカラー設定でプリント（高度なカラー設定）

本機のプリンタードライバーには、用途に合わせたカラー設定が用意されており、カラー画像の種類によって最適なカラー設定でプリントすることができます。

また、カラーマネージメントに関する設定や色の階調表現を調整できるスクリーン設定など、カラー画像のプリント用途に合わせた詳細設定をします。

カラーマネージメントに関する設定には、次のものがあります。

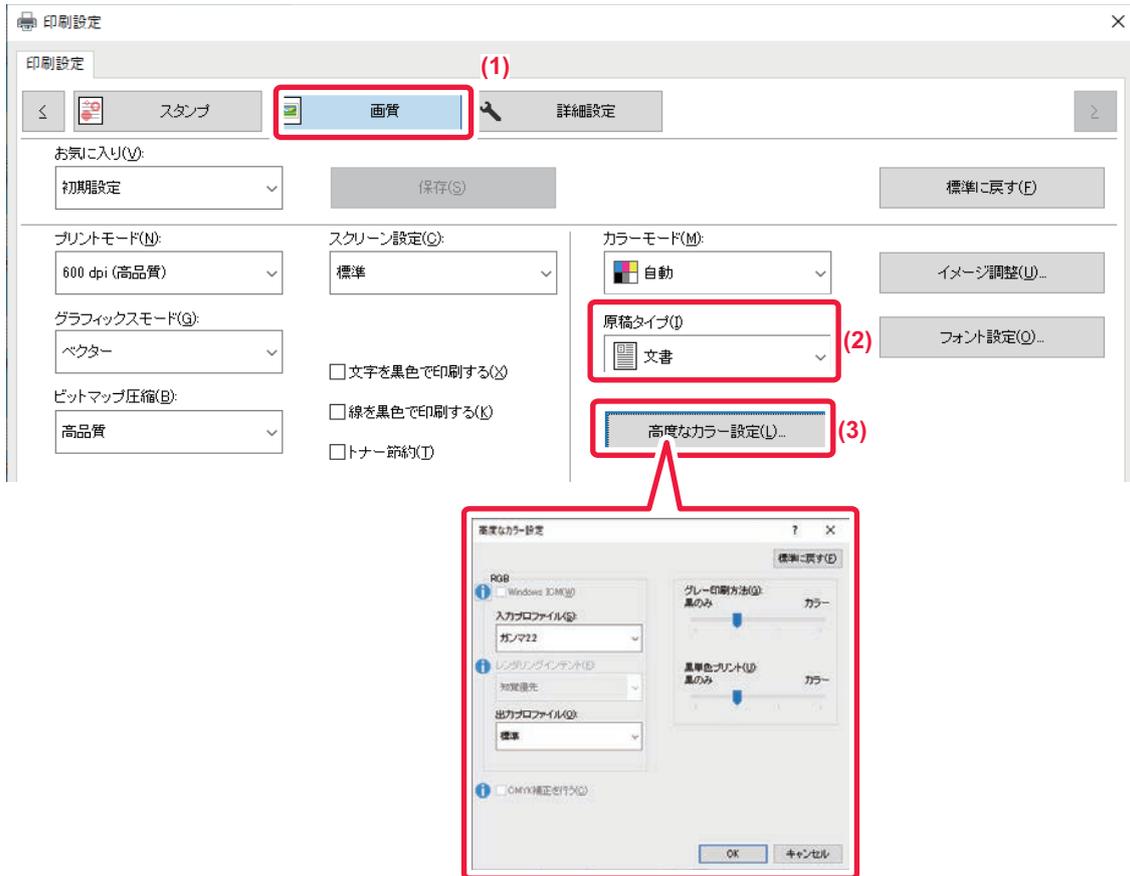
Windows ICM	Windows環境でのカラーマネージメントの方法
ColorSync	macOS環境でのカラーマネージメントの方法
入力プロファイル	カラーマッチング用の入力カラープロファイルを指定
レンダリングIntent	画像データの種類に応じて好みのカラーマッチング方法を選択設定（カラーマッチング処理方法：CRTなどのRGBカラーを、プリンターのCMYKカラーにカラー変換する方法）
出力プロファイル	プリントする画像に使用するカラープロファイルの選択
CMYK補正を行う※1	CMYKの画像をプリントするときに、最適なプリント結果が得られるように補正
スクリーン設定	出力する画像の種類に応じて、プリンターの画像処理方法を任意に選択
グレー印刷方法	グレー中間色に関して黒トナー 1色で印刷するか、CMYKトナー 4色で印刷するかの設定
黒単色プリント	黒色の領域に関して黒トナー 1色で印刷するか、CMYKトナー 4色で印刷するかの設定
黒文字オーバープリント※2	黒文字の周囲が白く抜けるのを防ぐ
CMYKシミュレーション※2	印刷機で使用されるプロセスカラーのインクでプリントしたような結果が得られるように色調整
シミュレーションプロファイル※2	シミュレーションターゲットの選択

※1 SPDL2-c プリンタードライバーのみ使用できます。

※2 PS プリンタードライバー（Windows/macOS）のみ使用できます。



Windows



(1) [画質] タブをクリックする

(2) 「原稿タイプ」を選択する

- 文書: 文字を多く含むデータ
- プレゼンテーション: 写真やイラストを多く含むデータ
- 写真画像: 写真や、写真が使用されているデータ
- CAD: エンジニアリング図面データ
- スキャン画像: スキャナーで取り込んだデータ
- 色差最小: 画面上の色に近づけてプリントしたいデータ
- カスタム: 特定の設定でプリントしたいデータ

(3) [高度なカラー設定] ボタンをクリックして設定する

OSの持つWindows ICMを利用してカラーマネージメントをする場合は、手順(2)の「原稿タイプ」を「カスタム」に設定してから「Windows ICM」チェックボックスをクリックして にします。

「入カプロファイル」など、詳細なカラーマネージメント設定をする場合は、それぞれのメニューから使用する設定を選択します。



macOS



(1) プリンタオプションから【画質】を選択する

macOS 12以前の場合は、【画質】を選択してください。

(2) 【高度な設定】タブをクリックする

macOSのカラーマネージメント機能を使用する場合は、【ColorSync】チェックボックスをクリックして にします。その場合、「原稿タイプ」は選択できません。

(3) 【原稿タイプ】を選択する

カラーマネージメント設定をする場合は、それぞれのメニューから使用する設定を選択します。「CMYKシミュレーション」を設定するときは、「原稿タイプ」から【カスタム】を選択し、【CMYKシミュレーション】チェックボックスを にしてから設定します。

- テキスト: 文字を多く含むデータ
- プレゼンテーション: 写真やイラストを多く含むデータ
- 写真: 写真や、写真が使用されているデータ
- CAD: エンジニアリング図面データ
- スキャン画像: スキャナーで取り込んだデータ
- 色差最小: 画面上の色に近づけてプリントしたいデータ
- カスタム: 特定の設定でプリントしたいデータ

(4) 設定を行う

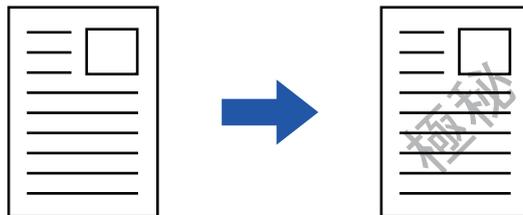


文字や画像の合成機能

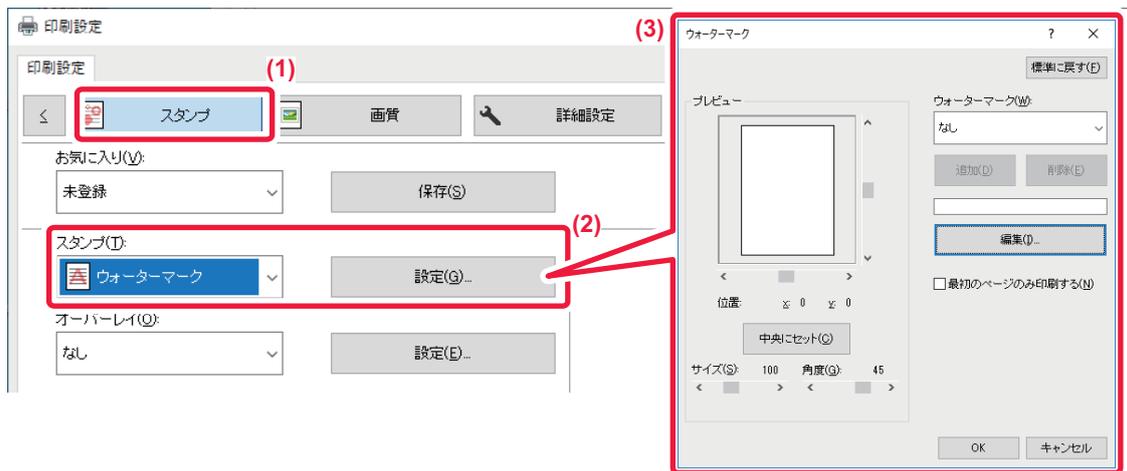
すかし文字を入れてプリント（ウォーターマーク）

プリントデータの背面に影のように薄く文字を入れてプリントします。ウォーターマークの文字サイズ、角度は調整できます。

ウォーターマークはあらかじめ登録されている文字をリストの中から選択します。必要に応じて、文字を入力してオリジナルを作成します。



Windows



(1) [スタンプ] タブをクリックする

(2) 「スタンプ」 から [ウォーターマーク] を選択し、[設定] ボタンをクリックする

(3) 使用するウォーターマークを設定し、[OK] ボタンをクリックする

[編集] ボタンをクリックして、フォントや色の編集など、より詳細な設定をします。



新しくウォーターマークを作成したいときは、テキスト入力欄に文字を入力し、[追加] ボタンをクリックします。



macOS



(1) プリンタオプションから【ウォーターマーク】を選択する

macOS 12以前の場合は、【ウォーターマーク】を選択してください。

(2) 【ウォーターマーク】チェックボックスをクリックしてウォーターマーク設定をする

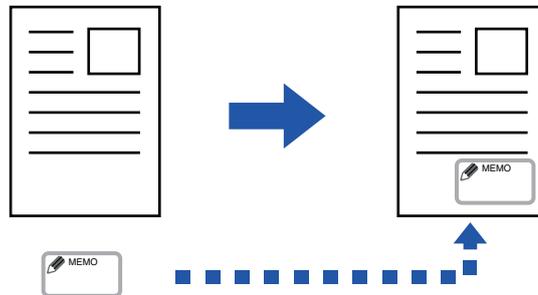
- テキストの選択など、ウォーターマークの詳細な設定をします。
- テキストのサイズや角度は、 (スライダー) をドラッグして調整します。



画像をデータに重ねてプリント（イメージスタンプ）

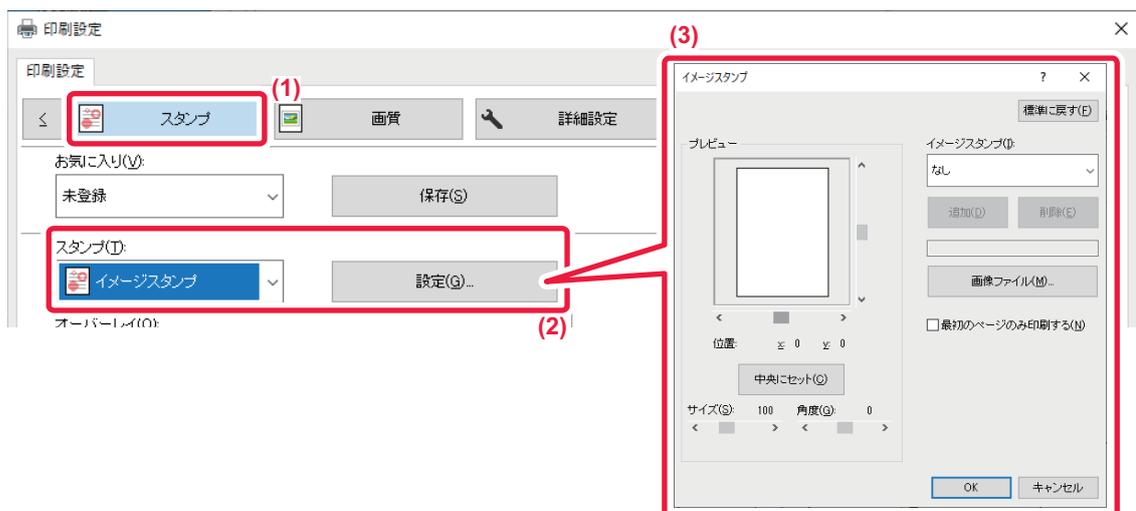
プリントデータの前面に、コンピューターに保存されているビットマップまたはJPEGの画像を重ねてプリントします。

よく使う画像や自作のアイコンなどをスタンプを押したようにプリントします。イメージスタンプの画像の大きさ、配置位置、角度は調整します。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows



(1) [スタンプ] タブをクリックする

(2) 「スタンプ」 から [イメージスタンプ] を選択し、[設定] ボタンをクリックする

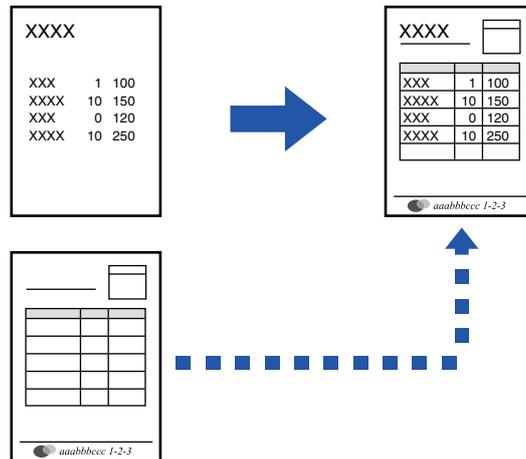
(3) 使用するイメージスタンプを設定し [OK] ボタンをクリックする

- すでに登録したイメージスタンプがある場合は、メニューから選択します。
- イメージスタンプを登録していない場合は、[画像ファイル] ボタンをクリックし、イメージスタンプにしたいファイルを選択して [追加] ボタンをクリックします。



定型フォームを作成してプリントデータを重ねる（オーバーレイ）

あらかじめ用意した定型フォーマットデータの上に重ねてプリントします。
テキストデータと異なるアプリケーションソフトで作成した表枠や飾り枠などをオーバーレイファイルとして登録しておく、複雑な操作を行わなくてもかんたんに見栄えのよいプリント結果を得られます。



この機能はWindows環境で使用できます。

Windows

オーバーレイファイルの作成



- (1) オーバーレイ用のデータを作成するアプリケーションからドライバー設定画面を開く
- (2) [スタンプ] タブをクリックする
- (3) [設定] ボタンをクリックする
- (4) [新規作成] ボタンをクリックして作成するオーバーレイファイルの名前と保存先を指定する
設定を完了し、プリントを開始すると、オーバーレイファイルを作成します。



- プリントを開始すると、確認メッセージを表示します。[はい] ボタンをクリックするまでオーバーレイファイルを作成しません。
- [登録] ボタンをクリックすると、既存のオーバーレイファイルを登録します。

オーバーレイファイルを使用してプリント



- (1) オーバーレイファイルを使ってプリントするアプリケーションソフトからドライバー設定画面を開く
- (2) [スタンプ] タブをクリックする
- (3) [オーバーレイファイル] を選択する
メニューからあらかじめ作成または登録したオーバーレイファイルを選択します。

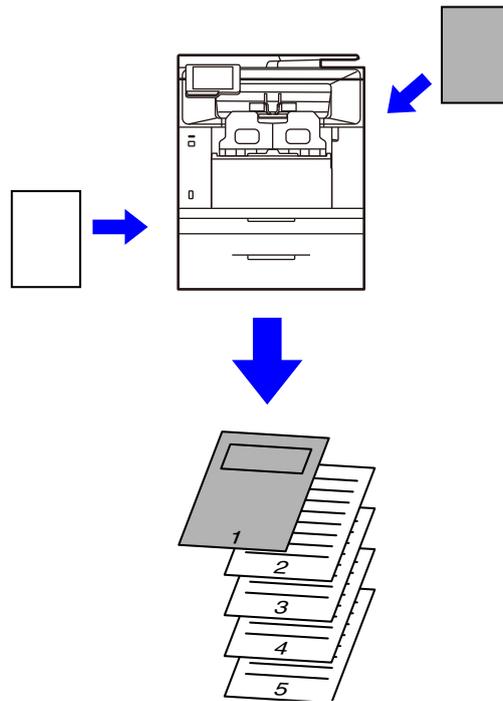


特殊な用途に使えるプリント機能

特定のページを異なる用紙でプリント（表紙挿入）

Windows環境の場合

文書の表紙を、他のページと異なる用紙でプリントします。
表紙だけ厚紙にプリントしたいときに使用します。

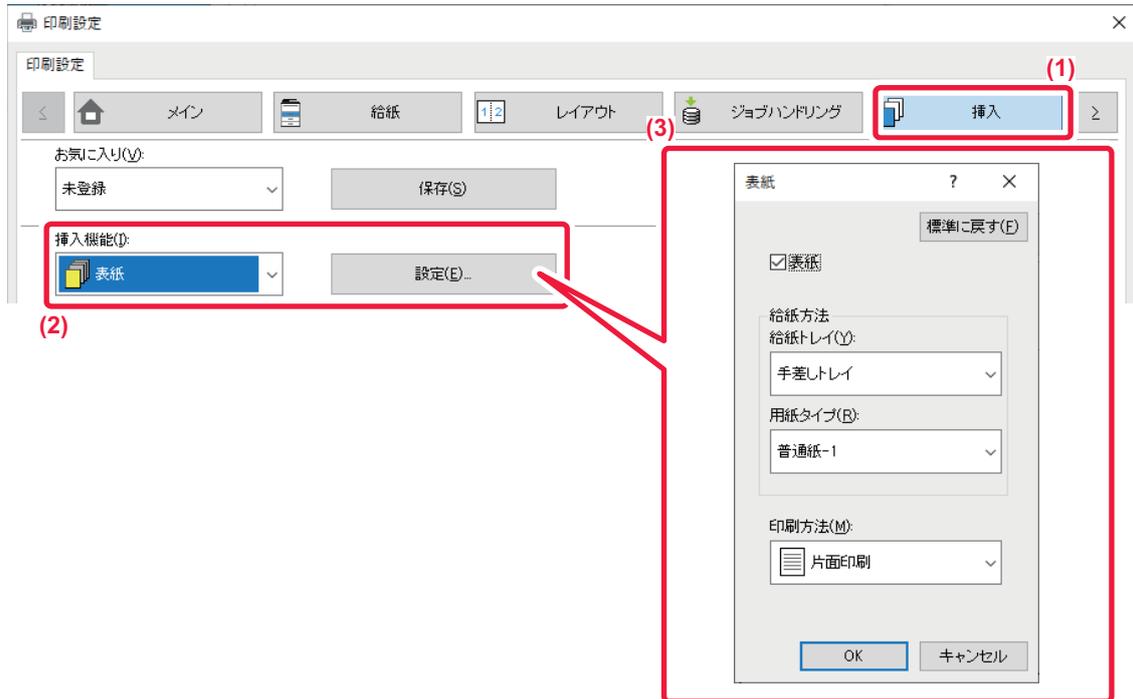


macOS環境の場合

文書の表紙を他のページと異なる用紙でプリントします。表紙だけ厚紙にプリントしたいときなどに使用します。



Windows



(1) [挿入] タブをクリックする

(2) 「挿入機能」から[表紙]を選択し、[設定]ボタンをクリックする

(3) 表紙設定をする

表紙をチェックを入れ、表紙に使用するトレイと用紙タイプを選択し、印刷方法を設定します。



「給紙トレイ」から[手差しトレイ]を選択したときは、必ず「用紙タイプ」も選択し、本機の手差しトレイも同じタイプに設定してください。



macOS



(1) プリンターオプションから【プリンターの機能】を選択し、【表紙】を選択する

macOS 12以前の場合は、【プリンターの機能】を選択し、【表紙】を選択してください。

(2) 【表紙】を選択する

(3) 表紙挿入設定をする

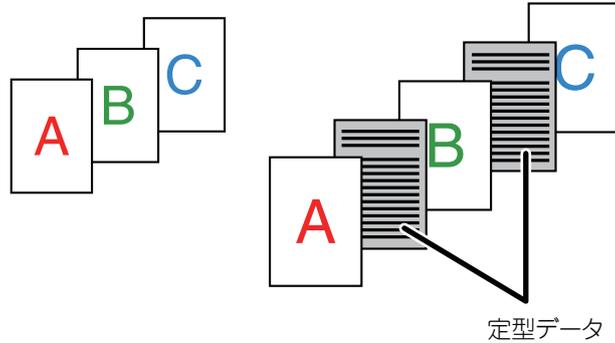
表紙で使用するトレイと用紙タイプを選択します。



各ページの前または後に同じデータを挿入（ページ挿入）

1ページごとに指定したデータを挿入してプリントします。

見開きにしたときは、左側に文書、右側にメモ書き用のページがくるような構成をかんたんに実現します。



- この機能はWindows環境で使用できます。
- 使用できるプリンタードライバーはSPDL2-cです。



あらかじめ、挿入するためのページデータを作成する必要があります。

ページデータの作成のしかたは、「[定型フォームを作成してプリントデータを重ねる（オーバーレイ）（4-52ページ）](#)」の「[オーバーレイファイルの作成（4-52ページ）](#)」を参照してください。

Windows



- (1) [スタンプ] タブをクリックする
- (2) オーバーレイの [設定] ボタンをクリックする
- (3) 「印刷方法」から「ページ挿入」を選択する
- (4) 挿入するオーバーレイデータと挿入位置を設定する



JPEGイメージのレンダリング方法を変更してプリント (Jpeg形式の画像をドライバーで処理する)

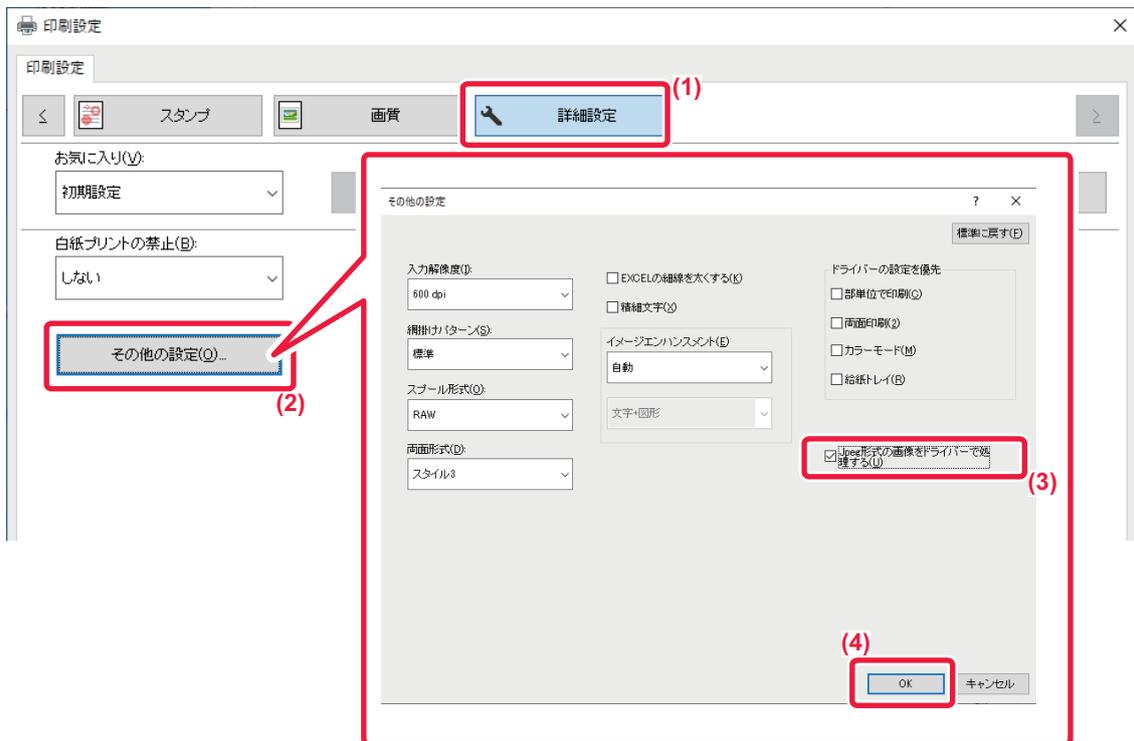
JPEGイメージの含まれる原稿をプリントすると正常に印刷されない場合がありますが、JPEGイメージのレンダリング方法を変更することで対応できます。

JPEGイメージの含まれる原稿をプリントするとき、プリンタードライバーでレンダリングするか、本体側でレンダリングするかを選択してプリントします。



- この機能はWindows環境で使用できます。
- プリンタードライバーでレンダリングする場合は、プリント完了まで時間がかかる場合があります。

Windows



- (1) [詳細設定] タブをクリックする
- (2) [その他の設定] ボタンをクリックする
- (3) [Jpeg形式の画像をドライバーで処理する] チェックボックスをクリックして にする
- (4) [OK] ボタンをクリックする



知っておくと便利なプリント機能

プリントデータを保存して使用（リテンション）

プリントデータを本機に保存し、本機の操作パネルからプリントできる機能です。

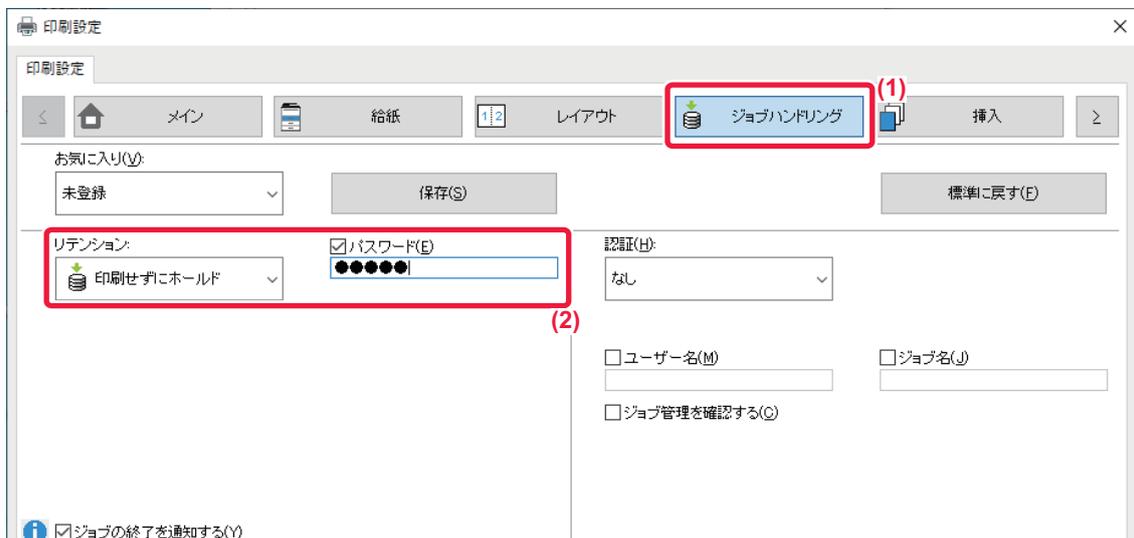
また、コンピュータからプリントするときにパスワード（5～8桁の暗証番号）を設定すると、保存されたデータの機密保持を高めることができます。

パスワード設定時、本機から保存されたデータをプリントするときはパスワードの入力が必要となります。



1GBを超えるプリントデータは保存できません。

Windows



(1) [ジョブハンドリング] タブをクリックする

(2) [リテンション] を選択する

[パスワード] チェックボックスをクリックして にすると、パスワード（5～8桁の暗証番号）を入力できます。



macOS



(1) プリンタオプションから **【ジョブハンドリング】** を選択する

macOS 12以前の場合、**【ジョブハンドリング】** を選択してください。

(2) **【リテンション】** タブをクリックする

(3) **【リテンション】** を選択する

パスワード（5～8桁の暗証番号）を入力できます。



リテンションされたデータのプリント方法

リテンションを行うと、タッチパネルに次のように表示されます。



印刷したいデータをタップすると、印刷設定画面が表示されます。

[白黒で印刷]は、カラーデータを白黒でプリントします。

[印刷後削除]は、印刷後、そのデータを削除します。

[部数を変更]は、プリントする部数を変更するときにタップします。Onの時に、部数を設定できます。

印刷せずにデータを削除する場合は、をタップします。

設定後、スタートキーをタップします。



パスワードが設定されているデータは、印刷設定画面の前にパスワード入力画面が表示されるので、設定したパスワードを入力してください。

パスワードを入力してください。

パスワード

キャンセル OK



プリンタードライバーを介さずにプリント

プリント可能な拡張子

お使いのコンピューターにプリンタードライバーがインストールされていない場合や、プリントしたいファイルのアプリケーションソフトがない場合などは、プリンタードライバーを介さずに本機に直接プリントします。直接プリントできるファイルの種類とその拡張子は次のとおりです。

ファイルの種類	TIFF	JPEG	PNG	PCL	PS	PDF 暗号化PDF
拡張子	tiff、tif	jpeg、jpg、 jpe、jif	png	pcl、prn、 txt	ps、prn	pdf



- プリント結果が白黒であっても、下記のようなプリントデータは、Y（イエロー）・M（マゼンタ）・C（シアン）・Bk（ブラック）の4色のカラーとしてカウントします。常に白黒としてカウントしたいときは、白黒印刷を選択してください。
- データがカラーデータとして作成されているとき
- データが白黒であっても、アプリケーションソフトがカラーデータとして扱うとき
- 白黒画像の下に画像が隠れているとき
- 上の表に記載しているファイルの中でも、データによっては正しくプリントできない場合があります。



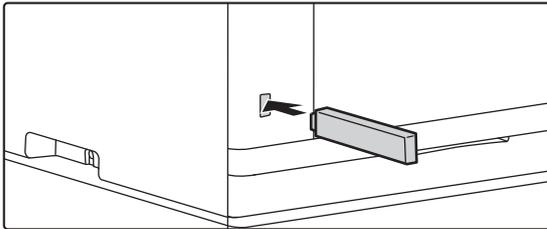
USBメモリー内のファイルを直接プリント

本機に接続したUSBメモリー内のファイルを、プリンタードライバーを介さず本機の操作でプリントします。お使いのコンピューターに本機のプリンタードライバーをインストールしていないときなど、市販のUSBメモリーにデータをコピーして本機に接続することで、直接プリントします。



USBメモリーのフォーマットは、FAT32、NTFS形式、またはexFAT形式をご利用ください。

1



USBメモリーを本機に接続する

2



操作を選択する画面が表示されたら、**[USBメモリーから印刷する]**をタップする

画面が表示されない場合は [USBメモリーから印刷] キーをタップします。

3

プリントするファイルのキーをタップする

- プリントできるファイルはキーの左側に  アイコンを表示します。
- USBメモリー内のフォルダーは、キーの左側に  アイコンを表示します。フォルダー内のファイルやフォルダーを表示するときは、このキーをタップします。



- ファイルやフォルダーは合わせて1階層で100個まで表示します。
- 1階層上の画面に戻るときは、 をタップします。
- 画面に表示されているファイルやフォルダーの並び順を変更したいときは、メニューアイコンをタップして [ソート項目設定] キーをタップします。表示される [ファイル名 (昇順)] キー、[ファイル名 (降順)] キーをタップしての昇順、降順を切り替えます。



4



プリント条件を設定する

両面印刷、用紙選択、白黒で印刷、ソート/グループ、部数設定が設定できます。

「両面印刷」は、両面印刷の種類を選択してプリントします。

「白黒で印刷」は、カラーデータを白黒でプリントします。

用紙選択、ソート/グループについては、以下のページを参照してください。

用紙選択：[コピーする用紙トレイの選択 \(3-7ページ\)](#)

ソート/グループ：[仕上げ \(3-20ページ\)](#)

手順3でプリント条件が含まれているファイル (PCL、PS、PRN) を選択したときは、ファイルが持つ設定が優先されることがあります。

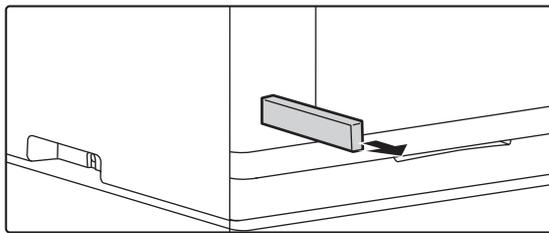
5

【スタート】キーをタップする

選択したファイルの転送が完了すると、プリントを開始します。

暗号化PDFをプリントするときは、パスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力して、[OK]キーをタップしてください。

6



USBメモリーを本機から抜き取る

コンピューターからファイルを直接プリント

FTPプリント

お使いのコンピューターから、本機のFTPサーバーにプリントしたいファイルをドラッグアンドドロップするだけで簡単にプリントします。

FTPプリントをする

お使いのFTPクライアントアプリのサーバー名欄に本機のIPアドレスを入力し、本機に接続します。

本機のFTPサーバー内の「lp」フォルダーの中に、プリントしたいファイルをアップロードすると、自動的にプリントを開始します。



- プリント条件が含まれているファイル (PCL、PS) をプリントしたときは、ファイルが持つ設定が優先されることがあります。
- 本機でユーザー認証機能を設定している場合、プリント機能が制限されることがあります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。
- 暗号化PDFは、プリントできません。



付録

プリンタードライバー仕様一覧

設定項目については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

[プリンタードライバーの初期設定値を変更（4-13ページ）](#)



Windows PPDおよびmacOS PSの各機能の仕様は、OSやアプリケーションソフトによって異なります。

メイン

項目	SPDL2-c	PS	Windows PPD	macOS PS
部数	1~999	1~999	1~9999	1~9999
部単位で印刷	○	○	○	○
原稿サイズ	○	○	○	○
出力用紙サイズ	○	○	×	×
原稿の向き	○	○	○	○
用紙サイズに合わせる	×	×	×	○
ズーム	○	○	○	○
両面印刷	○	○	○	○
ページ集約	2、4、6、8、9、16	2、4、6、8、9、16	2、4、6、9、16	2、4、6、9、16
リテンション	○	○	×	○
カラーモード	○	○	○	○



ズーム（SPDL2-c/PPD/macOS PS）：たてとよこの比率を個別に設定できません。

給紙

項目	SPDL2-c	PS	Windows PPD	macOS PS
出力用紙サイズ	○	○	×	×
給紙トレイ	○	○	○	○
用紙タイプ	○	○	○	○
トレイ状況	○	○	×	×

レイアウト

項目	SPDL2-c	PS	Windows PPD	macOS PS
両面印刷	○	○	○	○
製本	○	○	○	○



項目		SPDL2-c	PS	Windows PPD	macOS PS
ページ集約	ページ数	2, 4, 6, 8, 9, 16	2, 4, 6, 8, 9, 16	2, 4, 6, 9, 16	2, 4, 6, 9, 16
	順序	○	○	○	○
	枠線	○	○	○	○
	1枚目を除く	○	×	×	×
	等倍で印刷	○	○	×	×
ポスター		○	○	×	×
印刷位置設定	とじしろ	0mm~30mm	0mm~30mm	0mm~30mm	0mm~30mm
	カスタム	○	×	×	×

ジョブハンドリング

項目	SPDL2-c	PS	Windows PPD	macOS PS
ジョブの終了を通知する	○	○	×	×
認証	○	○	×	○

挿入

項目	SPDL2-c	PS	Windows PPD	macOS PS
表紙	○	○	○	○

スタンプ

項目	SPDL2-c	PS	Windows PPD	macOS PS
ウォーターマーク	○	○	○	○
イメージスタンプ	○	○	×	×
オーバーレイ	○	○	×	×

画質

項目	SPDL2-c	PS	Windows PPD	macOS PS
プリントモード	○	○	○	○
グラフィックスモード	○	×	×	×
ビットマップ圧縮	○	○	×	×
スクリーン設定	○	○	○	○
文字を黒色で印刷する	○	○	×	×
線を黒色で印刷する	○	○	×	×
トナー節約	○	○	○	○
カラーモード	○	○	○	○
原稿タイプ	○	○	○	○
高度なカラー設定	○	○	○	○
イメージ調整	○	×	×	×
RGB調整	×	○	×	×
フォント設定	○	○	○	×



トナー節約：OSやアプリケーションソフトによって、本機能がはたらかない場合があります。

詳細設定

項目	SPDL2-c	PS	Windows PPD	macOS PS
鏡像反転	×	○	○	○
PSエラー情報を印刷する	×	○	○	×
PSを素通しする	×	○	×	×
ジョブ圧縮	×	○	×	×
白紙プリントの禁止	○	○	×	×
その他の設定				
• 入力解像度	○	○	×	×
• 網掛けパターン	○	×	×	×
• スプール形式	○	○	×	×
• 両面形式	○	○	×	×
• Jpeg形式の画像をドライバーで処理する	○	○	×	×
• 強調処理	×	×	×	×
• EXCELの細線を太くする	○	×	×	×
• 精細文字	○	○	○	○
• 精細エッジ	×	×	×	×
• イメージエンハンスメント	○	○	○	○
• ドライバーの設定を優先	○	○	×	×



ファクス

ファクスとして使用する前に

ファクスとして使用する前に	5-3
ファクスモードについて	5-6
基本画面	5-6
メニュー	5-8
ファクスモードの選択	5-8
ファクス送信の流れ	5-9
原稿自動送り装置で原稿がつまった場合	5-11
送受信設定	5-11

相手先の入力方法について

相手先の入力方法	5-13
数字キー（10キー）で相手先番号を入力	5-13
アドレス帳からの相手先番号呼び出し	5-14
指定した相手先を一覧表示	5-16
検索番号での相手先番号呼び出し	5-17
送信履歴からの再送信	5-18
複数の番号をつなげて送信（チェーンダイヤル）	5-19
相手先の入力方法	5-13
宛先の登録	5-20
グループの登録	5-21
宛先の編集	5-22
宛先の削除	5-23

基本的な送信のしかた

基本的な送信のしかた	5-24
ファクスの送信方法	5-24
相手が話し中のとき	5-25
通信エラーが発生したとき	5-25
ファクス宛先確認機能	5-26
ファクスの送信	5-27
原稿自動送り装置を使って送信	5-27
原稿自動送り装置を使用して直接送信モードで送信	5-28
原稿台（ガラス面）を使って送信	5-30
原稿台（ガラス面）を使用して直接送信モードで送信	5-32
オンフックダイヤルで送信	5-34
複数の相手に同じ原稿をまとめて送信（順次同報送信）	5-35
コンピューターのデータをファクス送信（PC-Fax）	5-37

送信履歴を削除する	5-38
原稿の読み込み設定	5-38
原稿の表裏自動読み込み（両面原稿）	5-38
原稿の読み込みサイズを用紙サイズで指定	5-39
原稿の濃度を変更	5-40
原稿の画質を変更	5-41

ファクスの受信について

ファクスの受信	5-42
ファクスを自動で受信	5-42
ファクスを手動で受信	5-43
受信データのプリント	5-44
受信データをプリント（受信データ印字ホールド）	5-44
受信データの転送	5-45
受信したファクスデータの手動転送（受信/転送設定（手動））	5-45
受信したデータを設定した送信先へ転送（受信データの転送設定）	5-46

その他の機能について

送信操作を登録して使用（プログラム）	5-48
発信元、送信元に関する機能	5-50
発信元情報を付けて送信（ファクス発信元印字）	5-50
特定の使いかたを想定した機能	5-51
通信結果表のプリント設定を変更して送信（通信結果表）	5-51
時刻を決めて送信（時刻指定送信）	5-52

外部電話機を使用する

お手持ちの電話機を接続して使用	5-54
外部電話機の接続	5-54
自動的に電話／ファクスに切り替え	5-54
接続した電話機で電話に出てファクスを受信（リモート受信）	5-55
留守番電話の使用（留守接続）	5-56
電話をかける／受ける	5-56





通信状況を確認する

ファクスのジョブについて..... 5-57

ファクスの送受信が完了したジョブの動作..... 5-60

 ファクス受信したジョブの動作..... 5-60

 時刻指定通信ジョブの動作..... 5-60

 再コールジョブの動作..... 5-60

 受信データをプリントしない場合..... 5-60

 受信データをプリントする場合..... 5-60

通信記録の確認..... 5-61

 通信記録表のプリント..... 5-61

 通信結果欄の内容..... 5-61



ファクスとして使用する前に

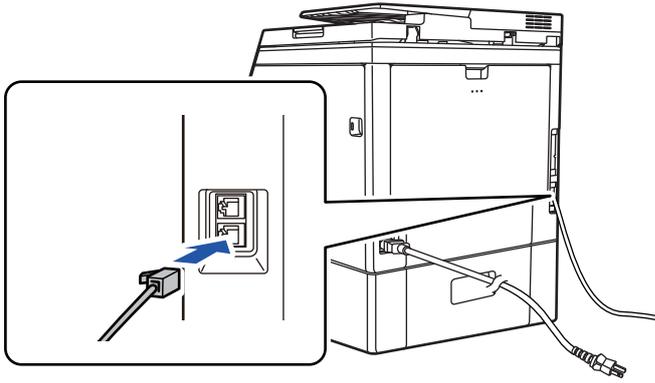
ファクスとして使用する前に

本機をファクスとして使用するときは、電話回線を接続して、電話回線の種類を設定してください。

1

電話回線に接続する

図のように接続ケーブルの一方の端子を本機にある回線端子（LINE）にカチッと音がするまで差し込み、もう一方の端子を電話線コンセントにカチッと音がするまで差し込みます。



接続ケーブルが正しく接続されていないときは、「送信できませんでした。回線ケーブルを確認してください。」のメッセージがファクス送信時に表示されます。接続ケーブルを正しく接続し直してください。

2

電源プラグがコンセントに差し込まれているかを確認する

電源プラグがコンセントに差し込まれていると、主電源ランプが点灯します。主電源ランプが消灯しているときは、電源プラグをコンセントに差し込み、[電源] ボタンを押します。

[電源の入れかた \(1-7ページ\)](#)



ファクスを使用するときは、電源を切らずに、節電モードで本機を待機状態にしてください。



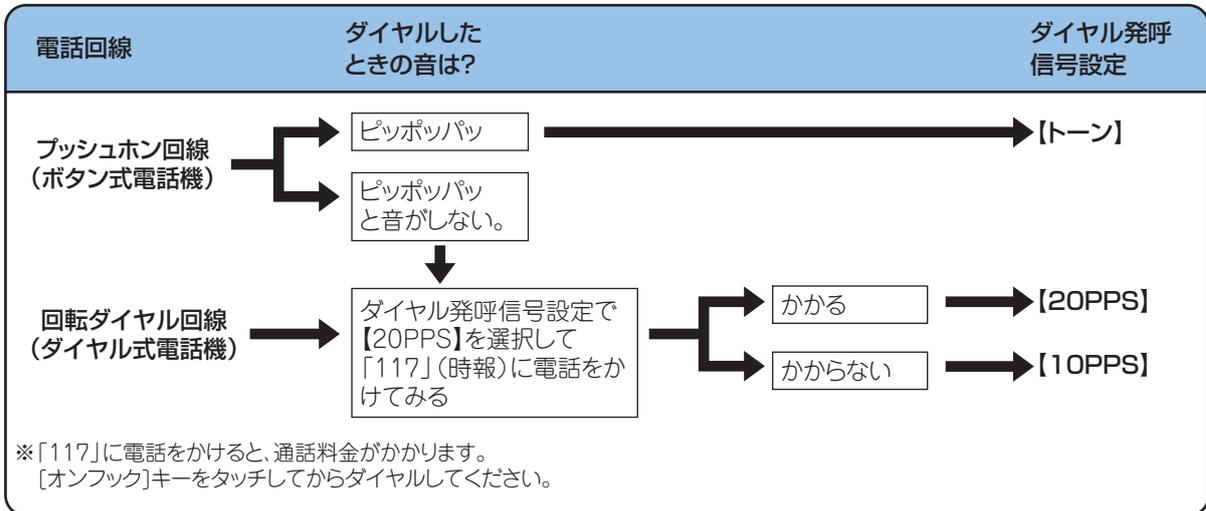
3

電話回線の種類を設定する

お使いの電話回線の種類に合わせて本機の設定をします。
※正しく設定されていないと電話がかからなかったり違う相手先にかかったりします。



- 必要に応じて電話回線の種類を手動で設定します。
以下の操作でお使いの電話回線種別を確認します。



- デジタル回線網に接続するときは

操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [デジタル回線網] (Web ページの場合は、[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [デジタル回線網]) を有効にします。有効にした場合、デジタル回線に接続するときの送出レベルを 15dBm 以下にします。

4

日付・時刻を確認する

本機の日付・時刻が正しく設定されていることを確認します。



- 本機の日付・時刻を設定するには

操作パネルまたはWebページの [システム設定] → [共通設定] → [デバイス設定] → [日付/時刻設定] で設定します。

5

発信元番号を登録する

利用者の名前を [発信元名]、ファクス番号を [発信元番号] として登録します。これらの登録は、通信上必要な情報なため必ず登録します。



- 発信元名・発信元番号を登録するには

操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [発信元登録] (Webページの場合は、[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [共通設定] → [発信元登録] → [発信元情報登録]) で登録します。



各送信方法の宛先をアドレス帳に登録する

ファクスを利用するとき、あらかじめ宛先をアドレス帳に登録しておくとう便利です。
アドレス帳の利用方法や宛先の登録方法については、次を参照してください。

[アドレス帳の宛先登録 \(5-20ページ\)](#)



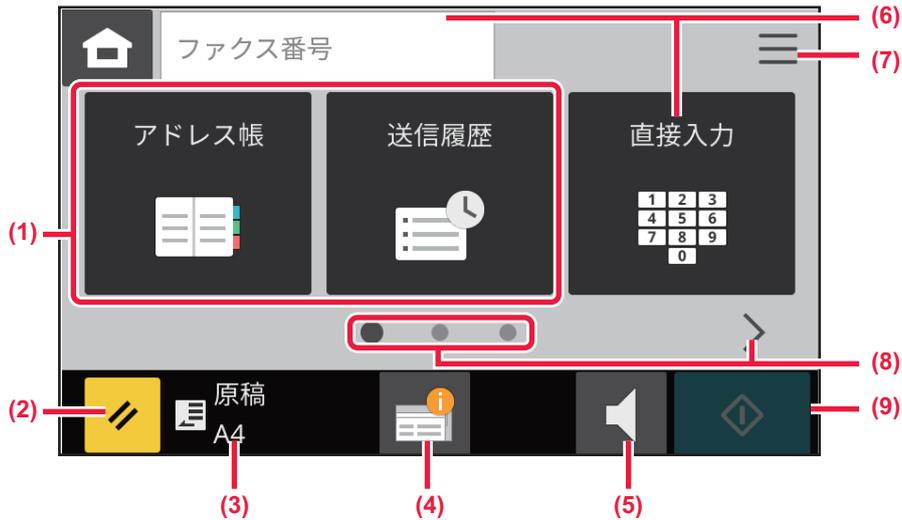
ファクスモードについて

ファクスモードには基本画面とメニューモードの2種類があります。
基本画面は、よく使う機能など必要最小限の機能で構成され、大半のファクス操作がスムーズに行えます。
詳細な設定や特殊な機能を使用する場合はメニューで操作します。

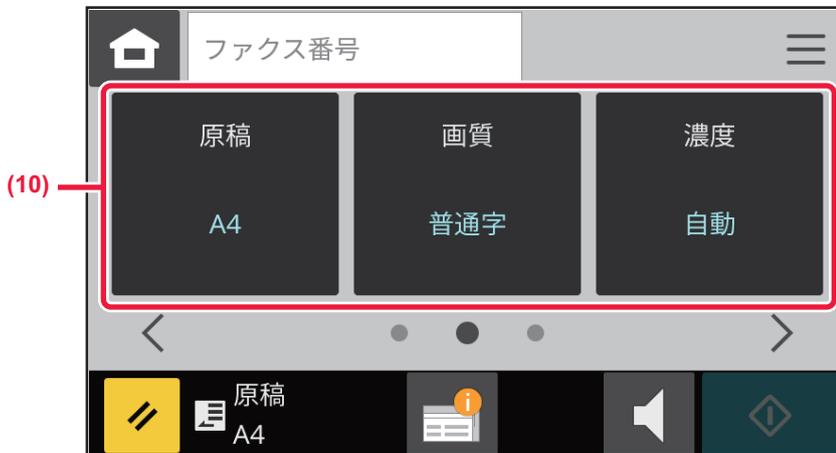
基本画面

基本画面は、ファクスの基本的な設定をかんたんに行うことができます。

【1画面目】

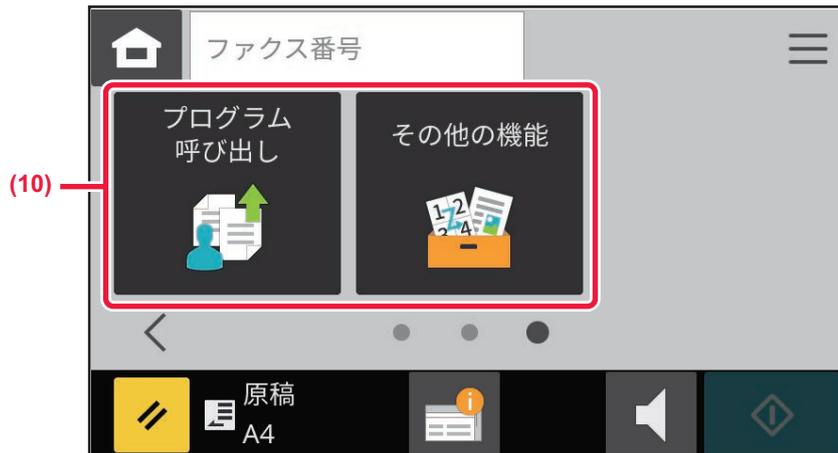


【2画面目】





【3画面目】



- (1) 宛先を設定します。
- (2) 設定と宛先をリセットします。
- (3) セットした原稿サイズを表示します。
 - ▶ [原稿の読み込みサイズを用紙サイズで指定 \(5-39ページ\)](#)
- (4) ジョブ状況画面を開きます。
 - ▶ [ファクスのジョブについて \(5-57ページ\)](#)
- (5) 回線接続してからファクス送信を開始します。
- (6) タップすると数字キー（10キー）を表示します。
- (7) メニューに切り替えます。
 - ▶ [メニュー \(5-8ページ\)](#)
- (8) 機能の表示を切り替えます。
- (9) すぐにファクス送信を開始します。
- (10) 設定する機能を選びます。

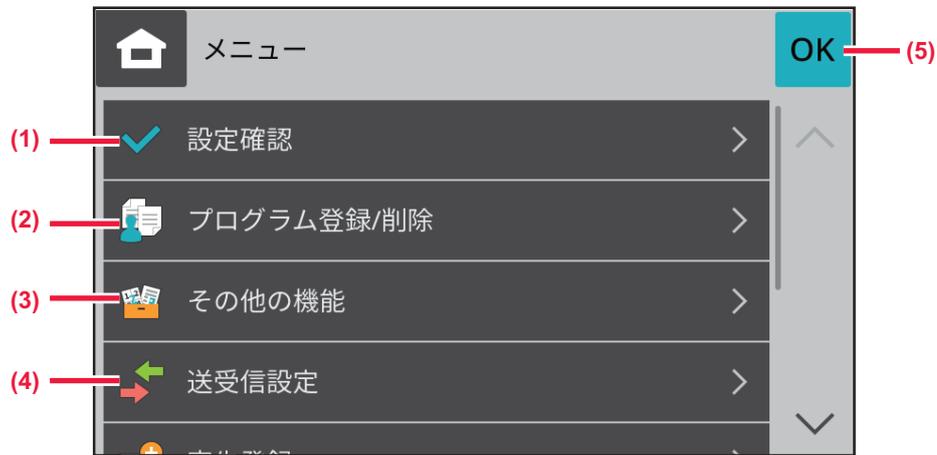
基本画面で設定できる機能は以下の通りです。

- [原稿の読み込み設定 \(5-38ページ\)](#)
- [原稿の濃度を変更 \(5-40ページ\)](#)
- [原稿の画質を変更 \(5-41ページ\)](#)

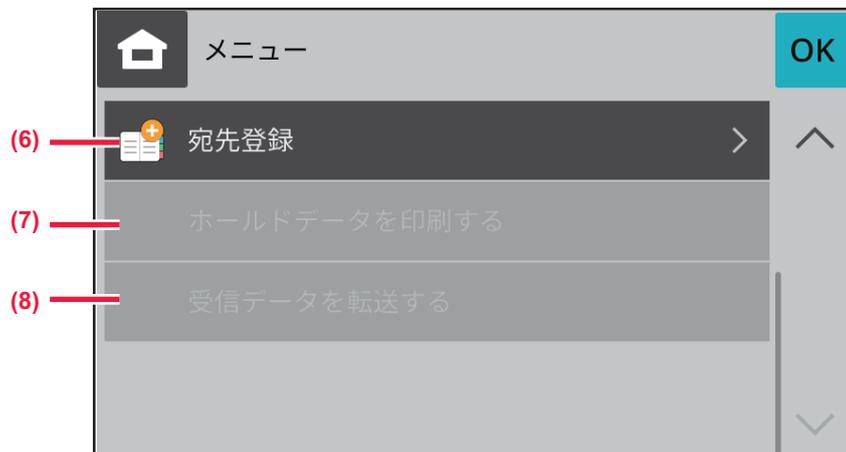


メニュー

メニューは、ホーム画面およびファクスモードでの補助的な設定、使用頻度の高い項目の設定を行うことができます。
【1画面目】



【2画面目】



- (1) 現在設定中の内容が確認できます。
- (2) プログラムの登録や削除を行います。
- (3) その他の機能呼び出します。
- (4) 送受信設定を行います。
- (5) メニューを閉じます。
- (6) ファクスの宛先を登録します。
- (7) ホールドデータを印刷します。
- (8) 受信データを転送します。

ファクスモードの選択

[ホーム画面への切り替え \(2-8ページ\)](#) を参照してファクスのモードに切り替えてください。



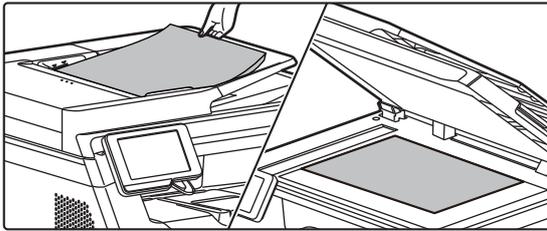
ファクス送信の流れ

ファクスを送信するときの基本的な操作を説明します。



ファクスでは、すべて白黒2値で送信します。

1



原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2

相手先番号を入力する

数字キー（10）キーをタップして相手先番号を直接入力するほか、アドレス帳や番号を検索して呼び出したりします。



- [数字キー（10キー）で相手先番号を入力（5-13ページ）](#)
- [アドレス帳からの相手先番号呼び出し（5-14ページ）](#)
- [送信履歴からの再送信（5-18ページ）](#)



3

機能を設定する

原稿の読み込みサイズや濃度、画質などを設定します。
必要に応じて次の各機能を参照して設定します。



- [原稿の読み込み設定 \(5-38ページ\)](#)
- [原稿の濃度を変更 \(5-40ページ\)](#)
- [原稿の画質を変更 \(5-41ページ\)](#)

4

原稿を送信する

[スタート] キーをタップします。



原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたときは

- 通常の送信時（メモリー送信）
原稿の枚数分、原稿のセットと読み込みを繰り返します。すべての原稿を読み込み終わったら、[読み込み終了] キーをタップします。
- 直接送信モードで送信時
直接送信モードでは複数枚の原稿は読み込めません。[スタート] キーをタップすると送信を開始します。



Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] で「ファクス宛先確認機能」が有効なときは、[スタート]キーをタップしたあと（[ファクス宛先直接入力時は宛先を再入力する]有効時は直接入力を再入力後）、宛先一覧画面が表示されます。表示されている宛先を確認したあと、[OK]キーをタップし、[送信確定]キーをタップして、送信を開始します。



原稿自動送り装置で原稿がつまった場合

2つのパターンが設定できます。

Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [クイックオンライン送信] で設定します。

- 有効の場合

原稿がつまった時点で、スキャンを中止し、それまで読み込んだスキャンデータを送信します。

- 無効の場合

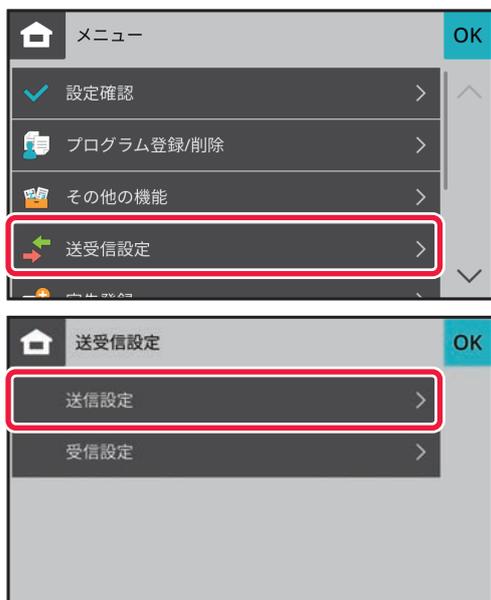
原稿がつまってもスキャンを中止せず、詰まった原稿を再度セットして、読み込みを再開させます。すべての原稿を読み込んだあとに、スキャンデータを送信します。

送受信設定

送信方法および受信方法の設定をします。

送信方法を設定する場合

1



[メニュー]アイコンをタップして [送受信設定] キーをタップして [送信設定] キーをタップする

2



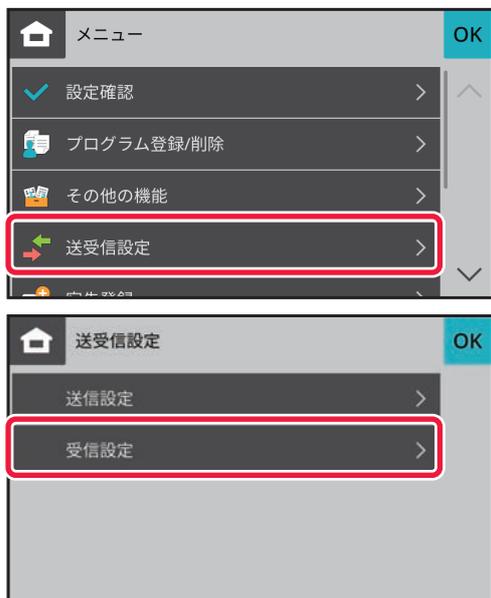
[メモリー送信]、[直接送信]から送信方法を選択する

設定が終わったら [OK] キーをタップします。



受信方法を設定する場合

1



[メニュー]アイコンをタップして [送受信設定] キーをタップして [受信設定] キーをタップする

2



[自動受信]、[手動受信]、[留守受信]から受信方法を選択する

設定が終わったら [OK] キーをタップします。



相手先の入力方法について

相手先の入力方法

数字キー（10キー）で相手先番号を入力

1



【直接入力】キーまたは【ファクス番号】をタップして、相手先番号を入力する

複数の相手先を指定したい場合は、**+**をタップして次の相手先番号を入力します。

番号をまちがえたときは、**[C]**キーをタップしてまちがえた番号を消去し、入力し直してください。

番号の間にポーズ（待ち時間）を入力

構内交換機（PBX）経由で0発信するときの「0」のあとや、国際電話の国番号のあとなどに、ポーズ（待ち時間）を入力してダイヤルします。

1

【ポーズ】キーをタップする

【ポーズ】キーを1回タップすると、「-」（ハイフン）を入力します。



番号の間にポーズ（待ち時間）を入力したいときは

構内交換機（PBX）経由で0発信するときの「0」のあとや、国際電話の国番号のあとなどに、ポーズ（待ち時間）を入力してダイヤルします。

【ポーズ】キーは、相手先番号を入力すると数字キー（10キー）上に表示されます。

タップすると「-」（ハイフン）を入力します。



ポーズ（待ち時間）の長さを設定するには

Webページの **[システム設定]** → **[ファクス/イメージ送信設定]** → **[ファクス設定]** → **[基本設定]** → **[ポーズ時間の設定]** で設定します。



アドレス帳からの相手先番号呼び出し

アドレス帳画面で、登録されている相手先のワンタッチキーをタップして、相手先番号を呼び出します。(ワンタッチダイヤル)

ワンタッチキーに複数の相手先番号を登録しておいて、必要に応じてワンタッチで呼び出します。送受信する相手先が複数の場合に便利なダイヤル方法です。

ファクスモードで使用する相手先が登録されている場合、ワンタッチキーに相手先名と使用するモードをアイコンで表示します。

	ファクス
	複数の宛先が登録されているグループキー

- アドレス帳については、「[アドレス帳とは \(6-9ページ\)](#)」を参照してください。
- アドレス帳に宛先を登録する方法については、「[宛先の登録 \(5-20ページ\)](#)」、「[グループの登録 \(5-21ページ\)](#)」を参照してください。

1



【アドレス帳】 キーをタップする



2



相手先が含まれている連絡先またはグループのワンタッチキーをタップする

- リストに表示する宛先を、得意先、インデックスで絞り込むことができます。
- 宛先を追加したいときは、[+]キーをタップします。
- 2件以上選択または設定したときは、宛先の横に合計を表示します。
- 1件選択時であっても、複数の宛先が登録されている連絡先またはグループを選択した場合は、件数を表示します。詳しくは「[アドレス帳画面 \(6-9ページ\)](#)」を参照してください。



- **送信先をまちがって選択したときは**
もう一度キーをタップして強調表示を解除します。

- **相手先の指定を解除するときは**
宛先一覧画面で、解除したい宛先を選択して、[削除] キーをタップしてください。



- 送信履歴から宛先を選択するには、[送信履歴] キーをタップします。
[送信履歴からの再送信 \(5-18 ページ\)](#)
- 確定した宛先を確認したいときは、[宛先件数] キーをタップします。
[指定した相手先を一覧表示 \(5-16 ページ\)](#)
- 登録されている宛先をタップすると、送信時の宛先を選択できます。
- 宛先の中に利用権限の無い宛先が含まれている場合、[スタート] キーを押すとメッセージが表示され、[OK] キーを押した後に [送信確定] キーを押すと許可されている宛先にだけ送信します。
- 検索番号で検索して宛先を呼び出すには、[検索番号呼び出し] キーをタップします。
[送信履歴からの再送信 \(5-18 ページ\)](#)



指定した相手先を一覧表示

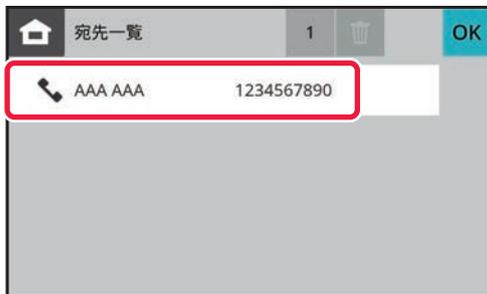
複数の相手先を指定したときに、相手先を一覧表示して確認します。また、必要に応じて指定した相手先を解除（選択からはずす）します。

1



[宛先件数] キーをタップする

2



相手先を確認する

確認が終わったら **OK** をタップします。

指定した宛先の削除

宛先を選択して  をタップします。



原稿を原稿台(ガラス面)にセットして、[スタート]キーをタップした場合、設定変更時に宛先を削除することはできません。



検索番号での相手先番号呼び出し

アドレス帳に登録されている相手先を、検索番号で呼び出します。

1



[アドレス帳]キーをタップし、[検索番号呼び出し]キーをタップする

2



数字キー（10キー）で検索番号（3桁）を入力し、**OK**をタップする

検索番号を入力すると、登録されている相手先を呼び出し、相手先に指定します。



検索番号をまちがえたときは

[C]キーをタップしてまちがえた番号を消去し、入力し直します。



- 検索番号は相手先をアドレス帳に登録するときに設定します。
- 検索番号が「001」や「011」の場合「0」の入力を省略できます。たとえば、「001」の場合は「1」を入力して**OK**をタップします。



送信履歴からの再送信

送信履歴から宛先を選択し、再送信します。

ファクスを送信した相手先番号は、最後に送信した相手先から10件記憶されており、選択して再送信します。



- 前回の通信中に数字キー（10キー）をタップしていた場合、正しく再ダイヤルできないことがあります。
- 以下のファクス宛先は、再送信できる宛先として記憶しません。
 - グループの宛先
 - 同報送信の宛先

1



[送信履歴] キーをタップする

2



再ダイヤルする相手先のキーをタップする

最後に送信した相手先から10件までを表示します。



再送信の設定を解除するときは
強調表示しているキーをタップします。



複数の番号をつなげて送信（チェーンダイヤル）

数字キー（10キー）やワンタッチキーで入力した番号をポーズで続けて入力し組み合わせで使用します。

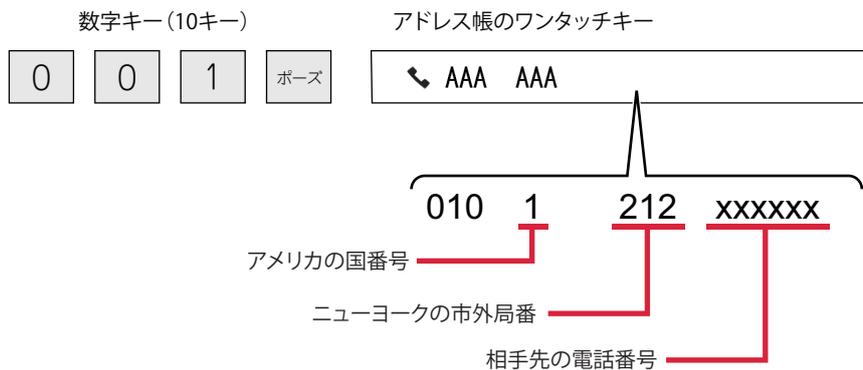
たとえば、国際電話を使用するとき国際電話サービス会社の識別番号（例：「001」）のあとにダイヤルする国番号（例：「81」（日本））との間に「ポーズ」キーをタップすることで、待ち時間を持たせて回線をつながりやすくすることができます。

待ち時間は、Webページの「システム設定」→「ファクス/イメージ送信設定」→「ファクス設定」→「基本設定」→「ポーズ時間の設定」で設定されている時間（秒）分入ります。1秒単位で1～15秒の間で設定します。

画面上では「-」（ハイフン）が表示されます。

また、「ポーズ時間の設定」で2秒の待ち時間が設定されている場合、「ポーズ」キーを3回タップすると、6秒の待ち時間が入ります。

例：海外の相手先にダイヤルする場合の入力方法



- 選択できる宛先は、ファクス宛先1件のみが登録されている宛先だけです。
- アドレス帳で宛先を選択したあと、テンキーで番号を入力する場合は「直接入力と連結する」を、アドレス帳の宛先を選択する場合は「アドレス帳と連結する」を選択してください。



アドレス帳の宛先登録

名前や宛先を直接入力して、アドレス帳に新規登録します。

宛先の登録

1 ホーム画面の[ファクス宛先登録] キー、メニューの [宛先登録] キー、またはアドレス帳画面の [宛先登録] アイコンをタップする

2 [連絡先登録] キーをタップする

3

基本情報を入力する

[名称] と [よみがな] は必ず入力します。
得意先に登録する場合は、[得意先にも登録する] チェックボックスを にします。

4

[ファクス番号] をタップして宛先を入力し、**OK** をタップする



E-mail、FTP、デスクトップ、共有フォルダーの宛先の登録は、「設定 (web版)」の [アドレス帳] から登録できます。

5

[登録] キーをタップする



グループの登録

「グループ」は、「連絡先」に登録済みの宛先を選択して登録します。この場合は、すでに登録されている宛先を参照するだけなので、アドレス帳の総登録数（最大300件）は増加しません。また、「グループ」に新しい宛先を直接入力することもできます。

1 ホーム画面の[ファクス宛先登録] キー、メニューの [宛先登録] キー、またはアドレス帳画面の [宛先登録] アイコンをタップする

2 [グループ登録] キーをタップする

3

[基本情報] タブをタップする

[名称] と [よみがな] は必ず入力します。
得意先に登録する場合は、[得意先にも登録する] チェックボックスを にします。

4

[宛先] タブをタップして、[アドレス帳] キーをタップする



「グループ」に新しい宛先を直接入力したいときは [ファクス番号] をタップします。

5

「グループ」に登録したい宛先をタップして、[追加] キーをタップする

宛先は複数選択できます。



6

手順3～5を繰り返して、宛先の登録が終了したら[登録]キーをタップする

宛先の編集

1

[宛先登録] キーをタップして [宛先編集] キーをタップする

選択できる連絡先、グループは1件のみです。複数選択すると、[編集] キーは表示されません。

2



編集したい宛先を選択する



ジョブ予約中の宛先の編集／削除はできません。

3



宛先を編集する

編集が終わったら [登録] キーをタップします。



宛先の削除

1

【宛先登録】キーをタップして【宛先削除】キーをタップする

2



削除したい宛先を選択する



ジョブ予約中の宛先の編集／削除はできません。

3



【確定】キーをタップする

4

削除する宛先を確認する

確認が終わったら【削除】キーをタップする



基本的な送信のしかた

基本的な送信のしかた

ファクスの送信方法

本機からファクスを送信する方法を紹介しています。お使いの状況に合わせて送信設定をする必要があります。
[送受信設定 \(5-11ページ\)](#)

大量のシート物原稿を送信するときは

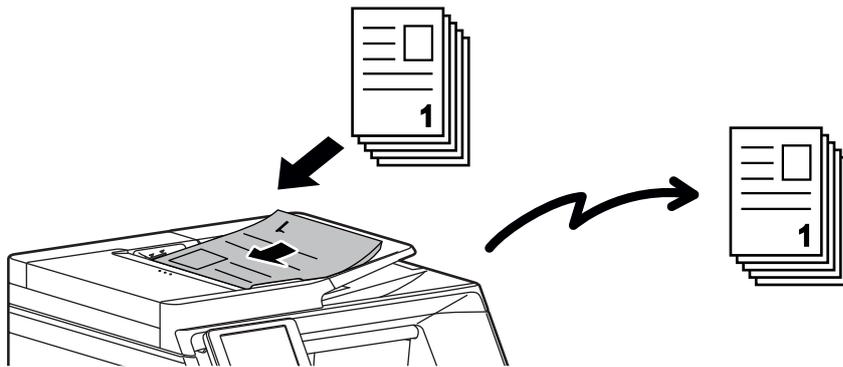
原稿自動送り装置を使います。

セットした原稿を本機のメモリーに読み込んでから送信します（メモリー送信）。

回線があいている状態で原稿を複数枚セットした場合、原稿の読み込みと並行して読み込みが終わったページから順番に送信していきます（クイックオンライン送信）。

回線が使用中ですぐに送信できないときは、原稿をすべて読み込んで送信予約します。

[原稿自動送り装置を使って送信 \(5-27ページ\)](#)



送信予約について

回線が使用中ですぐに送信できないときは、原稿をすべて読み込んで送信予約します。また、ファクスの送受信中に次の送信操作をすると、送信ジョブを予約することができます。予約した送信ジョブは、ジョブ状況画面を表示して確認します。

[ファクスのジョブについて \(5-57ページ\)](#)



- 1枚目の原稿を読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは、送信を中止します。

次のような場合、自動的に送信予約（メモリー送信）します。

- 相手先が話し中や通信エラーでつながらなかったときに、自動で再送信する設定を有効にしているとき
[通信エラーが発生したとき \(5-25ページ\)](#)
- 他のファクスが送受信中や電話中で本機の回線が使用中のとき
- 先に送信予約されているファクスがあるとき
- 次の機能を使用して送信しているとき
 - 順次同報送信、時刻指定通信
- 原稿台（ガラス面）を使用して送信しているとき（オンフックダイヤル時を除く）



クイックオンライン送信の設定を解除するには

Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [クイックオンライン送信] で設定します。

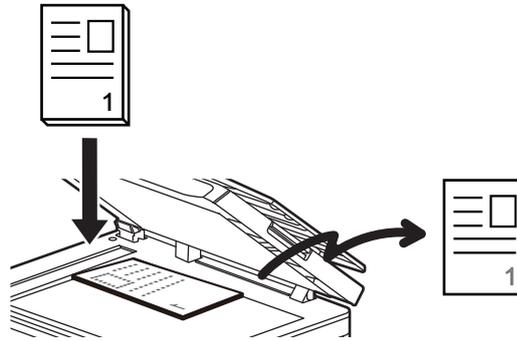
この機能を解除すると、手動送信した場合をのぞき、原稿をすべて読み込んだあとに送信操作をする（メモリー送信）ようになります。



厚手の原稿や本を送信するときは

原稿台（ガラス面）に原稿をセットします。

[原稿台（ガラス面）を使って送信（5-30ページ）](#)



- 原稿台（ガラス面）を使用して送信するときは、クイックオンライン送信がはたらきません。
- 原稿台（ガラス面）を使用する場合、複数枚の原稿を一度に読み込むことはできません。この場合は、複数回にわけて読み込むことができます。

送信予約されているファクスより先に送信したいときは

直接送信モードでファクスを送信します。セットした原稿をメモリーに読み込まないで、相手先に送信します。

直接送信モードで送信すると、現在通信中のファクスの次に割り込んで送信します。

メニューアイコンをタップし、[送受信設定] キーから直接送信に設定を変更する必要があります。

[原稿自動送り装置を使用して直接送信モードで送信（5-28ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）を使用して直接送信モードで送信（5-32ページ）](#)

相手が話し中のとき

送信した相手先が話し中だった場合、自動的に時間をあけて送信し直します。この機能はメモリー送信モードで送信した場合にはたらきます。直接送信モードや手動送信で送信した場合は送信をキャンセルします。時間をあけて送信しないおしてください。



送信を中止するときは

ジョブ状況画面から送信を中止します。

[ファクスのジョブについて（5-57ページ）](#)



相手先が話し中などで回線が接続できなかった場合に再コールする時間（間隔）と回数を設定するには

操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [宛先ビジー時の再コール設定] で設定します。
(Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [宛先ビジー時の再コール設定]) で設定します。

直接送信または手動送信したときは、設定していても再コールしません。

通信エラーが発生したとき

何らかのエラーが発生し、送信が正常に行われなかったときや相手側一定時間呼び出しても応答がなかった場合、自動的に時間を空けて送信し直します。この機能はメモリー送信モードで送信した場合にはたらきます。



直接送信または手動送信した場合は自動的に送信し直しません。



送信を中止するときは

ジョブ状況画面から送信を中止します。

[実行中のジョブを中止（5-57ページ）](#)



- 何らかのエラーで正常に送信できなかった場合に再コールする時間（間隔）と回数を設定するには
操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [通信エラー時の再コール設定] (Web ページの場合は、[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [通信エラー時の再コール設定]) で設定します。
- エラー時の再コール回数
相手機がエラー時に再コールするかどうかを設定します。また再コールするときは再コールする回数を設定します。設定できる回数は 1 ~ 15 回です。
- エラー時の再コール間隔
再コールする間隔を設定します。設定できる時間は 1 ~ 15 分です。

ファクス宛先確認機能

ファクス送信をするときに宛先確認のメッセージを表示することでファクスの誤送信を防止します。設定モードで設定します。この機能が設定されている場合にファクス送信をすると、[スタート]キーをタップしたあと（[ファクス宛先直接入力時は宛先を再入力する]有効時は直接入力を再入力後）、宛先一覧画面が表示されます。表示されている宛先を確認したあと、[OK]キーをタップし、[送信確定]キーをタップして、送信を開始します。



「ファクス宛先確認機能」が設定されている場合に [オンフック] キーをタップしたあと、[アドレス帳]キー、[送信履歴]キー、[直接入力]キーで宛先を指定できません。ただし、電話からの発信はできます。



ファクス送信時に宛先確認のメッセージを表示するには

Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [ファクス宛先確認機能] で設定します。

数字キー（10キー）で宛先を指定した場合

「ファクス宛先確認機能」が有効で、「ファクス宛先直接入力時は宛先を再入力する」が有効のとき

[OK] キーをタップすると、再入力要求メッセージを表示します。

数字キー（10キー）で宛先を再入力して [OK] キーをタップします。

再入力した宛先が正しい場合は、[+]キーをタップすると次の宛先の直接入力ができ、[OK] キーをタップすると基本画面に戻ります。

再入力した宛先が正しくない場合はメッセージが表示されるので、[OK] キーをタップしてから再入力します。[スタート] キーをタップすると、宛先確認画面に入力した宛先を表示します。宛先が正しいか確認して [送信確定] キーをタップすると、原稿の読み込みを開始します。

「ファクス宛先確認機能」が有効で、「ファクス宛先直接入力時は宛先を再入力する」が無効のとき

[スタート] キーをタップすると、宛先確認画面に入力した宛先を表示します。宛先が正しいか確認して [送信確定] キーをタップすると、原稿の読み込みを開始します。



- 数字キー（10キー）での連続入力もできます。その場合は **+** をタップして追加する宛先番号を入力します。
- チェーンダイヤルで入力した場合は、確認のときも [ポーズ] キーをタップして「-」を入力します。
- [送信確定] キーをタップする前なら、読み込み設定やその他の設定の変更ができます。



直接入力時の再入力をする / しないを設定するには

Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [ファクス宛先確認機能] → [ファクス宛先直接入力時は宛先を再入力する] で設定します。

送信履歴から再送信した場合

前回送信したときに宛先を指定した方法に従って、確認の画面を表示します。



ファクスの送信

原稿自動送り装置を使って送信

読み込んだ原稿を本機のメモリーに保存してから送信することを「メモリー送信」と言います。ここでは、原稿自動送り装置で原稿を読み込んで、メモリー送信する方法について説明します。



- 原稿自動送り装置にセットできない原稿や厚手の原稿などは、原稿自動送り装置を開いて原稿台（ガラス面）にセットしてください。
- 送信操作をしたときに送受信中のファクスがあった場合、送受信中のファクスが終了してから送信します。
- 原稿の読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは、メッセージを表示して原稿の読み込みを中止します。クイックオンライン送信が設定されている場合は読み込みが済んでいる原稿が送信されます。



クイックオンライン送信の設定を解除するには

Web ページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [クイックオンライン送信] で解除します。

原稿をすべて読み込んだあとに送信操作（メモリー送信）をするようになります。

原稿を読み込むときの終了音を設定するには

操作パネルから [システム設定] → [共通設定] → [オーディオ設定] → [報知音設定（共通）] → [原稿読み込み終了音（スキャン/ファクス）] で設定します。

1

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットする

[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

2

相手先番号を指定する

- [数字キー（10キー）で相手先番号を入力 \(5-13ページ\)](#)
- [アドレス帳からの相手先番号呼び出し \(5-14ページ\)](#)
- [検索番号での相手先番号呼び出し \(5-17ページ\)](#)
- [送信履歴からの再送信 \(5-18ページ\)](#)

3

【スタート】 キーをタップして、ファクス送信を開始する

原稿の読み込みが正常に終了すると「ピー」音が鳴ります。



原稿の読み込みが終了すると、「予約しました。」のメッセージを表示します。通信結果表や通信管理表に記録されていますので、確認時に利用できます。

[通信記録表のプリント \(5-61ページ\)](#)



読み込みを中止するには

[読み込み中止] キーをタップします。



原稿自動送り装置を使用して直接送信モードで送信

読み込んだ原稿を本機のメモリーに保存せずに送信することを「直接送信」と言います。
ここでは、原稿自動送り装置で原稿を読み込んで、直接送信する方法について説明します。



原稿自動送り装置にセットできない原稿や厚手の原稿などは、原稿自動送り装置を開いて原稿台（ガラス面）にセットしてください。



- 直接送信では次の機能が使用できません。
時刻指定、両面原稿読み込み、オンフックダイヤル
- 通信エラーなどで送信ができなかった場合でも再コールしません。
- 送信操作をしたときに通信中のファクスがあった場合、その通信が終わるまでそのまま待機します。通信が終わると送信を開始します。
- 送信を待機している間、ジョブ状況表示部をタップしてジョブ状況画面を表示します。それ以外の操作はできません。
[ファクスのジョブについて \(5-57ページ\)](#)

1

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台にセットする

[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

2



[送受信設定]から[直接送信]を選択する

[送受信設定 \(5-11ページ\)](#)

3

相手先番号を指定する

- [数字キー（10キー）で相手先番号を入力 \(5-13ページ\)](#)
- [アドレス帳からの相手先番号呼び出し \(5-14ページ\)](#)
- [検索番号での相手先番号呼び出し \(5-17ページ\)](#)
- [送信履歴からの再送信 \(5-18ページ\)](#)



指定できる相手先は1件のみです。複数の相手先が登録されているワンタッチキーは使用できません。

4

[スタート] キーをタップして、ファクス送信を開始する



送信操作をしたときに通信中のファクスがあった場合、その通信が終わるまでそのまま待機します。通信が終わると送信を開始します。

送信を待機している間は、ジョブ状況の確認以外の操作はできません。

[ファクスのジョブについて \(5-57ページ\)](#)



読み込みを中止するには
[読み込み中止] キーをタップします。



原稿台（ガラス面）を使って送信

読み込んだ原稿を本機のメモリーに保存してから送信することを「メモリー送信」と言います。
ここでは、原稿台（ガラス面）で原稿を読み込んで、メモリー送信する方法について説明します。



- 送信操作をしたときに送受信中のファクスがあった場合、その送信は予約されて送受信中のファクスが終了してから送信します。
- 原稿を読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは、メッセージを表示して送信を中止します。

1

原稿を原稿台（ガラス面）にセットする

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



複数枚の原稿を送信する場合、先頭ページから順にセットします。

2

相手先番号を指定する

- [数字キー（10キー）で相手先番号を入力（5-13ページ）](#)
- [アドレス帳からの相手先番号呼び出し（5-14ページ）](#)
- [検索番号での相手先番号呼び出し（5-17ページ）](#)
- [送信履歴からの再送信（5-18ページ）](#)

3

【スタート】キーをタップする

原稿の読み込みが始まります。

4

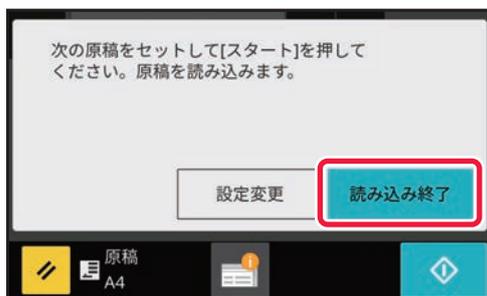
次の原稿と入れ替えて、【スタート】キーをタップする

送信する原稿をすべて読み込むまで、この操作を繰り返します。



約1分間この操作を行わないと、自動的に読み込みを終了し送信予約します。

5



【読み込み終了】キーをタップする

「ピー」音が鳴ります。
原稿自動送り装置を開いて原稿を取り出します。



原稿の読み込みを中止するには

【読み込み終了】キーをタップする前に、【リセット】キーをタップして中止します。



- 原稿の読み込みが終了すると「予約しました。」のメッセージを表示します。
- 確認画面を表示してから約1分間この操作を行わないと、自動的に読み込みを終了し送信予約します。
- 必要に応じて〔設定変更〕キーをタップし、読み込む原稿ごとに濃度や画質、読み込みサイズ/送信サイズを変更します。



送信を中止するときは

〔読み込み終了〕キーをタップする前に、〔リセット〕キーをタップして中止します。



原稿台（ガラス面）を使用して直接送信モードで送信

読み込んだ原稿を本機のメモリーに保存せずに送信することを「直接送信」と言います。
ここでは、原稿台（ガラス面）で原稿を読み込んで、直接送信する方法について説明します。
直接送信モードで原稿台（ガラス面）から送信できる原稿は1回に1枚です。



- 直接送信では次の機能が使用できません。
時刻指定、両面原稿読み込み、オンフックダイヤル
- 通信エラーなどで送信ができなかった場合でも再コールしません。
- 送信操作をしたときに通信中のファクスがあった場合、その通信が終わるまでそのまま待機します。通信が終わると送信を開始します。
- 送信を待機している間、ジョブ状況表示部をタップしてジョブ状況画面を表示します。それ以外の操作はできません。
[ファクスのジョブについて（5-57ページ）](#)
- [プレビュー] キーを使用しての送信はできません。

1

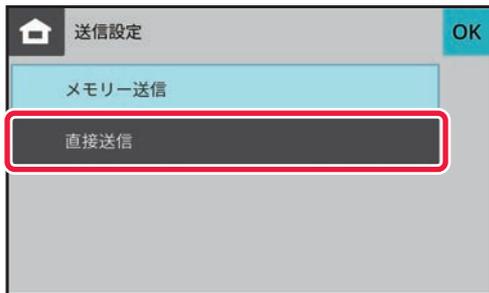
原稿を原稿台（ガラス面）にセットする

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



複数枚の原稿を送信する場合、先頭ページから順にセットします。

2



[送受信設定]から[直接送信]を選択する
[送受信設定（5-11ページ）](#)

3

相手先番号を指定する

- [数字キー（10キー）で相手先番号を入力（5-13ページ）](#)
- [アドレス帳からの相手先番号呼び出し（5-14ページ）](#)
- [検索番号での相手先番号呼び出し（5-17ページ）](#)
- [送信履歴からの再送信（5-18ページ）](#)



指定できる相手先は1件のみです。複数の相手先が登録されているワンタッチキーは使用できません。



4

【スタート】 キーをタップして、ファクス送信を開始する

相手先とつながったら、原稿の読み込みを開始します。



送信操作をしたときに通信中のファクスがあった場合、その通信が終わるまでそのまま待機します。通信が終わると送信を開始します。

送信を待機している間は、ジョブ状況の確認以外の操作はできません。



読み込みを中止するには

〔読み込み中止〕 キーをタップします。



オンフックダイヤルで送信

相手先にダイヤルして回線を接続してから原稿を送信します。



- 相手先に接続すると、相手側の声は聞こえますがこちらから話すことはできません。
- オンフックダイヤルでは原稿をメモリーに読み込まないで送信します。
- 複数の相手先が登録されている、またはファクス以外の相手先が含まれているワンタッチキーは使用できません。

1

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2



【オンフック】キーをタップする

回線が接続されると、「ツーン」という発信音が本機のスピーカーから聞こえます。



【オンフック】キーをタップしたあとに、キーをタップすると表示されるスピーカーから聞こえる音の音量を調節できます。

3

相手先番号を指定する

- [数字キー（10キー）で相手先番号を入力（5-13ページ）](#)
- [アドレス帳からの相手先番号呼び出し（5-14ページ）](#)
- [検索番号での相手先番号呼び出し（5-17ページ）](#)
- [送信履歴からの再送信（5-18ページ）](#)

4

相手先につながったら【スタート】キーをタップして、送信を開始する



送信を中止するときは

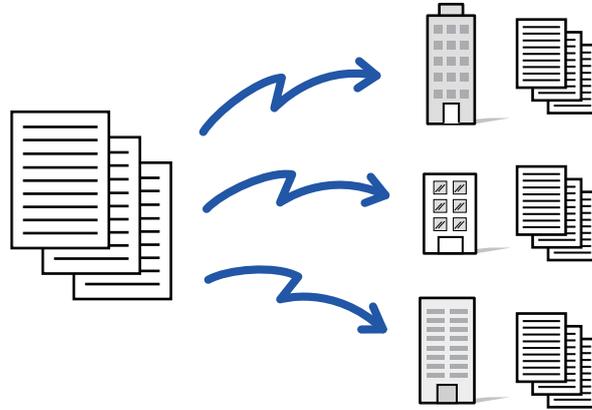
【中止】キーをタップすると送信を中止します。



複数の相手に同じ原稿をまとめて送信（順次同報送信）

報告書を各地の支店に送信する場合など、1回の操作で複数の相手先に原稿を送信することができます。これを「順次同報送信」と言います。

1回の操作で、予約中の送信を含めて最大100局まで送信できます。（たとえば、70宛先の順次同報送信がすでに予約されていたら、30件までの順次同報送信ができます。）



順次同報送信でよく送信する相手先は、あらかじめ連絡先またはグループとして登録しておく便利です。1つの連絡先には最大100件の宛先を登録できます。

順次同報送信時、連絡先またはグループのキーをタップするだけで複数の相手先を呼び出すことができます。

[アドレス帳の宛先登録（5-20ページ）](#)



「時刻指定通信」と組み合わせて、夜間など任意の時刻に順次同報送信します。
また、その他の便利な機能を組み合わせて原稿を送信することもできます。

1

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2

すべての相手先を指定する

• [数字キー（10キー）で相手先番号を入力（5-13ページ）](#)

• [検索番号での相手先番号呼び出し（5-17ページ）](#)



数字キー（10キー）で宛先を入力したあと、続けて次の宛先を数字キー（10キー）で入力するときは、次の宛先を入力する前に **+** をタップします。

ワンタッチキーで入力した宛先の前後では、**+** の入力を省略できます。

操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [宛先を追加する前に必ず次宛先（[+]）キーを押す]（Webページの場合は、[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [共通設定] → [基本設定] → [宛先を追加する前に必ず次宛先（[+]）キーを押す]）が設定されているときは、次の送信先を指定する前に **+** をタップします。

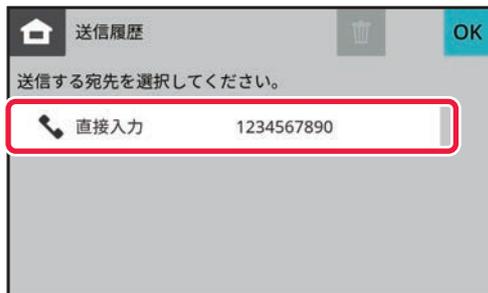


3



【宛先件数】 キーをタップする

4



相手先を確認する

5

【スタート】 キーをタップして、原稿の読み込みを開始する

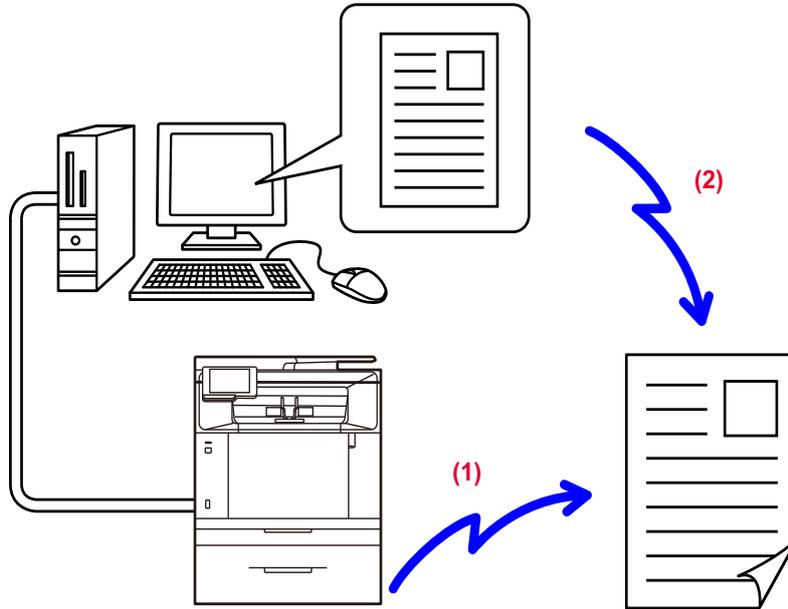
- 原稿セット台に原稿をセットしたときは、セットしている原稿をすべて読み込みます。「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。
- 原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたときは、原稿を1枚ずつ読み込みます。セットした原稿の読み込みが終了したら、次の原稿と入れ替えて【スタート】キーをタップします。繰り返し操作してすべての原稿の読み込みが終了したら【読み込み終了】キーをタップします。「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。



コンピューターのデータをファクス送信 (PC-Fax)

コンピューター上のデータを、本機を経由してファクス送信します (PC-Fax機能)。PC-Fax機能を利用したファクス送信は、プリントと同様に操作します。お使いのコンピューターのプリンタードライバーをPC-Faxドライバーに切り替えてプリント操作をすると、送信用の画像データが生成され、ファクス送信します。

また、専用のアプリケーションである「ログビューア」を使用すると、ログビューアで表示された送信ログを元にファクス送信ができます。



(1) PC-Fax送信

(2) ログビューア送信ログを元に再送信

操作方法については、PC-Faxドライバーのヘルプを参照してください。



- PC-Fax 機能を利用してファクス送信するには、PC-Fax ドライバーをインストールする必要があります。詳しくは、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- この機能は、お使いのコンピューターが、Windows®環境の場合のみ使用できます。



この機能では送信だけができます。本機がファクス受信したデータを、接続されているコンピューター上で受信できません。



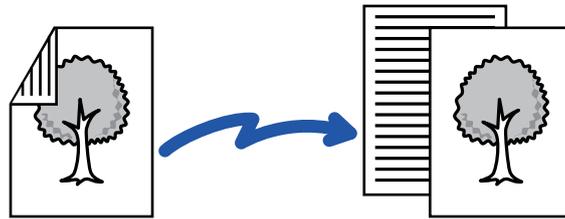
送信履歴を削除する

送信履歴画面から、送信履歴を確認することができます。
送信履歴から選択した宛先を削除できます。
[ファクスのジョブについて \(5-57ページ\)](#)

原稿の読み込み設定

原稿の表裏自動読み込み（両面原稿）

原稿自動送り装置を使用して自動的に原稿の表裏を読み込みます。
例：両面原稿を読み込み、表と裏の2ページで送信します。

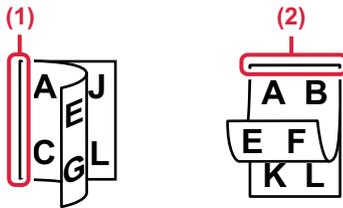


- 直接送信時またはオンフック送信時は、両面原稿読み込みはできません。
- 原稿サイズが長尺のときは、両面原稿読み込みはできません。



両面原稿読み込みは、設定したファクスの送信操作が終了すると解除します。

1



【原稿】 キーをタップして、【両面よことじ】 キーまたは【両面たてとじ】 キーをタップする

図を参考に、原稿のと同じ位置を確認してタップするキーを選択します。

- (1) 横とじ
- (2) 縦とじ

2



セットした原稿の画像と同じ向きの【画像の向き】 キーをタップする

この設定が正しくないと、適切な画像を送信しないことがあります。

設定が終わったら **OK** をタップします。



原稿の読み込みサイズを用紙サイズで指定

手動で原稿サイズを指定します。

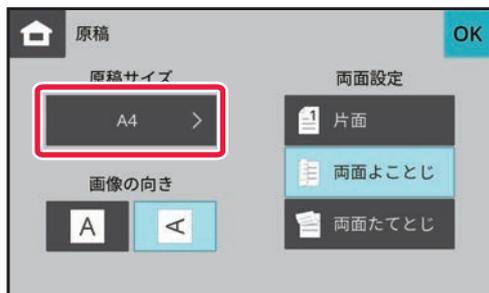


[長尺] を選択したときは両面読み込み設定や送信サイズの変更はできません。

1

[原稿] キーをタップする

2



[原稿サイズ]キーをタップする

3



原稿サイズのキーをタップする

設定が終わったら **OK** をタップします。



長い原稿（長尺原稿）を送信するときは、[長尺] キーをタップします。
長尺原稿は原稿自動送り装置を使用して読み込みます。最長500mmまで（縦幅は216mm以内）読み込みます。



原稿の濃度を変更

原稿の濃さに合わせて、送信原稿の濃度を変更します。



原稿自動送り装置を使用している場合、原稿読み込み中に濃度を変更できません。

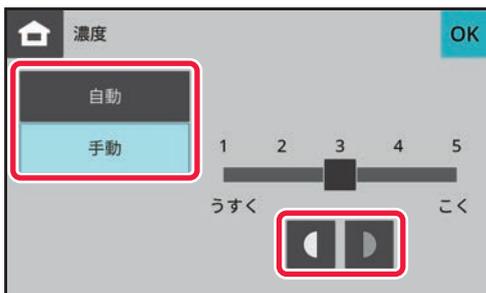
濃度の選択のしかた

濃度		選択のしかた
自動		原稿の濃淡に合わせて、自動的に濃度調整します。
手動	1～2	全体に濃い文字で書かれている原稿のときに選択します。
	3	普通の濃さの原稿のときに選択します。
	4～5	全体に淡い文字で書かれている原稿のときに選択します。

1

【濃度】 キーをタップして 【手動】 キーをタップする

2



◀ ▶ で濃度を調整する
調整が終わったら **OK** をタップします。



【自動】 を選択すると、濃度は 【3】 に設定します



原稿の画質を変更

文字の大きさ、色の濃さ、写真の有無など、原稿の種類に合わせて画質を変更します。

画質の選択のしかた

画質	選択のしかた
普通字	通常の大きさの文字（本書程度）の原稿の場合に選択します。
小さな字	小さな文字や細かな図が描かれている原稿の場合に選択します。 [普通字] の2倍の密度で読み込みます。
精細	複雑な絵やイラストなどを含む原稿の場合に選択します。 [小さな字] よりもきれいな画質で送信します。
高精細	複雑な絵やイラストなどを含む原稿の場合に選択します。 もっともきれいな画質で送信します。他の画質に比べて、やや送信時間がかかります。
中間調	写真や色に濃淡のある原稿（カラー原稿など）の場合に選択します。 [小さな字] [精細] [高精細] 単独よりも、さらに鮮明に送信します。 [普通字] を選択したときは中間調を設定できません。



- 原稿自動送り装置を使用している場合、原稿読み込み途中に画質を切り替えできません。
- 送信側で画質を [高精細] [精細] [小さな字] に設定しても、受信するファクスの機種によって画質が低下することがあります。

1

[画質] キーをタップする

2



設定する画質のキーをタップする

写真や色に濃淡のある原稿（カラー原稿など）の場合、「小さな字」「精細」「高精細」単独よりも、さらに鮮明に送信したいとき、[中間調にする] チェックボックスを にします。

「普通字」を選択したときは、設定できません。
設定が終わったら **OK** をタップします。



ファクスの受信について

ファクスの受信

ファクスを自動で受信

本機でファクスを受信するときは、ファクス受信モードを「自動受信」でお使いいただくとファクスを自動的に受信してプリントします。



- 受信中でもメモリー送信モードで送信の操作で、送信予約します。
[ファクスの送信方法 \(5-24 ページ\)](#)
- インフォメーションランプはファクスの受信を開始してからプリントが完了するまで青色に点滅しています。
- 受信したファクスをプリントするために本機用の紙トレイに必要な用紙をセットしておきます。
A4 サイズより小さな原稿を受信したとき、プリントする用紙サイズは送信側の原稿セット方向（縦向き／横向き）によって異なります。
- 受信したデータをプリントするときに、コピー機能やプリンター機能などのプリントジョブが実行中の場合、先に予約されているジョブが終了してから受信したデータをプリントします。
- 用紙やトナーが切れた場合、または紙づまりなどで本機がプリントできない状態になっている場合、受信したデータはプリントしません。本機がプリントできる状態になると自動的に受信データをプリントします。（ただし、用紙がなくなったときは用紙を補給後、タッチパネルの **OK** キーをタップします。）
- ファクスの受信モードは、受信設定画面で現在の受信モードを確認できます。



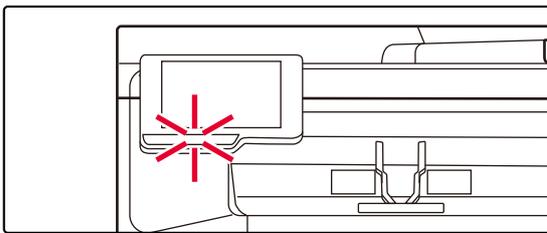
自動受信と手動受信を切り替えるには

受信設定で設定します。

[受信方法を設定する場合 \(5-12 ページ\)](#)

【留守接続】は留守番電話機を外部電話機として接続しているときに設定します。

1

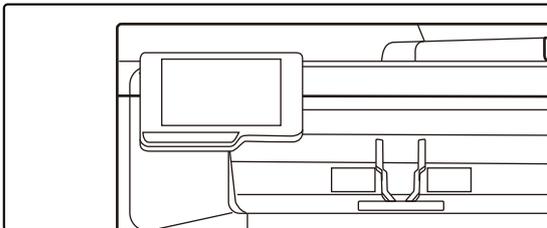


呼出音が鳴り、自動的に受信を開始する

受信が始まるとインフォメーションランプが青色に点滅します。

受信が終わると「ピー」音が鳴ります。

2



自動的にプリントする

プリントが終わるとインフォメーションランプが消灯します。



ファクスを手動で受信

送信されてきたファクスをタッチパネルの操作（手動）で受信します。



自動受信と手動受信を切り替えるには
受信設定で設定します。

[受信方法を設定する場合 \(5-12ページ\)](#)

[留守接続] は留守番電話機を外部電話機として接続しているときに設定します。

1

電話が鳴っている間に [オンフック] キーをタップする

[オンフック] キーをタップすると、[手動受信] キーと  キーを表示します。

[基本画面 \(5-6ページ\)](#)



 キーをタップするとスピーカーから聞こえる音の音量を調節できます。

2



[手動受信] を選択し、ファクスを受信する

プリントが終わるとインフォメーションランプが消灯します。



受信データのプリント

受信データをプリント（受信データ印字ホールド）

受信データをプリントせずにメモリーに保存し、プリントするように設定します。



受信データ印字ホールドを設定するには

操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [受信データ印字ホールド設定]（Webページの場合は、[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [共通設定] → [基本設定] → [受信データ印字ホールド設定]）で設定します。

これらの設定は、本機のメモリー内に受信データが残っていないときに変更します。

本機能を使用する場合のご注意

ファクス受信データをプリントや削除せず残したままにしておくとファクスメモリーが残り少なくなり、それ以降、ファクスの受信ができなくなります。この機能をご使用の場合は、ファクスメモリーに受信データを残したままにせずに、早めにプリントしてください。



受信データは、自動受信、手動受信にかかわらずメモリーに保存します。



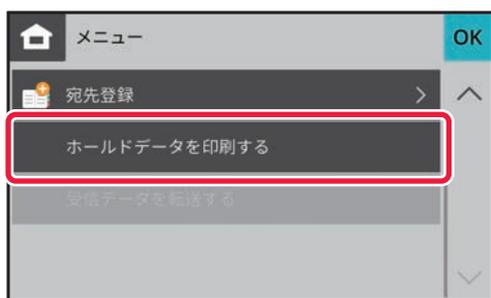
受信データの転送先の設定は

Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [受信設定] → [受信データ転送先電話番号登録] で設定します。

1

[メニュー] アイコンをタップする

2



[ホールドデータを印刷する]キーをタップする

3

メッセージが表示されるので、[印刷する]キーをタップする



中止したいときは

[キャンセル]キーをタップしてください。



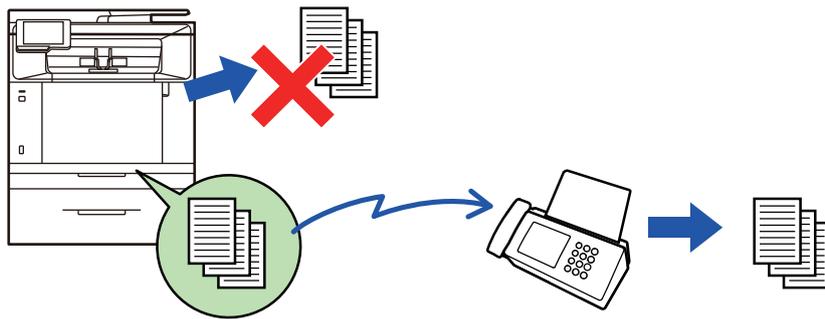
- すべての受信データを印刷します。特定の受信データを印刷することはできません。
- 印刷中にファクスを受信したときは、次回の印刷にそのデータを印刷します。



受信データの転送

受信したファクスデータの手動転送（受信/転送設定（手動））

本機が用紙切れやトナー切れなどでプリントできなくなったときに、受信したデータをあらかじめ登録されている他のファクスに転送します。あらかじめ、設定モードの[受信設定 (8-51ページ)]で転送先を登録してください。受信データが本機にある場合、インフォメーションランプが青色に点滅します。オフィスなどで電話回線が2回線以上あり、本機と異なる回線にファクスが接続されている場合に便利です。



- プリント中の受信データを転送する場合はプリントできなかったページ以降を転送します。
- 転送したファクスはファクス送信ジョブとなります。送信の中止やエラーなどで送信が中止されると本機の受信データとなりプリント待ちになります。
- 受信転送では受信されているデータをすべて転送します。

1

インフォメーションランプが青色に点滅しているのを確認する

2

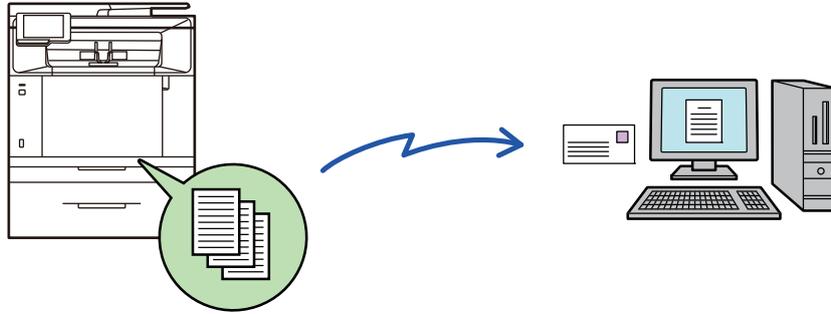
[メニュー]アイコンをタップして、[受信データを転送する]キーをタップする

転送完了後、本機のメモリーに保持している受信データは削除されます。



受信したデータを設定した送信先へ転送（受信データの転送設定）

ファクスの受信データを、ファクス宛先に自動的に転送します。受信データをプリントせずに、指定した宛先へ転送します。



Webページのシステム設定で受信データの転送設定をします。

ここでの説明は、管理者権限でWebページのシステム設定にアクセスしていることを前提にしています。



転送テーブルごとに転送するかどうかを設定できます。Webページの「システム設定」→「ファクス/イメージ送信設定」→「受信データの転送設定」で、転送テーブル名をクリックし、転送テーブルの「転送条件」を「転送しない」または、「常に転送する」を選択して切り替えます。



携帯電話を転送先に指定する場合は、携帯電話の種類によっては正しく転送しない場合がありますので、受信データが携帯電話に届き、正しく表示できることを事前に確認していただくことをお勧めします。

1

Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [受信データの転送設定] → [管理設定] をクリックする

2

「受信データの転送」で [有効] を選択して [登録] ボタンをクリックする



受信データを転送するとき、本機でプリントをするかどうかを [受信データのプリント設定] で設定します。設定が終わったら必ず [登録] ボタンをクリックしてください。

- [常にプリント]：受信データを常にプリントしてから転送します。
- [エラー時のみプリント]：何らかのエラーによって転送できなかったときのみ受信データをプリントします。

3

Webページの [受信データの転送設定] メニューにある [転送テーブル名] をクリックする



4

転送の対象となる送信元を選択する

- 受信したすべてのデータを転送する場合は、[すべての受信データを転送する] を選択します。
- 特定のアドレスからの受信データのみを転送する場合は、[指定した送信元からの受信データのみ転送する] を選択し、対象となる送信元をリストから選択して [追加] ボタンをクリックします。



送信元番号として、ファクス番号を直接入力するか [追加 (アドレス帳から選択)] をクリックして、選択します。

5

転送条件を選択する

受信データを常に転送する場合は、[常に転送する] を選択します。

6

アドレス帳から転送先を追加する場合は、[追加 (アドレス帳から選択)] をクリックする

本機のアドレス帳から登録されているアドレスを複数指定します。
転送先は、最大5件登録できます。

7

転送先を直接入力する場合は、[追加(直接入力)] をクリックする

- 必要に応じて指定します。
- E-mailアドレスを直接入力し、[追加] キーをタップします。



携帯電話を転送先に指定する場合は、データのバックアップ用として、本手順の [転送先の設定] で携帯電話以外の他の宛先を追加で指定するか、[受信データのプリント設定] で [常にプリント] を選択することをお勧めします。



その他の機能について

送信操作を登録して使用（プログラム）

さまざまな設定を1つにまとめ、プログラムとして登録できます。登録したプログラムは、簡単な操作で呼び出しが可能です。下記の設定がプログラムで登録可能です。

- 宛先設定
- 原稿
- 画質
- 濃度
- 時刻指定



- 登録したプログラムは、送信を行ったあとでも登録内容を消去しません。同じ登録内容で繰り返し送信できます。
- プログラムに登録できない内容は次のとおりです。
 - [オンフック] キーのタップ
- プログラムは8件まで登録できます。
- プログラム1件に送信先は100件まで登録できます。

1

原稿をセットする

プログラムに登録している機能に応じて、原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）に原稿をセットします。

- [原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)
- [原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2

【プログラム呼び出し】をタップする

3



実行するプログラムのキーをタップする

4

必要に応じて、追加設定をする



- 呼び出したプログラムの内容によっては、追加できない設定があります。
- 直接送信の設定時で、プログラムに直接送信ができない設定が登録されている場合、メモリー送信に切り替える画面が表示されます。メモリー送信で設定する場合は、[OK]キーをタップしてください。



5

【スタート】 キーをタップして、原稿の読み込みを開始する

原稿自動送り装置に原稿をセットしたときは、セットしている原稿をすべて読み込みます。
原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたときは、次の原稿を続けて読み込ませます。
最後の原稿読み込みが終了したら「読み込み終了」キーをタップします。
「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。



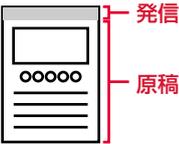
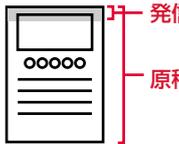
発信元、送信元に関する機能

基本画面から設定する方法で説明します。

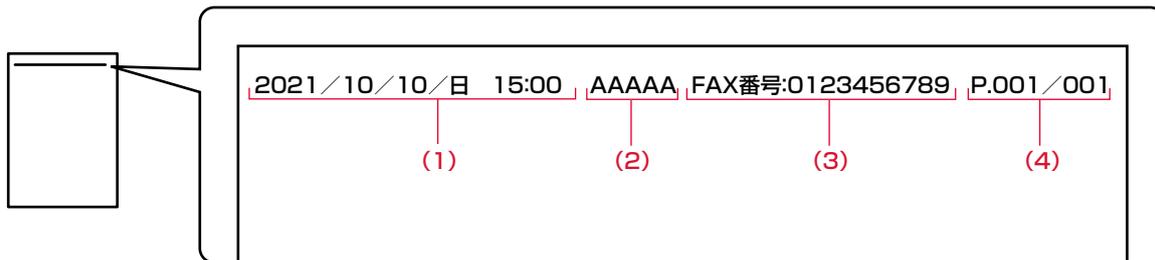
[基本画面 \(5-6ページ\)](#)

発信元情報を付けて送信（ファクス発信元印字）

送信原稿の端部に発信元情報（日付、時刻、発信元名、発信元番号、送信ページ数）を付けて送信します。工場出荷時の設定では、発信元情報を常に付けて送信するように設定しています。

読み込みデータ外(工場出荷時)	読み込みデータ内
 <p>発信元情報+原稿の長さで送信されます。相手機でプリントするときに、縮小または分割される場合があります。</p>	 <p>発信元情報が原稿内に印字されるので、原稿の長さで送信されます。発信元情報と重なる原稿部分は欠けてしまいますのでご注意ください。</p>

発信元情報のプリント例



- (1) 日付・時刻：送信時の日付と時間
- (2) 発信元名：本機の発信元名
- (3) 発信元番号
- (4) 送信ページ数：送信ページ数／総ページ数（総ページ数はメモリー送信時の場合のみ）



- **日付・時刻を設定するには**
操作パネルまたは Web ページの [システム設定] → [共通設定] → [デバイス設定] → [日付 / 時刻設定] で設定します。
- **発信元名、発信元番号を登録するには**
操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [発信元登録] (Web ページの場合は、「設定 (管理者)」の [システム設定] → [ファクス / イメージ送信設定] → [基本設定] → [発信元登録]) で登録します。
- 発信元印字を使用する場合は、必ず登録します。発信元情報を付けないように設定して順次同報送信をすると、すべての相手先に発信元情報を付けずに送信します。



特定の使いかたを想定した機能

通信結果表のプリント設定を変更して送信（通信結果表）

通信に失敗したときに、自動的に通信結果をプリントします。

通信結果表には、通信の内容（日付、開始時刻、相手先名、所要時間、枚数、通信結果など）をプリントします。

[通信結果欄の内容（5-61ページ）](#)



システム設定で設定された条件に従って通信結果表をプリントします。



通信結果表のプリントする条件を設定するには

Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [通信結果表プリント設定] で登録します。

通信結果表の送信画像について

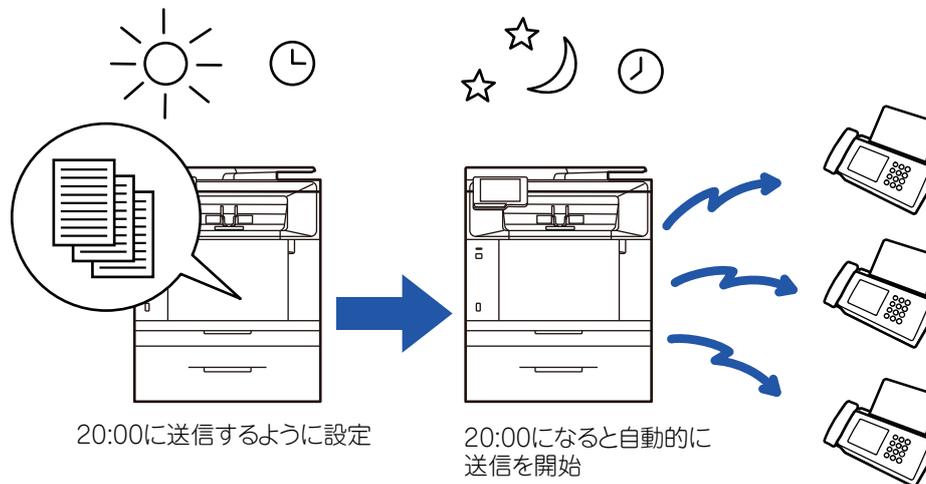
[送信原稿内容をプリントする] が有効のときに、原稿内容の最初の1ページを通信結果表と同じ用紙にプリントします。ただし、長尺原稿など原稿の副走査長（X方向）が432mmより長い場合は、432mm以降の画像イメージが欠ける場合があります。



時刻を決めて送信（時刻指定送信）

送信や順次同報送信に時刻を指定し、自動的に送信します。指定した時刻になると自動的に送信を開始します。不在時や通信料金が安い夜間に、送信予約や順次同報送信などの通信をするときに便利です。

例：原稿を読み込み、20：00に送信するように設定すると、読み込んだデータはすぐに送信されず、20：00になると自動的に送信を開始します。



- 時刻指定送信を使用するときは、電源を切らずに、節電モードにしてください。
- 時刻指定送信では、あらかじめ原稿を読み込んで本機のメモリー内に記憶しておく必要があります。原稿を原稿セット台または原稿台（ガラス面）にセットし、送信予約した時刻に読み込ませることはできません。
- 時刻指定できる送信は50件までです。
- この機能は、直接送信モードやオンフックダイヤルでは使用できません。



- 時刻指定送信で設定した内容（濃度、解像度、他の機能など）は、送信後自動的に消去します。
- 指定した時刻に他の送信が実行中の場合、その送信が終了してから時刻指定した送信を開始します。
- 最長1週間先までの時刻を指定します。
- 時刻指定送信を設定したあとは通常どおり送信します。

1 原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2 送信先を指定する

[数字キー（10キー）で相手先番号を入力（5-13ページ）](#)

[アドレス帳からの相手先番号呼び出し（5-14ページ）](#)

[検索番号での相手先番号呼び出し（5-17ページ）](#)

[送信履歴からの再送信（5-18ページ）](#)

3 [その他の機能] キーをタップして、[時刻指定] キーをタップする



4

[On] をタップする

5



時刻を指定する

6

24時間制で時刻（時、分）を指定する

設定が終わったら **OK** をタップします。



時、分それぞれの表示部をタップして、数字キー（10キー）で数値を入力します。

時間を細かく調整するときは **- +** を使うと便利です。

設定値には現在時刻を表示します。時刻が異なっているときは [リセット] キーを押して操作を中止し、設定モードで時刻を修正してから操作をします。



時刻指定送信を解除するときは

[Off] キーをタップします。



本機の日付・時刻を設定するには

操作パネルとWebページの [システム設定] → [共通設定] → [デバイス設定] → [日付/時刻設定] で設定します。

7

[スタート] キーをタップして、原稿の読み取りを開始する

- 原稿セット台に原稿をセットしたときは、セットしている原稿をすべて読み込みます。「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信待機状態になります。
- 原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたときは、原稿を1枚ずつ読み込みます。セットした原稿の読み込みが終了したら、次の原稿と入れ替えて [スタート] キーをタップします。繰り返し操作してすべての原稿の読み込みが終了したら、[読み込み終了] キーをタップします。「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信待機状態になります。



セットした原稿はメモリーに読み込みます。指定時刻に読み込むことはできません。



外部電話機を使用する

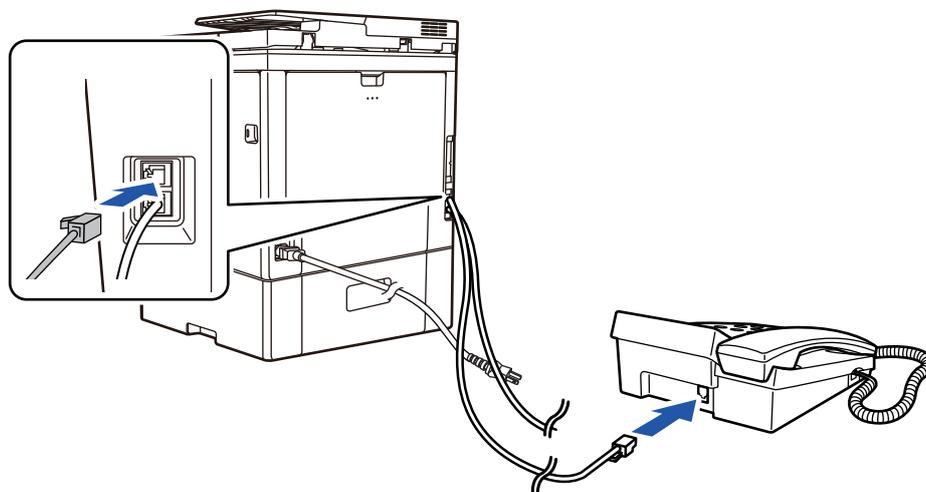
お手持ちの電話機を接続して使用

外部電話機の接続

お手持ちの電話機を本機に接続して使用します。

電話機として使うだけでなく、本機のファクス受信の操作もできます。下図のようにお手持ちの電話機を接続します。接続後に「設定（管理者）」の「外部電話接続」の設定をします。

図のように接続ケーブルの一方の端子を本機にある外部電話接続端子にカチッと音がするまで差し込み、もう一方の端子を電話線コンセントにカチッと音がするまで差し込みます。



お手持ちの電話機を使用するときは、[自動的に電話／ファクスに切り替え（5-54ページ）](#)を設定すると便利です。



- お手持ちの電話機からファクスを送信できません。
- 接続する電話機はモジュージャック式のものをお使いください。また、接続は2芯線をお使いください。2芯線以外を使用すると接続した電話機が正しくはたらかないことがあります。
- 接続コードの形が合わないときは、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。



外部電話機を使用できるようにするには

操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [外部電話接続] (Webページの場合は、[システム設定] → [ファクス／イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [外部電話接続]) を設定します。外部電話機を接続していないときに設定しないでください。ファクスを正常に受信できないことがあります。

自動的に電話／ファクスに切り替え

着信が電話の場合は呼出音で呼び出し、ファクスの場合は手動受信します。通話中にファクスを送信する場合、回線は電話からファクスに切り替わり、[スタート]キーをタップすると通話が終了します。電話に出て相手のかたと通話したときは、ファクスをリモート受信します。



電話／ファクスを自動的に切り替える設定にするには

[受信設定] [受信方法を設定する場合（5-12ページ）](#) で [自動受信] にし、操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [電話／ファクス自動切替設定] (Webページの場合は、[システム設定] → [ファクス／イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [電話／ファクス自動切替設定]) で設定します。



接続した電話機で電話に出てファクスを受信（リモート受信）

かかってきた電話に出て相手の方と通話してから原稿を受信します。

電話機の3桁の番号（工場出荷時設定は「55*」）をタップすると、ファクスを受信します。

パルス回線をお使いの場合、お手持ちの電話機をトーン信号が発信できる状態にして操作します。



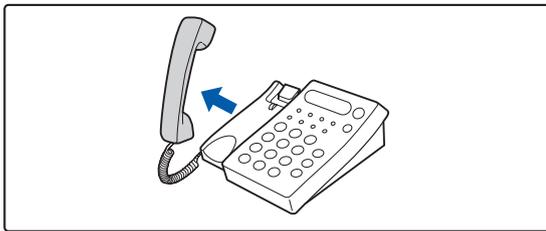
- 接続した電話機で電話に出てファクスを受信するには

「受信設定」[受信方法を設定する場合（5-12 ページ）](#)で「手動受信」に設定します。

- ファクスを受信する番号を変更するには

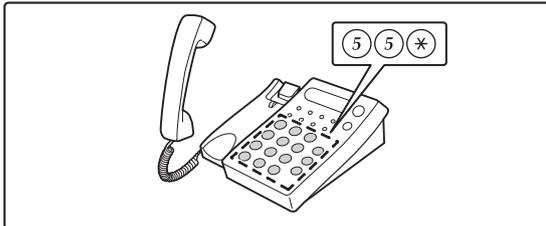
Web ページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [リモート切替番号設定] で変更します。00～99 の間で設定します。

1



呼出音が鳴っている間に受話器を取り上げて通話する

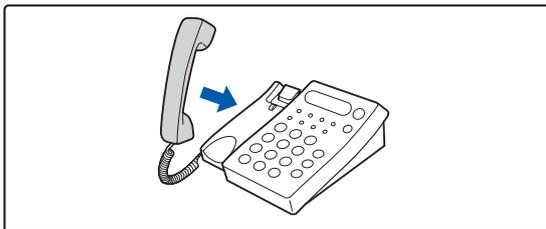
2



本機をファクス受信に切り替える

お手持ちの電話機で⑤⑤*とダイヤルします。

3



受話器を戻す

本機で受信が終わると「ピー」音が鳴ります。



留守番電話の使用（留守接続）

電話がかかってくると、お手持ちの留守番機能付き電話機で呼出音が鳴ってから相手の方のメッセージを録音します。ファクスが送信されてきている場合、お手持ちの留守番機能付き電話機で呼出音が鳴ってから、自動的に本機でファクスを受信します。



留守番電話を有効にするには

以下を設定します。

- 操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [外部電話接続] (Webページの場合は、[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [外部電話接続]) を [On]
- 操作パネルから [システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [留守番電話接続設定] (Webページの場合は、[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [留守番電話接続設定] → [留守番電話接続する]) を [On]
- 「受信設定」 [受信方法を設定する場合 \(5-12ページ\)](#) で [留守接続]

電話をかける／受ける

電話をかける／受ける操作は、お手持ちの電話機で電話をかける／受ける場合と同じです。

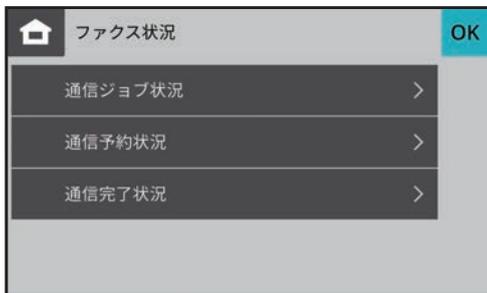


通信状況を確認する

ファクスのジョブについて

[ファクス状況]キーをタップすると、ファクスのジョブの状況を表示します。
ファクス状況画面は、次の3つのキーから選択します。

- **通信ジョブ状況**
通信中のジョブ1件を表示します。
- **通信予約状況**
待機中のジョブを表示します。(時刻指定ジョブや再コール待ちジョブも含む。)
- **通信完了状況**
通信が完了したジョブを表示します。(通信が失敗したジョブや通信を中止したジョブも含む。)



ファクスには、通常の送信以外にも受信や時刻を指定した送信、受信転送などの動作があります。ファクスモードのジョブの動作は、「[ファクスの送受信が完了したジョブの動作 \(5-60ページ\)](#)」を参照してください。

実行中のジョブを中止

1

[ファクス状況] キーをタップして、[通信ジョブ状況] キーをタップする

2



[中止] キーをタップする

ジョブの中止を確認する画面が表示されたら [中止] キーをタップします。



予約中のジョブを削除

1

[ファクス状況] キーをタップして、[通信予約状況] キーをタップする

2

削除したいジョブをタップして、 をタップする

ジョブの中止を確認する画面が表示されたら [中止] キーをタップします。

予約中のジョブの内容を確認

1

[ファクス状況] キーをタップして、[通信予約状況] キーをタップする

2

内容を確認したいジョブをタップして、 をタップする

実行中のジョブの内容を確認

1

[ファクス状況] キーをタップして、[通信ジョブ状況] キーをタップする

完了したジョブの内容を確認

1

[ファクス状況] キーをタップして、[通信完了状況] キーをタップする

2

内容を確認したいジョブをタップして、 をタップする

内容を確認できるジョブは、タップできるように項目がキーになっています。



ジョブリストの見かた

各ジョブのアイコンが示す意味と「状況」に表示されるメッセージの意味は次のとおりです。

ジョブの種類を示すアイコン

	ファクス送信ジョブ		ファクス受信ジョブ
	同報ジョブ※ ネットワーク転送ジョブ		同報ジョブ※ ネットワーク転送ジョブ（送信先がグループ宛先1件の場合）

※ 同報ジョブで表示します。

「状況」に表示されるメッセージ

実行中ジョブの場合

表示	状況
「ダイヤル中」	ダイヤル中
「送信中」	送信中
「受信中」	受信中
「外部電話使用中」	回線接続中

予約中ジョブの場合

表示	状況
「待機中」	実行の順番待ちの状態
「再コール」	通信エラーなどにより再コールするジョブ

完了したジョブの場合

表示	状況
「OK」	正常終了
「送信OK」	送信完了
「NG 回線抜け」	ファクス回線ケーブル未接続によるエラー
「未出力」	受信のみ完了し、プリントしていない状態
「受信OK」	受信完了
「転送OK」	受信データ/受信データ（ファイル単位）の転送完了
「中止」	中止操作を行ったジョブ
「ビジー」	相手先が通信中や通話中で回線が繋がらなかったことによるエラー
「eee NG/aaa OK」	同報系(同報/グループ)で送信が正常に行われなかった（eeeには送信が成功しなかった宛先件数、aaaには送信が成功した宛先件数を表示します。）



ファクスの送受信が完了したジョブの動作

通常の送信ジョブは、送信が終わると完了ジョブリストに移動します。状況欄には「送信OK」と表示します。

ファクス受信したジョブの動作

ファクスの受信中は、状況欄に「受信中」を表示します。

受信が終了すると、ジョブは完了ジョブリストに移動します。受信したファクスのプリントが終了すると、状況欄が「受信OK」に変わります。

時刻指定通信ジョブの動作

送信時刻を指定しているジョブは、指定した時刻になるまで予約/実行中ジョブリストの最後尾に表示します。

指定した時刻になると送信を開始します。送信が完了すると完了ジョブリストに移動し、状況欄が「送信OK」に変わります。

再コールジョブの動作

再コールのジョブは、予約ジョブリストの最後尾に表示します。

再コールは、「設定（管理者）」の「宛先ビジー時の再コール設定」に従って、ジョブの送信を開始します。送信が終了すると完了ジョブリストに移動し、状況欄が「送信OK」に変わります。

受信データをプリントしない場合

データの受信中は、状況欄に「受信中」を表示します。受信が終了すると、ジョブは予約ジョブリストに移動し、状況欄が「待機中」に変わります。

受信データをプリントする場合

受信が終了すると、ジョブは完了ジョブリストに移動します。受信データのプリントが終了すると「受信OK」を表示します。また、予約ジョブリストの状況欄に「待機中」を表示したジョブを追加します。受信データの転送が終了すると「転送OK」を表示します。



通信記録の確認

通信記録表のプリント

本機では、過去に行った通信記録（通信日、相手先名、所要時間、通信結果など）をプリントします。通信結果欄には、エラーの種類などのメッセージをプリントしていますので内容を確認します。

過去の通信記録は、新しいものから50件まで記録しています。

通信記録表は、操作パネルからシステム設定→データリスト→管理者用リスト→ファクス通信記録表（Webページの場合は、ステータス→データリスト→管理者用リスト→ファクス通信記録表）から印刷できます。



通信記録はプリント後に消去しますので、再プリントできません。



通信記録表の設定をするには

Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [記録表プリント設定] で設定します。

通信結果欄の内容

通信結果表／通信記録表の通信結果欄には、エラーの種類などを印字します。通信結果表や通信記録表がプリントされたときは、通信結果欄の内容で通信結果を確認して対処します。

通信結果欄の印字例

印字	内容
OK	正常に通信が終了した。
G3	G3モードで通信した。
ECM	G3ECMモードで通信した。
SG3	スーパー G3モードで通信した。
転送	受信データを転送した。
相手無応答	送信相手先が応答しなかった。
ビジー	相手先が通信中などで送信できなかった。
キャンセル	送信中に通信を停止した。
送信メモリーオーバー	クイックオンライン送信時にメモリーオーバーが発生した。
受信メモリーオーバー	受信中にメモリーオーバーが発生した。
受信長オーバー	1.5m以上の長さの原稿データが送られてきたため、受信できなかった。
原稿エラー	直接送信または手動送信時に紙づまりが発生し、送信できなかった。
通信エラー xx (xxxx)	通信エラーのため、送受信が正常に行われなかった。 通信エラー番号の前2桁：00～99のエラーコードを表示します。 通信エラー番号の下4桁：サービス担当者が利用するためのコードです。
受信拒否	受信を拒否している相手からファクスが送られてきた。



スキャナー

ネットワークスキャナーとして使用する前に

ネットワークスキャナー機能として使用する前に	6-2
ネットワークスキャナーでできること	6-2
使用前の準備	6-2
デスクトップ送信スキャンを使用する場合	6-3
ネットワークスキャナーモードについて	6-4
基本画面	6-4
メニュー	6-6
スキャナーモードの選択	6-6
イメージ送信の流れ	6-7
原稿サイズ	6-8
送信できる原稿サイズ	6-8
アドレス帳とは	6-9
「連絡先」や「グループ」の選択	6-10
アドレス帳画面	6-9
送信した履歴を削除する	6-11
選択した履歴を削除する	6-11
Webページでアドレス帳を登録する	6-12
アドレス帳	6-12

送信先の入力方法について

送信先の入力方法	6-13
アドレス帳からの送信先呼び出し	6-13
マイアドレスについて	6-15
指定した送信先を一覧表示	6-16
手動で宛先を入力	6-17
グローバルアドレス帳からの送信先呼び出し	6-18
送信履歴からの再送信	6-20

送信のしかた

送信のしかた	6-21
スキャナーモードで送信	6-21
複数の宛先に同じ原稿をまとめて送信（順次同報送信）	6-23
原稿の読み込み設定	6-25
原稿の表裏自動読み込み（両面原稿）	6-25
原稿の読み込みサイズを用紙サイズで指定	6-26
原稿の読み込みサイズを数値で指定	6-27
原稿の原稿種類と濃度を変更	6-28
原稿の解像度を変更	6-29
フォーマットの変更	6-30

白黒スキャン時の読み取り設定	6-32
USBメモリーにスキャン保存する	6-33

その他の機能について

スキャンの操作を登録して使用（プログラム）	6-35
まとめてスキャン・送信する機能	6-37
カードの裏表を1枚にまとめてスキャン（カードスキャン）	6-37
名刺をスキャンして送信する（名刺スキャン）	6-39
色味や濃淡を調整する機能	6-40
濃度の薄い部分を地色として薄く調整する（地色調整）	6-40
読み込んだ原稿の輪郭をくっきり際立たせて送信（シャープネス）	6-42

コンピューターからスキャンする（リモートPCスキャン）

基本的なスキャンのしかた	6-44
--------------	------



ネットワークスキャナーとして使用する前に

ネットワークスキャナー機能として使用する前に ネットワークスキャナーでできること

本機で読み取った原稿をファイルとして作成し、ネットワーク経由でお使いのコンピューターやFTPサーバーに送信します。また、必要に応じてお使いのコンピューターからTWAIN対応アプリケーションソフトを利用してスキャンします。本機のネットワークスキャナー機能では、次のスキャン方法が利用できます。

スキャナーモード

本機のスキャナー機能では、スキャンした原稿の送り先の指定によって、次のような送信をします。

- **E-mail 送信スキャン**

スキャンしたファイルをE-mailに添付して送信します。

- **ファイルサーバー送信スキャン**

スキャンしたファイルを指定したFTPサーバーのフォルダーに送信します。

送信時に、あらかじめ登録しておいた宛先へメールを送信し、ファイルの保存場所をお知らせすることもできます。

- **デスクトップ送信スキャン**

スキャンしたファイルをお使いのコンピューターの指定フォルダーに送信します。

デスクトップ送信スキャンについては、販売店にお問い合わせください。

- **共有フォルダー送信スキャン**

スキャンしたファイルを、本機と同一ネットワーク上のWindowsコンピューターに作成された共有フォルダーに送信します。

送信時に、あらかじめ登録しておいた宛先へメールを送信し、ファイルの保存場所をお知らせすることもできます。

操作のしかたは「[スキャナーモードで送信 \(6-21ページ\)](#)」を参照してください。

使用前の準備

本機をネットワークスキャナーとして使用するには、送信者情報の登録、各サーバーの設定、アドレス帳への登録などをする必要があります。

1

電源プラグがコンセントに差し込まれているかを確認する

電源プラグがコンセントに差し込まれていると、主電源ランプが点灯します。主電源ランプが消灯しているときは、電源プラグをコンセントに差し込み、[電源] ボタンを押します。

[電源の入れかた \(1-7ページ\)](#)

2

日付・時刻を確認する

本機の日付・時刻が正しく設定されていることを確認します。



本機の日付・時刻を設定するには

操作パネルまたはWebページの [システム設定] → [共通設定] → [デバイス設定] → [日付/時刻設定] で設定します。



3

設定モードで必要な設定・登録をする

各サーバーの設定、ネットワークスキャナーの基本設定をします。



- **各サーバーの設定をするには**
Web ページの [システム設定] → [ネットワーク設定] → [サービス設定] で設定します。
- **ネットワークスキャナーの基本設定をするには**
Web ページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [スキャナー設定] で設定します。

4

各送信方法の宛先をアドレス帳に登録する

イメージ送信でスキャンを利用するとき、直接アドレスを入力して送信することができますが、あらかじめ宛先をアドレス帳に登録しておくとう便利です。

アドレス帳には、最大300件の宛先を登録できます。アドレス帳については、「アドレス帳」を参照してください。

アドレス帳の利用方法や宛先の登録方法については、次を参照してください。

[アドレス帳からの送信先呼び出し \(6-13ページ\)](#)

[指定した送信先を一覧表示 \(6-16ページ\)](#)

[手動で宛先を入力 \(6-17ページ\)](#)

[グローバルアドレス帳からの送信先呼び出し \(6-18ページ\)](#)

[送信履歴からの再送信 \(6-20ページ\)](#)

デスクトップ送信スキャンを使用する場合

お使いのコンピューターをデスクトップ送信スキャンの送信先として本機に登録するには、ネットワークスキャナーツールLiteをインストールする必要があります。

お使いのコンピューターでネットワークスキャナーツールLiteが起動していないと、スキャンデータを送信できません。



ネットワークスキャナーツールLiteのインストールについては、販売店に問い合わせてください。



ネットワークスキャナーモードについて

ネットワークスキャナーモードには基本画面とメニューの2種類があります。
 基本画面は、よく使う機能など必要最小限の機能で構成され、大半のイメージ送信操作がスムーズに行えます。
 詳細な設定や特殊な機能を使用する場合はメニューで操作します。

基本画面

基本画面は、ネットワークスキャナーモードの基本的な設定をかんたんに行うことができます。
 基本画面は、ファクスの基本的な設定をかんたんに行うことができます。

【1画面目】

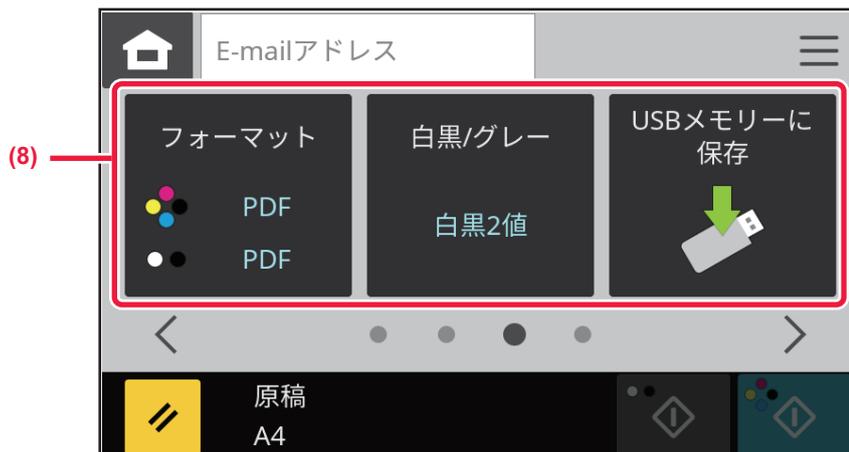


【2画面目】





【3画面目】



【4画面目】



- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| (1) 宛先を設定します。 | (6) 機能の表示を切り替えます。 |
| (2) 設定と宛先をリセットします。 | (7) 白黒またはカラー送信を開始します。 |
| (3) セットした原稿サイズを表示します。 | (8) 設定する機能を選びます。 |
| (4) タップするとソフトキーボードを表示します。 | |
| (5) メニューに切り替えます。 | |

[メニュー \(6-6ページ\)](#)

基本画面で設定できる機能は以下の通りです。

- [原稿の読み込み設定 \(6-25ページ\)](#)
- [原稿の原稿種類と濃度を変更 \(6-28ページ\)](#)
- [原稿の解像度を変更 \(6-29ページ\)](#)
- [フォーマットの変更 \(6-30ページ\)](#)
- [白黒スキャン時の読み取り設定 \(6-32ページ\)](#)
- [USBメモリーにスキャン保存する \(6-33ページ\)](#)

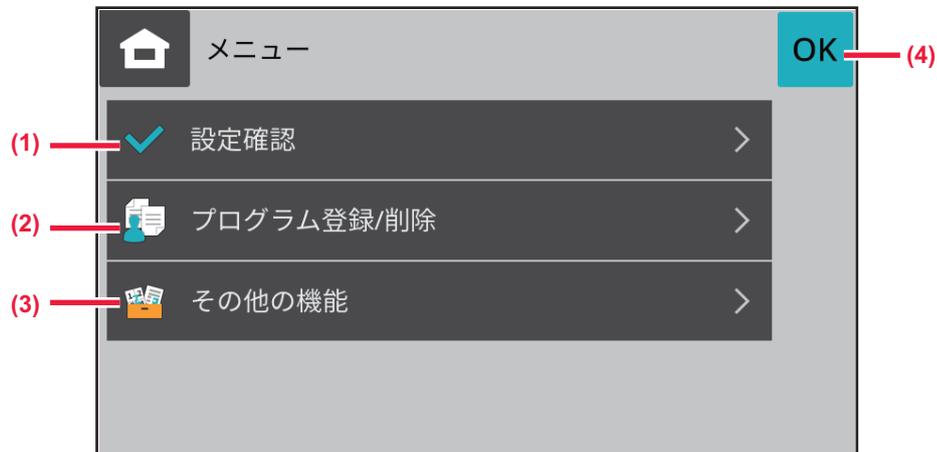


マイアドレス検索ができる場合、アドレス入力の横に  (マイアドレス検索) キーが表示されます。



メニュー

メニューは、ホーム画面およびネットワークスキャナーモードでの補助的な設定、使用頻度の高い項目の設定を行うことができます。



- (1) 現在設定中の内容が確認できます。
- (2) プログラムの登録や削除を行います。
- (3) その他の機能呼び出します。
- (4) メニューを閉じます。

スキャナーモードの選択

[ホーム画面への切り替え \(2-8ページ\)](#) を参照してスキャナーのモードに切り替えてください。



イメージ送信の流れ

はじめに、ホーム画面のアイコンをタップして本機をイメージ送信の各モードにします。

[ホーム画面への切り替え \(2-8ページ\)](#)

1



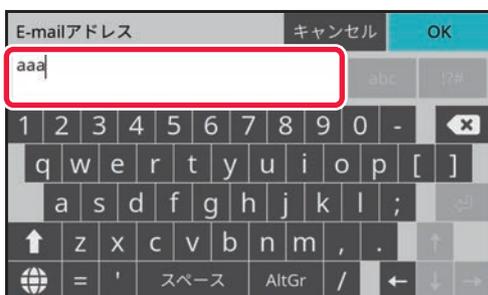
原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

[原稿台（ガラス面） \(1-23ページ\)](#)

2



送信先を入力する

宛先キーをタップして相手先を直接入力するほか、アドレス帳や宛先を検索して呼び出ししたりします。

[手動で宛先を入力 \(6-17ページ\)](#)

[アドレス帳からの送信先呼び出し \(6-13ページ\)](#)

[送信履歴からの再送信 \(6-20ページ\)](#)

[グローバルアドレス帳からの送信先呼び出し \(6-18ページ\)](#)

3



機能を設定をする

原稿の読み込みサイズや濃度、フォーマットなどを設定します。

必要に応じて次の各機能を参照して設定します。

[原稿の読み込み設定 \(6-25ページ\)](#)

[原稿の原稿種類と濃度を変更 \(6-28ページ\)](#)

[原稿の解像度を変更 \(6-29ページ\)](#)

[フォーマットの変更 \(6-30ページ\)](#)

[白黒スキャン時の読み取り設定 \(6-32ページ\)](#)

[USBメモリーにスキャン保存する \(6-33ページ\)](#)

4

原稿を送信する

[白黒スタート] キーまたは [カラースタート] キーをタップします。



原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたときは原稿の枚数分、原稿のセットと読み込み操作を繰り返します。すべての原稿を読み込み終わったら、[読み込み終了] キーをタップします。



原稿サイズ

送信できる原稿サイズ

セットできる原稿サイズについては「[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)」や「[原稿台 \(ガラス面\) \(1-23ページ\)](#)」を参照してください。



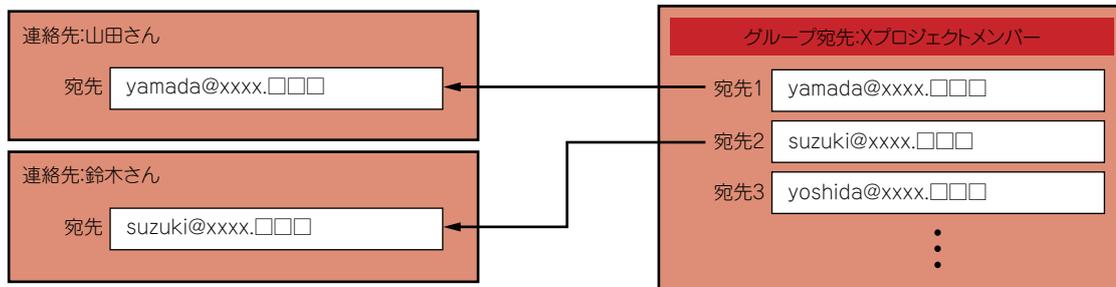
アドレス帳とは

アドレス帳には、「連絡先」と、「グループ」を登録できます。

Webページでの「アドレス帳」で「タイプ」を「ファクス」にすると、ファクスの宛先を登録できます。

Webページでの「アドレス帳」で「タイプ」を「スキャン」にすると、E-mail、FTP、デスクトップなど、宛先を登録できます。「連絡先」に登録された宛先を「グループ」として登録すると、グループを指定するだけでかんたんに複数の宛先に送信ができます。

アドレス帳



- 「連絡先」と「グループ」は合計で300件まで登録できます。
- 1件の「連絡先」に登録できる宛先は、1件のみです。
- 1件の「グループ」に登録できる宛先は、最大100件（E-mail宛先のみ）です。

アドレス帳画面

アドレス帳は、基本画面で「アドレス帳」キーをタップして表示します。

登録した「連絡先」と「グループ」は、50音検索を選んで絞り込み検索ができます。

連絡先とグループはWebページで登録します。

[Webページでアドレス帳を登録する（6-12ページ）](#)



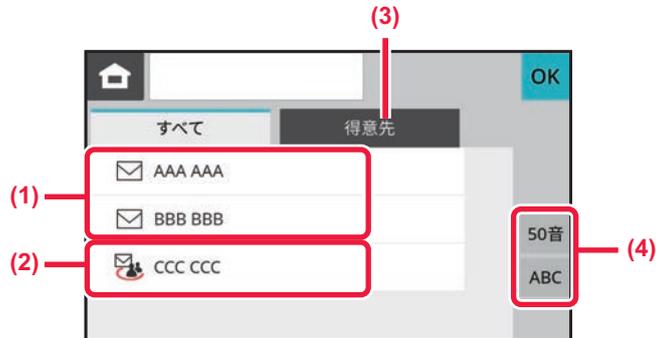
- ログイン時に  (マイアドレス検索) キーをタップすると、ユーザーリストからE-mail アドレスを宛先として選択することができ、ユーザー自身にメール送信を行うときに便利です。



「連絡先」や「グループ」の選択

宛先リストから「連絡先」や「グループ」を選択します。

「すべて」タブをタップすると、すべての宛先を表示し、「得意先」タブをタップすると得意先登録している宛先のみ表示します。



- (1) 「連絡先」のワンタッチキー
- (2) 「グループ」のワンタッチキー
- (3) 「得意先」タブ
- (4) 「インデックス」キー

得意先での絞り込み

「得意先」タブをタップして、表示される画面で宛先を選択します。
得意先に登録した宛先がリストに表示されます。

インデックスでの絞り込み

50音やアルファベットで検索し、宛先を絞り込みます。

たとえば、「う」で始まる検索文字が登録されている連絡先を表示したい場合は、インデックスキーをタップしたあと、表示される画面で「う」キーをタップします。



送信した履歴を削除する

ファクスやイメージ送信で送信した履歴を削除します。

選択した履歴を削除する

1 削除したい履歴をタップする

2 [削除] キーをタップする

3 「選択した履歴を削除しますか？」とメッセージが表示されるので、[削除] キーをタップする

選択した送信履歴が削除されます。



Webページでアドレス帳を登録する

アドレス帳

E-mail送信などで送信する宛先（連絡先）やその宛先を1つにまとめてグループとして登録することができます。設定モードでは登録されている連絡先やグループの登録情報がリストで表示されます。

編集したい連絡先やグループがある場合はその名称を選択してください。新たに追加する場合は、[追加] キーをクリックしてください。

[アドレス帳 \(8-25ページ\)](#)



送信先の入力方法について

送信先の入力方法

アドレス帳からの送信先呼び出し

アドレス帳画面で、登録されている送信先のワンタッチキーをタップして、送信先を呼び出します。ワンタッチキーに複数の送信先を登録しておいて、必要に応じてワンタッチで呼び出します。

	E-mail送信スキャン
	ファイルサーバー送信スキャン
	デスクトップ送信スキャン
	共有フォルダー送信スキャン
	複数の宛先が登録されているグループキー

1



【アドレス帳】 キーをタップする

2



送信先が含まれている連絡先またはグループのワンタッチキーをタップする

- リストに表示する宛先を、得意先、インデックスで絞り込むことができます。
- 宛先を追加したいときは、別のワンタッチキーをタップします。
- 2件以上選択または設定したときは、宛先の横に合計を表示します。
- 1件選択時であっても、複数の宛先が登録されている連絡先またはグループを選択した場合は、件数を表示します。詳しくは下記を参照してください。

[アドレス帳画面 \(6-9ページ\)](#)



送信先をまちがって選択したときは

もう一度キーをタップして強調表示を解除します。



- 送信履歴から宛先を選択するには、[送信履歴] キーをタップします。
[送信履歴からの再送信 \(6-20 ページ\)](#)
- 確定した宛先を確認したいときは、[宛先一覧] キーをタップします。
[指定した送信先を一覧表示 \(6-16 ページ\)](#)
- 登録されている宛先をタップすると、送信時の宛先を選択できます。
- 宛先の中に利用権限の無い宛先が含まれている場合、[白黒スタート] キーまたは [カラースタート] キーを押すとメッセージが表示され、[OK] キーを押した後に [送信確定] キーを押すと許可されている宛先にだけ送信します。



マイアドレスについて

マイアドレスは、ユーザー自身のE-mailアドレスのことで、ユーザーリストに登録されたE-mailアドレスが対象となります。

ユーザー認証のログイン名/パスワード方式を有効にしたときに使用できます。

スキャンしたデータを自分のE-mailアドレスにも送信したいときに使用します。

スキャンの基本画面、もしくはスキャンモードでアドレス帳を使用すると、アドレス入力の横に [マイアドレス検索] キーがあり、そこからマイアドレスを検索することもできます。



- 次の場合はマイアドレス機能は使用できません。
- Webページのシステム設定で [マイアドレス検索の禁止] が設定されている場合
- ユーザー認証が無効、またはユーザー番号方式のみの場合
- ログインしたユーザーのE-mailアドレスが登録されていない場合
- Webページのシステム設定の [ファクス/イメージ送信設定] → [共通設定] → [基本設定] の [宛先を追加する前に必ず次宛先([+])キーを押す] が設定されていて、[次宛先] キーを押すタイミング
- Webページのシステム設定→セキュリティ設定→SSL/TLS設定の「通信先のサーバー証明書を検証する」が有効な場合でも、検索先がLDAPサーバー時のみでマイアドレス検索を行うときは、通信先のサーバー証明書の検証はしません。



指定した送信先を一覧表示

複数の送信先を指定したときに、送信先を一覧表示して確認します。また、指定した送信先を解除する（選択からはずす）こともできます。

1



【宛先件数】 キーをタップする

2



送信先を確認する

確認が終わったら **OK** をタップします。

指定した宛先の削除

「指定した送信先を一覧表示」の手順2で、宛先を選択して  をタップします。



原稿を原稿台にセットして、[白黒スタート]キーまたは[カラースタート]キーをタップした場合、設定変更時に宛先を削除することはできません。



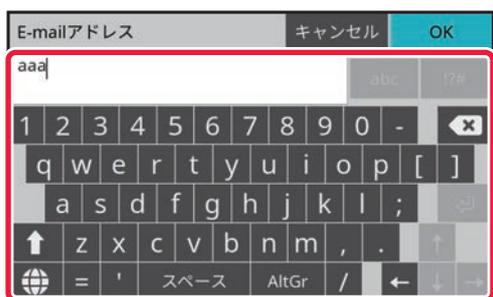
手動で宛先を入力

1



基本画面で「テキストボックス」をタップする

2



表示されるソフトキーボードで送信先アドレスを入力する

送信先アドレスの入力が済んだら、**OK**をタップしてソフトキーボードを閉じます。



文字入力のしかたは、「[文字入力のしかた \(2-18ページ\)](#)」を参照してください。



グローバルアドレス帳からの送信先呼び出し

「設定 (Web版)」でLDAPサーバーが設定されているときは、E-mail送信スキャンをするときにグローバルアドレス帳から送信先を検索して、送信先アドレスを取得します。



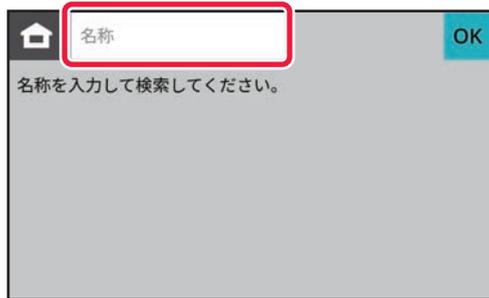
Webページのシステム設定→セキュリティ設定→SSL/TLS設定の「通信先のサーバー証明書を検証する」が有効な場合でも、検索先がLDAPサーバー時のみでグローバルアドレス帳検索を行うときは、通信先のサーバー証明書の検証はしません。

1



【グローバルアドレス検索】キーをタップする

2



キーワードを入力する

キーワード入力欄をタップすると、ソフトキーボードが表示されます。
しばらくすると、検索結果が表示されます。



検索のしかた

検索文字は64文字以内で入力します。検索文字で始まる送信先名を検索します。
検索文字に* (アスタリスク) を使い次のように検索します。

- XXX* : 「XXX」で始まっている名前
- *XXX : 「XXX」で終わっている名前
- *XXX* : 「XXX」を含んでいる名前
- AA*XX : 「AA」で始まり「XX」で終わっている名前



3



検索対象を選択する

LDAPサーバーへの認証画面が表示されたときは、ユーザー名とパスワードを入力します。



- 該当する宛先がなかったときは
もう一度入力して検索をやり直します。
- 続けて別の相手先を追加指定するときは
宛先をタップします。



送信履歴からの再送信

送信履歴から宛先を選択し、再送信します。

E-mail送信スキャンは、最後に送信した宛先などから10件記憶されており、選択して再送信します。



- 以下の宛先は、再送信できる宛先として記憶されません。
 - グループの宛先
 - 同報送信の宛先
- ユーザー名とパスワードはセキュリティ上記憶されません。入力を要求する画面を表示した場合は、もう一度入力します。

1



[送信履歴] キーをタップする

2



再送信する宛先のキーをタップする

最後に送信した宛先から10件までを表示します。
ユーザー名とパスワードの入力を要求する画面が表示された場合は、入力します。



再送信の設定を解除するときは
強調表示しているキーをタップします。



送信のしかた

送信のしかた

スキャナーモードで送信



- 原稿を読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは、メッセージを表示して原稿の読み込みを中止します。
- E-mail送信スキャンをするときは、送信するデータのサイズが大きくなりすぎないように注意します。サイズが大きくなりがちな複数枚の原稿を送信したいときなどは、原稿の読み込みページ数を減らしたり、送信サイズを小さくするなどの工夫が必要です。

1

原稿をセットする

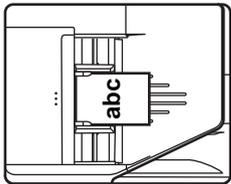
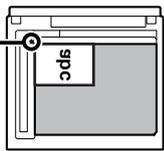
原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



原稿をセットするときは次の向きでセットします。

原稿	原稿セット台	原稿台(ガラス面)
<p>縦向きの場合</p>  <p>横向きの場合</p> 	<p>原稿は上向きにセットしてください。</p> 	<p>原稿は下向きにセットし、原稿台スケール左上の  マークの先に原稿の角を合わせてください。</p> 

2

送信先を指定する

[アドレス帳からの送信先呼び出し（6-13ページ）](#)

[手動で宛先を入力（6-17ページ）](#)

[グローバルアドレス帳からの送信先呼び出し（6-18ページ）](#)

[送信履歴からの再送信（6-20ページ）](#)

ワンタッチキーに登録されている送信先の種類は、キーに表示されるアイコンで確認します。

: E-mail送信スキャン



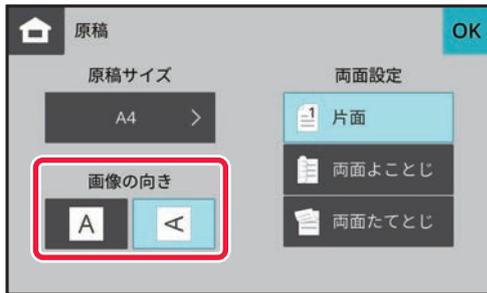
送信先に複数の宛先を指定できます。



3

[原稿] キーをタップする

4



原稿をセットした向きのキーをタップする

手順1でセットした原稿の向きを指定します。
設定が終わったら **OK** をタップします。



- 濃度、解像度、フォーマット、カラーモードなどの設定を変更できます。
[原稿の表裏自動読み込み \(画面原稿\) \(6-25 ページ\)](#)
[原稿の原稿種類と濃度を変更 \(6-28 ページ\)](#)
[原稿の解像度を変更 \(6-29 ページ\)](#)
[フォーマットの変更 \(6-30 ページ\)](#)
[白黒スキャン時の読み取り設定 \(6-32 ページ\)](#)
- [その他の機能] キーをタップすると、色味や濃淡を調整して送信したり、原稿の輪郭をくっきり際立たせて送信したりするなどさまざまな機能の設定ができます。

5

[白黒スタート] キーまたは [カラースタート] キーをタップして、原稿の読み込みを開始する

- 原稿セット台に原稿をセットしたときは、原稿の読み込みが正常に終了すると「ピー」音が鳴り、送信操作が完了します。
- 原稿台 (ガラス面) に原稿をセットしたときは、タッチパネルに [読み込み終了] キーを表示します。原稿が1枚のときは手順7へ、続けて原稿を読み込むときは、手順6へ進みます。

6

原稿台 (ガラス面) に原稿をセットしたときは、次の原稿と入れ替えて、[白黒スタート] キーまたは [カラースタート] キーをタップする

送信する原稿をすべて読み込むまで、この操作を繰り返します。

7

[読み込み終了] キーをタップする

「ピー」音が鳴り、送信操作が完了します。



原稿を読み込むときの終了音を設定するには
操作パネルから [システム設定] → [共通設定] → [オーディオ設定] → [報知音設定(共通)] → [原稿読み込み終了音(スキャン/ファクス)] で設定します。

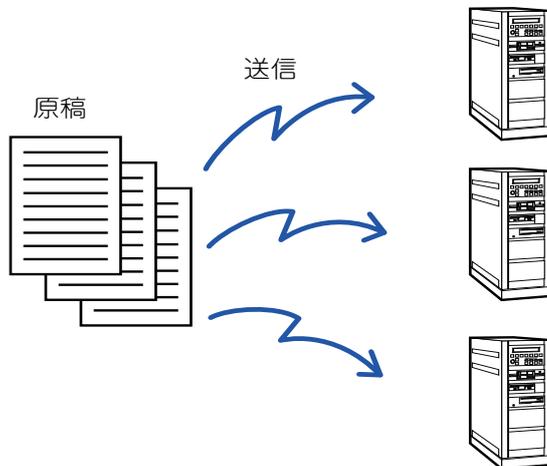


複数の宛先に同じ原稿をまとめて送信（順次同報送信）

1回の操作で同じ原稿をスキャン送信します。

1回の操作で、予約中の送信を含めて最大300局まで送信できます。（たとえば、300宛先の順次同報送信がすでに予約されていたら、300件までの順次同報送信ができます。）

E-mail以外の宛先は設定できません。



順次同報送信でよく送信する相手先は、あらかじめ連絡先またはグループとして登録しておくとう便利です。1つの連絡先には1件の宛先を登録できます。

順次同報送信時、連絡先またはグループのキーをタップするだけで複数の相手先を呼び出すことができます。

1 原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2 すべての送信先を指定する

[アドレス帳からの送信先呼び出し（6-13ページ）](#)

[手動で宛先を入力（6-17ページ）](#)

[グローバルアドレス帳からの送信先呼び出し（6-18ページ）](#)

[送信履歴からの再送信（6-20ページ）](#)



同報送信はE-mailでのみ使用できます。

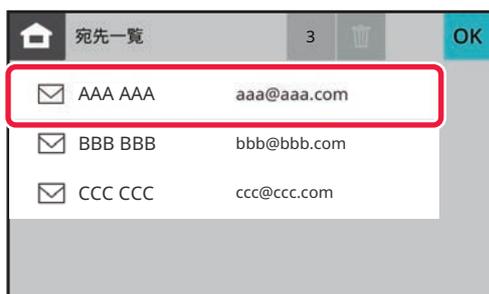


Webページの [システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [共通設定] → [基本設定] → [宛先を追加する前に必ず次宛先（[+]）キーを押す] が設定されているときは、次の送信先を指定する前に **+** をタップします。

3 [宛先件数] キーをタップする



4



送信先を確認する

5

【白黒スタート】キーまたは【カラースタート】キーをタップして、原稿の読み込みを開始する

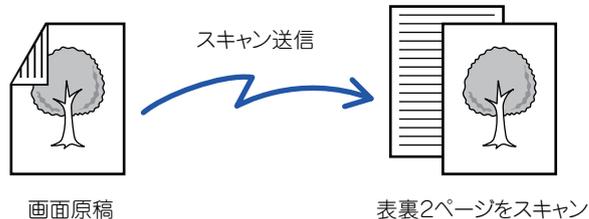
- 原稿セット台に原稿をセットしたときは、セットしている原稿をすべて読み込みます。「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。
- 原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたときは、原稿を1枚ずつ読み込みます。セットした原稿の読み込みが終了したら、次の原稿と入れ替えて【白黒スタート】キーまたは【カラースタート】キーをタップします。繰り返し操作してすべての原稿の読み込みが終了したら、【読み込み終了】キーをタップします。「ピー」音が鳴ると送信操作は終了です。



原稿の読み込み設定

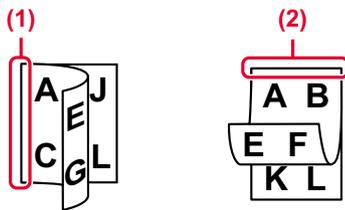
原稿の表裏自動読み込み（両面原稿）

原稿自動送り装置を使用して原稿の表裏を自動的に読み込みます。



両面原稿読み込みの設定は、送信操作が終了すると解除されます。

1



【原稿】 キーをタップして、【両面たてとじ】 キーまたは【両面よことじ】 キーをタップする

左図を参考に、原稿のと同じ位置を確認してタップするキーを選択します。

- (1) 横とじ
- (2) 縦とじ

2



セットした原稿の画像と同じ向きの【画像の向き】 キーをタップする

この設定が正しくないと、適切な画像を送信できないことがあります。

設定が終わったら **OK** をタップします。



両面読み込みを中止するときは【片面】 キーをタップします。

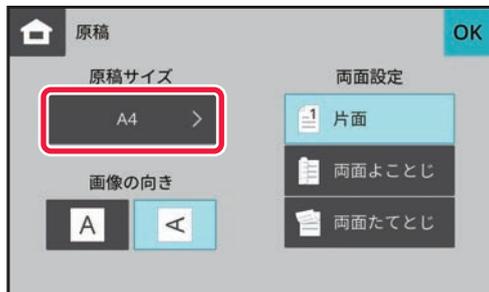


原稿の読み込みサイズを用紙サイズで指定

標準原稿サイズ設定で指定した原稿サイズ以外の原稿をセットしたときには、手動で原稿サイズを指定します。

1 [原稿] キーをタップする

2



[原稿サイズ]キーをタップする

3



原稿サイズのキーをタップする

設定が終わったら **OK** をタップします。



原稿の読み込みサイズを数値で指定

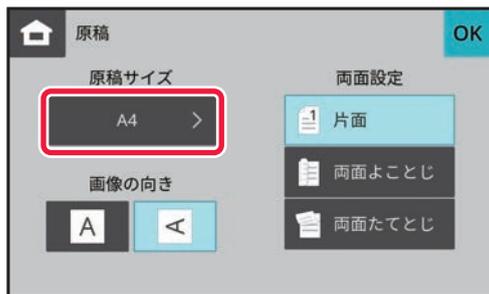
カードや郵便はがきなど、定形サイズで指定できないサイズを読み込みたいときは、原稿をセットした後に用紙サイズを数値で指定します。

用紙サイズは、横幅（X）：25mm～356mm、縦幅（Y）：25mm～216mmの範囲で指定します。

1

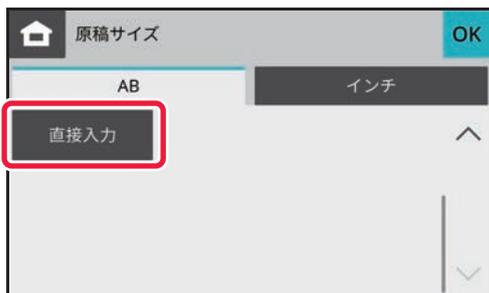
[原稿] キーをタップする

2



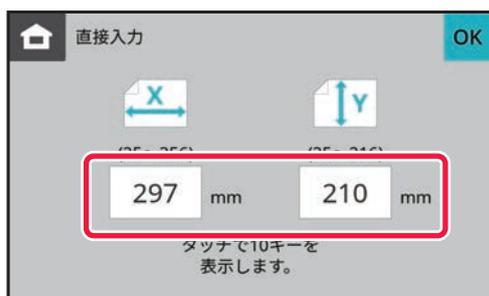
[原稿サイズ] キーをタップする

3



[直接入力] キーをタップする

4



原稿サイズを設定する



X、Y方向それぞれのサイズ表示部をタップして、数字キー（10キー）でサイズを入力します。

5

OK を2回タップする

基本画面で [原稿] キーに設定したサイズを表示していることを確認します。



原稿の原稿種類と濃度を変更

原稿に応じて原稿種類や濃度を選択することで、最適な読み込みをします。

原稿種類の選択のしかた

設定項目	説明
文字	通常の文字原稿に適しています。
文字/印刷写真	雑誌やカタログなどの印刷物をスキャンする場合、グラフィック写真部分の画質だけでなく、記事などの文字部分の画質も重視したい場合に適しています。
印画紙写真	印画紙の写真を貼りつけた文字原稿などをスキャンするのに適しています。

濃度の選択のしかた

濃度	選択のしかた	
自動	原稿の濃淡に合わせて、自動的に濃度調整します。	
手動	1~2	全体に濃い文字で書かれている原稿のときに選択します。
	3	普通の濃さの原稿のときに選択します。
	4~5	全体に淡い文字で書かれている原稿のときに選択します。

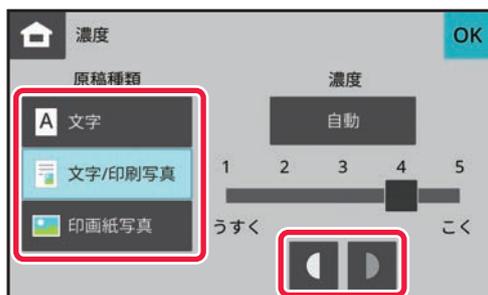
1

【原稿種類や濃度】 キーの 【濃度】 キーをタップする

2

原稿種類選択キーをタップして原稿種類を設定する

3



◀▶ をタップして濃度を調整する
設定が終わったら **OK** をタップします。



原稿の解像度を変更

原稿の読み込み解像度を設定します。

解像度の選択のしかた

一般的な文字原稿を送信する場合は、200×200dpiの設定で十分判読できる画像データを作成します。写真やイラストなどの画像を送信する場合は、高解像度（600×600dpi）に設定して、高精度なデータを送信します。ただし、高解像度設定時はデータのサイズが大きくなりますので、送信できない可能性があります。この場合は原稿の読み込みページ数を減らしたり、送信サイズを小さくするなどの工夫が必要です。

[フォーマットの変更 \(6-30ページ\)](#)

[原稿の読み込みサイズを用紙サイズで指定 \(6-26ページ\)](#)



原稿自動送り装置を使用している場合、原稿読み込み途中に解像度を変更できません。



原稿台（ガラス面）を使って原稿を読み込む場合、原稿を入れ替えるときに解像度を変更します。

1

【解像度】 キーをタップする

2



解像度のキーをタップする

設定が終わったら **OK** をタップします。



フォーマットの変更

スキャン送信時のフォーマット（ファイル形式、圧縮形式／圧縮率）を変更します。
ファイル形式の組み合わせ

[カラー / グレースケール] タブ	[白黒] タブ
PDF	PDF
TIFF	TIFF
JPEG	TIFF

1

【フォーマット】 キーをタップする

2

【カラー / グレースケール】 タブまたは 【白黒】 タブをタップする



- 【白黒】 モードのフォーマット設定は、【白黒スタート】 キーをタップしたときのファイルフォーマットになります。
- 【カラー / グレースケール】 モードのフォーマット設定は、【カラースタート】 キーをタップしたときのファイルフォーマットになります。

3

ファイル形式のキーをタップする

【【白黒】 タブ選択時】



【【カラー / グレースケール】 タブ選択時】



4

圧縮形式のキーまたは圧縮率のキーをタップする

【【白黒】 タブ選択時】



【【カラー / グレースケール】 タブ選択時】





5

ファイル形式で「TIFF」を選択したときに、ページ毎にファイルにしたいときは、
[ページ毎にファイル化] チェックボックスを にする



- 設定が終わったら **OK** をタップします。
 - [ページ毎にファイル化] チェックボックスのチェックを外した場合、全ページを1ファイルで作成します。
-



白黒スキャン時の読み取り設定

[白黒/グレー]キーは、スキャン送信時の白黒原稿の読み取りの階調を変更します。

モード	読み取り方法
白黒2値	原稿で使用されている色を白か黒かに置き換えてスキャンします。文字のみの原稿に適しています。
グレースケール	原稿で使用されているカラーにかかわらず、原稿を白黒（グレースケール）でスキャンします。

1

[白黒/グレー] キーをタップする

2

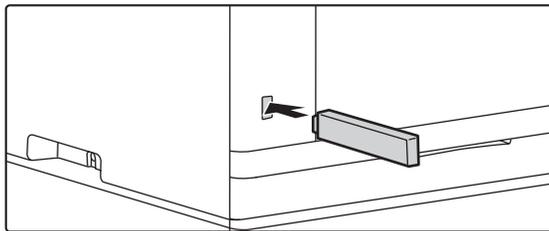
[白黒2値] キーまたは [グレースケール] キーをタップする

白黒原稿の読み取りをする場合に、グレースケールか白黒2値のどちらで読み取るか設定します。設定が終わったら **OK** をタップします。



USBメモリーにスキャン保存する

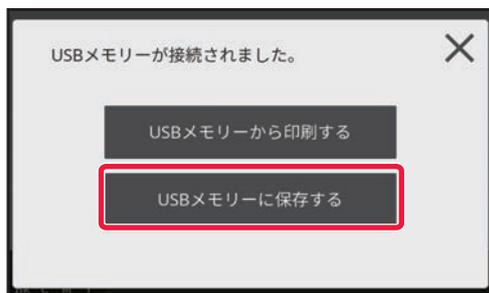
1



USBメモリーを本機に接続する

- USBメモリーのフォーマットは、FAT32、NTFS形式、またはexFAT形式をご利用ください。
- USBメモリーのフォーマットがFAT32形式の場合は、32GB以下のものを使用してください。

2



【USBメモリーに保存】をタップする

3

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

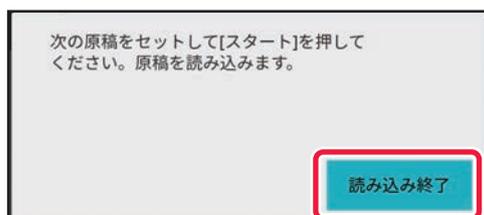
[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

4



【カラースタート】キーまたは【白黒スタート】キーをタップする

5



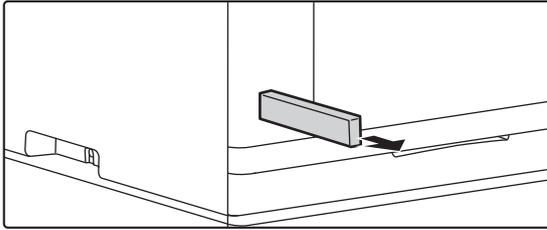
すべての原稿の読み込みが終了したら【読み込み終了】キーをタップする



原稿自動送り装置で原稿を読み込む場合、この画面は表示されません。



6



【データ書き込みが完了しました。】のメッセージを確認し、USBメモリーを本機から抜き取る



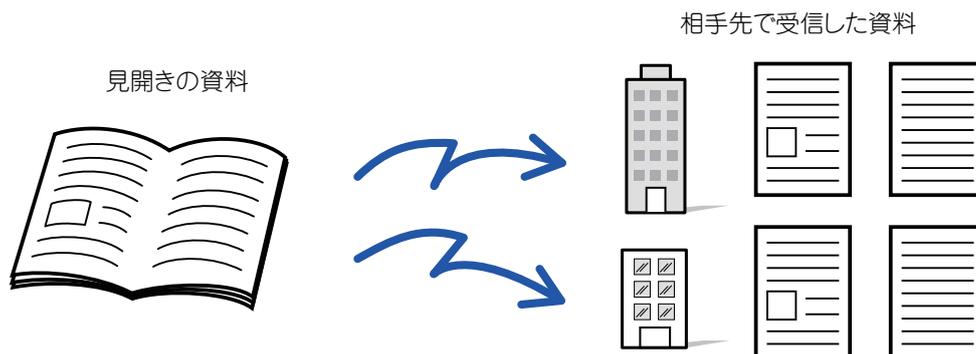
その他の機能について

スキャンの操作を登録して使用（プログラム）

さまざまな設定を1つにまとめ、プログラムとして登録できます。登録したプログラムは、簡単な操作で呼び出しできます。

たとえば、毎月A4サイズの資料をファイル化して各地の支店に送信するとします。

- 各地の支店に同じ資料を送信する
- 見開きの資料を1ページずつ順番に送信する



プログラムを登録していない場合	プログラムを登録している場合
<p>各支店の宛先を指定</p> <p>↓</p> <p>[スタート] キーをタップする 原稿を読み込んで送信します。</p> <p>毎月送信するごとに、このような入力や設定をする必要があり、大変時間がかかります。 また、途中で設定をミスすることもあります。</p>	<p>登録しているプログラムのキーをタップする</p> <p>↓</p> <p>[スタート] キーをタップする 原稿を読み込んで送信します。</p> <p>プログラムを登録すると登録しているキーをタップするだけのかんたんな操作で設定が完了します。また、登録内容に従って送信するので、設定によるミスがありません。</p>



- 登録したプログラムは、送信を行ったあとも登録内容は消去されません。同じ登録内容で繰り返し送信できます。
- プログラムは8件まで登録できます。
- プログラム1件に送信先は300件まで登録できます。

1

【プログラム呼び出し】 キーをタップする

プログラムに登録している機能に応じて、原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

- [原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)
- [原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2



実行するプログラムのキーをタップする



3

必要に応じて、追加設定をする



呼び出したプログラムの内容によっては、追加できない設定があります。

4

【白黒スタート】キーまたは【カラースタート】キーをタップして、原稿の読み込みを開始する

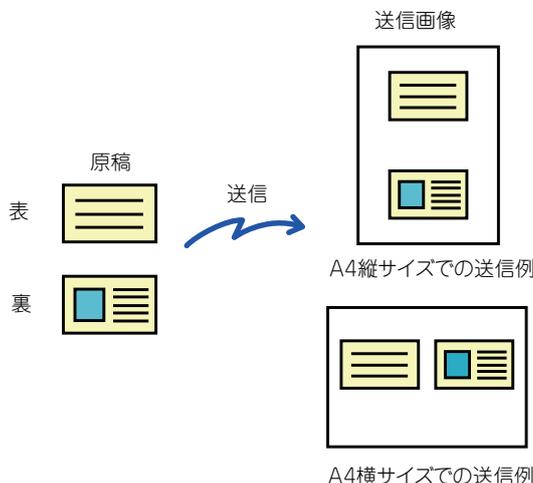
- 「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。
- 原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたときは、原稿を1枚ずつ読み込みます。セットした原稿の読み込みが終了したら、次の原稿と入れ替えて【白黒スタート】キーまたは【カラースタート】をタップします。繰り返し操作してすべての原稿の読み込みが終了したら、【読み込み終了】キーをタップします。



まとめてスキャン・送信する機能

カードの裏表を1枚にまとめてスキャン（カードスキャン）

各種カードの表と裏を別々に送信することなく、1枚にまとめて送信します。

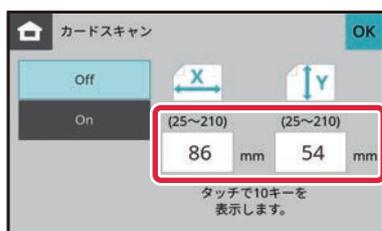


- 読み込みサイズが送信サイズより大きい場合は、送信できません。
- 原稿の倍率指定や回転送信はできません。

1

【その他の機能】 キーをタップして、【カードスキャン】 キーをタップする

2



【On】 キーをタップして、必要に応じて原稿のサイズを設定する

設定が終わったら **OK** をタップします。



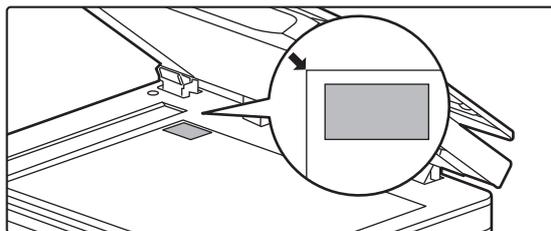
- 原稿のX(横)、Y(縦)方向それぞれのサイズを示す数値表示部をタップして、数字キー（10キー）で範囲を入力します。
- 画像が欠ける場合は、原稿を内側にずらしてセットしてください。



カードスキャンの設定を解除するには【Off】 キーをタップします。



3



カードの表面を下にして原稿台（ガラス面）にセットする

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

4

【スタート】 キーをタップして、表面を読み込む

読み込み後、続けて裏面を読み込むか読み込み終了するか案内メッセージが表示されます。

【読み込み終了】 キーをタップした場合、送信を開始します。

5

カードの裏面を下にして原稿台（ガラス面）にセットし、【スタート】 キーをタップして裏面を読み込む



• 読み込み開始後は、すべての設定が変更できません。

• すべての設定を解除するときは
【リセット】 キーをタップします。

6

【読み込み終了】 キーをタップする



名刺をスキャンして送信する（名刺スキャン）

名刺をスキャンして送信します。

1

読み取りたい名刺を原稿台（ガラス面）にセットする

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)



原稿台（ガラス面）に名刺をセットする際の注意事項

- 対応可能な名刺サイズは55×91mmまでです。
- 名刺の形が正方形あるいは長方形でない場合は、正しく切り出されないことがあります。

2

送信先を指定する

[アドレス帳からの送信先呼び出し（6-13ページ）](#)

[指定した送信先を一覧表示（6-16ページ）](#)

[手動で宛先を入力（6-17ページ）](#)

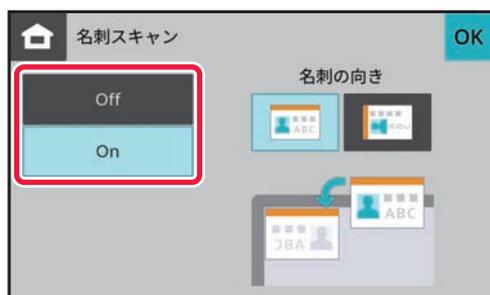
[グローバルアドレス帳からの送信先呼び出し（6-18ページ）](#)

[送信履歴からの再送信（6-20ページ）](#)

3

【その他の機能】 キーをタップして、【名刺スキャン】 キーをタップする

4



【On】 キーをタップする

設定が終わったら **OK** をタップします。



名刺スキャンの設定を解除するには

【Off】 キーをタップします。

5

【白黒スタート】 キーまたは【カラースタート】 をタップして、原稿の読み込みを開始する

セットした原稿の読み込みが終了したら、次の原稿と入れ替えて【白黒スタート】 キーまたは【カラースタート】 をタップします。

繰り返し操作してすべての原稿の読み込みが終了したら、【読み込み終了】 キーをタップします。

「ピー」音が鳴ると送信操作は終了です。



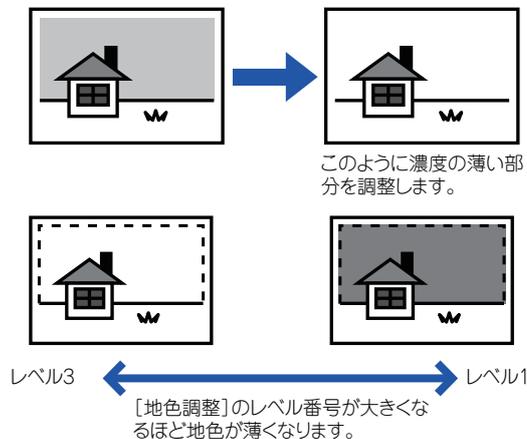
- 名刺スキャンの設定を解除したときに、次の項目は名刺スキャン設定時に変更した設定のままになります。
解像度、ファイル形式
- 名刺によっては、正しく切り出されないことがあります。



色味や濃淡を調整する機能

濃度の薄い部分を地色として薄く調整する（地色調整）

原稿の濃度の薄い部分を地色として薄く調整します。



1

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2

送信先を指定する

[アドレス帳からの送信先呼び出し（6-13ページ）](#)

[指定した送信先を一覧表示（6-16ページ）](#)

[手動で宛先を入力（6-17ページ）](#)

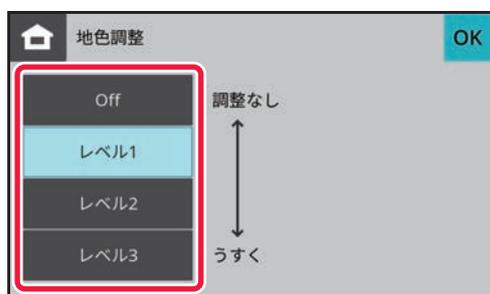
[グローバルアドレス帳からの送信先呼び出し（6-18ページ）](#)

[送信履歴からの再送信（6-20ページ）](#)

3

[その他の機能] キーをタップして、[地色調整] キーをタップする

4



調整したいレベルのキーをタップする

設定が終わったら **OK** をタップします。



地色調整の設定を解除するには
[Off] キーをタップします。



5

【白黒スタート】キーまたは【カラースタート】をタップして、原稿の読み込みを開始する

- 原稿セット台に原稿をセットしたときは、セットしている原稿をすべて読み込みます。
「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。
- 原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたときは、原稿を1枚ずつ読み込みます。
セットした原稿の読み込みが終了したら、次の原稿と入れ替えて【白黒スタート】キーまたは【カラースタート】をタップします。
「ピー」音が鳴ると送信操作は終了です。



【白黒2値】に設定しているときは、地色調整を設定しても機能しません。



読み込んだ原稿の輪郭をくっきり際立たせて送信（シャープネス）



1

原稿をセットする

原稿を原稿自動送り装置の原稿セット台、または原稿台（ガラス面）にセットします。

[原稿自動送り装置（1-21ページ）](#)

[原稿台（ガラス面）（1-23ページ）](#)

2

送信先を指定する

[アドレス帳からの送信先呼び出し（6-13ページ）](#)

[指定した送信先を一覧表示（6-16ページ）](#)

[手動で宛先を入力（6-17ページ）](#)

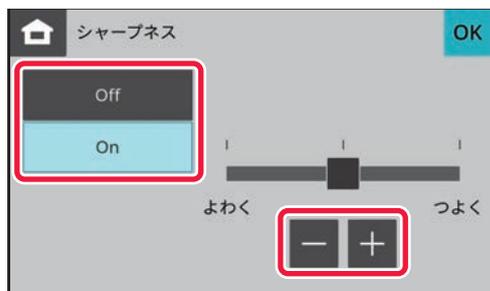
[グローバルアドレス帳からの送信先呼び出し（6-18ページ）](#)

[送信履歴からの再送信（6-20ページ）](#)

3

[その他の機能] キーをタップして、[シャープネス] キーをタップする

4



- + をタップしてシャープネスのレベルを調整する

設定が終わったら **OK** をタップします。



シャープネスの設定を解除するには [Off] キーをタップします。



5

【白黒スタート】キーまたは【カラースタート】をタップして、原稿の読み込みを開始する

- 原稿セット台に原稿をセットしたときは、セットしている原稿をすべて読み込みます。
「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。
- 原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたときは、原稿を1枚ずつ読み込みます。
セットした原稿の読み込みが終了したら、次の原稿と入れ替えて [[白黒スタート] キーまたは [カラースタート] をタップします。繰り返し操作してすべての原稿の読み込みが終了したら [読み込み終了] キーをタップします。
「ピー」音が鳴ると原稿の読み込みが完了し、送信操作は終了です。



コンピューターからスキャンする (リモートPCスキャン)

基本的なスキャンのしかた

本機に付属のCD-ROMからスキャナードライバーをインストールすることにより、お使いのコンピューターからTWAIN※対応アプリケーションソフトを使って画像を読み込むことができます。

本機の操作でスキャンする方法が複数原稿の連続読み込みに適しているのに対し、コンピューターからのスキャンは、写真など1枚の原稿をコンピューター上で画質調整しながら取り込むのに適しています。

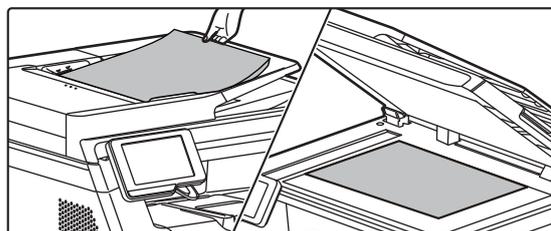
※ スキャナーなどのイメージデータ入力機器で使用されるインタフェース規格の1つです。スキャナードライバーをコンピューターにインストールすると、TWAIN規格に対応したアプリケーションソフトであれば、各アプリケーションソフト上からイメージデータを読み取ることが可能になります。



- リモートPCスキャンモードでのスキャンは、「ソフトウェアCD-ROM」の統合インストーラからスキャナードライバーをインストールしたときのみ使用できます。スキャナードライバーのインストールおよび設定については、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。
- 使いのTWAIN対応アプリケーションソフトによって、スキャナードライバーの選択方法や起動方法は異なります。詳しくはアプリケーションソフトに付属の取扱説明書またはヘルプを参照してください。
- 高解像度の設定で広範囲をスキャンすると、データ容量が大きくなり読み取り時間が長くなります。スキャン時の設定は、原稿の種類（テキストや写真など）に合わせて適切に行ってください。

[本機での操作]

1

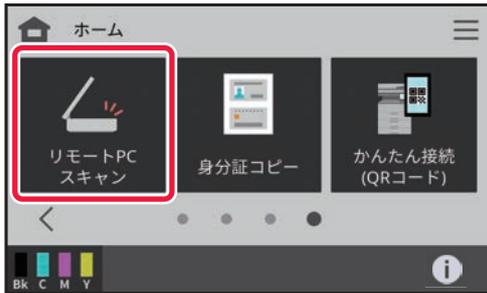


原稿をセットする

原稿セット台の場合は上向きに、原稿台（ガラス面）の場合は下向きにセットしてください。



2



【リモートPCスキャン】モードアイコンをタップしてリモートPCスキャンモードに切り替える

【リモートPCスキャン】モードアイコンが表示されていない場合は、▶ タブをタッチして画面を切り替えてください。



リモートPCスキャンモードを選択しているときは、タッチパネルに表示される [終了] キー以外の操作はできなくなります。

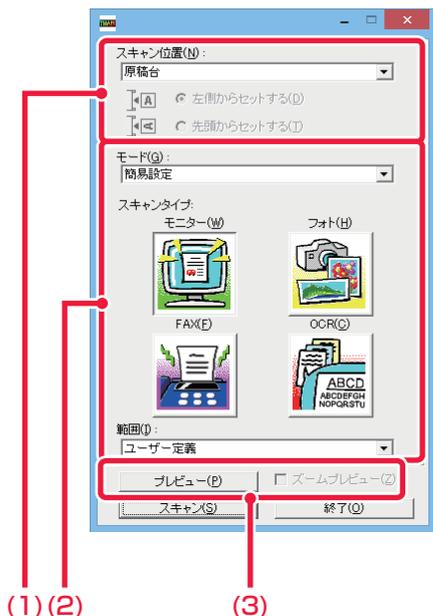
[コンピューターでの操作]

3

お使いのコンピューターでTWAIN対応アプリケーションソフトを起動し、アプリケーションで本機のスキャナードライバーの [SHRAP MFP TWAIN V] を選択する



4



画像をプレビューする

(1) 原稿をセットした場所を選択する

「スキャン位置」メニュー：

- 原稿セット台に片面原稿をセットしたときは、[SPF (片面)] を選択します。
- 原稿セット台に両面原稿をセットしたときは、原稿の綴じ位置によって [SPF (両面-左右開き)] または [SPF (両面-上下開き)] を選択します。また、原稿の向きを [左側からセットする] か [先頭からセットする] を選択します。

(2) 読み取り設定を行う

「モード」メニュー：

「簡易設定」画面と「詳細設定」画面を切り替えます。「簡易設定」画面では、原稿の種類や用途に合わせて「モニター」、「フォト」、「FAX」、「OCR」のいずれかをクリックして選択します。

これら4つのボタンの初期設定値を変更するときや、画質、解像度など細かい設定を行ってスキャンするときには、「詳細設定」画面に切り替えます。

「範囲」メニュー：

スキャン範囲を設定します。[自動] を選択すると本機が検知した原稿サイズでスキャンします。また、プレビューウィンドウ内でスキャン範囲をマウスを使って自由に設定することもできます。

(3) [プレビュー] ボタンをクリックする

読み取りイメージがスキャナードライバーに表示されます。

表示されたプレビューイメージが適切でない場合は、(2) ~ (3) を繰り返してください。

[ズームプレビュー] チェックボックスを有効にすると、[プレビュー] ボタンをクリックした際に、選択されている範囲を拡大してプレビューします。チェックをはずすと、通常の表示に戻ります。ただし、「スキャン位置」メニューでSPFを選択した場合は、[ズームプレビュー] 機能は使用できません。



- 読み取り設定の詳細は、手順 7 のプレビューイメージ画面にある ボタンをクリックすると表示されるスキャナードライバーのヘルプを参照してください。
- 原稿セット台からスキャンする場合、[プレビュー] ボタンをクリックすると読み取りイメージとして一枚目の原稿だけスキャンします。同じ原稿をスキャンするときは、原稿を原稿セット台に戻してください。



5



イメージを見ながら読み取り設定を行う

【回転】 ボタン：

クリックするごとにプレビュー画像が時計回りに90度回転します。原稿をセットし直さなくても向きを補正することができます。プレビューウィンドウに表示されている向きで画像ファイルをスキャンすることができます。

【画像サイズ】 ボタン：

クリックするとダイアログボックスが表示され、数値を入力して読み取り範囲を指定することができます。数値の単位はPixel/mm/Inchから選択できます。あらかじめ任意に読み取り範囲を指定しておくこと、入力した数値によって、指定した読み取り範囲の左上を基準に範囲が変化します。

✕ ボタン：

プレビュー画像が表示されていて、スキャン範囲を設定していないときに ✕ ボタンをクリックすると、プレビューされた画像全体をスキャン範囲として自動選択できます。



- 読み取り設定の詳細は、**?** ボタンをクリックすると表示されるスキャナードライバーのヘルプを参照してください。
- 原稿セット台に原稿をセットしたときは、原稿の一番上のページのみをプレビューし、原稿出紙部に排紙します。プレビューした原稿は、再度プレビューする前、またはスキャンを実行する前に原稿セット台に戻してください。

6



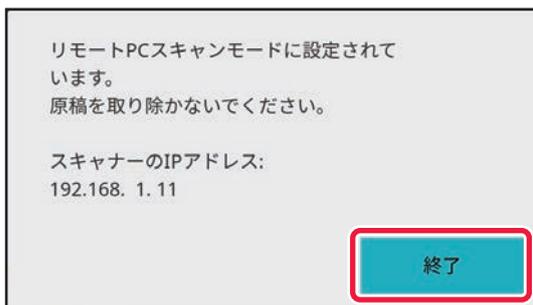
【スキャン】 ボタンをクリックする

スキャンが始まり、お使いのアプリケーションソフトに画像が取り込まれます。

お使いのアプリケーションソフトによっては、取り込んだ画像にファイル名を付けて保存してください。

【本機での操作】

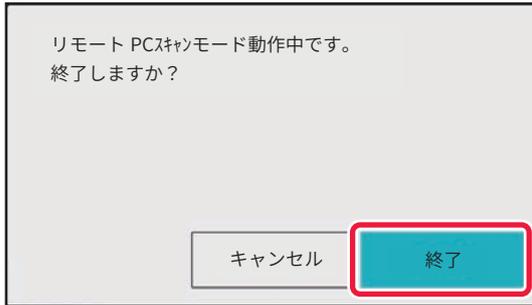
7



【終了】 キーをタップする



8



【終了】 キーをタップする



本機を便利に使う

環境に優しく使用する

Ecoについて	7-2
本機のEco機能	7-2
予熱モード	7-2
オートパワーシャットオフモード	7-3
オートパワーシャットオフ設定	7-3
Ecoスキャン	7-4
Ecoスキャン設定	7-4

本機の使用を管理する

ユーザー認証について	7-5
ユーザー番号方式	7-5
ログイン名/パスワード方式	7-7
ICカード方式	7-9
ユーザー管理	7-11
使用枚数制限グループリスト	7-12
権限グループ	7-12

ネットワーク環境で使用する

Wi-Fiを使用する	7-13
Wi-Fiについて	7-13
WPS	7-14
モバイル機器と本機と接続して使用する	7-15
QRコードで接続する	7-15
モバイル機器を使用したプリントとスキャン	7-16
OAuth2.0認証について	7-17
トークンの取得	7-17
トークンを削除する	7-18
トークンの状態を確認する	7-19
本機の遠隔操作	7-20

本機のユニバーサル・デザインについて

本機のユニバーサル・デザイン	7-21
本体の操作に関するユニバーサル・デザイン	7-21
聴覚に関するユニバーサル・デザイン	7-22
その他のユニバーサル・デザインについて	7-22



環境に優しく使用する

Ecoについて

本機のEco機能

本機のEco機能には次のような機能があります。各モードで適用される設定値は以下の通りです。

Ecoモード	設定値
予熱モードの設定	1分
オートパワーシャットオフ設定：リモートジョブ	最短
オートパワーシャットオフ設定：その他のジョブ	11分
スリープモード設定	省電力優先
Ecoスキャン	有効（ジョブ優先）

予熱モード

定着部の温度を下げて低消費電力状態で待機します。

ジョブを実行していない待機状態で、設定した時間が経過すると予熱モードになります。

オートパワーシャットオフモードと比べ、節約する電力は小さく、復帰時間は短くなります。

タッチパネルが消灯します。

予熱モード中、主電源ランプが青色に点灯します。

タッチパネルをタップしたとき、予熱モードは解除されます。



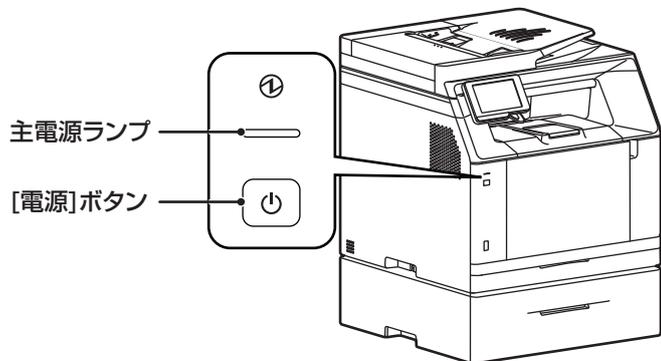
予熱モードを設定するには

操作パネルから[システム設定]→[省エネルギー設定]→[予熱モードの設定]（Webページの場合は、[システム設定]→[省エネルギー設定]→[Eco設定]→[予熱モードの設定]）で設定します。



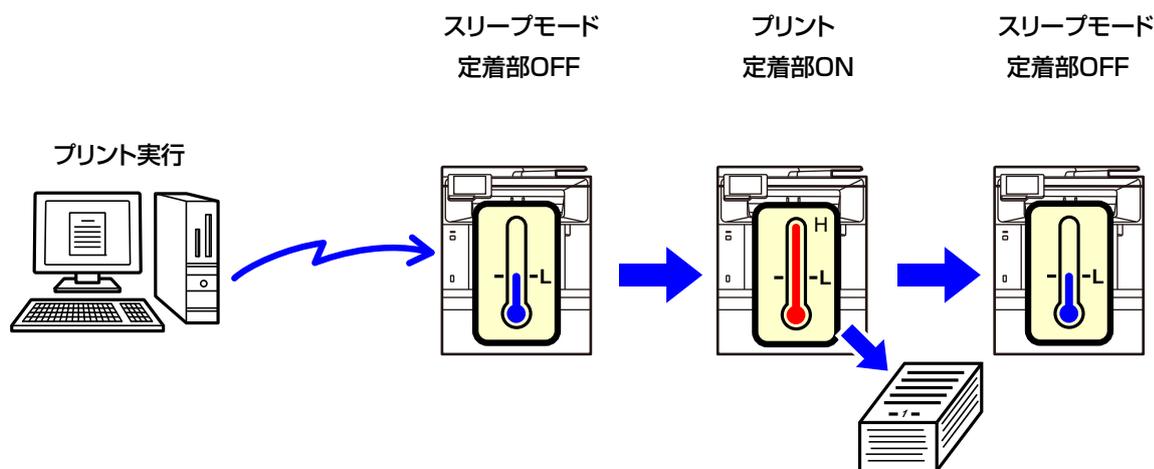
オートパワーシャットオフモード

操作パネルや定着部の電源を切り、最も低消費電力の状態ですぐに待機します。
 ジョブを実行していない待機状態で、設定した時間が経過すると、オートパワーシャットオフモードになります。
 予熱モードと比べ、節電率が高い反面、復帰時間は長くなります。
 オートパワーシャットオフモード中、主電源ランプが青色で点滅します。
 プリントデータ受信時、ファクスデータ出力時、または [電源] ボタンを押すと、解除します。



オートパワーシャットオフ設定

オートパワーシャットオフモード時にプリント実行やファクス受信データを出力すると電源が入り、プリント終了後、すぐにオートパワーシャットオフモードに戻ります。



リモートジョブ終了後すぐにオートパワーシャットオフへ移行するを設定するには

操作パネルから[システム設定]→[省エネルギー設定]→[オートパワーシャットオフ設定] (Webページの場合は、[システム設定]→[省エネルギー設定]→[Eco設定]→[オートパワーシャットオフ設定]) で「最短」を有効にします。

スリープモード設定

省電力優先 : 省電力となりますが、復帰には多少時間がかかります。

復帰時間優先 : 省電力優先と比べますと、電力値は多少上がりますが、復帰時間が早くなります。



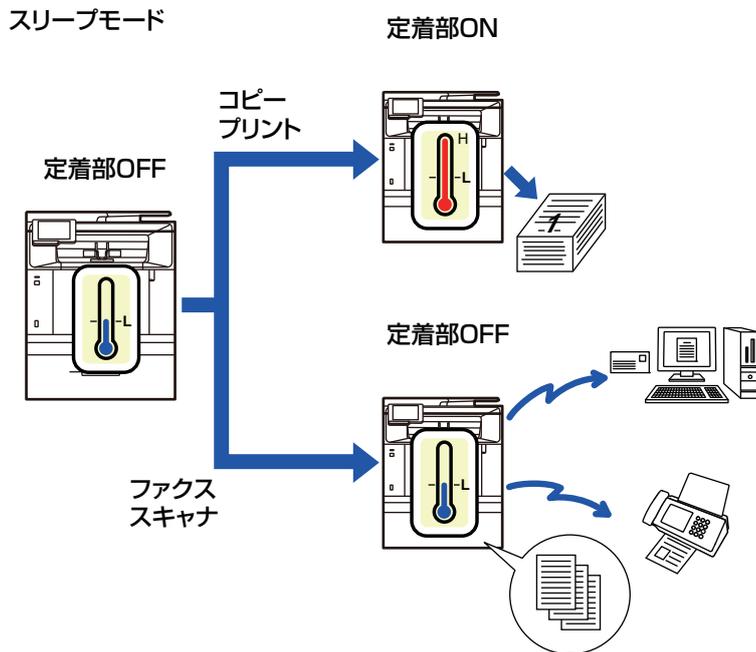
スリープモード設定を設定するには

Webページの[システム設定]→[省エネルギー設定]→[Eco設定]→[スリープモード設定]で設定します。



Ecoスキャン

読み込んだ原稿を送信する、などのプリントしない動作を、定着部をOFFにしたまま実行します。



Ecoスキャン設定

「Ecoスキャン設定」で有効にすることができます。省エネルギー優先と、ジョブ優先の2つから選択できます。



Eco スキャンを設定するには

Webページの[システム設定]→[省エネルギー設定]→[Ecoスキャン設定]で設定します。



本機の使用を管理する

ユーザー認証について

ユーザー認証は、本機の利用者（ユーザー）を登録することで、登録されたユーザーのみが本機を使用できるようにする機能です。使用できる機能などをユーザーごとに設定することもできるので、使用状況に応じた本機の運用が行えます。

ユーザー認証が管理者によって設定されているときは、本機を使用する際にログインする必要があります。ユーザー認証にはいくつかの種類があり、それぞれでログイン方法が異なります。

ログインのしかたについては、それぞれの説明を参照してください。

[ユーザー番号方式（7-5ページ）](#)

[ログイン名／パスワード方式（7-7ページ）](#)

[ICカード方式（7-9ページ）](#)

ユーザー認証に必要な設定は、[ユーザー管理（7-11ページ）](#)を参照してください。

ユーザー番号方式

あらかじめ本機の管理者から与えられたユーザー番号を使って、認証を受ける方式です。

本機を使用するときに、ログイン画面を表示します。

ユーザー番号方式で管理している場合



[ログイン失敗時の警告]を設定しているときに番号入力を3回まちがえると、それ以上入力できないように操作パネルを5分間ロックします。

与えられたユーザー番号を本機の管理者にご確認ください。

1

数字キー（10キー）でユーザー番号（5桁～8桁）を入力する

入力した数字は「*」で表示します。



2



[OK] キーをタップする

入力したユーザー番号が認証されたときは、そのユーザーがコピーできる残り枚数を表示します。

ユーザーの使用枚数を制限しているときは、ログインしたユーザーの使用枚数を表示します。



- **ユーザーの使用枚数を制限するには**

Web ページの [ユーザー管理] → [アクセス制御設定] → [使用枚数制限グループ] で設定します。

- **ログイン後の使用枚数を表示しないようにするには**

Web ページの [システム設定] → [認証設定] → [初期設定] → [ログイン後に使用枚数を表示する] を無効にします。

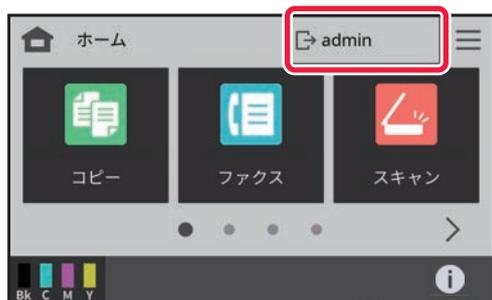
- **メッセージの表示時間**

操作パネルから [システム設定] → [共通設定] → [操作設定] → [メッセージ表示時間の設定] で変更します。



ユーザー番号が8桁の場合は、この手順は不要です。ユーザー番号入力後、自動的にログインします。

3



各機能を使用後、操作を終了するときは [ログアウト] をタップする



ログイン名／パスワード方式

あらかじめ本機またはLDAPサーバーの管理者から与えられたログイン名とパスワードを使って認証を受ける方式です。

本機を使用するときに、ログイン画面を表示します。

ログイン名／パスワード方式で管理している場合



- **【ログイン失敗時の警告】を設定するには**

Web ページの [システム設定] → [認証設定] → [初期設定] → [ログイン失敗時の警告] で設定します。

- **ユーザー名を登録するには**

Web ページの [ユーザー管理] → [ユーザー設定] → [ユーザーリスト] で登録します。

ログイン名、ユーザー番号、パスワードなどの詳細な情報を登録します。本機を使用するために必要な情報は、あらかじめ本機の管理者にお問い合わせください。

1



ログイン名を入力する

ソフトキーボードから入力する

設定モードでユーザー登録していない場合で、LDAP認証のみを利用しているユーザーは [ログイン名] テキストボックスをタップして、ソフトキーボードからログイン名を入力します。

リストから選択する

 をタップして、ユーザーリスト画面からユーザーを選択します。

2



パスワードを入力する

ソフトキーボードからパスワードを入力します。

入力した文字は「*」で表示します。パスワードの入力が完了したあとは [OK] キーをタップします。

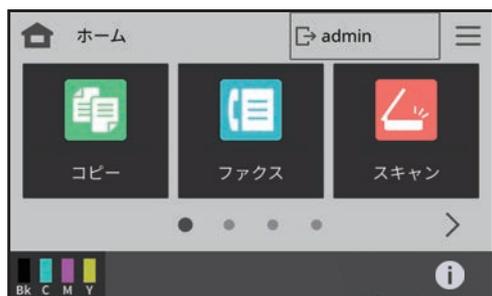


- **ユーザーとパスワードを登録するには**

Web ページの [ユーザー管理] → [ユーザー設定] → [ユーザーリスト] で登録します。



3



[OK] キーをタップする

入力したログイン名、パスワードが認証されたときは、そのユーザーがコピーできる残り枚数を表示します。

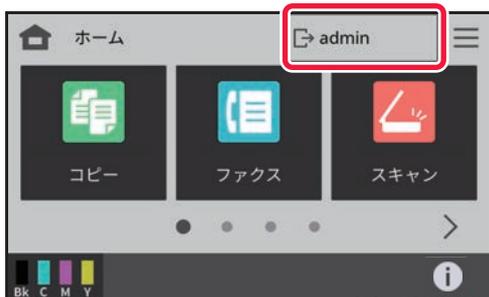


ユーザーの使用枚数を制限しているときは、ログインしたユーザーの使用枚数を表示します。



- **ユーザーの使用枚数を制限するには**
Web ページの [ユーザー管理] → [アクセス制御設定] → [使用枚数制限グループ] で設定します。
- **ログイン後の使用枚数を表示しないようにするには**
Web ページの [システム設定] → [認証設定] → [初期設定] → [ログイン後に使用枚数を表示する] を無効にします。
- **メッセージの表示時間**
操作パネルから [システム設定] → [共通設定] → [操作設定] → [メッセージ表示時間の設定] で変更します。

4

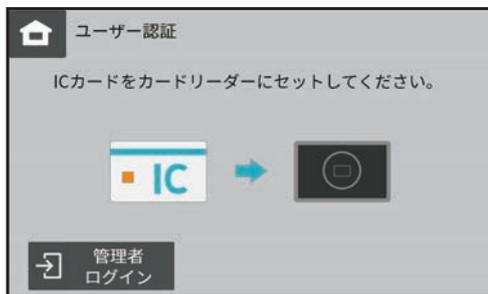


各機能を使用後、操作を終了するときには
[ログアウト] をタップする



ICカード方式

非接触式のICカードを使って、ユーザー認証をします。次のログイン画面を表示します。

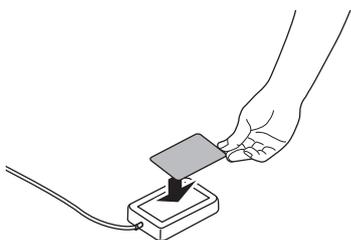


ICカードを使った認証を使用する場合は、サービス担当者にご相談ください。



- **ICカードの認証方法を設定するには**
Web ページの [システム設定] → [認証設定] → [初期設定] → [IC カード設定] で設定します。
- **ICカードの認証方法を設定する前に**
Web ページの [システム設定] → [認証設定] → [初期設定] → [IC カード設定] → [認証時に IC カードを使用する] を有効にしてください。

1



ICカードをICカードリーダー部にタッチする

ICカードは1枚だけタッチします。
「しばらくお待ちください。」とメッセージを表示したあと、ユーザーの使用枚数が画面にしばらく表示され、ログインが完了します。
認証先がLDAPサーバーの場合は、手順3へ進んで、本機にログインします。本機の操作が完了し、ログアウトしたい場合は、手順6へ進みます。

2

[OK] キーをタップする

「しばらくお待ちください。」とメッセージを表示したあと、ログインが完了します。

3

認証先がLDAPサーバーの場合は [パスワード] テキストボックスをタップする

ソフトキーボードを表示します。

4

認証先をLDAPサーバーのログイン名に登録しているパスワードを入力する



- 認証先が表示している LDAP サーバーと異なる場合は、[認証先] キーをタップして、表示される画面から認証先の LDAP サーバーを選択します。
- ログイン名の変更はできません。



5

[OK] キーをタップする

「しばらくお待ちください。」とメッセージを表示したあと、ユーザーの使用枚数が画面にしばらく表示され、ログインが完了します。

6

各機能を使用後、操作を終了するときは [ログアウト] をタップする



ユーザー管理

ログインするユーザーの登録やユーザー認証の方法など、ユーザーの管理を行います。

Webページの [ユーザー管理] とWebページの [システム設定] → [認証設定] で設定します。

ユーザー管理では、本機を使用するユーザーを登録し、管理することができます。

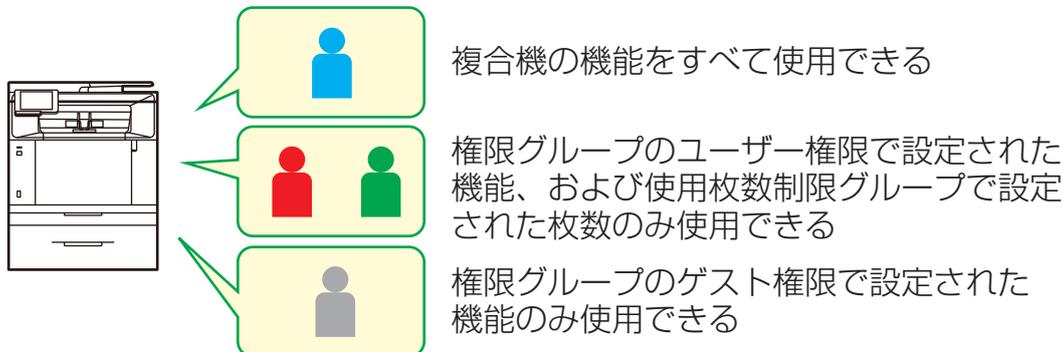
ユーザーや複数のユーザーをまとめたグループごとに使用枚数や機能を制限することで、本機の誤った使用を防ぐことができます。使用枚数制限グループリスト、権限グループがあります。

また、登録されていないユーザーに対しては、本機の使用を禁止、または機能の制限を行うことで、不正使用の防止を行います。

例：ユーザー登録の内容

	ユーザー名：AAA 使用枚数制限グループ：設定ありグループ	権限グループ：ユーザー権限
	ユーザー名：BBB 使用枚数制限グループ：設定ありグループ	権限グループ：ユーザー権限
	ユーザー名：CCC 使用枚数制限グループ：制限なし	権限グループ：管理者権限
	ユーザー名：なし (複合機に登録されていないユーザー)	

複合機の使用について





使用枚数制限グループリスト

使用枚数制限グループリストとは、特定のグループに所属するユーザーに対して、コピーやプリンターなどの使用枚数を制限することができます。また、機能を使用することを禁止することもできます。

フルカラー機の場合、カラー別に枚数を指定することができます。

使用枚数制限グループリスト A

コピー:

白黒: 制限枚数 (10000)

フルカラー: 制限枚数 (10000)

プリンター:

白黒: 制限なし

フルカラー: 禁止

このグループに所属するユーザーは

- ・コピーは白黒・カラーともに 10000 枚まで使用できます。
- ・プリンターは白黒は制限なしで使用でき、カラーは使用できません。

権限グループ

権限グループでは、特定のグループに所属するユーザーに対して、各機能や設定に関して制限を行うことができます。あらかじめ機能や設定に関して制限することで、本機に関して詳しくないユーザーによる誤動作や誤設定を防ぐことができ、本機を安全に使用することができます。

主な権限の種類 (デフォルトグループリスト)

管理者権限



すべての機能や複合機の設定を行うことができる。

ユーザー権限

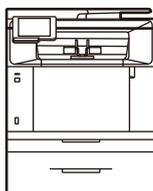


コピーやプリンターなどの機能は使用できるが、複合機の設定はできない。

ゲスト権限



一部の限られた機能しか使用できない。





ネットワーク環境で使用する

Wi-Fiを使用する

Wi-Fiについて

本機ではWi-Fiを使用して、モバイル機器などに接続することができます。

本機では3つの通信モードが使用できます。

Wi-Fi環境の設定は、システム設定で行います。

Wi-Fiの通信モードについて

インフラストラクチャーモード

本機とモバイル機器は、アクセスポイントが設置されたネットワークを介して通信できます。



ダイレクト接続モード

アクセスポイントモード

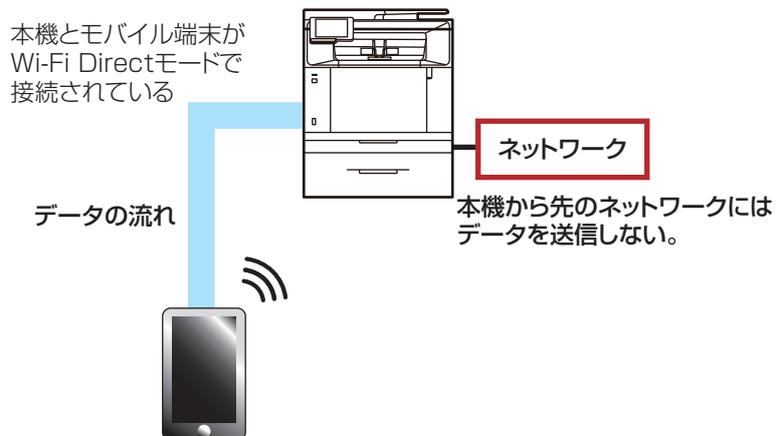
本機をアクセスポイントとして設定し、モバイル機器と通信できます。このとき本機が接続されているネットワークには通信できません。





Wi-Fi Directモード

本機とモバイル機器をWi-Fiを介して直接、通信します。このとき本機が接続されているネットワークには通信できません。



この機能は、Android端末で使用できます。

WPS

Wi-Fiで接続するSSIDやセキュリティの設定などを手動で設定するのではなく、WPSを使用してかんたんにネットワーク環境に接続することができます。



WPSが使用できるのは、インフラストラクチャーモードのときです。



モバイル機器と本機と接続して使用する

本機のタッチパネルにQRコードを表示させ、あらかじめ専用アプリケーションをインストールしたモバイル機器にQRコードを読み取らせることで接続することもできます。
QRコードを使用すると、本機以外のアクセスポイントに接続することもできます。



使用できる専用アプリケーションについては、お買いあげの販売店またはスタートガイドに記載のシャープお客様相談窓口へお問い合わせください。

QRコードで接続する

本機のタッチパネルにQRコードを表示させ、あらかじめモバイル機器にインストールした専用アプリケーションでQRコードを読み込みます。

そのとき、モバイル機器に本機の接続に必要な情報が送信され、登録されます。モバイル機器側での設定は不要で、すばやく設定が可能になります。

あらかじめ、QRコードでの接続ができるように本機で設定してください。



この機能は、Android端末とiOS端末で使用できます。

1

ホーム画面にある[かんたん接続（QRコード）]キーをタップする

QRコードがタッチパネルに表示されます。

あらかじめ、Webページのシステム設定の[かんたん接続設定]でQRコードを有効にし、[ホーム画面設定]で[かんたん接続（QRコード）]キーを表示するように設定してください。

2

モバイル機器で専用のアプリケーションを起動する

3

モバイル機器でタッチパネルのQRコードを読み取る



QRコードが本機の接続情報となっています。この情報がモバイル機器に登録されます。また、外部のアクセスポイントを接続先として設定できます。



モバイル機器を使用したプリントとスキャン

以下のアプリケーションを使用して、本機とモバイル機器を接続し、モバイル機器のデータをプリントしたり、モバイル機器のカメラなどからスキャンしたデータを本機に送信したりできます。



- モバイル機器を本機に接続する前に、操作パネルから[システム設定]→[ネットワーク設定]→[無線設定（インフラストラクチャーモード）]/[無線設定（アクセスポイントモード）]（Webページの場合は、[システム設定]→[ネットワーク設定]→[無線設定]）でモバイル機器と接続できるように設定してください。
- アプリケーションの使用方法の詳細については、アプリケーションの取扱説明書を参照してください。
- Sharpdesk MobileはダイレクトモードのWi-Fi Directでご利用いただけます。詳細については、Sharpdesk Mobileのマニュアルを参照してください。

	iOS	Android
プリント	<ul style="list-style-type: none">• AirPrint• Sharpdesk Mobile	<ul style="list-style-type: none">• Sharpdesk Mobile• Print Service Plugin
スキャン	<ul style="list-style-type: none">• Sharpdesk Mobile	<ul style="list-style-type: none">• Sharpdesk Mobile



OAuth2.0認証について

本機からMicrosoft365、Exchange Onlineなどを使用してE-mail送信などを行う場合、OAuth2.0認証方式の利用が推奨されています。

ここでは、OAuth2.0認証の操作方法について説明します。

トークンの取得

OAuth2.0認証では、サービスプロバイダーがアクセス用のトークンを発行し、それを本機で取得することで、E-mail送受信が可能になります。ここではトークンの取得方法について説明します。

設定は本機の管理者が行ってください。



ジョブ実行中にエラーが発生した場合は、システム設定のPOP/SMTP認証接続をテストしてください。もし接続テストの結果、[トークンの更新に失敗しました。トークンを削除して再取得してください。]と表示された場合は、トークンを削除してください。再度トークンを取得します。

SMTP認証設定

SMTP認証の設定は、

- システム設定→ネットワーク設定→サービス設定（SMTPタブ）
- システム設定→システム管理→E-mailアラート/ステータス→SMTP設定
- システム設定→ネットワーク設定→簡易設定
- システム設定→初期設置設定→ネットワーク簡易設定

があり、設定方法はいずれの場合も同じです。

ここではシステム設定→ネットワーク設定→サービス設定（SMTPタブ）でのトークン取得の方法について説明します。

1

Webページの「システム設定」→「ネットワーク設定」→「サービス設定」の「SMTP」タブの順にクリックする

2

SMTP設定で「プライマリーサーバー」や「ポート番号」、「タイムアウト」、「送信者名」、「送信者アドレス」、「SSL/TLSを有効にする」など必要な設定を行う

3

認証方式で「OAuth2.0」を選択する

4

プロバイターを選択する

5

アカウント名を入力する

6

[取得]キーをクリックする

[取得]キーをクリックすると、確認のメッセージが表示されるので[OK]キーをクリックしてください。その後、選択したプロバイダーのログインページが表示されるので、ログインし、指示に従って、トークンを取得してください。トークンを取得すると「トークン」の表示が[未取得]から[取得済]に変わります。



以下の設定は共通しています。どれか1つの設定でOAuth2.0認証を受けると、連動して更新されます。

- システム設定→ネットワーク設定→サービス設定（SMTPタブ）
- システム設定→ネットワーク設定→簡易設定
- システム設定→初期設置設定→ネットワーク簡易設定

以下の設定は独立しています。他のSMTP認証の設定でOAuth2.0認証を受けていても、個別にOAuth2.0認証を受ける必要があります。

- システム設定→システム管理→E-mailアラート/ステータス→SMTP設定

POP認証設定

POP認証の設定は、

- システム設定→システム管理→E-mailアラート/ステータス→E-mailステータス（拡張タブ）
があります。

1 Webページの「システム設定」→「システム管理」→「E-mailアラート/ステータス」→「E-mailステータス（拡張タブ）」タブの順にクリックする

2 設定で「POP3サーバー」や「ポート番号」、「ポーリング間隔」など必要な設定を行う

3 認証方式で「OAuth2.0」を選択する

4 SMTP認証設定の手順4から6を行う

トークンを削除する

Exchange Onlineなどで新しいアカウントで本機を使用するときや、トークンの期限が切れてしまって使用できなくなった場合など、設定しているトークンを削除します。設定は本機の管理者が行ってください。トークンの削除はWebページからでも設定できます。

SMTPやPOP認証の各設定画面にある削除キーをクリックすると、確認メッセージが表示します。[OK]キーをクリックするとトークンを削除します。

トークンを削除すると「トークン」の表示が[未取得]に変わります。



トークンの状態を確認する

トークンの状態は各設定にある「トークン」で確認できます。

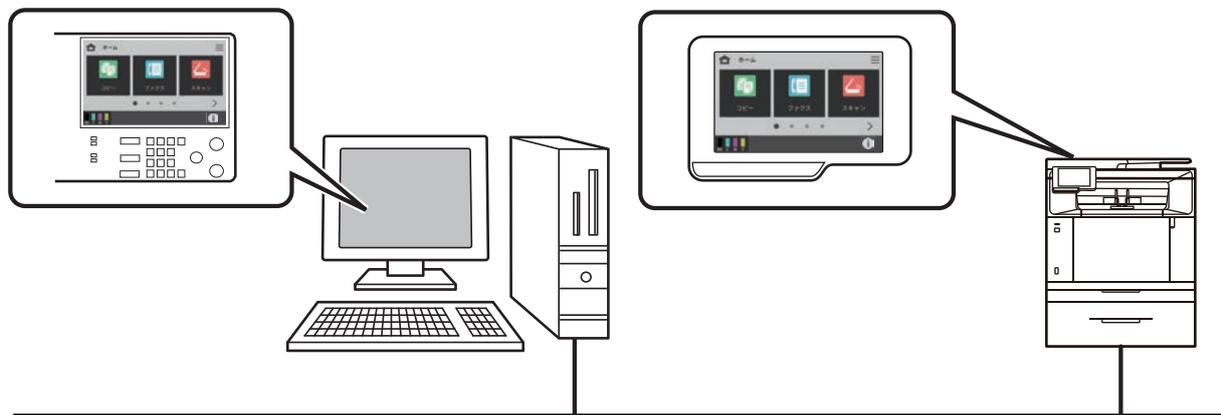
「トークン」での表示	説明
未取得	トークンを取得していない状態。
取得処理中	プロバイダーからトークンの取得の許可を得ているが、本機がトークンの取得を完了していない状態。
取得済	トークンを取得し、そのトークンが有効な状態。
無効	トークンは取得しているが、アカウントが使用できない状態やトークンが有効期限切れなどで無効な状態。



本機の遠隔操作

自分のコンピューターやスマートフォンなどのモバイルデバイスから本機の遠隔操作（リモートオペレーション）をします。

本機の操作パネル部と同じ画面をコンピューターに表示して、本機の前立って操作をするのと同じ感覚で本機を操作します。



リモートオペレーション機能を同時に使えるデバイスは1台です。

リモートオペレーション機能を使用する前に以下の準備が必要です。

- 操作パネルから [システム設定] → [共通設定] → [操作設定] → [リモート操作設定] → [リモートソフトの操作] → [操作権限] を [許可] にする。
- 本機をネットワークに接続する。
- お使いのデバイスにVNCアプリケーションソフトをインストールする。

準備が完了すると、VNCクライアントから本機を操作することができます。VNCクライアントから本機に接続する方法についてはVNCアプリケーションソフトの説明書を参照してください。



- VNCクライアントで本機に接続すると、本機の操作パネルにメッセージが表示されます。メッセージに従って、接続を許可してください。
- VNCアプリケーションソフト接続中は、本機タッチパネルの固定領域エリアに  を表示します。接続を切断したい場合は、VNCアプリケーションソフトを終了するか、 をタップします。
- コンピューター上に表示される操作パネルの操作は本機と同様です。ただし、キーをクリックし続けて値を連続で入力できません。



本機のユニバーサル・デザインについて

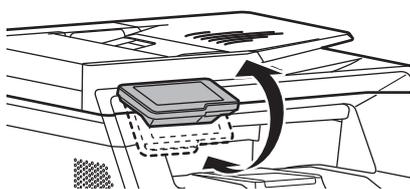
本機のユニバーサル・デザイン

本機は誰もが操作しやすいように、機械の構造やソフトウェアに関して様々な工夫を施しております。

本体の操作に関するユニバーサル・デザイン

操作パネルの角度調整

座ったままでも操作ができるように、操作パネル全体で角度調整できます。



キーの応答時間を変更

状況に応じて、キーの応答時間を変更することができます。

操作パネルから [システム設定] → [共通設定] → [操作設定] で変更します。

- **キー入力の確定受付時間**

タッチパネルのキーをタップしたときに、キー入力が行われたことを確定するまでの時間を0.5秒単位で0～2秒の範囲で設定します。

この時間を長めに設定しておくことで、キータッチを誤った場合でも、設定した時間に達するまでにキータッチをやめれば、キー入力が行われたことにならないため、誤入力しません。ただし設定した時間、キーをタップし続けると、キー入力が行われたことにならないのでご注意ください。

- **キーリピートの禁止**

キーリピートをはたらかないようにします。

キーリピートは、キーをタップするごとに設定値を変化させるだけでなく、キーをタップし続けても、連続的にその値を変化させます。

- **ロングタッチの確定受付時間**

タッチしてから、ロングタッチとして確定する時間を設定します。



聴覚に関するユニバーサル・デザイン

設定変更を音で知らせる

コピーの倍率や濃度を変更するとき、各設定の基準値（コピー倍率の100%や濃度の3）になったところで、音で知らせるようになっていきます。

操作パネルから [システム設定] → [共通設定] → [オーディオ設定] → [報知音設定（共通）] → [キータッチ音] と [基準音/電源OFF音] で変更します。

•キータッチ音の設定

キータッチ音量の大きさを調整したり、鳴らないようにしたりします。また、コピーモードの倍率設定画面および各モードの濃度調整画面で、設定するとき基準となる値にくるとキー音（ピッ）を2回鳴らして、お知らせするように設定します。

設定が有効になる画面	基準値
コピー基本画面に表示する倍率設定画面	倍率100%
コピー基本画面に表示する濃度調整画面	濃度調整値：3（中央）
ファクス、スキャン基本画面に表示する濃度調整画面	

その他のユニバーサル・デザインについて

本機には、その他にもユニバーサル・デザインに対応した設計や設定を用意しています。

やさしいUI

•ホーム画面カスタマイズ - 表示順をカスタマイズ

ホーム画面でよく使用する項目順にホーム画面の表示を変更することができます。

ホーム画面に表示順を変更するのは、Webページの [システム設定] → [ホーム画面設定] → [基本設定] → [ホーム画面設定] で変更できます。

•ホーム画面カスタマイズ - 直感的に操作しやすいシンプルデザイン

フラットなアイコンデザインを採用し、見やすく、わかりやすくなりました。またトナー残量を常に表示しているため、トナー残量の確認に関して、特別な操作の必要はありません。



ホーム画面の編集は、[「ホーム画面を編集する（2-9ページ）」](#)を参照してください。

•グローバルに使いこなせる多言語表示

タッチパネルの表示言語を英語やフランス語などの多言語に切り替えることができます。

[言語設定] で設定したい言語を選択します。



親しみやすい操作性

•プログラム登録による、かんたん操作

コピーやファクスなどで、複数の設定を一つにまとめるプログラム機能があります。よく使用する機能をプログラムにまとめることで、かんたんに操作することができます。

[よく使う設定（プログラム）の登録（3-31ページ）](#)

[送信操作を登録して使用（プログラム）（5-48ページ）](#)

[スキャンの操作を登録して使用（プログラム）（6-35ページ）](#)

•リモート操作

本機のタッチパネルをコンピューターに表示でき、ネットワーク接続されたコンピューターから本機をかんたんに操作することができます。本機の操作手順をコンピューターで教えることができ、またタッチパネルの操作が困難な方でも、コンピューターから本機の操作ができます。

[本機の遠隔操作（7-20ページ）](#)

本体操作も負担を軽減

•濃色カラーの排紙トレイ

排紙トレイに出てきた用紙と区別がつきやすいように、排紙トレイの色を濃くしています。

かんたんトナー交換

•片手で扱いやすいトナー梱包箱

トナーカートリッジが梱包されている箱は、片手でかんたんに開封できます。

•トナーカートリッジの誤装着防止

各色のトナーカートリッジはそれぞれ決まった場所に装着し、まちがえた場所に装着することができないようになっています。

[トナーカートリッジの交換（1-32ページ）](#)

安心サポート

•シャープパワーネットシステム

ファクスを利用し、本機の状態を定期的に、監視・診断します。これによりトナーをはじめとする消耗品のタイムリーな供給などが可能になります。また、万一のトラブルの際も、状態の把握に役立ちますので、より迅速な対応、ダウンタイムの軽減につながります。

シャープパワーネットシステムでご利用いただける機能は機種や環境により異なります。また、別途サービス契約が必要な場合がございます。詳しい内容につきましては、担当セールスにおたずねください。



設定モード

設定モードについて

設定モード	8-3
本機で設定モードを表示する	8-3
設定モード（Web版）を表示する	8-4
設定モードの概要	8-6
設定モードの画面	8-6
設定方法について	8-7

設定モードリスト

設定モードリスト	8-8
操作パネルの設定モードリスト	8-8
Webページの設定モードリスト	8-12

ステータス

ステータス	8-21
マシン情報	8-21
総使用枚数の表示	8-22
デバイスの状況	8-22
ネットワークの状況	8-22
セキュリティの状況	8-22
ファームウェアバージョン	8-23
電源のリセット	8-23
データリスト	8-23

アドレス帳

アドレス帳	8-25
-------	------

ユーザー管理

ユーザー設定	8-27
ユーザーリスト	8-27
ユーザー情報プリント	8-29
アクセス制御設定	8-30
使用枚数制限グループ	8-30
権限グループ	8-31
ユーザーカウント	8-33
ユーザーカウントの表示	8-33
ユーザーカウントの保存	8-34

システム設定

総使用枚数	8-35
ホーム画面設定	8-35
基本設定	8-35
コピー設定	8-36
身分証コピー設定	8-36
カードスキャン設定	8-36
原稿サイズ設定	8-36
標準トレイ設定	8-36
用紙補給したトレイを自動選択する	8-36
用紙自動選択を禁止する	8-36
原稿種類/濃度設定	8-36
ソート/グループ設定	8-36
用紙に合わせて倍率を自動選択する	8-37
コピー部数の上限値設定	8-37
読み込み解像度設定	8-37
プリンター設定	8-38
基本設定	8-38
インターフェース設定	8-38
標準状態設定	8-39
SPDL設定	8-40
PS設定	8-40
PC/モバイル端末からのプリント設定	8-41
ホールドプリント設定	8-41
共通設定	8-42
基本設定	8-42
禁止設定	8-43
発信元登録	8-43
スキャナー設定	8-44
標準状態設定	8-44
基本設定	8-45
件名の設定	8-45
ファイル名の設定	8-45
ファクス設定	8-46
基本設定	8-46
送信設定	8-50
受信設定	8-51
受信/転送設定（手動）	8-53
ファクス設定	8-53
受信データの転送設定	8-54
受信データの転送設定	8-54
管理設定	8-55





認証設定	8-56	プロキシ設定	8-89
初期設定	8-56	無線設定	8-90
管理設定	8-58	かんたん接続設定	8-93
認証後の動作設定	8-59	デバイスWebページ設定	8-94
認証後の画面表示設定	8-59	セキュリティ設定	8-95
カードリーダー設定	8-60	パスワードの変更	8-95
用紙設定	8-61	パスワード設定	8-96
給紙トレイ設定	8-61	基本設定	8-96
操作設定	8-62	ポート設定	8-98
メッセージ表示時間の設定	8-62	ポート設定 (サーバーポート)	8-98
言語設定	8-62	フィルタ設定	8-98
デフォルト表示画面	8-62	フィルタを有効にする	8-99
マシン情報画面にIPアドレスを表示する	8-62	SSL/TLS設定	8-99
LANケーブル非接続時にアイコンを表示する	8-62	IPsec設定	8-101
ジョブ中止時に確認ダイアログを表示する	8-62	監査ログ	8-103
総使用枚数の表示を制限する	8-62	証明書の管理	8-106
10キーの並び順	8-62	個人情報と本機内データの初期化	8-108
オートクリアモードの設定	8-63	省エネルギー設定	8-109
画面タイムアウト禁止	8-63	Eco設定	8-109
キー入力の確定受付時間	8-63	Ecoスキャン設定	8-109
キーリピートの禁止	8-63	システム管理	8-110
ロングタッチの確定受付時間	8-63	ストレージバックアップ	8-110
基本設定	8-63	デバイスクローニング	8-110
データリスト	8-64	設定の初期化	8-111
キーボード切替	8-64	E-mailアラート/ステータス	8-112
カスタムリンク	8-64	ファームウェアアップデート設定	8-115
デバイス設定	8-65	画質調整	8-116
基本設定	8-65	定着クリーニング	8-116
状態ランプ設定	8-66	レジスト調整	8-116
マシン情報の設定	8-66	オートキャリブレーション	8-116
日付/時刻設定	8-66	黒筋検知の警告メッセージを表示する	8-116
禁止設定	8-68	初期設置設定	8-117
プロダクトキー入力	8-69	システム設定以外の操作パネルからの設定モード	8-117
オーディオ設定	8-70	明度調整	8-117
報知音設定(共通)	8-70	総使用枚数表示	8-117
報知音設定(ファクス)	8-70	言語設定	8-117
ネットワーク設定 (操作パネル)	8-72		
ネットワーク設定の確認	8-72		
接続タイプ	8-72		
有線設定	8-72		
無線設定 (インフラストラクチャーモード)	8-74		
無線設定 (アクセスポイントモード)	8-75		
ネットワーク設定 (Webページ)	8-76		
簡易設定	8-76		
ネットワーク名称設定	8-80		
インターフェース設定	8-80		
サービス設定	8-83		
プリントポート設定	8-87		
外部プリントサービス設定	8-87		
LDAP設定	8-88		



設定モードについて

設定モード

設定モードでは、各機能の初期値の登録や、ネットワークに接続するための設定、動作状況のログ確認等、本機を快適に使用するための様々な機能を管理できます。

設定モードは、本機と同じネットワークのコンピューターから本機にアクセスすることで、Webブラウザを通じて使用することもできます。



• 管理者パスワードについて

セキュリティを保護するため、管理者は本機ご購入後すみやかにパスワードを変更します。（工場出荷時の管理者パスワードについては、スタートガイドを参照してください。）パスワードの変更方法は「パスワードの変更」を参照してください。

• 本機の内蔵サーバー（Webページ）について

Webブラウザから本機の内蔵サーバーにアクセスし、表示されるWebページで本機の設定を変更することができます。本書内で「Webページ」と表記する場合、この内蔵サーバーを指しています。

• Webページ上で表示されない項目は本機側で設定してください。

本機で設定モードを表示する

1



【メニュー】アイコンをタップする

2



設定したい項目をタップする



- 設定モードを終了するときには、画面右上の [OK] をタップします。
- ユーザー認証設定時の操作方法については、「[ユーザー認証について \(7-5ページ\)](#)」を参照してください。



設定モード（Web版）を表示する

本機がネットワークに接続されているときは、コンピューターのWebブラウザから本機の内蔵Webサーバーにアクセスします。

1



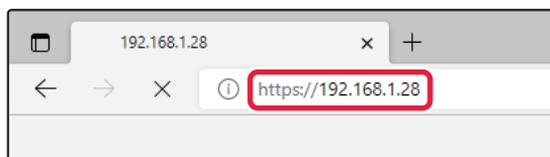
[マシン情報]アイコンをタップする

2



マシン情報にあるIPアドレスを確認する

3



コンピューターのWebブラウザを起動して、本機のIPアドレスを入力する

本機と同じネットワーク上のコンピューターのWebブラウザを起動して、本機のIPアドレスを入力します。

推奨Webブラウザ：

Microsoft Edge (Windows®)、

Firefox (Windows®)、

Safari (macOS®)、

Chrome (Windows®)：

最新版とその1つ前のメジャーリリース

設定モード（Web版）を表示します。

工場出荷時には、ユーザーパスワードの入力が必要となります。

本機の設定によっては、ユーザー認証を受けないと設定モード（Web版）を表示しない場合があります。

認証を受けるときに必要なパスワードなどの情報については本機の管理者にご確認ください。



4

ログイン名を選択し、パスワードを入力する

パスワードの入力について

- 設定にかかわらず管理者権限が必要な項目をクリックしたときは、パスワードの入力画面が表示されます。管理者権限のあるユーザーを選択し、ユーザーパスワードを入力してください。
- ユーザー認証が設定されていない場合、ログイン名を「管理者」に設定し、管理者パスワードを入力することで、Webページにログインできます。
管理者権限で Web ページにログインしたときは、管理者権限が必要な他の設定項目をクリックしても、ログアウトするまでパスワードの入力画面は表示されません。



ログイン画面の下には、ユーザーズマニュアルなどのマニュアル、最新のプリンタードライバーなどのダウンロードのリンクがあります。



設定モードの概要

ここでは、設定モードでの操作方法で、代表的な項目について説明しています。

設定モードの画面



(1) メニュータブ

設定メニューの第1階層を示すタブです。このタブをクリックすると、そのタブに関する設定項目が設定メニューに表示されます。

システム設定など一部の設定では、このタブをクリックすると、設定メニューは表示せず、設定エリアにさらに設定項目のボタンが表示されます。

(2) 設定メニュー

Webページで設定できる項目が表示されています。

この項目はツリー構造になっています。

本機の管理者権限が必要な項目をクリックすると、パスワードの入力画面が表示されます。あらかじめ登録されているログイン名を選択し、パスワードを入力してください。

(3) カスタムリンク

あらかじめカスタムリンクを登録しておくと、設定メニューにカスタムリンクが表示されます。

▶ [カスタムリンク \(8-64ページ\)](#)

(4) 取扱説明書のダウンロード

ユーザーズマニュアルなどのPDF形式の取扱説明書のWebサイトに移動します。

(5) ドライバー / ソフトウェア

プリンタードライバーやソフトウェアをダウンロードできるWebサイトに移動します。

(6) サイトマップ

Webページのサイトマップが表示されます。

(7) 表示言語の設定

Webページの表示言語を設定します。

(8) 検索

設定項目や内容を検索するときに使用します。検索したい内容をテキストボックスに入力して **Q** をクリックします。

(9) [ログイン/ログアウト] ボタン

[ログイン] ボタン

Webページにログインするときにクリックします。

[ログアウト] ボタン

Webページでの設定がすべて完了したら、このボタンをクリックし、ログアウトを行い、Webブラウザを終了してください。

(10) 設定エリア

左側の設定メニューで選択した項目の設定画面が表示されます。



設定方法について

ここでは、Webページのホーム画面のトナー残量表示を非表示にする「ホーム画面設定」を例に、基本的な設定方法について説明します。

1 「[設定モード \(Web版\) を表示する \(8-4ページ\)](#)」を参照して、Webページに接続する

2 「ホーム画面設定」の設定画面を表示する

(1) [システム設定]タブ () をクリックする

設定エリアにシステム設定の設定項目が表示されます。

(2) [ホーム画面設定]ボタン () をクリックする

3 「トナー残量を表示する」のチェックマークを外し、[登録]ボタンをクリックする



4 他に設定したい項目がある場合は、設定メニューやメニュータブから設定を行う



Webブラウザの「進む」、「戻る」の機能を使用して項目を移動すると、設定した項目が登録されない場合があります。項目の移動は、設定メニューやメニュータブから行ってください。

5 設定が終了したら[ログアウト]ボタンをクリックする

設定が完了すると、本機のタッチパネルにメッセージが表示される場合があります。確認後、メッセージを閉じてください。



設定モードリスト

設定モードリスト

リンクファイルをクリックすると、それぞれの説明の詳細が表示されます。
設定モードではWebページのみで設定できるもの、また本機のみで設定できるものがあります。



- 本機の仕様や周辺装置の装着状態によっては、設定できない項目があります。
- HTMLマニュアルで設定モードの内容を参照しているとき、現在の設定項目の位置は、上部に表示されているパンくずリストをだどっていくとどこで、見つけることができます。
- 本機とWebページで共通のものについては、Webページの内容で説明しています。設定項目の位置が本機とWebページと異なる場合があります。

操作パネルの設定モードリスト

ホーム画面の[メニュー]アイコンをタップすると表示されるリストです。

■ 明度調整

● 明度調整

■ 総使用枚数表示

● 総使用枚数表示

■ システム設定-総使用枚数

● 総使用枚数

■ システム設定-コピー設定

● コピー設定

- ▶ 身分証コピー設定
- ▶ カードスキャン設定
- ▶ 原稿サイズ設定
- ▶ 標準トレイ設定
- ▶ 用紙補給したトレイを自動選択する
- ▶ 用紙自動選択を禁止する
- ▶ 原稿種類/濃度設定
- ▶ ソート/グループ設定
- ▶ 用紙に合わせて倍率を自動選択する
- ▶ コピー部数の上限値設定
- ▶ 読み込み解像度設定



■システム設定-ファクス設定-基本設定

●基本設定

- ▶宛先を追加する前に必ず [+] ボタン、または[追加]ボタンを押す
- ▶受信データ印字ホールド設定
- ▶発信元登録
- ▶ダイヤル発呼信号設定
- ▶外部電話接続
- ▶電話／ファクス自動切替設定
- ▶ダイヤルイン設定
- ▶留守番電話接続設定
- ▶スーパー G3設定
- ▶デジタル回線網

■システム設定-ファクス設定-送信設定

●送信設定

- ▶宛先ビジー時の再コール設定
- ▶通信エラー時の再コール設定

■システム設定-ファクス設定-受信設定

●受信設定

- ▶自動受信コール回数設定

■システム設定-共通設定-操作設定

●操作設定

- ▶メッセージ表示時間の設定
- ▶言語設定
- ▶デフォルト表示画面
- ▶マシン情報画面にIPアドレスを表示する
- ▶LANケーブル非接続時にアイコンを表示する
- ▶ジョブ中止時に確認ダイアログを表示する
- ▶総使用枚数の表示を制限する
- ▶10キーの並び順
- ▶オートクリアモードの設定
- ▶画面タイムアウト禁止
- ▶キー入力の確定受付時間
- ▶キーリピートの禁止
- ▶ロングタッチの確定受付時間
- ▶リモート操作設定



- ▶データリスト
- ▶キーボード切替

■システム設定-共通設定-デバイス設定

●デバイス設定

- ▶日付/時刻設定
- ▶用紙自動選択の対象となる用紙のタイプの設定
- ▶給紙トレイ設定の禁止

■システム設定-共通設定-オーディオ設定

●オーディオ設定

- ▶報知音設定(共通)
 - ◆キータッチ音/電源OFF音
 - ◆基準音
 - ◆原稿読み込み終了音(スキャン/ファクス)
- ▶報知音設定(ファクス)
 - ◆音量設定
 - ◆通信終了音色
 - ◆通信終了音時間

■システム設定-ネットワーク設定

●ネットワーク設定 (操作パネル)

- ▶ネットワーク設定の確認
- ▶接続タイプ
- ▶有線設定
- ▶無線設定 (インフラストラクチャーモード)
- ▶無線設定 (アクセスポイントモード)

■システム設定-セキュリティ設定

●セキュリティ設定

- ▶パスワード設定
- ▶ポート設定 (サーバーポート)
- ▶フィルタを有効にする
- ▶個人情報と本機内データの初期化



■システム設定-省エネルギー設定

●省エネルギー設定

- ▶オートパワーシャットオフ設定
- ▶予熱モードの設定

■システム設定-システム管理

●システム管理

- ▶設定の初期化
- ▶ファームウェアアップデート設定

■システム設定-画質調整

●画質調整

- ▶定着クリーニング
- ▶レジスト調整
- ▶オートキャリブレーション
- ▶黒筋検知の警告メッセージを表示する

■システム設定-データリスト

●データリスト

- ▶ユーザー用リスト
- ▶管理者用リスト

■言語設定

●言語設定



Webページの設定モードリスト

Webページで設定できる設定モードリストです。

■ステータス

●ステータス

- ▶マシン情報
- ▶総使用枚数の表示
- ▶デバイスの状況
- ▶ネットワークの状況
- ▶セキュリティの状況
- ▶ファームウェアバージョン
- ▶電源のリセット
- ▶データリスト
 - ◆ユーザー用リスト
 - ◆管理者用リスト

■アドレス帳

●アドレス帳

■ユーザー管理-ユーザー設定

●ユーザー設定

- ▶ユーザーリスト
- ▶ユーザー情報プリント

■ユーザー管理-アクセス制御設定

●アクセス制御設定

- ▶使用枚数制限グループ
- ▶権限グループ

■ユーザー管理-ユーザーカウント

●ユーザーカウント

- ▶ユーザーカウントの表示
- ▶ユーザーカウントの保存

■システム設定-ホーム画面設定

●ホーム画面設定

- ▶基本設定



■システム設定-プリンター設定

●プリンター設定

- ▶基本設定
 - ◆注意通告ページの出力禁止
 - ◆テストページの出力禁止
 - ◆A4/レターサイズ自動変換
 - ◆手差し給紙設定
- ▶インターフェース設定
 - ◆I/Oタイムアウト時間
 - ◆ネットワークポートエミュレーション切替方法
- ▶標準状態設定
- ▶SPDL設定
- ▶PS設定
- ▶PC/モバイル端末からのプリント設定
 - ◆FTPプリント
 - ◆ポート番号
 - ◆ドライバーを使用しないIPPプリント
 - ◆geo URI (RFC 5870)
- ▶ホールドプリント設定

■システム設定-ファクス／イメージ送信設定-共通設定

●共通設定

- ▶基本設定
 - ◆アドレス帳のデフォルト設定
 - ◆画像の向き
 - ◆宛先を追加する前に必ず [+] ボタン、または[追加]ボタンを押す
 - ◆受信データ印字ホールド設定
- ▶禁止設定
 - ◆送信禁止設定
 - ◆USBメモリーへの保存禁止
 - ◆マイアドレス検索の禁止
- ▶発信元登録
 - ◆発信元情報登録



■システム設定-ファクス／イメージ送信設定-スキャナー設定

●スキャナー設定

- ▶標準状態設定
 - ◆白黒/グレー設定
 - ◆標準ファイルフォーマットの設定
 - ◆画質設定
- ▶基本設定
 - ◆Bcc配信設定
 - ◆送信データ上限値設定 (E-Mail)
 - ◆直接入力できるE-mail宛先の制限設定
- ▶件名の設定
 - ◆件名のデフォルト
- ▶ファイル名の設定
 - ◆ファイル名のデフォルト



■システム設定-ファクス／イメージ送信設定-ファクス設定

●ファクス設定

▶基本設定

- ◆画質設定
- ◆標準濃度設定
- ◆ダイヤル発呼信号設定
- ◆ポーズ時間の設定
- ◆ファクス宛先確認機能
- ◆リモート切替番号設定
- ◆外部電話接続
- ◆電話／ファクス自動切替設定
- ◆ダイヤルイン設定
- ◆Fネット設定
- ◆留守番電話接続設定
- ◆送信時の原稿内容プリント
- ◆通信結果表プリント設定
- ◆記録表プリント設定
- ◆スーパー G3設定
- ◆デジタル回線網

▶送信設定

- ◆クイックオンライン送信
- ◆日付・発信元印字位置設定
- ◆宛先ビジー時の再コール設定
- ◆通信エラー時の再コール設定
- ◆ファクス同報送信の禁止

▶受信設定

- ◆自動受信コール回数設定
- ◆受信データを両面印刷する
- ◆定形サイズへの自動縮小プリント
- ◆受信データプリント条件設定
- ◆受信データ転送先電話番号登録
- ◆特定番号受信可否設定



■システム設定-ファクス／イメージ送信設定-受信／転送設定(手動)

●受信／転送設定(手動)

- ▶ファクス設定

■システム設定-ファクス／イメージ送信設定-受信データの転送設定

●受信データの転送設定

- ▶受信データの転送設定
- ▶管理設定

■システム設定-認証設定

●認証設定

- ▶初期設定
 - ◆ユーザー認証
 - ◆認証先設定
 - ◆標準ネットワーク認証先設定
 - ◆ネットワークサーバーでアクセス制御設定を指定する
 - ◆認証方法設定
 - ◆ICカード設定
- ▶管理設定
 - ◆無効ユーザーの印刷禁止
 - ◆自動ログアウト設定
 - ◆ログイン失敗時の警告
 - ◆リモートによるスキャナー利用をログイン前も許可する
 - ◆プリンタードライバー以外のIPP認証を有効にする
 - ◆ログイン名の表示
 - ◆ログイン後に使用枚数を表示する
- ▶認証後の動作設定
 - ◆ログイン中のユーザーのファイルのみ表示する
 - ◆E-mailステータス送信後にカウンターをリセットする
 - ◆ファクス状況で他ユーザーのジョブの情報表示/変更を禁止する
- ▶認証後の画面表示設定
 - ◆ログイン名の表示
 - ◆ログイン後に使用枚数を表示する
- ▶カードリーダー設定
 - ◆基本設定



■システム設定-共通設定-用紙設定

●用紙設定

- ▶給紙トレイ設定
 - ◆トレイ自動切り換え
 - ◆手差しトレイで用紙検知時に給紙トレイ設定を表示する
 - ◆坪量設定
 - ◆はがき印刷時の用紙タイプ設定
 - ◆給紙許可ジョブ（ファクス）

■システム設定-共通設定-操作設定

●操作設定

- ▶基本設定
 - ◆リモート操作設定
- ▶カスタムリンク

■システム設定-共通設定-デバイス設定

●デバイス設定

- ▶基本設定
 - ◆AB系/インチ系の設定
 - ◆標準原稿サイズ設定
 - ◆用紙自動選択の対象となる用紙のタイプの設定
 - ◆普通紙互換設定
 - ◆給紙ユニットの使用禁止
 - ◆給紙トレイ設定の禁止
- ▶状態ランプ設定
 - ◆データランプ設定
 - ◆受信データがある場合、点滅表示する
 - ◆受信データの表示をエラー表示より優先する
 - ◆エラーランプ設定
- ▶マシン情報の設定
- ▶日付/時刻設定
 - ◆サマータイム設定
- ▶禁止設定
 - ◆プリンター設定
 - ◆ファクス/イメージ送信設定
 - ◆デバイス設定
- ▶プロダクトキー入力



■システム設定-ネットワーク設定

●ネットワーク設定 (Webページ)

- ▶簡易設定
 - ◆無線設定
 - ◆IPv4設定
 - ◆ネットワーク名設定
 - ◆DNS設定
 - ◆SMTP設定
 - ◆LDAP設定
- ▶ネットワーク名称設定
 - ◆デバイス名
 - ◆ドメイン名
 - ◆コメント
- ▶インターフェース設定
 - ◆接続タイプ
 - ◆全般設定
 - ◆IPv4設定
 - ◆IPv6設定
 - ◆DNS設定
 - ◆IEEE802.1X設定
- ▶サービス設定
 - ◆SMTP
 - ◆Kerberos
 - ◆mDNS
 - ◆SNMP
 - ◆SMB
- ▶プリントポート設定
 - ◆LPD
 - ◆RAW
 - ◆WSD
- ▶外部プリントサービス設定
- ▶LDAP設定
- ▶プロキシ設定
- ▶無線設定
 - ◆接続タイプ
 - ◆現在の設定
 - ◆現在の無線状態
 - ◆無線設定画面を表示する
 - ◆無線設定を初期化する
 - ◆無線設定 (インフラストラクチャーモード)
 - ◆無線設定 (ダイレクト接続)
- ▶かんたん接続設定
 - ◆QRコード
 - ◆接続先



- ▶デバイスWebページ設定
 - ◆HTTPアクセス設定
 - ◆ログインユーザーの表示
 - ◆現在ログインしているユーザー
 - ◆すべてのユーザーをログアウトする

■システム設定-セキュリティ設定

●セキュリティ設定

- ▶パスワードの変更
 - ◆パスワードによる本機のWebページへのアクセス制限を行う
 - ◆管理者パスワード
 - ◆ユーザーパスワード
- ▶パスワード設定
- ▶基本設定
 - ◆ホールド以外のプリンタージョブを制限する
 - ◆停止しているジョブの自動削除設定
 - ◆ジョブ完了後のデータを完全に消去する
 - ◆外部サイトからのリクエスト受信を拒否する
 - ◆強制アクセス制御を行う
 - ◆ジョブ状況完了エリア表示設定
- ▶ポート設定
- ▶ポート設定 (サーバーポート)
- ▶フィルタ設定
 - ◆IPアドレスフィルタ設定
 - ◆MACアドレスフィルタ設定
- ▶SSL/TLS設定
- ▶IPsec設定
 - ◆基本設定
 - ◆IPsecルール
- ▶監査ログ
 - ◆管理設定
 - ◆ストレージ/送信設定
 - ◆監査ログの保存・削除
- ▶証明書管理
 - ◆機器証明書の管理
 - ◆証明書署名要求(CSR)の管理
 - ◆認証局証明書の管理



■システム設定-省エネルギー設定

●省エネルギー設定

- ▶Eco設定
 - ◆予熱モードの設定
 - ◆オートパワーシャットオフ設定
 - ◆スリープモード設定
- ▶Ecoスキャン設定

■システム設定-システム管理

●システム管理

- ▶ストレージバックアップ
- ▶デバイスクローニング
 - ◆エクスポート設定
 - ◆インポート設定
- ▶E-mailアラート/ステータス
 - ◆E-mailステータス
 - ◆E-mailアラート
 - ◆SMTP設定
- ▶ファームウェアアップデート設定

■システム設定-初期設置設定

●初期設置設定



ステータス

ステータス



データリストを除いた項目は、Webページでのみ設定できます。
操作パネルでのデバイス設定の項目については、「[操作パネルの設定モードリスト \(8-8ページ\)](#)」を参照してください。

マシン情報

本機のシステム情報を表示しています。
モデル名、現在の状態、本機の設置場所などを表示します。
この設定は、一部の項目を除き、一般ユーザーでも設定できます。

項目	説明
シリアル番号	本機のシリアル番号を表示します。
名称	[未設定] をタップすると [複合機情報設定] 画面を表示します。 [名称] を設定していない場合は [未設定] と表示します。
製品名	本機の標準モデル名を表示します。
設置場所	[複合機情報設定] で、[設置場所] の項目に入力した内容を表示します。 名称を設定していない場合は [未設定] と表示します。
現在のステータス	本機の現在の状態を表示します。 同時に2つ以上のエラーが発生した場合、優先順位に従って一つの状態だけを表示します。 次の優先順位に従ってエラーや本機の状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• プリンターエラー• アカウントリミット• 不正な用紙サイズ• メンテナンス時期超過• 紙づまり• トナー未装着• トナー切れ• トナー回収容器を交換してください。• カバーオープン• 用紙切れ• 指定給紙トレイ用紙切れ• 指定給紙トレイオープン• 指定排紙トレイ満杯• オフライン• プリンターワーニング• トナー少量• 用紙少量• 給紙トレイオープン• 一部排紙トレイ満杯• 排紙トレイほぼ満杯• メンテナンス時期が近づいています• オンライン• オートパワーシャットオフ• ウォームアップ中• ビジー
サプライ情報	消耗品などの現在の状態を表示します。



項目	説明
給紙トレイ情報	装着されている給紙トレイについて、現在の状態を表示します。
表示パターンの設定	ホーム画面の表示パターンを切り換えます。
[本体を再起動する] キー	再起動画面を表示します。 (管理者権限が必要です。)
[本体を節電モードにする] キー	節電モード画面を表示します。 (管理者権限が必要です。)

総使用枚数の表示

各ジョブの使用枚数を一覧で表示します。
この設定は、管理者権限が必要になる場合があります。



- リストプリントなど、本機から直接プリントしたものは「その他出力」にカウントします。
- 表示（プリント）内容は、本機の仕様または周辺装置の装着状態によって異なります。
- 「総使用枚数の表示を制限する」が有効なときは、管理者のみ確認することができます。

デバイスの状況

デバイスの状態を表示します。
この設定は、一般ユーザーでも確認できます。

項目	説明
給紙トレイ情報	装着されている給紙トレイについて、現在の状態を表示します。
排紙トレイ情報	装着されている排紙トレイについて、現在の状態を表示します。
サブライ情報	消耗品などの現在の状態を表示します。
デバイスの構成	本機に装着されている周辺装置の情報を表示します。

ネットワークの状況

全般、TCP/IP、DNSのステータス情報を表示します。
ここで表示される内容は、ネットワーク設定で設定する項目と、その設定値です。
各項目については「[ネットワーク設定 \(Webページ\) \(8-76ページ\)](#)」を参照してください。
この設定は、一般ユーザーでも確認できます。

セキュリティの状況

本機のセキュリティの設定状況を表示します。
ここで表示される内容は、セキュリティ設定で設定する項目と、その設定値です。
各項目については「[セキュリティ設定 \(8-95ページ\)](#)」を参照してください。
この設定は、一般ユーザーでも確認できます。



ファームウェアバージョン

本機のファームウェアのバージョンがリストで表示されます。
この機能は管理者権限が必要です。

電源のリセット

本機の再起動や、節電モードへ移行します。



この機能は管理者権限が必要です。

項目	説明
本体を再起動する	本体を再起動します。 [実行] キーをタップすると再起動画面を開き、[実行] キーをタップすると再起動を実行します。
本機を節電モードにする	本機を節電モードに移行します。 [実行] キーをタップすると節電モード画面が開きます。

データリスト

本機で設定した項目や登録内容の一覧をプリントします。



- リスト印字の両面片面の設定は、操作設定のデータリスト→片面印刷/両面印刷の設定に従います。
- この設定は、操作パネルのシステム設定→データリストにもあります。

ユーザー用リスト

この設定は、一般ユーザーでも確認できます。

リスト名	プリント内容
マシン状態リスト	ハードウェアステータス、ソフトウェアステータス、プリンター環境設定、給紙トレイ設定など、一般ユーザーが必要な情報をすべてプリントします。
NICページ（操作パネルからのシステム設定で表示されます。）	NICページ（ネットワークインターフェースの設定情報など）をプリントします。
プリンターテストページ（Webページのステータスで表示されます。）	SPDLシンボルセットリスト、各種フォントリスト、NICページ（ネットワークインターフェースの設定情報など）をプリントします。 <ul style="list-style-type: none"> • SPDLシンボルセットリスト • SPDL内蔵フォントリスト • PSフォントリスト • PS漢字フォントリスト • PS拡張フォントリスト • NICページ
宛先登録リスト	本機に登録されている各種宛先をプリントします。 <ul style="list-style-type: none"> • ワンタッチアドレスリスト（スキャン） • ワンタッチアドレスリスト（ファクス） • グループリスト（E-mail） • グループリスト（ファクス）



テストページを禁止する

[テストページの出力禁止] が有効になっているとき、テストページの印刷はできません。Webページの [システム設定] の [プリンター設定] → [基本設定] → [テストページの出力禁止] で設定します。

管理者用リスト

管理者にしか参照できないリストやレポートをプリントします。

ネットワーク設定

- ネットワーク設定リスト

通信記録表

以下の通信記録表を個別にプリントします。

- ファクス通信記録表

受信転送リスト

受信設定および転送設定に関する以下のリストをプリントします。

- 受信可否番号表
- 転送テーブルリスト

ユーザーリスト (操作パネルからのシステム設定で表示されます。)



アドレス帳

アドレス帳

ファクスやE-mail送信などで送信する宛先（連絡先）やその宛先を1つにまとめてグループとして登録することができます。

編集したい連絡先やグループがある場合はその名称を選択してください。新たに追加する場合は、[追加] キーをクリックしてください。

本機のタッチパネルで連絡先やグループを登録する方法については「[アドレス帳画面（6-9ページ）](#)」を参照してください。設定モードでは登録されている連絡先やグループの登録情報がリストで表示されます。

この設定は、一般ユーザーでもできます。



この設定はWebページでのみ設定できます。

項目	説明
タイプ	連絡先かグループを選択します。 工場出荷時 ：連絡先
宛先名	宛先の名称を登録します。
グループ名	グループの名称を登録します。
よみがな/検索文字	宛先のよみがなを登録します。登録されたよみがなはアドレス帳から宛先やグループを検索するときに使用します。
得意先インデックスにも登録する	アドレス帳の得意先インデックスを表示したときに、登録する連絡先やグループを表示するようにします。 工場出荷時 ：無効
ファクス	
ファクス番号	新規でファクス番号を登録する場合は「新規宛先」を選択し、下の入力欄にファクス番号を入力します。
グローバルアドレス検索	グローバルアドレスで登録されているファクス番号の場合は、このキーをクリックし、表示されるリストからファクス番号を選択します。
国際通信モード	通信速度と国際通信モードを選択します。 工場出荷時 ：通信速度・33.6kbps、国際通信モード・なし
E-mail	
E-mailアドレス	新規でアドレスを登録する場合は「新規宛先」を選択し、下の入力欄にアドレスを入力します。
グローバルアドレス検索	グローバルアドレスで登録されているアドレスの場合は、このキーをクリックし、表示されるリストからアドレスを選択します。
FTP	
FTPアドレス	新規でアドレスを登録する場合は「新規宛先」を選択し、下の「ホスト名またはIPアドレス」にアドレスを入力します。
ポート番号	FTPサーバーで使用するポート番号を設定します。 工場出荷時 ：21
ディレクトリ	送信するFTPサーバーのディレクトリを指定します。



項目	説明
ユーザー名	送信するFTPサーバーのユーザー名を入力します。
パスワード	入力したユーザーのパスワードを入力します。 工場出荷時 ：パスワードを変更する・無効
SSL/TLSを有効にする	SSL/TLSを使用してデータを暗号化して送信します。 工場出荷時 ：無効
PASVモードを使用する	PASVモードでFTPサーバーにデータを送信します。 工場出荷時 ：無効
デスクトップ	
デスクトップ宛先	新規でアドレスを登録する場合は [新規宛先] を選択し、下の [ホスト名またはIPアドレス] にアドレスを入力します。
ポート番号	送信先のコンピューターのポートを入力します。
後処理ディレクトリ	データの送信先ディレクトリを指定します。
ユーザー名	送信するコンピューターのユーザー名を入力します。
パスワード	入力したユーザーのパスワードを入力します。 工場出荷時 ：パスワードを変更する・無効
SSL/TLSを有効にする	SSL/TLSを使用してデータを暗号化して送信します。 工場出荷時 ：無効
共有フォルダー	
共有フォルダーパス	新規でパスを登録する場合は [新規宛先] を選択し、下の入力欄にパスを入力します。
ユーザー名	送信するコンピューターのユーザー名を入力します。
パスワード	入力したユーザーのパスワードを入力します。 工場出荷時 ：パスワードを変更する・無効



ユーザー管理

ユーザー設定

ログインするユーザーの登録やユーザー認証の方法など、ユーザーの管理を行います。



この設定はWebページでのみ設定できます。

ユーザーリスト

ユーザー認証設定時に使用するユーザーを、登録、修正、削除します。

- **[追加] キー**
ユーザーを新規に追加します。
- **[全ユーザー削除] キー**
登録されているすべてのユーザーを削除します。(工場出荷時に登録されているユーザーを除く。) 本機の管理者のみ、この操作をします。
- **ユーザーリスト**
工場出荷時に登録されているユーザーと現在登録されているユーザーの一覧を表示します。自動登録されたユーザーは、ユーザー名の前に **[*]** を表示します。
各ユーザー名を選択すると、そのユーザーの修正/削除画面を表示します



[ベンダー用ユーザー]、[ベンダー用ユーザー 2] は、ベンダー接続時のみ表示します。

ユーザーを登録する

[追加] キーをタップすると、登録画面を表示します。最大100件まで登録します。
設定項目については「[設定項目一覧 \(8-29ページ\)](#)」を参照してください。



ユーザーを修正/削除する

リストからユーザーを選択すると、そのユーザーの修正/削除画面を表示します。
設定項目については「[設定項目一覧 \(8-29ページ\)](#)」を参照してください。
[削除] キーでユーザーを削除します。



固定ユーザーでログインする認証方法のときは、全ユーザー削除はできません。
工場出荷時に登録されているユーザーは削除できません。

カードIDの登録方法

ICカードリーダーライター（MX-EC13 N）を使用して、ユーザー認証をするときは、使用するICカードのカードIDを登録する必要があります。



- カードIDを登録するときは、ログイン名を必ず設定します。
- カードIDの重複登録はできません。

工場出荷時に登録されているユーザー

本機には、工場出荷時に以下のユーザーが登録されています。

- **管理者：**
工場出荷時に登録されている、本機の管理者用のアカウントです。
- **ユーザー：**
ネットワーク認証利用時に、本機に登録されていないログイン名を直接入力してログインした 場合に適用します。
(ログインユーザー画面で選択できません。)
- **その他ユーザー：**
無効なユーザー情報でプリンタージョブを行った場合に適用します。(ログインユーザー画面で選択できません。)
それぞれのユーザーに関する設定値については、次の表を参照してください。

ユーザー名	管理者	ユーザー	その他ユーザー
ログイン名	admin	users	Other
パスワード	(「スタートガイド」を参照してください。)*1	users*1	—
認証先設定	マシン単体で認証		—
使用枚数制限グループ	制限なし*1		
権限グループ*2	管理者権限	ユーザー権限*1	ゲスト権限*1
ICカード*3	未設定*3	—	

*1 変更可能な項目

*2 詳細については、「設定項目一覧と各ひな形の工場出荷時の設定」を参照してください。

*3 ICカードリーダーライター（MX-EC13 N）装着時



設定項目一覧

項目	説明
ユーザー名	ユーザーの名称を登録します。このユーザー名は認証画面のキー名称、送信者名に利用します。
ユーザー名をログイン名に適用する※1	<input checked="" type="checkbox"/> にすると、ユーザー名に入力された名称をログイン名に入力します。 工場出荷時：無効
よみがな/検索文字	ユーザー名リストの表示順を決定する検索文字です。全角ひらがなで入力します。
ICカードID※3	カードIDの登録画面を表示します。詳細は「 カードIDの登録方法 (8-28ページ) 」を参照してください。
ログイン名※1	ログイン名/パスワード認証設定時に使用するログイン名を入力します。プリンタードライバーからユーザー認証してプリントしたい場合、全角文字は127文字以内で入力します。(ログイン名は重複登録不可)
パスワード※1、※4	ログイン名/パスワードによる認証設定時に使用するパスワードを1~255文字で入力します。(省略可) パスワード入力後、パスワード(確認用)にパスワードをもう一度入力してください。
パスワードを変更する	設定したパスワードを変更したいときに、チェックを入れます。(修正/削除時に表示されます。) 工場出荷時：無効
ユーザー番号※2	ユーザー番号を5~8桁の範囲で入力します。
E-mailアドレス	送信者リストと、LDAP認証の照合に使用するE-mailアドレスを入力します。
認証先設定※1	認証先を、[マシン単体で認証]、[ネットワーク認証] (LDAP有効時) のいずれかに選択します。 工場出荷時：マシン単体で認証
認証サーバー	[ネットワーク認証] を設定した場合は、設定モード (Web版) で登録したLDAPサーバーの一覧から、認証をするサーバーを選択します。
使用枚数制限グループ	ユーザーの使用枚数制限を、登録されている使用枚数制限グループの中から選択します。詳細は「 使用枚数制限グループ (8-30ページ) 」を参照してください。 工場出荷時：制限なし
権限グループ	ユーザーの権限を、登録されている権限グループの中から選択します。詳細は「 権限グループ (8-31ページ) 」を参照してください。 工場出荷時：ユーザー権限

※1 認証方法をユーザー番号にしている場合は表示しません。

※2 認証方法をユーザー番号にしている場合にのみ表示します。

※3 ICカードリーダーライター (MX-EC13 N) 装着時

※4 ネットワーク認証利用時はLDAPサーバーに登録されているパスワードを使用するため、設定する必要はありません。

ユーザー情報プリント

ユーザー情報プリントをプリントします。

[印刷] キーをタップしてプリントします。



アクセス制御設定



この設定はWebページでのみ設定できます。

使用枚数制限グループ

使用枚数制限の設定をあらかじめグループごとに登録します。

各ユーザーの使用枚数制限は、ここで登録したグループからユーザー登録するときに選択します。

- **[追加] キー**
グループを新規に追加します。
- **リスト表示**
登録されているグループの一覧を表示します。各グループ名を選択すると、そのグループの修正画面を表示します。

使用枚数制限グループを登録する

[追加] キーをタップすると、登録画面を表示します。最大8件まで登録します。

設定項目については「[設定項目一覧 \(8-30ページ\)](#)」を参照してください。

使用枚数制限グループを修正する

リストからグループを選択すると、そのグループの修正画面を表示します。

設定項目については「[設定項目一覧 \(8-30ページ\)](#)」を参照してください。

グループを工場出荷時の状態に戻したい場合は、修正画面で「モデルにするグループ名」を [制限なし] にします。

設定項目一覧

項目	説明
グループ名	全角/半角32文字以内で、グループの名称を登録します。
モデルにするグループ名	すでに登録されているグループの中から、ひな形として使用するグループを選択します。選択すると、そのグループの設定内容を適用します。
各機能の名称	設定できる機能の名称を表示します。それぞれの機能に制限を設定します。
制限枚数	[禁止] を選択した場合は、そのモードからの入プリントを禁止します。 [制限なし] を選択した場合は、そのモードからの入出力枚数を制限しません。 [制限あり] を選択した場合は、1～99999999枚の範囲で制限枚数を入力します。



権限グループ

ユーザーの権限に関する設定をあらかじめグループごとに登録します。各ユーザーの権限は、ここで登録したグループからユーザー登録するときに選択します。

•リスト表示

登録されているグループの一覧を表示します。各グループ名を選択すると、そのグループの修正画面を表示します。

権限グループを修正する

リストからグループを選択すると、そのグループの修正画面を表示します。

グループを工場出荷時の状態に戻したい場合は、リスト表示でグループを選択し、[管理者権限に戻す]、[ユーザー権限に戻す]、[ゲスト権限に戻す]のいずれかを選択します。

項目	説明		
グループ名	グループ名を表示します。		
	工場出荷時に登録されているグループと、それぞれの設定値は以下のとおりです。		
	管理者権限	ユーザー権限	ゲスト権限
ジョブ設定			
コピー			
カラーモード許可設定	すべて許可	すべて許可	白黒のみ許可
プリンター			
カラーモード許可設定	すべて許可	すべて許可	白黒のみ許可
USBメモリーダイレクトプリント	許可	許可	禁止
ファクス/イメージ送信			
スキャン	許可	許可	許可
ファクス	許可	許可	許可
マシン設定			
総使用枚数の表示	許可	許可	禁止
デバイス/ネットワーク状況の表示	許可	許可	禁止
電源のリセット	許可	禁止	禁止
ユーザー用リスト	許可	許可	禁止
管理者用リスト	許可	禁止	禁止
アドレスの登録	許可	許可	禁止
ユーザー管理（管理者）	許可	禁止	禁止
ホーム画面設定	許可	禁止	禁止
コピー設定	許可	禁止	禁止
プリンター設定（管理者）	許可	禁止	禁止
プリンター設定（ユーザー）	許可	許可	禁止
ファクス/イメージ送信設定（共通設定）	許可	禁止	禁止
スキャナー設定	許可	禁止	禁止



項目	説明		
ファクス設定	許可	禁止	禁止
受信/転送設定 (手動)	許可	許可	禁止
受信データの転送設定 (管理者)	許可	禁止	禁止
受信データの転送設定 (ユーザー)	許可	許可	禁止
用紙設定 (手差しトレイ除く)	許可	許可	禁止
用紙設定 (手差しトレイ)	許可	許可	禁止
操作設定	許可	禁止	禁止
キーボード設定	許可	禁止	禁止
デバイス設定	許可	禁止	禁止
マシン情報の設定	許可	禁止	禁止
日付/時刻設定	許可	禁止	禁止
プロダクトキー入力	許可	禁止	禁止
カスタムリンクの設定	許可	禁止	禁止
ネットワーク設定	許可	禁止	禁止
セキュリティ設定	許可	禁止	禁止
省エネルギー設定	許可	禁止	禁止
システム管理	許可	禁止	禁止
画質調整	許可	禁止	禁止



本機の仕様や周辺装置の装着状態によっては、いくつかの設定が使用できません。



ユーザーカウント

ユーザーごとに印刷集計枚数などを表示します。

- **[全選択] キー**
すべてのユーザーを選択します。
- **[選択解除] キー**
すべてのユーザーの選択を解除します。
- **[表示] キー**
選択したユーザーのカウントを表示します。
- **[カウントのクリア] キー**
選択したユーザーのカウントを消去します。
- **ユーザーリスト**
工場出荷時に登録されているユーザーと現在登録されているユーザーの一覧を表示します。各ユーザー名を選択すると、そのユーザーを選択します。



この設定はWebページでのみ設定できます。

ユーザーカウントの表示

ユーザーを選択して [表示] キーをタップすると、そのユーザーのカウントを表示します。

項目	説明
次を表示	次のユーザー（登録番号順）を表示します。
前を表示	1つ前のユーザー（登録番号順）を表示します。
カウント表示	選択されているユーザーのカウントと使用できる残り枚数が、機能ごとに表示します。
制限枚数	カウントの下の括弧には、ユーザーに設定されている制限枚数を表示します。



装着していない周辺装置のカウントは表示しません。



ユーザーカウントを消去する

設定画面でユーザーを選択して [消去] キーをタップすると、そのユーザーのカウント消去画面を表示します。単一のユーザーを選択するか、複数のユーザーを選択するかで、表示する消去画面は異なります。それぞれの場合に表示する項目については、以下の表を参照してください。

単一ユーザーを選択した場合

項目	説明
次を表示	次のユーザー（登録番号順）を表示します。
前を表示	1つ前のユーザー（登録番号順）を表示します。
カウント表示	選択されているユーザーの、カウントと使用できる残り枚数が、機能ごとに表示します。
カウントのクリア	選択した項目のカウントを“0”に戻します。

複数ユーザーを選択した場合

項目	説明
カウント表示	選択されているユーザーの、カウントと使用できる残り枚数が、機能ごとに表示します。
カウントのクリア	選択した項目のカウントを“0”に戻します。

ユーザーカウントの保存

[保存] ボタンをクリックすると、ユーザーカウントを保存します。
「保存後データを削除」の左にあるチェックボックスをにして、[保存] ボタンをクリックすると、保存後にデータを削除します。



システム設定

総使用枚数

本機で使用した総使用枚数と各機能ごとの総使用枚数と白黒とフルカラーで使用した内訳が表示されます。



この設定は操作パネルでのみ設定できます。

ホーム画面設定

本機のホーム画面のレイアウトの変更など行います。
この設定は、管理者権限が必要です。



この設定はWebページでのみ設定できます。

基本設定

項目	説明
ホーム画面リスト	ホーム画面のショートカットキー（ホームボタン）の配置順がNo.で表示され、それぞれ表示されるキーがホームボタンの列に表示されます。ホームボタンを修正したいときは[ホームボタン]をクリックします。
トナー残量を表示する	固定領域にトナーの残量を表示します。 工場出荷時：有効



コピー設定

コピーに関する設定をします。
この設定は、管理者権限が必要です。



この設定は操作パネルでのみ設定できます。

身分証コピー設定

画像のレイアウトを選択します。
工場出荷時：たて向き配置

カードスキャン設定

カードスキャン時の原稿サイズの標準値を設定します。
原稿サイズの標準値の設定は、原稿用紙のX(横)とY(縦)方向ともに1mm単位で25mm～210mmの範囲で設定します。
工場出荷時：原稿サイズ：X:86mm Y:54mm

原稿サイズ設定

コピーで使用する原稿サイズの標準値を設定します。
工場出荷時：A4

標準トレイ設定

コピーで最初に設定される用紙トレイを設定します。
工場出荷時：トレイ1

用紙補給したトレイを自動選択する

用紙を補給したトレイを自動的に選択するように設定します。
工場出荷時：無効

用紙自動選択を禁止する

用紙自動選択機能を禁止します。
設定すると、原稿台（ガラス面）や原稿自動送り装置の原稿セット台に原稿をセットしても同一サイズの用紙を自動選択しません。
工場出荷時：無効

原稿種類/濃度設定

コピーの原稿種類と濃度の標準値を設定します。
工場出荷時：原稿種類：文字/印刷写真、濃度：自動

ソート/グループ設定

コピーのソート/グループの標準値を設定します。
工場出荷時：自動



用紙に合わせて倍率を自動選択する

用紙トレイのサイズに合わせて、倍率を自動選択します。

工場出荷時：無効

コピー部数の上限値設定

コピー設定部数（連続コピー枚数）の入力上限値を99枚と999枚から設定します。

工場出荷時：999

読み込み解像度設定

コピーの読み込み解像度の標準値を設定します。

工場出荷時：カラー：原稿送り装置：600×300dpi、原稿台：600×400dpi、白黒：原稿送り装置：600×300dpi、原稿台：600×400dpi



プリンター設定

プリンター機能に関する設定をします。



この設定はWebページでのみ設定できます。

基本設定

プリンターに関する基本設定をします。

注意通告ページの出力禁止

注意通告ページのプリントを禁止します。

工場出荷時：有効

テストページの出力禁止

テストページのプリントを禁止します。

設定すると、Webページの[ステータス]→[ユーザー用リスト]→[プリンターテストページ]のプリントはできません。

工場出荷時：無効

A4/レターサイズ自動変換

8-1/2"x11" (レター) サイズをプリントするときに、用紙トレイに8-1/2"x11"サイズの用紙をセットしていない場合、A4用紙にプリントします。

工場出荷時：無効

手差し給紙設定

手差し指定サイズ検知有効設定

プリントデータで指定している用紙サイズと、手差しトレイに設定している用紙サイズが異なる場合にプリントを禁止します。

工場出荷時：無効

手差し指定タイプ検知有効設定

プリントデータで指定している用紙タイプと、手差しトレイに設定している用紙タイプが異なる場合にプリントを禁止します。

工場出荷時：無効

インターフェース設定

プリンター機能に関する設定をします。

本機のUSBポートやネットワークポートに送られてくるデータの監視や制限などを設定します。

I/Oタイムアウト時間

I/Oタイムアウトがはたらくまでの時間を1~999秒の範囲で設定します。

I/Oタイムアウトは、使用したポートでプリントデータ受信待ち状態から、ある一定の時間を経過してプリントデータが送られないとき、そのポートの接続を一時中断してポートを自動選択する、あるいは次のプリント待ちデータを開始する状態にします。

工場出荷時：60秒



ネットワークポートエミュレーション切替方法

本機をネットワークポートで接続しているとき、エミュレーションするプリンター言語を設定します。設定項目は以下のとおりです。

自動
Post Script
SPDL
工場出荷時：自動



プリントエラーが多発しない限り、工場出荷時に設定されている「自動」を変更しないでください。

標準状態設定

プリンタードライバーを使用しない環境（MS-DOSからのプリントや付属のプリンタードライバーをインストールしていないコンピューターからのプリントなど）からプリントするときに、詳細なプリント条件を設定します。（ただし、白紙プリントの禁止はSPDL2-cプリンタードライバーを使用しているときも有効になります。）

設定項目一覧

設定項目	説明
印刷の向き	たて よこ 工場出荷時：たて
用紙サイズ	通常使用する用紙サイズを設定します。 工場出荷時：本機構成により異なる
用紙タイプ	通常使用する用紙タイプを設定します。 工場出荷時：普通紙1
解像度設定	600dpi 600dpi（高画質） 工場出荷時：600dpi(高画質)
白紙プリントの禁止	<input checked="" type="checkbox"/> （禁止する） <input type="checkbox"/> （禁止しない） 工場出荷時：禁止しない
両面印刷	片面印刷 両面印刷（よことじ） 両面印刷（たてとじ） 工場出荷時：片面印刷
カラーモード	自動 白黒 工場出荷時：自動
フィットページ※	<input checked="" type="checkbox"/> （フィットページ印刷する） <input type="checkbox"/> （フィットページ印刷しない） 工場出荷時：フィットページ印刷する

※ PDF、JPEG、TIFF ファイルをプリントする場合にのみ有効です。



SPDL設定

SPDL2-c環境で使用するシンボルセットやフォント、改行コードなどを設定します。



設定項目名などで表示されるSPDLとは、Sharp Printer Description Languageの略称です。

設定項目一覧

設定項目	設定内容
SPDLシンボルセット設定	プリントに使用するシンボルセットを設定します。 工場出荷時 ：PC-8
SPDLフォント設定	プリントするフォントを設定します。 工場出荷時 ：O: Nimbus Mono
SPDL改行コード	改行コードが送られてきたときのプリントの動作を設定します。 工場出荷時 ：O.CR=CR; LF=LF; FF=FF
A4ワイド	設定すると、A4サイズの内紙に10ピッチフォント（半角英数文字）を1行に80文字プリントします。（設定しない場合は、1行に78文字までプリントします。） 工場出荷時 ：無効

PS設定

PostScriptデータのプリントエラー時にエラー内容をプリントする設定やPostScriptのデータをバイナリ形式で受信する設定をします。

設定項目	設定内容
PSエラーを印刷する	PostScriptデータのプリント処理が失敗してPS (PostScript) エラーが発生した場合に、エラーの原因についてプリントするかどうかを設定します。 工場出荷時 ：無効
バイナリ処理する	PostScriptデータをバイナリ形式のデータとして受信します。 工場出荷時 ：無効



PC/モバイル端末からのプリント設定

コンピューターやモバイル端末にあるファイルをダイレクトプリントする際に設定します。

FTPプリント

ダイレクトプリントを行う際にFTPプリントの設定を利用するかを設定します。

工場出荷時：有効

ポート番号

ダイレクトプリントする際に使用するポート番号を入力します。

工場出荷時：21

ドライバーを使用しないIPPプリント

プリンタードライバーを使用せず、IPPプロトコルを使って、ネットワークからプリントします。

工場出荷時：有効

geo URI (RFC 5870)

本機の位置情報を設定できます。

工場出荷時：geo

ホールドプリント設定

本機のメモリーに残っているホールドプリントのデータを削除します。

ホールドプリントデータの全削除

本機のメモリーに残っているホールドプリントのデータをすべて削除します。



共通設定

スキャナーのイメージ送信機能に関する設定をします。ファクス/イメージ送信機能に共通する操作の設定をします。



- Webページのファクス/イメージ送信設定の共通設定では、共通設定の下に基本設定、禁止設定、発信元登録の3つがあります。
操作パネルのファクス設定では、共通設定はなく、基本設定があります。基本設定の項目については、「[操作パネルの設定モードリスト \(8-8 ページ\)](#)」を参照してください。
- ここでの説明はWebページの設定を基準としています。

基本設定

アドレス帳のデフォルト設定

アドレス帳の表示を優先する

イメージ送信モードを起動させたとき、該当モードの基本画面ではなくアドレス帳を表示します。

工場出荷時：無効

画像の向き

画像のセット方向のデフォルトを設定します。

工場出荷時：よこ

宛先を追加する前に必ず [+] ボタン、または [追加] ボタンを押す

同報送信など宛先を追加するときに必ず [+] ボタンまたは [追加] ボタンを使用するように設定します。

工場出荷時：無効



この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。

受信データ印字ホールド設定

ファクスの受信データをプリントせずにメモリーに保存しておき、まとめてプリントします。

工場出荷時：無効



- これらの設定は、本機のメモリー内に受信データが残っていないときに変更します。
- この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。



禁止設定

送信禁止設定

送信に関する次の操作をそれぞれ禁止します。

アドレス帳からの選択禁止

アドレス帳からの送信先の選択を禁止します。
以下の項目でそれぞれ設定します。

- E-mail
- 共有フォルダー /FTP/Desktop

全選択：すべての項目を選択します。

選択解除：すべての項目の選択を解除します。

工場出荷時：すべて無効

直接入力禁止

アドレスなどの宛先の直接入力を禁止します。
以下の項目でそれぞれ設定します。

- E-mail
- ファクス

全選択：すべての項目を選択します。

選択解除：すべての項目の選択を解除します。

工場出荷時：すべて無効

USBメモリーへの保存禁止

USBメモリーへののスキャンデータの保存を禁止します。

工場出荷時：無効

マイアドレス検索の禁止

マイアドレス検索を禁止します。

工場出荷時：無効

発信元登録

ファクスの発信元に関する登録をします。



この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。

発信元情報登録

ファクスを利用するときの発信元名とファクスの発信元番号を登録します。登録した発信元名、ファクス発信元番号は、送信時に相手の用紙の上部にプリントします。

発信元名

標準の発信元名を入力します。

ファクス発信元番号（本機では発信元番号）

発信元番号を設定します。

番号の間にポーズ（待ち時間）を入力するときは [-] キーをタップします。

番号の間に半角スペースを挿入したいときは、[スペース] キーをタップします。



スキャナー設定

スキャナーに関する設定をします。



この設定はWebページでのみ設定できます。

標準状態設定

白黒/グレー設定

白黒/カラーの標準値を設定します。

設定内容

グレースケール、白黒2値

工場出荷時：白黒2値

標準ファイルフォーマットの設定

E-mail、共有フォルダー、FTP、デスクトップを使用して送信操作をする場合の標準ファイルフォーマットを設定します。

ファイル形式

PDF、TIFF、JPEG

工場出荷時：PDF

白黒

圧縮形式：圧縮なし、MH (G3)、MMR (G4)

工場出荷時：MMR(G4)

カラー/グレースケール

圧縮率：低、中、高

工場出荷時：中

ページ毎にファイル化する

原稿を読み込むときにページごとにファイルを分割して生成します。

工場出荷時：無効



ファイル形式で「TIFF」を選択したときに、[ページ毎にファイル化]を設定できます。

画質設定

画質の標準値を以下の中から設定します。

100X100dpi、150X150dpi、200X200dpi、300X300dpi、400X400dpi、600X600dpi

工場出荷時：200×200dpi



基本設定

Bcc配信設定

Bcc配信を有効にする

Bcc配信を使用したいときに設定します。設定すると、E-mailアドレスに入力したアドレスにBcc配信を行います。

工場出荷時：無効

送信データ上限値設定（E-Mail）

E-mail送信スキャンで送信する画像データのファイルサイズが大きくなりすぎないように、ファイルサイズの上限値を1MB単位で、1MB～99MBの範囲で設定します。読み込んだ原稿画像から生成した画像データのファイルサイズが、設定した上限値をこえた場合、その画像データは破棄します。

上限値を設定しないときは、[無制限]を選択します。

工場出荷時：無制限

直接入力できるE-mail宛先の制限設定

E-mail送信の宛先として不適切なドメインがあるときに設定します。E-mailの宛先を直接入力したときに、設定されたドメインがあるとファイルは送信されません。

件名の設定

件名のデフォルト

E-mail送信のタイトルを設定します。

ファイル名の設定

ファイル名のデフォルト

ファイル名に含める情報

スキャンしたファイル名に含める内容を選択します。

送信者名

送信者名をファイル名に追加します。

工場出荷時：有効

日時

送信日時をファイル名に追加します。

工場出荷時：有効

カウンター

カウンター情報をファイル名に追加します。

工場出荷時：無効

識別番号

ファイルごとに識別番号を作成し、その番号をファイル名に追加します。

工場出荷時：無効



ファクス設定

ファクス/イメージ送信のファクス機能に関する設定を説明します。



- Webページのファクス/イメージ送信設定のファクス設定では、基本設定、送信設定、受信設定の3つがあります。操作パネルのファクス設定でも、基本設定、送信設定、受信設定の3つがあります。操作パネルでの設定項目については、「[操作パネルの設定モードリスト \(8-8 ページ\)](#)」を参照してください。
- ここでの説明はWebページの設定を基準としています。

基本設定

各種ファクス機能の設定を使用状況に応じて設定したり、解除したりします。

画質設定

ファクスの画質設定を行います。

工場出荷時：普通字、中間調：無効

標準濃度設定

原稿の濃度の標準値を設定します。

工場出荷時：自動

ダイヤル発呼信号設定

使用する電話回線の種類を設定します。

工場出荷時：トーン



この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。

ポーズ時間の設定

ファクス番号に入れる待ち時間（ポーズ時間）の長さを変更するときに設定します。

相手先番号をダイヤルしたり登録するときに「-（ハイフン）」を入力すると、1回の入力につき2秒の待ち時間を入力します。

1秒単位で1～15秒の間で設定します。

工場出荷時：2秒

ファクス宛先確認機能

ファクスを送信するとき、誤送信を防止するために宛先確認メッセージを表示するかどうかを設定します。

工場出荷時：無効、ファクス宛先直接入力時は宛先を再入力する：有効

リモート切替番号設定

本機に接続した外部電話機から2桁の番号とⓂ キーをタップすることで、本機をファクス受信状態にします。この2桁の番号をリモート切替番号と呼び、00～99の間で設定します。

工場出荷時：55

外部電話接続

外部電話機を接続したときに設定します。設定すると外部電話機でファクスの手動受信と、電話機としての使用ができます。

工場出荷時：無効



- 外部電話機を接続していないときに設定しないでください。ファクスを正常に受信できないことがあります。
- この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。

電話／ファクス自動切替設定

(外部電話機接続時でファクスの受信モードを「自動受信」に設定しているときのみ)

自動受信モードのときに、電話とファクスを自動的に切り替えるように設定します。その場合、呼出音の回数と応答メッセージを設定します。



この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。

自動切替する

自動受信モード時、電話とファクスを自動的に切り替えるように設定します。

呼出音回数設定

自動切替設定時、自動切替するまでの呼出音の回数を1～15回の範囲で設定します。

無制限に設定したときは、外部電話機の手話器を上げるまで呼出音が鳴りつづけます。

ダイヤルイン設定

(外部電話機接続時でファクスの受信モードを「自動受信」に設定しているときのみ)

NTTのダイヤルインサービスの設定とダイヤルイン番号を登録します。サービスに加入している場合のみ設定します。

「電話／ファクス自動切替設定」、「留守番電話接続設定」との併用はできません。



この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。

PBダイヤルイン

ダイヤルイン設定する

設定を有効にすると、ダイヤルイン設定が有効となり、ダイヤルイン番号が入力可能になります。)

ダイヤルイン番号

数字キー（10キー）を使って、NTTから通知されたダイヤルイン番号を入力します。

工場出荷時：ダイヤルイン設定する：無効

Fネット設定

Fネットサービスの設定をします。サービスに加入している場合のみ設定します。

工場出荷時：無効

留守番電話接続設定

留守番電話機能付きの外部電話機を接続している場合、何らかの理由で外部電話機の留守番機能がはたらかず着信を受け付けられない状態になったとき、呼出音がこの機能で設定した回数に達すると、自動的に本機でのファクス受信に切り替えます。



この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。

留守番電話接続にする

留守番電話接続を有効にします。



呼出音回数

呼出音の回数を設定します。設定できる回数は3～15回です。(外部電話機の留守番電話機能がはたらく呼出音の設定回数よりも多い回数を設定します。)

工場出荷時：留守番電話接続にする：無効、呼出音回数：8回

送信時の原稿内容プリント

メモリー送信時に通信結果表をプリントしたときに送信原稿内容（1ページ目の一部）を一緒にプリントするかどうかを、以下の中から動作を設定します。

- 常にプリント
- エラー時
- プリントしない

次の「[記録表プリント設定 \(8-48ページ\)](#)」の設定を「プリントしない」に設定すると、この設定は無効になります。

工場出荷時：エラー時

通信結果表プリント設定

通信結果表をプリントするかどうか、またプリントする場合の条件を設定します。下記からそれぞれの動作時の設定を選択します。

通常送信時

- 常にプリント
- 送信失敗時
- プリントしない

同報送信時

- 常にプリント
- 送信失敗宛先
- プリントしない

受信時

- 常にプリント
- エラー時
- プリントしない

記録表プリント設定

本機のメモリーに記憶されている通信記録を定期的にプリントするように設定します。

通信記録の記憶件数が送受信合わせて50件に達したときに自動的にプリントする、または指定した時刻（1日1回のみ）になると自動的にプリントするように設定します。(両方設定することもできます。)

工場出荷時：メモリーフル時自動プリント：無効、時刻指定プリント：無効、時刻：00時00分



[時刻指定プリント] のみを にした場合、指定した時刻までに通信記録が200件に達したときは、古い通信記録から順に、プリントせずに消去します。

通信記録表は、必要に応じて手動でプリントします。詳細は、「[管理者用リスト \(8-24ページ\)](#)」を参照してください。

スーパー G3設定

送信相手先がスーパー G3に対応していないときに設定します。

工場出荷時：有効



この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。



デジタル回線網

有効にした場合、デジタル回線に接続するときの送出レベルを15dBm以下にします。

工場出荷時：無効



この設定は、操作パネルのファクス設定→基本設定にもあります。



送信設定

ファクス送信に関する設定をします。

クイックオンライン送信

送信原稿の1ページ目を読み込み後、2ページ目以降の読み込みと並行して送信動作を開始する機能を設定します。この機能を解除すると、手動送信した場合をのぞき、原稿をすべて読み込んだあとに送信操作をするようになります。

工場出荷時：有効

日付・発信元印字位置設定

相手の記録紙上部にプリントする日付と発信元の印字位置を設定します。読み込んだ原稿データの上部・外側に付けるときは、[送信データ外]キーをタップし、原稿の内側に付けるときは、[送信データ内]キーをタップして選択します。印字位置については、「ファクス」の「[発信元情報を付けて送信（ファクス発信元印字）（5-50ページ）](#)」を参照してください。

工場出荷時：送信データ外

宛先ビジー時の再コール設定

相手が話し中だったときなどに、自動で送信し直すかどうかを設定します。

ビジー時の再コール回数

携帯電話がビジー時に再コールするかどうかを設定します。また再コールするときは再コールする回数を設定します。設定できる回数は1～15回です。

工場出荷時：2回

ビジー時の再コール間隔

再コールする間隔を設定します。設定できる時間は1～15分です。

工場出荷時：3分



- 直接送信または手動送信したときは、設定していても再コールしません。
- この設定は、操作パネルのファクス設定→送信設定にもあります。

通信エラー時の再コール設定

送信時、通信エラーが発生して送信に失敗したときに、自動で送信し直す設定をします。

エラー時の再コール回数

通信エラー時に再コールするかどうかを設定します。また再コールするときは再コールする回数を設定します。設定できる回数は1～15回です。

工場出荷時：2回

エラー時の再コール間隔

再コールする間隔を設定します。設定できる時間は1～15分です。

工場出荷時：3分



- 直接送信または手動送信した場合は、設定していても再コールしません。
- この設定は、操作パネルのファクス設定→送信設定にもあります。

ファクス同報送信の禁止

ファクス同報送信をできなくします。

工場出荷時：無効



受信設定

ファクス受信に関する設定をします。

自動受信コール回数設定

自動受信モードでファクスの着信があったとき、自動的に受信操作を開始するまでに呼出音を鳴らす回数を0～15回の間で設定します。

工場出荷時：2回



- 呼出音の回数を0回に設定した場合は、ファクスの着信があると、呼出音を鳴らさず、すぐに受信操作を開始します。
- この設定は、操作パネルのファクス設定→受信設定にもあります。

手動受信から自動受信への切替設定

受信設定で手動受信を設定しているとき、ここで設定したコール回数を達すると手動受信から自動受信に切り替え、ファクスを受信します。

工場出荷時：無効

受信データを両面印刷する

受信データをプリントするときに記録紙の両面にプリントするかどうかを設定します。設定すると2ページ以上の同一用紙サイズデータを受信したときは、すべて両面プリントします。

工場出荷時：無効

定形サイズへの自動縮小プリント

受信したデータに発信元名や発信元電話番号などの印字情報が付いているとき、実際には定形サイズより若干大きいデータを、自動的に縮小して定形サイズに合わせてプリントする設定をします。

工場出荷時：有効



自動縮小しないように設定すると、定形サイズをこえたデータは印字しません。ただし、原稿と等倍でプリントするため縮小しより画質が優れています。
定形サイズとは、A4やB5などの用紙サイズを指します。

受信データプリント条件設定

受信データをプリントするときの用紙選択条件を設定することができ、次の2種類からいずれかを選択します。

等倍でプリント（分割許可）

受信した画像をそのままのサイズで、必要に応じて複数の用紙に分割してプリントします。

等倍または縮小してプリント

通常は等倍でプリントし、それができない場合は自動縮小してプリントします。

工場出荷時：等倍または縮小してプリント

受信データ転送先電話番号登録

本機が何らかのトラブルで受信データをプリントできないとき、転送機能を使って受信データを転送するファクスの電話番号を登録します。転送先は1件のみ、電話番号は最大64桁まで登録します。
番号の間にポーズ（待ち時間）を入力するときは [-] キーをタップします。



特定番号受信可否設定

登録済みの番号に対して、受信の許可/拒否をどうかを設定します。

項目	設定内容
受信拒否	登録した番号の受信を拒否します。
受信許可	登録した番号のみ受信を許可します。
すべて無効	番号を登録していても、その登録を無視してすべてを受信します。
新規登録	受信可否設定をする番号を新規に追加します（最大50件）。 番号を20桁以内で入力し、[登録] キーをタップします。
登録番号一覧	登録している番号を一覧表示します。 この画面で番号を選択すると、一覧から削除します。

工場出荷時：すべて無効



受信／転送設定（手動）

ファクス設定



この設定はWebページでのみ設定できます。

項目	設定内容
受信設定	<p>ファクス受信時の受信方法を設定します。</p> <p>自動受信： 着信があると呼出音を鳴らしてから自動的にファクスを受信します。</p> <p>手動受信： お手持ちの電話機（外部電話機）を接続しているときに使用します。お手持ちの電話機で電話に出てから手動操作でファクスを受信します。</p> <p>留守接続： 留守番電話の機能を持った電話機を接続しているときに使用します。着信があったときにお手持ちの電話機の留守番電話機能で相手のかたのメッセージを録音します。</p> <p>工場出荷時：自動受信</p>



- 転送できる受信データがないときや転送先を登録していないときは、転送しません。
- プリント中の受信データを転送する場合はプリントできなかったページ以降を転送します。
- 転送したファクスはファクス送信ジョブとなります。送信の中止やエラーなどで送信が中止されると、本機の受信データとなりプリント待ちになります。
- 転送先宛先番号の登録方法は、設定モードの「[受信データ転送先電話番号登録（8-51ページ）](#)」を参照してください。



受信データの転送設定

受信データの転送設定



この設定はWebページでのみ設定できます。

ファクスの受信データを、登録した転送テーブルに従って転送します。
この機能を設定すると、受信データをプリントせずに、指定したE-mailアドレスへ転送するといった使いかたができます。

転送テーブルの登録

受信データを転送するための設定を登録した転送テーブルの新規登録、または変更をします。

転送テーブル数は、10件まで登録します。

1つのテーブルに登録できる送信元番号/アドレスは、最大5件です。

転送先は、すべての転送テーブルを合計して、50件まで登録します。

項目	設定内容
転送テーブル名	転送テーブル名が表示されます。
受信データの送信元設定 送信元番号の設定	受信データの転送に関して指定します。送信元のファクス番号を選択します。 すべての受信データを転送する：すべての受信データを転送します。 指定した送信元からの受信データのみを転送する：あらかじめ指定した送信元番号/アドレスを設定し、そのデータのみを転送します。 工場出荷時 ：すべての受信データを転送する
受信データの転送先設定 転送条件	転送する条件を設定します。 • 転送しない：転送しません。 • 常に転送する：常に転送します。 工場出荷時 ：転送しない
転送先一覧	転送先に指定可能な宛先をリスト表示します。転送先を選択する場合は、 <input checked="" type="checkbox"/> にします。
追加(アドレス帳から選択)	アドレス帳を開いて転送先を入力します。
追加(直接入力)	転送先の設定を直接入力します。
削除	選択確定したアドレスを削除します。



管理設定

受信データの転送設定機能における管理者用の設定をします。

リスト名	設定内容
受信データの転送	受信データの転送設定機能を設定します。 工場出荷時 ：無効
受信データのプリント設定	受信したデータのプリント条件を設定します。 工場出荷時 ：エラー時のみプリント
文字のプリセット	ファイル名に付ける文字を設定します。 「ファイル名に含める情報No.1～No.6」で「文字列」が設定されたときに、設定された文字がファイル名に付きます。 全角/半角64文字以内で入力してください。
ファイル名に含める情報 No.1～No.6	保存するときにファイル名に付ける情報を設定します。 工場出荷時 ：No.1：送信者名、No.2：日時、No.3～No.6：設定しない
アドレス帳に登録されている連絡先から受信した場合は、送信者名を連絡先名に変更する	「ファイル名に含める情報」に送信者名が設定されているとき、送信者の名前をアドレス帳に登録されている名前に変更します。

1 【受信データの転送】を有効にする

メニューから【管理設定】をタップします。
設定画面で【受信データの転送】を有効にします。

2 送信元番号/アドレスを登録する

メニューから【送信元番号/アドレスの登録】をタップします。
登録したい相手先番号またはアドレスを登録します。



すべての受信データを転送する場合は、送信元番号/アドレスを個別に登録する必要はありません。

3 転送テーブルを登録する

メニューから【受信データの転送設定】をタップします。
表示した画面で【追加】キーをタップします。
【転送テーブルの登録】画面を表示しますので、転送テーブルを登録します。

4 登録した転送テーブルを有効にする

メニューから【受信データの転送設定】をタップします。
有効にしたい転送テーブル名を にします。

通信結果表プリント設定

通信結果表のプリント設定を行います。

工場出荷時：エラー時のみプリント



認証設定



この設定はWebページでのみ設定できます。

初期設定

ユーザー認証

ユーザー認証設定の有無と認証方法を設定します。

ユーザー認証を適用すると、本機の利用者をユーザー単位で登録し、それぞれのユーザーでログインしたときに個別の設定を適用します。この機能により、セキュリティおよびランニングコストなどに関して従来よりきめ細かな管理をします。

また、本機にユーザー情報が登録されていない場合でも、必要に応じてLDAPサーバーに登録されているユーザー情報を直接入力して本機にログインします。この場合、工場出荷時に登録されている「ユーザー」をログインユーザーとして適用します。詳しくは「[工場出荷時に登録されているユーザー \(8-28ページ\)](#)」を参照してください。

工場出荷時：無効



- ユーザー登録の方法については「[ユーザーリスト \(8-27ページ\)](#)」を参照してください。
- ユーザー認証設定時の操作方法については、「[ユーザー認証について \(7-5ページ\)](#)」を参照してください。

認証先設定

ユーザー認証を設定する場所を設定します。

マシン本体：本機でユーザー認証を行います。

LDAP：LDAPサーバーでユーザー認証を行います。

工場出荷時：マシン本体

標準ネットワーク認証先設定

標準状態のネットワーク認証先を設定します。

本機に登録されていないユーザー情報を使用して、設定モード（Web版）にログインしたり、プリンター機能でプリントをすると、認証先の設定が不明となります。

この設定では、認証先となるサーバーをあらかじめ本機に登録されているLDAPサーバーから選択します。



ネットワーク認証を使用し、本機に登録されていないユーザー情報でログインした場合は、工場出荷時に登録されている「ユーザー」をログインユーザーとして適用します。詳しくは「[工場出荷時に登録されているユーザー \(8-28ページ\)](#)」を参照してください。



ネットワークサーバーでアクセス制御設定を指定する

ネットワークサーバーに、枚数制限や権限の各アクセスコントロール情報をあらかじめ登録し、このネットワークサーバーでネットワーク認証をすることで、登録したアクセスコントロールに沿ったユーザー認証で運用します。

LDAPサーバーを利用したネットワーク認証でユーザー認証を行っている場合に利用します。

この機能を使用する前に、ネットワークサーバーで認証する設定を行い、「使用枚数制限グループ」、「権限グループ」の各管理番号（各グループの基準となる設定内容を含む）を取得して、本機に登録された管理番号と関連付けます。

この機能を使用するためには、あらかじめユーザー認証に使用するネットワークサーバーのDirectory情報に、「権限グループ」、「使用枚数制限グループ」と関連付ける属性を追加します。

各属性情報は次のとおりです。なお、あらかじめ本機で登録されている設定値は変更できません。

属性	工場出荷時の属性の名前	設定値
使用枚数制限グループ	pagelimit	本機に登録されている使用枚数制限グループの登録番号。 または、あらかじめ本機に登録されているグループ名。 制限なし：unlimited
権限グループ	authority	本機に登録されている権限グループの登録番号。 または、あらかじめ本機に登録されているグループ名。 管理者権限：admin ユーザー権限：user ゲスト権限：guest

本機がLDAPサーバーから取得する属性の名前は、「設定（管理者）」の[ネットワーク設定] → [LDAP設定] のグローバルアドレス帳の設定画面で、[ユーザー管理機能との連携]の[使用枚数制限グループ]、[権限グループ]で変更します。

各ユーザーの実際に得られる権限や設定を決定するのは、各複合機に登録されている[使用枚数制限グループ]、[権限グループ]です。本機能を利用して、どの複合機でも同じ権限や設定を得られるようにするには、同じ権限内容の[使用枚数制限グループ]、[権限グループ]を、各複合機に同じ番号で登録されるように登録します。

使用するネットワークサーバーのDirectory情報は、本機からは変更できません。ネットワークサーバーの管理者にご相談ください。

すでにユーザーが手動で100件登録しているときはログインできません。本機の管理者に相談してください。

工場出荷時：無効



- アクセスコントロールを有効にしている場合に認証先のサーバーからアクセスコントロールの情報が取得できない場合は、ユーザー認証できません。
- 本機でユーザー登録されているユーザーがネットワーク認証した場合、使用枚数制限グループ、権限グループの設定は、本機のユーザー登録の設定を優先します。
- サーバーから取得したアクセスコントロールが本機に登録されていない場合は 工場出荷時に設定されているユーザー権限に従います。
- この機能が設定されていない状態で、未登録ユーザーとしてネットワーク認証した場合は 工場出荷時に設定されているユーザー権限に従います。

認証方法設定

認証方法を選択します。ユーザー認証を使用する場合、この設定は必ず最初にします。認証方法を設定したあとに登録したユーザーは、それぞれの認証方法に合わせて設定項目が変わります。

ログイン名とパスワードによるユーザー認証を行う

ログイン名とパスワードを利用する標準的な認証方法です。

ユーザー番号のみでユーザー認証を行う

ネットワーク認証を利用しない場合など、簡易認証として使用します。

工場出荷時：ログイン名とパスワードによるユーザー認証を行う



- 選択する認証方法によって認証画面は異なります。
詳しくは「[ユーザー認証について \(7-5 ページ\)](#)」を参照してください。
- 認証方法を「ユーザー番号のみでユーザー認証を行う」に設定しているときは、ネットワーク認証は使用できません。



ログイン名の大文字/小文字を区別する

ユーザー認証時のログイン名について、大文字/小文字の区別をするかどうかを設定します。チェックボックスを にすると、ログイン名について大文字/小文字で異なるログイン名として認証されます。そのため、大文字/小文字が異なるだけでユーザー名が同じの場合は、別ユーザーとして認証されます。 にすると、ログイン名について大文字/小文字の区別をしません。そのため、大文字/小文字が異なるだけでユーザー名が同じの場合は、同一ユーザーとして認証されます。

工場出荷時：有効



チェックボックスを に変更したときに、すでに登録済みの大文字/小文字が異なる同名ユーザーが存在する場合は、登録済みのユーザーは別ユーザーのままとなります。

ICカード設定

認証時にICカードを使用する

ユーザー認証するときにICカードを使用できるようにします。

工場出荷時：無効

管理設定

無効ユーザーの印刷禁止

プリンタードライバーで適正なユーザー情報を入力していないジョブなど、本機にユーザー情報を登録していないユーザーによるプリントジョブを禁止します。

工場出荷時：無効

自動ログアウト設定

ユーザー認証設定時、自動ログアウトを設定するかどうかを設定します。

ログアウトまでの時間を10秒単位で240秒まで設定します。

工場出荷時：有効

ログイン失敗時の警告

管理者パスワード入力を含め、ユーザー認証時にパスワードの誤入力をカウントし、規定回数（3回）に達した場合、ユーザーアカウントがロックされ、以降そのユーザーの認証受付を5分間停止する機能です。誤入力のカウントはユーザー別に行われ、正しいパスワードが入力された時点でリセットされます。

これにより、総当たり手法のパスワード入力により本機が使用されることを防ぎます。（電源を切っても失敗のカウントは消去されません。）

工場出荷時：無効



- ロックアウトは、すべてのユーザーではなく、ログインに失敗したユーザーのみが対象となります。あるユーザーがロックアウトになっても、他のユーザーはログインすることができます。
- LDAPのネットワーク認証の場合は、本機ではロックアウトを行わず、サーバー側でロックアウトを行います。サーバー側でロックアウトに対して適切に設定してください。
- 該当ユーザーがロックアウトされた場合、[操作禁止状態を解除] キーが該当ユーザーの「ユーザーの登録」画面に表示されるので、管理者はキーをタップし手動解除できます。

リモートによるスキャナー利用をログイン前も許可する

リモート操作によるスキャナーの利用をログインする前でも許可するかを設定します。

工場出荷時：無効



プリンタードライバー以外のIPP認証を有効にする

プリンタードライバー以外でIPP認証を有効にします。

工場出荷時：有効

認証後の動作設定

ログイン中のユーザーのファイルのみ表示する

ユーザー認証設定時、ログインしたユーザーのファイルのみを表示します。

工場出荷時：有効

E-mailステータス送信後にカウンターをリセットする

E-mailステータスを送信した後に、カウンターをリセットします。

E-mailアラート/ステータス有効時のみ表示します。

工場出荷時：無効

ファクス状況で他ユーザーのジョブの情報表示/変更を禁止する

この設定が有効なときは、ファクス状況画面でログインユーザーのジョブのみを表示します。

工場出荷時：無効

認証後の画面表示設定

ログイン名の表示

ユーザー認証設定時、ログイン名を表示するか"*"で表示するかどちらかの設定を行います。

工場出荷時：ログイン名を表示する

項目	説明
<input type="checkbox"/> ログイン名を表示する	ログイン名を表示します。
<input type="checkbox"/> ログイン名を"* (アスタリスク)" で表示する	ログイン名をアスタリスクで隠します。

ログイン後に使用枚数を表示する

ユーザー認証設定時、各ユーザーがログインしたときに使用枚数を表示するかどうかを設定します。

工場出荷時：無効



カードリーダー設定

基本設定

カードタイプ/カードリーダー

使用するカードタイプやカードリーダーを設定します。

カードIDの登録/変更権限

ログイン中のユーザーが、本人のカードID情報を本機に登録/変更/削除することができるかを設定します。

工場出荷時：無効

FeliCaユーザーエリアモード時、システムコードのみをチェックする

FeliCaカードのユーザーエリアモードのときにシステムコードのみをチェックします。

工場出荷時：無効

設定ファイルからインポート

設定ファイル名を入力して [実行] キーをタップすると、設定ファイルからカードエリア設定を読み込みます。[クリア] キーをタップすると、登録済の設定ファイルをすべて削除します。



用紙設定

給紙トレイ設定

各給紙トレイの設定および用紙タイプの登録をします。

給紙トレイごとに用紙種類（タイプ）、用紙サイズ、使用する機能（給紙許可ジョブ）の設定をします。
[トレイ設定] キーをタップすると、トレイの一覧と設定状況を表示します。



この設定はWebページでのみ設定できます。

トレイ自動切り換え

プリント中に用紙切れになったときに、同じサイズとタイプの用紙をセットした別のトレイに自動的に切り替えてプリントを続けるかどうかを設定します。

工場出荷時：無効

手差しトレイで用紙検知時に給紙トレイ設定を表示する

手差しトレイに用紙を検知したときに給紙トレイ設定を自動的に表示させます。

工場出荷時：無効

坪量設定

使用する用紙の坪量に応じて、トナーの定着温度を制御します。

ここでの設定を、再生紙、パンチ紙、印刷済み用紙、レターヘッド紙、色紙の各用紙で適用します。

60g/m²~79g/m²と80g/m²~105g/m²から選択します。

工場出荷時：60g/m²~79g/m²(16~20 lbs)

はがき印刷時の用紙タイプ設定

はがきを印刷するときの使用用紙タイプを設定します。

- はがきを「トレイ1」から印刷するときは、使用する用紙タイプを「厚紙1」に設定してください。
- はがきを「手差しトレイ」または「トレイ2」から印刷するときは、使用する用紙タイプを「厚紙2」に設定してください。

工場出荷時：厚紙2

給紙許可ジョブ（ファクス）

ファクスで使用させたくないトレイがある場合は、その機能を無効にしてください。

工場出荷時：トレイ1：有効



操作設定



- カスタムリンクはWebページで設定できます。
- リモート操作設定は、操作パネルの操作設定またはWebページの基本設定で設定できます。
- それ以外の設定は、操作パネルでのみ設定できます。

メッセージ表示時間の設定

タッチパネルに表示するメッセージ（一定時間表示したあと自動的に消えるもの）の表示時間を1秒単位で1～12秒の範囲で設定します。

工場出荷時：6秒

言語設定

タッチパネルに表示するメッセージを、必要に応じて日本語以外に切り替えます。

工場出荷時：日本語

デフォルト表示画面

オートクリアしたあとや、ログイン後に表示する画面を設定します。

工場出荷時：ホーム画面

マシン情報画面にIPアドレスを表示する

「システム情報画面」にIPアドレスを表示するかを設定します。

工場出荷時：有効

LANケーブル非接続時にアイコンを表示する

LANケーブルが接続されていないときにアイコンを表示します。

工場出荷時：有効

ジョブ中止時に確認ダイアログを表示する

ジョブを中止したときに確認のダイアログボックスを表示します。

工場出荷時：無効

総使用枚数の表示を制限する

この設定を有効にすると、ホーム画面から総使用枚数を確認するときに、総使用枚数を非表示にします。

工場出荷時：無効

10キーの並び順

数字キー（10キー）の並び順を左上を1として昇順で並べるか、左下を1として昇順で並べるかを設定します。

工場出荷時：左下からの昇順の並び



オートクリアモードの設定

オートクリアモードの禁止

オートクリアモードをはたらかないようにします。

工場出荷時：無効

オートクリアモード

オートクリアモードがはたらくまでの時間を10秒単位で10～240秒の範囲で設定します。

設定した時間、放置した状態が続くと、オートクリアがはたらき、デフォルト表示画面に戻り、設定していた内容も消去します。リモートPCスキャン時は、オートクリアは実行しません。

工場出荷時：60秒

画面タイムアウト禁止

スキャナーやファクスでオートクリアの時間が経過したあと、操作画面を基本画面に戻すかを設定します。

工場出荷時：無効

キー入力の確定受付時間

タッチパネルのキーをタップしたときに、キー入力が行われたことを確定するまでの時間を0.5秒単位で0～2秒の範囲で設定します。

この時間を長めに設定しておく、キータッチを誤った場合でも、設定した時間に達するまでにキータッチをやめれば、キー入力が行われたことにならないため、誤入力しません。ただし設定した時間、キーをタップし続けないと、キー入力が行われたことにならないので、ご注意ください。

工場出荷時：0.0秒

キーリピートの禁止

キーリピートを禁止するかを設定します。

工場出荷時：無効

ロングタッチの確定受付時間

タッチしてから、ロングタッチとして確定する時間を設定します。

工場出荷時：0.5秒

基本設定

リモート操作設定

本機とネットワークで接続しているコンピューターで、本機をリモート操作するときに必要な設定をします。



リモートソフトの操作

- 操作権限を許可する：
リモートソフトを使って、本機をリモート操作するときに使用します。
- パスワード入力画面の表示：
リモートソフトを使って本機をリモート操作するときに、パスワードの入力画面を本機とコンピューターの両方またはコンピューターのみに表示します。

工場出荷時：操作権限を許可する：禁止、パスワード入力画面の表示：リモートソフト側と本体パネル側の両方に表示

特定PCからの操作

- 操作権限を許可する：
特定のコンピューターを使って、本機をリモート操作するときに使用します。
- 接続するPCのホスト名またはIPアドレス：
接続するのコンピューターのホスト名またはIPアドレスを入力します。
- パスワード入力画面の表示：
特定のコンピューターを使って、本機をリモート操作するときに、パスワードの入力画面を本機とコンピューターの両方またはコンピューターのみに表示します。

工場出荷時：操作権限を許可する：禁止、パスワード入力画面の表示：リモートソフト側と本体パネル側の両方に表示

接続パスワードを持つユーザーからの操作

- 操作権限を許可する：
接続パスワードを持つユーザーが、本機をリモート操作するときに使用します。接続パスワードについては指定のサービス担当者にご相談ください。
- パスワード入力画面の表示：
接続パスワードを持つユーザーが、本機をリモート操作するときに、パスワードの入力画面を本機とコンピューターの両方またはコンピューターのみに表示します。

工場出荷時：操作権限を許可する：禁止、パスワード入力画面の表示：リモートソフト側と本体パネル側の両方に表示

データリスト

データリストを印刷するときに片面印刷で行うか両面印刷で行うかを設定します。

工場出荷時：片面印刷

キーボード切替

キーボードのキー配列や表示を設定した言語に従って切り替えます。

工場出荷時：日本語JIS

カスタムリンク

設定メニューの表示欄に、登録したWebアドレスを表示させることができます。
カスタムリンクをクリックすると、登録したアドレスのWebサイトにジャンプします。



デバイス設定

本機に装着されている各装置の設定をします。



日付/時刻設定、サマータイム設定、用紙自動選択の対象となる用紙タイプの設定、給紙トレイ設定の禁止を除いた項目は、Webページでのみ設定できます。

操作パネルでのデバイス設定の項目については、「[操作パネルの設定モードリスト \(8-8ページ\)](#)」を参照してください。

基本設定

AB系/インチ系の設定

原稿サイズを選択する際に、AB系とインチ系のどちらを通常で表示するかを設定します。

工場出荷時：AB

標準原稿サイズ設定

ファクス/イメージ送信で原稿を読み込む際の、初期値を設定します。よく使う原稿サイズを設定すると便利です。

工場出荷時：すべてA4

用紙自動選択の対象となる用紙のタイプの設定

用紙自動選択機能がはたらく用紙の種類（タイプ）※を以下のいずれかに設定します。

- 普通紙1
- 普通紙2
- 再生紙

設定した種類の用紙以外は、用紙自動選択機能がはたらきません。

※ [給紙トレイ設定] で各給紙トレイに設定されている用紙の種類

工場出荷時：普通紙1、普通紙2



この設定は、操作パネルのデバイス設定にもあります。

普通紙互換設定

通常使用する普通紙の坪量を設定します。

普通紙1、普通紙2から選択します。

普通紙1の坪量は60~79g/m²、普通紙2の坪量は80~105g/m²です。

工場出荷時：普通紙1

給紙ユニットの使用禁止

給紙ユニットの使用を禁止するときや故障したときに使用します。

工場出荷時：無効

給紙トレイ設定の禁止

給紙トレイ（手差しトレイを除く）の設定を禁止するときを使用します。

工場出荷時：無効



この設定は、操作パネルのデバイス設定にもあります。



状態ランプ設定

データランプ設定

インフォメーションランプの動作を設定します。設定内容については「[インフォメーションランプ \(1-6ページ\)](#)」を参照してください。

工場出荷時：パターン1

受信データがある場合、点滅表示する

ファクスの受信データがある場合、インフォメーションランプを点滅させるかを設定します。

工場出荷時：有効

受信データの表示をエラー表示より優先する

ファクスの受信データがある場合、エラー表示の点灯よりも優先するようにします。

工場出荷時：無効

エラーランプ設定

エラーランプの動作を設定します。設定内容については「[インフォメーションランプ \(1-6ページ\)](#)」を参照してください。

工場出荷時：点灯/点滅表示

マシン情報の設定

本機の名称や識別するためのマシンコードなどを入力します。

日付/時刻設定

本機に内蔵されている時計の日付と時刻を設定します。

項目	説明
タイムゾーンの指定	GMT（グリニッジ標準時）に対して、時差が早い地域は「+」を選択し、時差が遅い地域の場合は「-」を選択します。その後、GMTと使用する地域の時差を時・分で指定します。（例：日本の場合+09時00分）
現在日時の設定	年・月・日・時・分をそれぞれ指定して、年月日と時刻を合わせます。



この設定は、操作パネルのデバイス設定にもあります。



サマータイム設定

サマータイムを設定します。

項目	説明
サマータイム設定	サマータイム設定を有効にするか無効にするかを選択します。無効にすると以下の設定ができなくなります。 工場出荷時：無効
設定タイプ選択	サマータイムの開始日と終了日を曜日か日付のどちらで設定するかを選択します。
開始時刻	サマータイムを開始する日と時刻を設定します。「設定タイプ選択」で「曜日」を選択したときはサマータイムを開始する月、週、曜日を設定します。「設定タイプ選択」で「日付」を選択した場合は開始する月と日を設定します。時刻は、時・分とUTC（協定世界時）を使うかどうかの設定をします。
終了時刻	開始時刻と同様の方法でサマータイムの終了する日と時刻を設定します。
調整時間	サマータイムを開始するときに調整する時間を設定します。



この設定は、操作パネルのデバイス設定にもあります。



禁止設定

各機能の禁止に関する設定をします。

コピー設定など各機能の設定にある禁止設定の項目とこの禁止設定にある項目は連動します。

プリンター設定

注意通告ページの出力禁止

注意通告ページのプリントを禁止します。

工場出荷時：有効

テストページの出力禁止

テストページのプリントを禁止します。

設定すると、Webページの[ステータス]→[ユーザー用リスト]→[プリンターテストページ]のプリントはできません。

工場出荷時：無効

自動用紙選択時の手差しトレイ選択禁止

用紙選択が自動になっている場合に、手差しトレイを対象からはずします。手差しトレイに特殊紙などを設定することが多い場合にお勧めします。

工場出荷時：無効

白紙プリントの禁止

白紙ページのプリントを禁止します。

工場出荷時：無効

ファクス/イメージ送信設定

ファクス同報送信の禁止

ファクスの同報送信を禁止します。

工場出荷時：無効

スキャン機能の禁止

USBメモリーへの保存禁止

USBメモリーなどの外部メモリーへのデータ保存を禁止したいときに設定します。

工場出荷時：無効

送信禁止設定

送信に関する次の操作をそれぞれ禁止します。

アドレス帳からの選択禁止

アドレス帳からの送信先の選択を禁止します。

以下の項目でそれぞれ設定します。

- E-mail
- 共有フォルダー /FTP/Desktop

全選択：すべての項目を選択します。

選択解除：すべての項目の選択を解除します。

工場出荷時：すべて無効

直接入力禁止

アドレスなどの宛先の直接入力を禁止します。

以下の項目でそれぞれ設定します。

- E-mail
- ファクス

全選択：すべての項目を選択します。

選択解除：すべての項目の選択を解除します。

工場出荷時：すべて無効

マイアドレス検索の禁止

マイアドレス検索を禁止します。

工場出荷時：無効



デバイス設定

給紙ユニットの使用禁止

給紙ユニットの使用を禁止するときや故障したときに使用します。

工場出荷時：無効

給紙トレイ設定の禁止

給紙トレイ（手差しトレイを除く）の設定を禁止するときを使用します。

工場出荷時：無効

プロダクトキー入力

下記の拡張機能を使用するためのプロダクトキーやアプリケーション番号を入力します。

E-mailアラート/ステータス

上記の機能のプロダクトキーやアプリケーション番号を入力します。



お買いあげいただいた本体の拡張機能の有効化状態により、表示される項目は変化します。
入力するプロダクトキーは、お買いあげの販売店にお問い合わせください。



オーディオ設定

本機の報知音の設定や、音量に関する設定を行います。



この設定は操作パネルでのみ設定できます。

報知音設定(共通)

キータッチ音/電源OFF音

キータッチの音量と電源を切るときの音量の大きさを調整したり、鳴らないようにしたりします。

工場出荷時：小

基準音

コピーの倍率や濃度を変更するときに、各設定の基準値（コピー倍率の100%や濃度の3）になったところで、音で知らせるようにします。基準音を調整したり、鳴らないようにしたりします。

工場出荷時：小

原稿読み込み終了音(スキャン/ファクス)

ファクスやスキャンで原稿の読み込みが終了したときにお知らせする音を調整したり、鳴らないようにしたりします。

工場出荷時：小

報知音設定(ファクス)

音量設定

ファクスで使用する機能の音量を調整します。

オンフック音

オンフック時の音量を調整します。

工場出荷時：中

呼び出し音量

呼び出しの音量を調整します。

工場出荷時：中

回線モニター音量

回線モニターの音量を調整します。

工場出荷時：なし

通信終了音量

通信終了音の音量を調整します。

工場出荷時：中



通信終了音色

送信時、受信時にそれぞれの終了音の音色を設定します。

送信時

送信の終了音を設定します。

工場出荷時：パターン2

受信時

受信の終了音を設定します。

工場出荷時：パターン2

通信終了音時間

通信終了を鳴らす時間を設定します。

工場出荷時：3.0秒



ネットワーク設定（操作パネル）

ここでは、操作パネルから設定できるシステム設定のネットワーク設定について説明します。



この設定は操作パネルでのみ設定できます。

ネットワーク設定の確認

本機の現在のネットワーク構成が表示されます。

接続タイプ

ネットワークの接続状況に合わせて、[有線]、[無線インフラストラクチャーモード] または[有線+無線(ダイレクト接続)]を切り替えます。

工場出荷時：有線+無線(ダイレクト接続モード)

有線設定

有線接続の設定を行います。

IPv4設定

TCP/IPプロトコル（IPv4）を使用したネットワークで本機を使用するときに、本機のIPアドレスを設定します。

DHCPを有効にする

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）を使用して、IPアドレスを自動的に取得します。この設定を有効にしている場合、IPアドレスを手動で入力する必要はありません。



DHCPv6使用時、本機に割り当てられたIPアドレスは、自動的に変更されることがあります。変更された場合、プリントできません。

IPv4アドレス

本機のIPアドレスを入力します。

サブネットマスク

サブネットマスクを入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。

IPv6設定

TCP/IPプロトコル（IPv6）を使用したネットワークで本機を使用するときに、本機のIPアドレスを設定します。

IPv6を有効にする

この設定を有効にします。



DHCPを有効にする

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用して、IPアドレスを自動的に取得します。この設定を有効にしている場合、IPアドレスを手動で入力する必要はありません。



DHCPv6使用時、本機に割り当てられたIPアドレスは、自動的に変更されることがあります。変更された場合、プリントできません。

手動設定アドレス

本機のIPアドレスを入力します。

プレフィックス長

プレフィックス長 (0~128) を入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。



無線設定（インフラストラクチャーモード）

無線のインフラストラクチャーモードの接続を設定します。

WPS設定

WPSを使用して本機と無線ルーターを接続します。

プッシュボタン方式で設定する

WPSを使用して無線ルーターに接続します。このキーをタップしたあと、無線ルーターのWPSのボタンを押して接続します。

PINコード方式で設定する

このキーをタップすると、PINコードが表示されるので、このPINコードを接続する無線ルーターの設定ページに2分以内に入力してください。

SSID

半角32文字以内で、SSIDを入力します。

セキュリティタイプ

接続する無線のセキュリティタイプを設定します。

暗号化

「セキュリティタイプ」で選択した項目に応じた暗号化方式を選択します。

セキュリティキー

「セキュリティタイプ」で選択した項目に応じた暗号化方式を選択します。

セキュリティタイプ	セキュリティキー
WEP	5桁の半角英数または10桁の16進数（64bit）または13桁の半角英数または26桁の16進数（128bit）
WPA/WPA2-mixedパーソナル WPA/WPA2-mixed エンタープライズ WPA2パーソナル WPA2エンタープライズ WPA2/WPA3-mixedパーソナル WPA2/WPA3-mixedエンタープライズ WPA3パーソナル WPA3エンタープライズ	8～63桁の半角英数または64桁の16進数



無線設定（アクセスポイントモード）

無線のアクセスポイントモードの接続を設定します。

周波数帯

どの周波数帯で使用するかを設定します。

SSID

半角32文字以内で、SSIDを入力します。

セキュリティタイプ

接続する無線のセキュリティタイプを設定します。

暗号化

「セキュリティタイプ」で選択した項目に応じた暗号化方式を選択します。

セキュリティキー

「セキュリティタイプ」で選択した項目に応じた暗号化方式を選択します。

セキュリティタイプ	セキュリティキー
WEP	5桁の半角英数または10桁の16進数（64bit）または13桁の半角英数または26桁の16進数（128bit）
WPA/WPA2-mixedパーソナル WPA2パーソナル WPA2/WPA3-mixedパーソナル WPA3パーソナル	8～63桁の半角英数または64桁の16進数

本機のIPアドレス設定

アクセスポイントのIPアドレスを設定します。

利用チャンネル設定

アクセスポイントを使用するチャンネルを設定します。

IPアドレス配付範囲設定

アクセスポイントが使用するIPアドレスのリース範囲（IPアドレスの始めとIPアドレスの終わり）とリース期間を設定します。



ネットワーク設定 (Webページ)

ここでは、Webページのシステム設定のネットワーク設定について説明します。



この設定はWebページでのみ設定できます。

簡易設定

本機をネットワークに接続するときに最低限必要な設定をします。

無線設定

接続タイプ

ネットワークの接続状況に合わせて、[有線のみ]、[無線 (インフラストラクチャーモード)] または [有線+無線(ダイレクト接続)] を切り替えます。

工場出荷時：有線+無線(ダイレクト接続モード)

有線+無線 (ダイレクト接続) 選択時

アクセスポイントモード、Wi-Fi Directモードから選択します。

工場出荷時：アクセスポイントモード

「接続タイプ」で「無線 (インフラストラクチャーモード) を選択した場合

アクセスポイント検索

クリックすると、アクセスポイントを検索します。検索結果が表示されますので、使用するアクセスポイントを選択して、[OK] をクリックすると、選択したアクセスポイントの [SSID]、[セキュリティタイプ]、[暗号化] が自動的に反映されます。

SSID

SSIDを入力します。

セキュリティタイプ

セキュリティタイプを選択します。

工場出荷時：なし

暗号化

暗号化の種類を選択します。

工場出荷時：なし

セキュリティキー

セキュリティキーを入力します。

セキュリティタイプ	セキュリティキー
なし	WEP64bit: 5文字または10桁の16進数
WEP	WEP128bit: 13文字または26桁の16進数
WPA/WPA2-mixedパーソナル	WPA/WPA2/WPA3: 8~63文字または64桁の16進数
WPA/WPA2-mixedエンタープライズ	
WPA2パーソナル	
WPA2エンタープライズ	
WPA2/WPA3-mixedパーソナル	
WPA3パーソナル	
WPA2/WPA3-mixedエンタープライズ	
WPA3エンタープライズ	

セキュリティキーを表示する

ONにすると、セキュリティキーを表示します。

工場出荷時：なし



IPv4設定

TCP/IPプロトコル (IPv4) を使用したネットワークで本機を使用するときに、本機のIPアドレスを設定します。

DHCP

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) /BOOTP (Bootstrap Protocol) を使用して、IPアドレスを自動的に取得します。この設定を有効にしている場合、IPアドレスを手動で入力する必要はありません。

工場出荷時：有効



DHCP/BOOTP使用時、本機に割り当てられたIPアドレスは、自動的に変更されることがあります。変更された場合、プリントできません。

IPv4アドレス

本機のIPアドレスを入力します。

サブネットマスク

サブネットマスクを入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。

ネットワーク名設定

デバイス名

デバイス名を入力します。

ドメイン名

ドメイン名を入力します。

工場出荷時：Sharp-Printer

DNS設定

プライマリーサーバー

プライマリー DNSサーバーのIPアドレスを入力します。

セカンダリーサーバー

セカンダリー DNSサーバーのIPアドレスを入力します。

ドメイン名

設定したDNSサーバーが所在するドメイン名を入力します。



SMTP設定

プライマリーサーバー

プライマリー SMTPサーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

ポート番号

ポート番号を入力します。

工場出荷時：25

送信者名

送信者名を入力します。

送信アドレス

データを送信できなかった場合、不達通知のE-mailがサーバーから返信されることがあります。この不達通知を受信するためのE-mailアドレスを（一つのみ）入力します。通常、システム管理者のE-mailアドレスを入力します。

SSL/TLSを有効にする

にすると、STARTTLSコマンドにより、SMTP over TLSとして暗号化通信を行います。

そのため、サーバーはSTARTTLSコマンドに対応している必要があります。

SSL/TLS通信を行う場合、「ポート番号」に通常のSMTPと同じポート番号を設定します。

工場出荷時：無効

認証方式

SMTPの認証方法を設定します。

Microsoft365、Exchange Onlineなどを使用する場合は、「OAuth2.0」を選択します。

OAuth2.0を選択した場合の設定方法については、「[OAuth2.0認証について（7-17ページ）](#)」を参照してください。

工場出荷時：認証なし

プロバイダー

認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。

プロバイダーを選択します。

工場出荷時：Microsoft

アカウント名

認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。

アカウント名を入力します。

トークン

認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。

現在のトークンの状態を表示します。

取得/削除

トークンを取得していない状態のときは「取得」キー、トークンを取得しているときは「削除」キーが表示されます。

ユーザー名

認証方式で「SMTP認証」を選択したときに設定できます。

ユーザー名を入力します。

パスワード

認証方式で「SMTP認証」を選択したときに設定できます。

パスワードを入力します。

パスワードを変更する場合は、「パスワードを変更する」をにします。



POP before SMTP

認証方式で「OAuth2.0」以外を選択したときに設定できます。

にすると、SMTPの使用の前にPOPサーバーとの認証をします。

- POP3サーバー：POP before SMTPで用いるPOP3サーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

工場出荷時：無効

- ポート番号：POP before SMTPで用いるPOP3のポート番号を入力します。

工場出荷時：110

- POP認証：にすると、POP3サーバーの認証に認証プロトコル（APOP含む）を使用します。

工場出荷時：無効

- ユーザー名：POP before SMTPで用いるユーザー名を入力します。
- パスワード：POP before SMTPで用いるパスワードを入力します。パスワードを変更する場合は、[パスワードを変更する]をにします。

工場出荷時：無効

接続テスト

[実行] キーをタップすると、SMTPサーバーへの接続をテストします。

LDAP設定

名称

アドレス帳名を入力します。

検索デフォルト設定

LDAPディレクトリ情報ツリーの特定エリアを検索するための検索デフォルトを入力します。

例：o = ABC, ou = NY, cn = Everyone

各項目は、セミコロンまたはカンマで区切ります。

LDAPサーバー

LDAPサーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

ユーザー名

LDAP設定のアカウント名を入力します。

パスワード

パスワードを入力します。

パスワードを変更する

パスワードを変更する場合は、にします。

認証

認証先をドロップダウンリストから選択します。

工場出荷時：Anonymous

KDCサーバー

Kerberos認証サーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

レルム

Kerberosのレルムを入力します。



SSL/TLSを有効にする

にすると、SSL/TLSによる暗号化通信をします。

SMTP over TLSとして暗号化通信を行う場合は、「ポート番号」に465を設定します。

STARTTLSとして暗号化通信を行う場合は、「ポート番号」に通常のSMTPと同じ、もしくは465以外のポート番号を設定します。

工場出荷時：無効

接続テスト

[実行] ボタンをタップすると、LDAPサーバーへの接続をテストします。

ネットワーク名称設定

デバイス名

デバイス名を入力します。

ドメイン名

ドメイン名を入力します。

工場出荷時：Sharp-Printer

コメント

コメントを入力します。

インターフェース設定

おもにTCP/IPに関する項目を設定します。

接続タイプ

ネットワークの接続状況に合わせて、[有線のみ]、[無線（インフラストラクチャーモード）] または[有線+無線(ダイレクト接続モード)]を切り替えます。

工場出荷時：有線+無線(ダイレクト接続モード)

有線+無線（ダイレクト接続）選択時

アクセスポイントモード、Wi-Fi Directモードから選択します。

工場出荷時：アクセスポイントモード

全般設定

TCP/IPプロトコル（IPv4）を使用したネットワークで本機を使用するときに、本機のIPアドレスを設定します。

オートネゴシエーション

LANコネクタ接続時に、通信速度と通信モード（全二重/半二重）を自動的に最適化します。

工場出荷時：有効

速度

ネットワークの通信速度を設定します。

工場出荷時：100BASE-TX

デュプレックスモード

ネットワークの通信速度を指定します。

工場出荷時：ハーフ



IPv4設定

TCP/IPプロトコル (IPv4) を使用したネットワークで本機を使用するときに、本機のIPアドレスを設定します。

DHCP

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用して、IPアドレスを自動的に取得します。この設定を有効にしている場合、IPアドレスを手動で入力する必要はありません。

工場出荷時：有効



DHCP/BOOTP使用時、本機に割り当てられたIPアドレスは、自動的に変更されることがあります。変更された場合、プリントできません。

IPv4アドレス

本機のIPアドレスを入力します。

サブネットマスク

サブネットマスクを入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのアドレスを入力します。

IPv6設定

TCP/IPプロトコル (IPv6) を使用したネットワークで本機を使用するときに、本機のIPアドレスを設定します。

IPv6

この設定を有効にします。

工場出荷時：有効

DHCPv6

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) v6を使用して、IPアドレスを自動的に取得します。この設定を有効にしている場合、IPアドレスを手動で入力する必要はありません。

工場出荷時：有効

手動設定アドレス/プレフィックス長

本機のIPアドレスおよびプレフィックス長 (0~128) を入力します。

工場出荷時：0

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを入力します。



DHCPv6使用時、本機に割り当てられたIPアドレスは、自動的に変更されることがあります。変更された場合、プリントできません。

DNS設定

プライマリーサーバー

プライマリー DNSサーバーのIPアドレスを入力します。

セカンダリーサーバー

セカンダリー DNSサーバーのIPアドレスを入力します。

ドメイン名

設定したDNSサーバーが所在するドメイン名を入力します。



IEEE802.1X設定

IEEE802.1Xを使用して、接続されたユーザーを認証し、本機を利用します。

IEEE802.1Xとは、有線LANや無線LANで使用される認証について規定したプロトコルです。

IEEE802.1Xを用いた認証を使用することで、認証された機器のみネットワークの利用を許可し、第三者によるネットワークの不正利用を防ぎます。

なお、Webページの設定によっては、本機への接続ができなくなり、プリント、スキャン、設定モード（Web版）の表示などができなくなることがあります。その場合は、この設定を無効にし、設定モード（Web版）の設定を変更します。

IEEE802.1X認証/IEEE802.1X認証（有線）

IEEE802.1Xを使った認証を使用するかを設定します。

工場出荷時：無効

EAP認証方式

IEEE802.1XでEAP認証の方式を設定します。

工場出荷時：EAP-TLS

EAPユーザー名

認証するときのEAPのユーザー名を入力します。

パスワード

認証するときのEAPでのパスワード入力します。

サーバー認証を行う

サーバー認証を使用するかを設定します。

工場出荷時：有効

EAPタイムアウト

EAPのタイムアウトを設定します。

工場出荷時：10秒

EAPリトライ回数

通信失敗時にEAPに再アクセスする回数を設定します。

工場出荷時：3回

証明書の状態

IEEE802.1Xを使っての送信に必要な証明書の状態を表示します。証明書を導入する場合は、[導入] キーをクリックします。

認証局証明書の状態

IEEE802.1Xを使っての送信に必要な認証局証明書の状態を表示します。証明書を導入する場合は、[導入] キーをクリックします。



サービス設定

SMTP、Kerberos認証、mDNS、SNMP、SMBについての設定をします。



設定の変更は、本機の再起動後に有効になります。本機の再起動については、[「電源の入れかた \(1-7ページ\)」](#)を参照してください。

SMTP

SMTP設定

プライマリーサーバー

プライマリー SMTPサーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

セカンダリーサーバー

認証方式で「OAuth2.0」以外を選択したときに設定できます。

セカンダリー SMTPサーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

ポート番号

ポート番号を入力します。

工場出荷時：25

タイムアウト

タイムアウト時間を入力します。ここで設定された値は、E-mailシステムの規格仕様に従い、SMTPサーバーに接続するとき、また、データを送信する過程などで使用します。

工場出荷時：20秒

送信者名

送信者名を入力します。

送信者アドレス

送信者のアドレスを入力します。

SSL/TLSを有効にする

にすると、STARTTLSコマンドにより、SMTP over TLSとして暗号化通信をします。

そのため、サーバーはSTARTTLSコマンドに対応している必要があります。

SSL/TLS通信を行う場合、「ポート番号」に通常のSMTPと同じポート番号を設定します。

SMTP over TLSとして暗号化通信を行う場合は、「ポート番号」に465を設定します。

STARTTLSとして暗号化通信を行う場合は、「ポート番号」に通常のSMTPと同じ、もしくは465以外のポート番号を設定します。

工場出荷時：無効

認証方式

SMTPの認証方式を設定します。

Microsoft365、Exchange Onlineなどを使用する場合は、「OAuth2.0」を選択します。

OAuth2.0を選択した場合の設定方法については、[「OAuth2.0認証について \(7-17ページ\)」](#)を参照してください。

工場出荷時：認証なし

プロバイダー

認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。

プロバイダーを選択します。

工場出荷時：Microsoft

アカウント名

認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。

アカウント名を入力します。

トークン

認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。

現在のトークンの状態を表示します。



取得/削除

トークンを取得していない状態のときは「取得」キー、トークンを取得しているときは「削除」キーが表示されます。

ユーザー名

認証方式で「SMTP認証」を選択したときに設定できます。
ユーザー名を入力します。

パスワード

認証方式で「SMTP認証」を選択したときに設定できます。
パスワードを入力します。
パスワードを変更する場合は、[パスワードを変更する]をにします。

POP before SMTP

認証方式で「OAuth2.0」以外を選択したときに設定できます。
にすると、SMTPの使用の前にPOPサーバーとの認証をします。
• POP3サーバー：POP before SMTPで用いるPOP3サーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

工場出荷時：無効

• ポート番号：POP before SMTPで用いるPOP3のポート番号を入力します。

工場出荷時：110

• POP認証：にすると、POP3サーバーの認証に認証プロトコル（APOP含む）を使用します。

工場出荷時：無効

• ユーザー名：POP before SMTPで用いるユーザー名を入力します。
• パスワード：POP before SMTPで用いるパスワードを入力します。パスワードを変更する場合は、[パスワードを変更する]をにします。

工場出荷時：無効

接続テスト

[実行] キーをタップすると、SMTPサーバーへの接続をテストします。

Kerberos

Kerberos認証設定

KDCサーバー

Kerberos認証サーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

ポート番号

Kerberos認証サーバーのポート番号を入力します。

工場出荷時：88

レルム

Kerberosのレルムを入力します。

mDNS

mDNS設定

mDNS

mDNS設定を使用するときに設定します。

工場出荷時：有効

サービス名

サービス名を入力します。

ドメイン名

ドメイン名を表示します。

最優先サービス

優先して使用するサービスを選択します。

工場出荷時：LPD



SNMP

SNMP v1設定

SNMP v1設定

SNMPv1設定を使用するときに設定します。

工場出荷時：有効

アクセス方法

アクセス方法を設定します。

工場出荷時：リードライトアクセス

GETコミュニティ

SNMPでデバイスから情報を取り出すときに使うGETコミュニティ名を入力します。

工場出荷時：public

SETコミュニティ

SNMP設定をするときに必要なSETコミュニティ名を入力します。

工場出荷時：private

SETコミュニティを変更する

SETコミュニティ名を変更する場合は、にします。

工場出荷時：無効

TRAPコミュニティ

デバイスから送信されるSNMP TRAPに使うコミュニティ名を入力します。

工場出荷時：public

TRAPターゲットアドレス

それぞれにSNMP TRAPの送信先のPCのIPアドレスを入力します。

SNMP v3設定

SNMP v3設定

SNMPv3設定を使用するときに設定します。

工場出荷時：無効

ユーザー名

ユーザー名を入力します。

認証キー

認証キーを入力します。

工場出荷時：アルゴリズム：MD5

プライバシーキー

プライバシーキーを入力します。

工場出荷時：アルゴリズム：DES

コンテキスト名

コンテキスト名を表示します。



SMB

SMB設定 (クライアント)

共有フォルダー送信スキャンなどで使用しているSMBプロトコルのバージョンを設定します。

この設定は、SMBプロトコルのバージョンを自動で変更できない機器に接続する場合や、バージョンの違いにより、他の機器の接続に不具合があったときに設定します。

SMBv2、SMBv3のそれぞれのバージョンで設定します。

クライアントの設定は共有フォルダー送信スキャンです。

工場出荷時：すべて有効



SMBv1の設定項目はありますが、設定は常に有効で、無効にすることができません。

あるバージョンを無効にしたときは、上位のバージョンの設定はすべて無効になります。また、あるバージョンを有効にしたときは、下位のバージョンの設定はすべて有効になります。



プリントポート設定

LPD

プロファイル有効期限を入力します。

LPD設定

LPD

LPDを使用するときに設定します。

工場出荷時：有効

タイムアウト

タイムアウト時間を入力します。

工場出荷時：90秒

バナーを使用する

バナーを使用するときに設定します。

工場出荷時：無効

RAW

Rawプリント設定

Rawプリント

Rawプリントを使用するときに設定します。

工場出荷時：有効

ポート番号

ポート番号を入力します。

工場出荷時：9100

タイムアウト

タイムアウト時間を入力します。

工場出荷時：90秒

双方向を使用する

双方向通信を使用する場合は、 にしてください。

工場出荷時：無効

WSD

WSD設定

WSD印刷

WSD印刷を使用するときに設定します。

工場出荷時：無効

マルチキャスト探索を使用する

マルチキャスト探索を使用するときに設定します。

工場出荷時：有効

外部プリントサービス設定

AirPrint 設定

AirPrint設定については、AirPrintガイドを参照してください。



LDAP設定

LDAPの設定をします。

[登録] キーをタップすると、入力された情報をLDAP設定として更新します。

デフォルトのアドレス帳が になります。

追加

グローバルアドレス帳を追加するときは、[追加] キーをタップします。

削除

グローバルアドレス帳を削除するときは、項目を選択し、[削除] キーをタップします。

設定項目一覧

設定項目	設定値
名称	アドレス帳名を入力します。
検索デフォルト設定	LDAPディレクトリ情報ツリーの特定エリアを検索するための検索デフォルトを入力します。 例：o = ABC, ou = NY, cn = Everyone 各項目は、セミコロンまたはカンマで区切られます。
LDAPサーバー	LDAPサーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
サーバータイプ	サーバータイプからデフォルト、またはカスタムを選択します。 工場出荷時 ：デフォルト
ユーザー ID属性	ユーザー ID属性を設定します。 工場出荷時 ：uid
LDAP検索属性	LDAP検索属性を設定します。 工場出荷時 ：cn
E-mailアドレス検索	E-mailアドレス検索を設定します。 工場出荷時 ：mail
ファクス番号検索	ファクス番号検索を設定します。 工場出荷時 ：facsimileTelephoneNumber
使用枚数制限グループ	使用枚数制限グループ検索を設定します。 工場出荷時 ：pagelimi
権限グループ	権限グループ検索を設定します。 工場出荷時 ：authority
カードID	カードID検索を設定します。 工場出荷時 ：cardid
ポート番号	ポート番号を入力します。 工場出荷時 ：389
タイムアウト	タイムアウトを入力します。 工場出荷時 ：5秒
ユーザー名	LDAP設定のアカウント名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。 パスワードを変更する場合は、[パスワードを変更する] を <input checked="" type="checkbox"/> にします。



設定項目	設定値
認証	認証先をドロップダウンリストから選択します。 工場出荷時 ：Anonymous
Bindプレフィックス	Bindプレフィックスを設定します。 工場出荷時 ：uid
サーバー用途	サーバーの用途を設定します。 アドレス帳、ユーザー認証をそれぞれ設定します。 工場出荷時 ：すべて有効
デフォルトで使用する	グローバルアドレスを選択したときにデフォルトとして使用するかどうかを設定します。 工場出荷時 ：無効
SSL/TLSを有効にする	SSL/TLSによる暗号化通信をします。 工場出荷時 ：無効
接続テスト	[実行] ボタンをタップすると、接続テストを実行し、結果を表示します。



設定の変更は、本機の再起動後に有効になります。本機の再起動については、「[電源の入れかた \(1-7ページ\)](#)」を参照してください。

プロキシ設定

プロキシサーバーを経由してネットワークにアクセスします。

設定項目一覧

項目	説明
プロキシ設定	プロキシ設定を使用するかを設定します。 工場出荷時 ：無効
プロキシサーバーアドレス	プロキシサーバーのアドレスを入力します。
ユーザー名	プロキシサーバーへアクセスするためのユーザー名を入力します。
パスワード	プロキシサーバーへアクセスするためのパスワードを入力します。
ポート番号	プロキシのポート番号を入力します。 工場出荷時 ：8080



無線設定

無線LANの有効/無効を切り替えたり、無線LANの状態が表示されます。

接続タイプ

ネットワークの接続状況に合わせて、[有線のみ]、[無線（インフラストラクチャーモード）] または、[有線+無線(ダイレクト接続モード)]を切り替えます。

工場出荷時：有線+無線(ダイレクト接続モード)

有線+無線（ダイレクト接続）選択時

アクセスポイントモード、Wi-Fi Directモードから選択します。

工場出荷時：アクセスポイントモード

現在の設定

無線LANのSSIDやセキュリティタイプなどが表示されます。無線LANが無効の場合は"--"と表示されます。

現在の無線状態

無線LANの受信レベル(最大100)やIPアドレス、無線で使用している帯域など無線LANの詳細な設定が表示されます。

無線設定画面を表示する

[設定] ボタンをクリックします。

無線設定画面では、無線LANのSSIDやセキュリティタイプ、暗号化、セキュリティキーが設定できます。

無線設定を初期化する

[初期化] ボタンをクリックします。

SSID、セキュリティタイプ、暗号化、セキュリティキーの設定が初期化されます。

無線設定（インフラストラクチャーモード）

[接続タイプ切替] を [無線（インフラストラクチャーモード）] に設定している場合に [設定] ボタンをクリックした場合は、インフラストラクチャーモードの無線設定画面が表示されます。

無線LANのSSIDやセキュリティタイプ、暗号化、セキュリティキーを設定します。[登録] ボタンをクリックすると、設定内容を登録します。

アクセスポイント検索

アクセスポイントを検索します。検索結果が表示されますので、使用するアクセスポイントを選択して、[OK] をクリックすると、選択したアクセスポイントの [SSID]、[セキュリティタイプ]、[暗号化] が自動的に反映されます。

SSID

SSIDを入力します。

セキュリティタイプ

セキュリティタイプを選択します。

工場出荷時：なし

暗号化

暗号化の種類を選択します。

工場出荷時：なし

セキュリティキー

セキュリティキーを入力します。



セキュリティタイプ	セキュリティキー
WEP WPA/WPA2-mixed パーソナル WPA2/WPA2-mixed エンタープライズ WPA2パーソナル WPA2エンタープライズ WPA2/WPA3-mixedパーソナル WPA3パーソナル WPA2/WPA3-mixedエンターブ ライズ WPA3エンタープライズ	WEP64bit：5文字または10桁の16進数、 WEP128bit：13文字または26桁の16進数、 WPA/WPA2/WPA3：8-63文字または64桁の16進数

セキュリティキーを表示する

有効にすると、セキュリティキーを表示します。

工場出荷時：無効

無線設定（ダイレクト接続）

[接続タイプ切替] を [有線+無線（ダイレクト接続）] または [有線のみ] に設定している場合に [設定] ボタンをクリックした場合は、アクセスポイントモードの無線設定画面が表示されます。

無線LANのSSIDやセキュリティタイプ、暗号化、セキュリティキーを設定します。

[登録] ボタンをクリックすると、設定内容を登録します。

周波数帯

無線LANで使用する周波数帯を設定します。

工場出荷時：なし

SSID

SSIDを入力します。

セキュリティタイプ

セキュリティタイプを選択します。

工場出荷時：WPA/WPA2-mixedパーソナル

暗号化

暗号化の種類を選択します。

工場出荷時：AES

セキュリティキー

セキュリティキーを入力します。

セキュリティタイプ	セキュリティキー
WEP WPA/WPA2-mixed パーソナル WPA2パーソナル WPA2/WPA3-mixed パーソナル WPA3パーソナル WPA2/WPA3-mixedエンターブ ライズ WPA3エンタープライズ	WEP64bit: 5文字または10桁の16進数、 WEP128bit: 13文字または26桁の16進数、 WPA/WPA2/WPA3：8-63文字または64桁の16進数



セキュリティキーを表示する

有効にすると、セキュリティキーを表示します。

工場出荷時：無効

本機のIPアドレス

IPアドレスを入力します。

利用チャンネル

無線LANで使用するチャンネルを選択します。

工場出荷時：周波数帯が2.4GHzの場合：1、周波数帯が5GHzの場合：36

IPアドレスの配布範囲設定

使用するIPアドレスの範囲を設定します。

工場出荷時：IPアドレスの始め：11、IPアドレスの終わり：15

リース期間

DHCPより割り当てたIPアドレスの有効期間を設定します。

工場出荷時：15分



かんたん接続設定

かんたん接続を使用するときに設定します。

QRコード

あらかじめモバイル機器に専用アプリケーションをインストールし、表示されるQRコードを読み取って接続設定をモバイル機器に送信、登録することができます。

工場出荷時：有効

接続先

QRコードに登録する接続先を設定します。

本機に接続する場合は、[本機に接続する]を選択します。本機に接続するときに必要な情報がアプリケーションに登録されます。

本機以外を接続先に選択する場合は、[以下のアクセスポイントに接続する]を選択します。

手動で設定する場合は、あらかじめ接続先のネットワーク情報を取得してください。

[以下のアクセスポイントに接続する]を選択した場合は、以下の設定を行ってください。

工場出荷時：本機に接続する



[無線設定]の[接続タイプ]を[アクセスポイントモード]に設定して本機に接続します。

アクセスポイント検索

クリックすると、アクセスポイントを検索します。検索結果が表示されますので、使用するアクセスポイントを選択して、[OK] をクリックすると、選択したアクセスポイントの [SSID]、[セキュリティタイプ]、[暗号化] が自動的に反映されます。

名称

接続先の名称を入力を入力します。

SSID

SSIDを入力します。

セキュリティタイプ

セキュリティタイプを選択します。

工場出荷時：WPA2 パーソナル

暗号化

暗号化の種類を選択します。

工場出荷時：AES

セキュリティキー

セキュリティキーを入力します。

セキュリティタイプ	セキュリティキー
<ul style="list-style-type: none">WEPWPA/WPA2-mixedパーソナルWPA2パーソナルWPA2/WPA3-mixedパーソナルWPA3パーソナル	WEP64bit: 5文字または10桁の16進数、 WEP128bit: 13文字または26桁の16進数、 WPA/WPA2/WPA3: 8-63文字または64桁の16進数

セキュリティキーを表示する

有効にすると、セキュリティキーを表示します。

工場出荷時：無効



デバイスWebページ設定

Webページへのアクセスに関する設定をします。

HTTPアクセス設定

同時にログイン可能なユーザー数

Webページへ同時にアクセス可能なユーザー数を入力します。

工場出荷時：32

自動ログアウト時間

本機との通信がない状態で、自動的にログアウトする時間を入力します。

工場出荷時：60分



設定の変更は、本機の再起動後に有効になります。本機の再起動については、「[電源の入れかた \(1-7ページ\)](#)」を参照してください。

ログインユーザーの表示

本機にログインしているユーザーを表示します。

現在ログインしているユーザー

現在ログインしているユーザーとIPアドレスを表示します。

すべてのユーザーをログアウトする

現在ログインしているユーザーを、ログアウト処理します。



設定の変更は、本機の再起動後に有効になります。本機の再起動については、「[電源の入れかた \(1-7ページ\)](#)」を参照してください。



セキュリティ設定



- 設定の変更は、本機の再起動後に有効になります。本機の再起動については、「[電源の入れかた（1-7ページ）](#)」を参照してください。
- パスワード設定、フィルタを有効にする、個人情報と本機内データの初期化を除いた項目は、Webページでのみ設定できます。操作パネルでのセキュリティ設定の項目については、「[操作パネルの設定モードリスト（8-8 ページ）](#)」を参照してください。

パスワードの変更

ユーザーパスワードと管理者パスワードを変更します。

パスワードを変更するときは新しいパスワードを必ず覚えておいてください。

- 1～255文字（管理者パスワードは5～255文字）で設定したいパスワードを入力し、[登録] キーをタップします。設定を有効にするには、本機の電源を入れ直します。送信先の新規登録、変更、削除するためにユーザーレベルの認証パスワードが必要です。ログオンするときにユーザー名は"users"と入力し、パスワードはここで登録したユーザーパスワードを入力します。ユーザーパスワードと同様の機能を持つとともに、すべてを設定するために管理者レベルの認証パスワードが必要です。ログオンするときにユーザー名は"admin"と入力し、パスワードはここで登録した管理者パスワードを入力します。
- パスワード入力欄に入力せずに、[登録] キーをタップした場合、前に設定した値が有効になります。パスワード保護はデフォルト有効です。

パスワードによる本機のWebページへのアクセス制限を行う

Webサーバーにアクセスするとき、必ずログイン画面を表示させてログインしてから設定するようにします。

管理者パスワード

管理者パスワードの設定を変更します。

入力できる文字は半角文字で以下のとおりです。

- 数字：0～9
- アルファベット大文字：A～Z
- アルファベット小文字：a～z
- 記号：!@#\$%^&*()“ ’+,-./:;<=>?[\]_`{|}~ および空白

ユーザーパスワード

ユーザーパスワードの設定を変更します。

入力できる文字は半角文字で以下のとおりです。

- 数字：0～9
- アルファベット大文字：A～Z
- アルファベット小文字：a～z
- 記号：!@#\$%^&*()“ ’+,-./:;<=>?[\]_`{|}~ および空白



パスワード設定

管理者パスワードを変更します。

パスワードを変更するときは新しいパスワードを必ず覚えておいてください。

- 5~255文字で設定したいパスワードを入力し、[登録] キーをタップします。設定を有効にするには、本機の電源を入れ直します。

ユーザーパスワードと同様の機能を持つとともに、すべてを設定するために管理者レベルの認証パスワードが必要です。ログオンするときにユーザー名は"admin"と入力し、パスワードはここで登録した管理者パスワードを入力します。

入力できる文字は半角文字で以下のとおりです。

- 数字：0~9
- アルファベット大文字：A~Z
- アルファベット小文字：a~z
- 記号：!@#\$%^&*()“ ’+,-./:;<=>?[\]_`{|}~ および空白

最小パスワード長

入力するパスワードの文字数を設定します。

工場出荷時：5

基本設定

ホールド以外のプリンタジョブを制限する

ホールドプリント以外のプリンタジョブをキャンセルしたり、すべてのプリンタジョブを強制的にホールドする設定をおこなうことができます。

[ホールド以外のプリンタジョブを制限する] をONにすると、以下の設定ができます。

項目	設定内容
強制的にリテンションする	ホールドプリントをおこなっていないプリントジョブにも、強制的にプリントホールドの設定をおこないます。
ジョブを禁止する	ホールドプリント以外のプリントジョブを強制的に禁止します。

工場出荷時：強制的にリテンションする

停止しているジョブの自動削除設定

紙づまりなどが原因でジョブが中断している場合、「自動削除するまでの時間」で設定した時間が経過後、自動的にジョブを削除します。

工場出荷時：無効

自動削除するまでの時間

ジョブの停止後からジョブを自動削除する時間を設定します。

工場出荷時：5分

ジョブ完了後のデータを完全に消去する

ジョブが完了したデータを本機のメモリーから完全に消去します。

工場出荷時：無効



外部サイトからのリクエスト受信を拒否する

外部のサイトから本機にリクエスト受信があったときに、その受信を拒否します。

工場出荷時：無効

強制アクセス制御を行う

強制アクセス制御を行うかを設定します。設定されると、本機の内部にあるすべてのファイルに対するアクセスが強制的に制御の対象となります。

工場出荷時：有効

ジョブ状況完了エリア表示設定

ジョブ状況画面の完了画面の表示／非表示を設定します。

工場出荷時：すべて有効



ポート設定

システムで使用する主要な各種ポートについて、使用の禁止/許可とポート番号を設定して、[登録] キーをタップします。

設定できるポートは次のとおりです。

サーバーポート	工場出荷時		クライアントポート	工場出荷時	
	ポート番号	有効/無効		ポート番号	有効/無効
HTTP	80	有効	HTTP		有効
HTTPS	443	有効	HTTPS		有効
FTPプリント	21	有効	FTP		有効
Rawプリント	9100	有効	FTPS		有効
LPD	515	有効	SMTP		有効
IPP	631	有効	SMTP-SSL/TLS		有効
IPP-SSL/TLS	443	無効	POP3		有効
リモートPCスキャン	52000	有効	SNMP-TRAP	162	有効
リモートオペレーション パネル	5900	有効	ジョブ終了通知		有効
SNMPD	161	有効	LDAP		有効
WSD		有効	LDAP-SSL/TLS		有効
			SMB		有効
			mDNS		有効
			syslog	514	有効
			syslog-SSL/TLS	6514	有効

ポート設定 (サーバーポート)

HTTPとHTTPSのサーバーポートを設定します。

この設定は、Webページの「ポート設定」のサーバーポート設定と連動します。

フィルタ設定

ネットワークから本機への不正アクセスを防ぐため、IPアドレスまたはMACアドレスによるフィルタリングが設定できます。

IPアドレスフィルタまたはMACアドレスフィルタを設定して、[登録] キーをタップします。

工場出荷時：無効

IPアドレスフィルタ設定

IPアドレスを設定します。

設定したIPアドレスからの本機へのアクセスを許可する、もしくはアクセス拒否を設定できます。

工場出荷時：許可

MACアドレスフィルタ設定

MACアドレスを設定します。

設定したMACアドレスからの本機へのアクセスを許可します。



フィルタを有効にする

Webページの[システム設定]→[セキュリティ設定]→[フィルタ設定]で設定した内容を有効にします。

工場出荷時：無効



この設定は操作パネルでのみ設定できます。

SSL/TLS設定

ネットワーク上のデータ送受信にSSL/TLS通信を適用します。

SSL/TLSとは、ネットワーク上で情報を暗号化して送受信することができるプロトコルです。データを暗号化し、重要な情報などを安全に送受信します。

以下のそれぞれのプロトコルで設定します。

SSL/TLSの設定

サーバーポート

- HTTPS：HTTPを用いた通信にSSL/TLS暗号化を適用します。

工場出荷時：有効

- IPP-SSL/TLS：IPPを用いた通信にSSL/TLS暗号化を適用します。

工場出荷時：無効

- 本機のWebページへのHTTP接続をHTTPSに転送する：この設定を有効にすると、本機にHTTPで接続しようとする通信をHTTPSの通信へ転送します。

工場出荷時：無効

クライアントポート

- HTTPS：HTTPを用いた通信にSSL/TLS暗号化を適用します。

工場出荷時：有効

- FTPS：FTPを用いた通信にSSL/TLS暗号化を適用します。

工場出荷時：有効

- SMTP-SSL/TLS：SMTPを用いた通信にSSL/TLS暗号化を適用します。

工場出荷時：有効

- LDAP-SSL/TLS：LDAPを用いた通信にSSL/TLS暗号化を適用します。

工場出荷時：有効

- syslog-SSL/TLS：監査ログの送信時にSSL/TLS暗号化を適用します。

工場出荷時：有効

- 通信先のサーバー証明書を検証する：通信先のサーバーの証明書を検証します。

工場出荷時：無効



「通信先のサーバー証明書を検証する」が有効な場合でも、検索先がLDAPサーバー時のみでグローバルアドレス帳検索やマイアドレス検索を行うときは、通信先のサーバー証明書の検証はしません。

- TLS1.2：TLS1.2を使用します。

工場出荷時：有効

- TLS1.3：TLS1.3を使用します。

工場出荷時：有効



機器証明書

証明書の状態

SSL/TLS通信に必要な証明書の状態を表示します。証明書を導入する場合は〔選択〕キーをクリックします。

証明書情報

機器証明書が導入されている場合、〔表示〕キーをクリックすると、証明書情報が表示されます。

機器証明書の選択

〔選択〕キーをクリックすると、既に登録された機器証明書が表示されますので、その中から選択します。



IPsec設定

ネットワーク上のデータ送受信にIPsecを適用します。

IPsecを適用すると、IPのパケットを暗号化するためWebブラウザなどの上位のアプリケーションを意識することなく、データを安全に送受信します。

有効にするときには以下の点にご注意ください。

- 設定が反映されるまでにしばらく時間がかかることがあり、その間は本機へ接続できません。
- 設定モード（Web版）で設定が正しく行われていないと、本機への接続ができず、プリント、スキャン、設定モード（Web版）の表示等ができなくなることがあります。その場合は、本機からこの設定を無効にし、Webページで正しく設定し直します。

基本設定

IPsec設定

IPsecを使用して通信するかを設定します。

工場出荷時：無効

IKEv1設定

事前共有キー

IKEv1で使用される事前共有キーを入力します。

SAライフタイム（時間）

SAライフタイムを設定します。

工場出荷時：28800秒

IKEライフタイム

IKEライフタイムを設定します。

工場出荷時：30秒

IPsecルール

登録されたIPsecのルールが表示されます。

[追加] キーをクリックすることで、新しくルールを登録することができます。

ルールを削除したいときは、削除したいルールを選択し、[削除] キーをクリックします。

IPsecルールの登録

ルール名

IPsecルールの名称を入力します。

優先度

優先度を設定します。

工場出荷時：1

モデルにするルール名

すでにルールが登録されていて、今回作成するルールに近いルールがある場合、そのルールをベースにしてルールを作成することができます。

本機のアドレス

本機で使用するIPアドレスの種類と、ポート番号（IPv6の場合はポート番号/プレフィックス長）を設定します。

クライアントアドレス

送信先のIPアドレスの種類と、ポート番号（IPv6の場合はポート番号/プレフィックス長）を設定します。

プロトコル

使用するプロトコルを設定します。

工場出荷時：TCP



フィルタモード

IPsecで使用するフィルターを設定します。

工場出荷時：IPsec

IPsec認証

IPsecで使用する認証について設定します。

ESP

ESPの認証を使用するときに設定します。

工場出荷時：有効

ESPを使用しない通信を許可する

ESPを使用していない通信を許可するかどうかを設定します。

工場出荷時：有効

AH

AHの認証を使用するときに設定します。

工場出荷時：無効

AHを使用しない通信を許可する

AHを使用していない通信を許可するかどうかを設定します。

工場出荷時：無効



監査ログ

セキュリティ機能、設定に関する各種イベントのログを生成、保存します。

監査ログは英語で生成・記録されます。ただし、ファイル名等外部から入力される設定値については入力されたまま保存します。

ストレージに保存した監査ログは、管理者によるTSVファイル形式でのPCへのエクスポートが可能です。

監査ログの保存は内部ストレージまたは外部サーバーのいずれかを選択できます。



内部に保存した監査ログが満杯になると古いログから上書きされます。

管理設定

監査ログの設定は次の手順で行います。

Webページの[システム設定]→[セキュリティ設定]→[監査ログ]

設定の登録、表示の更新、監査ログの有効・無効を選択します。

工場出荷時：無効

ストレージ/送信設定

監査ログのストレージ/送信設定は次の手順で行います。

Webページの[システム設定]→[セキュリティ設定]→[監査ログ]→[ストレージ/送信設定]

保存と送信の設定を登録します。

工場出荷時：ストレージ保存：有効、サーバー送信：無効、SSL/TLSを有効にする：無効、ポート番号：514、ポート番号（SSL/TLS使用）：6514

監査ログの保存・削除

監査ログの保存・削除は次の手順で行います。

Webページの[システム設定]→[セキュリティ設定]→[監査ログ]→[監査ログの保存/削除]

保存・削除を選択します。



- 監査ログの保存は、Webページからのみ行えます。
- 監査ログが無効の場合、ストレージ保存が無効の場合は表示されません。

監査ログの仕様について

監査ログの保存先が外部サーバーに設定されている場合、外部サーバーへの送信が成功するまでの間、監査ログは内部ストレージ内にあらかじめ確保されているバッファ領域に一時保存されます。

- 外部サーバーへの送信に成功した監査ログは、バッファ領域から消去されます。
- 外部サーバーへの送信に失敗した場合、操作パネルおよびWebページの画面上に警告メッセージが表示され、送信が成功するまで定期的に外部サーバーへの再送信が行われます。

監査ログに保存される監査イベントおよび情報については、次の表に示す通りになります。



ユーザズマニュアルに記載の手順以外の方法や停電などにより本機の電源が切れた場合、[監査の終了] イベントが記録されない場合があります。本機の電源は正しい手順で切るようにしてください。また、停電など不測の事態に対しては、無停電電源装置(UPS)を使用することをお勧めします。



イベント名	日時 ※1	操作 I/F※2	ログイン名	結果 ※3	追加情報
監査の起動 (Audit Start)	○	N/A	N/A	○	起動の理由 通常起動時：主電源ON、電源ボタン押下、再起動、タイマー、FAX、ネットワーク、排紙トレイFAX用紙除去、その他
監査の終了 (Audit End)	○	N/A	N/A	○	N/A
ジョブの終了 (Job Completion)	○	○	ジョブ所有者 (システムの場合はSYSTEM)	○	終了したジョブ名
識別認証の成功 (I&A Success)	○	○	ログイン名として入力された文字列	N/A	ログイン元のIPアドレス 操作パネルの場合は127.0.0.1
識別認証の失敗 (I&A Failure)	○	○	ログイン名として入力された文字列	N/A	ログイン元のIPアドレス 操作パネルの場合は127.0.0.1
ログインセッションの終了 (Login Terminated)	○	○	ログイン名として入力された文字列	N/A	能動的な終了/タイムアウト
ユーザーの追加 (Add User)	○	○	追加を行った利用者	○	追加したログイン名
パスワードの変更 (Change Password)	○	○	変更を行った利用者	○	パスワード変更された利用者のログイン名
ログイン名の変更 (Change Login Name)	○	○	変更を行った利用者	○	変更後のログイン名
ユーザーの削除 (Delete user)	○	○	削除を行った利用者	○	削除したログイン名(全ユーザー削除の場合はALL)
権限グループの追加 (Add Auth Group)	○	○	追加を行った利用者	○	追加した権限グループ名
利用者の所属する権限グループの変更 (Change Role)	○	○	変更を行った利用者	○	<ul style="list-style-type: none"> 所属する権限グループを変更された利用者のログイン名 変更後の権限グループ名
権限グループの設定の変更 (Change Auth Group Setting)	○	○	変更を行った利用者	○	設定変更された権限グループ名
使用枚数制限グループの追加 (Add Page Limit Group)	○	○	追加した利用者	○	追加した使用枚数制限グループ名
使用枚数制限グループの削除 (Delete Page Limit Group)	○	○	削除した利用者	○	削除した使用枚数制限グループ名
使用枚数制限グループの変更 (Change Page Limit Group Setting)	○	○	設定変更した利用者	○	変更した使用枚数制限グループ名
時刻の変更 (Change Time Setting)	○	○	変更を行った利用者	○	N/A



イベント名	日時 ※1	操作 I/F※2	ログイン名	結果 ※3	追加情報
設定値の変更 (Change Setting)	○	○	変更を行った利用者 (AD のポリシー 適用の 場合は “ByPolicy”)	○	<ul style="list-style-type: none"> 設定値が変更された設定項目 変更後の設定値
ファームウェアの復旧 (Firm Recovery)	○	N/A	N/A	○	<ul style="list-style-type: none"> ファームウェア名 復旧後のファームウェアバージョン
プログラム実行拒否 (Exec Rejection)	○	N/A	N/A	○	ファームウェアの識別名
TLS、IPsec 通信の失敗 (Comm Failure) * 通信相手が監査サーバー以外	○	N/A	通信を行っている利用者	N/A	<ul style="list-style-type: none"> 通信開始者のIP アドレス 通信相手のIP アドレス 通信方向 失敗の理由
アドレス帳の更新 (Modify AddrBook)	○	○	更新を行った利用者	○	<ul style="list-style-type: none"> 追加時: 追加されたエントリの内部管理IDおよび宛先名 削除/ 変更時: 削除/変更されたエントリの内部管理ID
ファームウェアアップデート (Firm Update)	○	○	アップデートを行った利用者	○	<ul style="list-style-type: none"> ファームウェア名 アップデート前のファームウェアバージョン アップデート後のファームウェアバージョン
遮断対象から解除 (Release Denied Addr)	○	○	解除を行った利用者	○	解除されたIPアドレス
CSRF の試行 (CSRF Trial)	○	Net	N/A	N/A	攻撃元IP アドレス
外部宛先へのスキャン送信 (Send External Dest)	○	○	送信した利用者	○	送信先E-mailアドレス/IPアドレス/SMB フォルダパス
Web プッシュプリントのファイルダウンロード (Web Push Print)	○	○	機能の利用者	○	ファイルダウンロード元IPアドレス
サービス設定の変更 (Change Service Setting)	○	○	変更した利用者	○	変更された設定項目と変更後の設定値
サービスモードへの遷移 (Enter SIM)	○	○	Service	○	N/A
サービスモードの実行 (Execute SIM)	○	○	Service	○	変更後の設定値

※1 イベント発生日時が ISO 8601 の拡張形式で表記されます。

※2 操作インターフェースとして、Ope/Web/Net のいずれかが表記されます。ただし、表中で “N/A” となっているものは、“N/A” と表記されます。

※3 イベント実施結果として、Success/Failure のいずれかが表記されます。



証明書の管理

機器証明書の管理

インポート

機器証明書/秘密鍵をインポートします。

エクスポート

機器証明書/秘密鍵をエクスポートします。

証明書情報

証明書の状態を表示します。

証明書/秘密鍵の作成

共通名称(必須)

使用する名称を入力します。

組織名称

所属する組織名称を入力します。

部門名称

所属する部門名称を入力します。

市区町村名称

市区町村を入力します。

都道府県名称

都道府県名称を入力します。

国コード(必須)

国のコードを入力します。

証明書開始日

証明書を開始日時を入力します。

証明書有効期限

証明書の有効期限を入力します。

証明書情報

証明書の情報を入力します。



証明書署名要求(CSR)の管理

証明書のインストール

証明書をインポートします。

証明書情報

証明書の状態を表示します。

証明書署名要求(CSR)の作成

共通名称(必須)

使用する名称を入力します。

組織名称

所属する組織名称を入力します。

部門名称

所属する部門名称を入力します。

市区町村名称

市区町村を入力します。

都道府県名称

都道府県名称を入力します。

国コード(必須)

国のコードを入力します。

証明書の鍵長

使用する鍵長のビット数を選択します。

証明書開始日

証明書を開始日時を入力します。

証明書有効期限

証明書の有効期限を入力します。

証明書情報

証明書の情報を入力します。

認証局証明書の管理

インポート

証明書をインポートします。

証明書情報

証明書の状態を表示します。



個人情報と本機内データの初期化

[OK]キーを押すと、以下の個人情報と本機内データの初期化を行います。

- アドレス帳及び関連する個人情報の全データ
- ユーザー情報の全データ
- 本機内の全ジョブデータ
- ログ情報
- 内部処理用データ及び領域
- その他、ユーザーが登録/保存した本機内のデータ



この設定は操作パネルでのみ設定できます。



省エネルギー設定



オートパワーシャットオフ設定、予熱モードの設定を除いた項目は、Webページでのみ設定できます。
操作パネルでのセキュリティ設定の項目については、「[操作パネルの設定モードリスト \(8-8ページ\)](#)」を参照してください。

Eco設定

電力消費を抑えるEco機能を設定します。各機能の設定はそれぞれ設定変更ができますが、一括で設定変更ができる「カスタムモード」と「Ecoモード」を用意しています。

予熱モードの設定

予熱モードがはたらくまでの時間を1分単位で1～60分の範囲で設定します。
プリント終了後、放置された状態で設定した時間が経過すると予熱モードに入ります。この機能によりお客様の電力消費コストを節減するとともに、ひいてはそれが、天然資源のむだづかいや環境汚染を減らすことにつながります。
お客様の使用状況に応じて、最も適切と思われる時間に設定されることをお勧めします。
必要に応じて予熱モード設定時のパネル表示をOFFにします。

工場出荷時：1分



- 予熱モードの禁止はできません。
- この設定は、操作パネルの省エネルギー設定にもあります。

オートパワーシャットオフ設定

オートパワーシャットオフに以降する時間を設定します。リモートジョブと、それ以外のジョブのそれぞれで設定します。

工場出荷時：リモートジョブ：最短、その他のジョブ：11分



この設定は、操作パネルの省エネルギー設定にもあります。

スリープモード設定

省電力優先：省電力となりますが、復帰には多少時間がかかります。
復帰時間優先：省電力優先と比べますと、電力値は多少上がりますが、復帰時間が早くなります。

工場出荷時：省電力優先

Ecoスキャン設定

Ecoスキャン設定は、イメージ送信などのプリントしない場合に定着部をOFFにしたまま実行します。

工場出荷時：有効（ジョブ優先）



システム管理



設定の初期化、ファームウェアアップデート設定を除いた項目は、Webページでのみ設定できます。
操作パネルでのセキュリティ設定の項目については、「[操作パネルの設定モードリスト \(8-8ページ\)](#)」を参照してください。

ストレージバックアップ

本機で登録したアドレス帳やユーザー情報などのデータの書き出し/取り込みをします。
お使いのコンピューターでファイル进行操作します。

エクスポート設定

データを書き出します。

工場出荷時：すべて無効

インポート設定

「エクスポート」で書き出したデータを、本機に取り込みます。

デバイスクローニング

本機の各種設定情報をXML形式で保存して、他の複合機にコピーします。
この機能を使用すると、複数の複合機ごとに繰り返し同じ設定をする手間が省けます。
お使いのコンピューターでファイル进行操作します。

エクスポート設定

データを書き出します。

工場出荷時：すべて無効

インポート設定

「エクスポート」で書き出したデータを、複合機に取り込みます。



- インポートできる機種については、お買いあげの販売店にご相談ください。
- 以下の内容は、デバイスクローニングでコピーしません。
 - リスト印字やファクスのデータ転送等の実行系項目
 - カウンタ表示、デバイス状態表示等の表示系項目
 - 本機のIPアドレス、デバイス名、管理者パスワード、イメージ送信の発信元など、固有の情報
 - 画面コントラストなど、各ハード固有の調整値



設定の初期化



この設定は操作パネルでのみ設定できます。

NICリセット

「ネットワーク設定」のすべての設定項目を工場出荷時の状態に戻します。



E-mailアラート/ステータス

E-mailステータス

標準E-mailステータス機能、または拡張E-mailステータス機能に関する設定をします。
E-mailステータスを利用すると、登録したアドレスに本機の状態が定期的に送信します。

標準

E-mailステータスアドレスリスト1、E-mailステータスアドレスリスト2、E-mailステータスディーラーアドレスリストをそれぞれ設定します。

項目	説明
E-mailアドレス	ステータス情報を送信するE-mailアドレスを入力します。複数のアドレスを入力する場合、区切り記号として"; (セミコロン) ", "(コンマ)"を必ず入力します。
今すぐ送信	タップすると、E-mailアドレスリストに入力されている宛先にステータスメッセージが送信します。
スケジュール1の日程で定期的に送信する	<input checked="" type="checkbox"/> にすると、設定した日程で定期的にE-mailを送信します。
スケジュール2の日程で定期的に送信する	<input checked="" type="checkbox"/> にすると、設定した日程で定期的にE-mailを送信します。
スケジュール設定	E-mailを送信するスケジュール単位を選択します。

拡張

双方向ステータスメッセージ設定

項目	説明
双方向ステータスメッセージ	双方向ステータスメッセージを有効にするか否かを選択します。
POP3サーバー	POP3サーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
ポート番号	POP3のポート番号を入力します。 工場出荷時：110
認証方式	POPの認証方法を設定します。 Microsoft365、Exchange Onlineなどを使用する場合は、「OAuth2.0」を選択します。 OAuth2.0を選択した場合の設定方法については、「 OAuth2.0認証について (7-17ページ) 」を参照してください。 工場出荷時：プレーンテキスト認証
プロバイダー	認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。 プロバイダーを選択します。 工場出荷時：Microsoft
アカウント名	認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。 アカウント名を入力します
トークン	認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。 現在のトークンの状態を表示します。
取得/削除	認証方式を取得していない状態のときは「取得」キー、トークンを取得しているときは「削除」キーが表示されます。
ユーザー名	認証方式で「OAuth2.0」以外を選択したときに設定できます。 ユーザー名を入力します。双方向E-mailステータスには、専用のユーザーアカウントが必要です。
パスワード	認証方式で「OAuth2.0」以外を選択したときに設定できます。 パスワードを入力します。 パスワードを変更する場合は、「パスワードを変更する」を <input checked="" type="checkbox"/> にしてください。



項目	説明
ポーリング間隔	POP3サーバーのポーリング間隔を入力します。 工場出荷時：5分
接続テスト	[実行] ボタンをタップすると、POP3サーバーへの接続をテストします。

E-mailアラート

E-mailアラート機能に関する設定をします。

E-mailアラートとは、本機のトラブルを管理者やお買いあげの販売店にメールで通知する機能です。

E-mailアラートアドレスリスト1、E-mailアラートアドレスリスト2、E-mailアラートディーラーアドレスリストをそれぞれ設定します。

E-mailアドレス

アラートメッセージを送信するE-mailアドレスを入力します。アドレスをセミコロン、コンマで区切り、複数のアドレスを入力します。

例：aaa@xxxx.□□□,bbb@xxxx.□□□

以下の内容からアラート送信する状態を選択します。それぞれのアドレスリストに対してアラート送信する状態を個別に設定することができます。本機がアラートの対象となる状態になると、設定したアドレスにメールが送信されます。紙づまり、トナー少量、トナー切れ、用紙切れ、サービスリクエスト、PMリクエスト、廃トナーほぼ満杯、廃トナー満杯、セキュリティアラート

工場出荷時：セキュリティアラートを除きすべて有効

SMTP設定

【ネットワーク設定】のSMTPサーバーを使用する

E-mailステータスやE-mailアラートで使用するSMTPサーバーの設定をネットワーク設定の[SMTP \(8-83ページ\)](#)と同じ設定にします。

SMTP設定

「[ネットワーク設定]のSMTPサーバーを使用する」を使用しないときに設定します。

プライマリーサーバー

プライマリー SMTPサーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

セカンダリーサーバー

認証方式で「OAuth2.0」以外を選択したときに設定できます。

セカンダリー SMTPサーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

ポート番号

ポート番号を入力します。

工場出荷時：25

タイムアウト

タイムアウト時間を入力します。ここで設定された値は、E-mailシステムの規格仕様に従い、SMTPサーバーに接続するとき、また、データを送信する過程などで使用します。

工場出荷時：20秒

送信者名

送信者名を入力します。

送信者アドレス

送信者のアドレスを入力します。



SSL/TLSを有効にする

にすると、STARTTLSコマンドにより、SMTP over TLSとして暗号化通信をします。

そのため、サーバーは STARTTLS コマンドに対応している必要があります。

SSL/TLS通信を行う場合、「ポート番号」に通常のSMTPと同じポート番号を設定します。

SMTP over TLSとして暗号化通信を行う場合は、「ポート番号」に465を設定します。

STARTTLSとして暗号化通信を行う場合は、「ポート番号」に通常のSMTPと同じ、もしくは465以外のポート番号を設定します。

工場出荷時：無効

認証方式

SMTPの認証方法を設定します。

Microsoft365、Exchange Onlineなどを使用する場合は、「OAuth2.0」を選択します。

OAuth2.0を選択した場合の設定方法については、「[OAuth2.0認証について \(7-17ページ\)](#)」を参照してください。

工場出荷時：認証なし

プロバイダー

認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。

プロバイダーを選択します。

工場出荷時：Microsoft

アカウント名

認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。

アカウント名を入力します。

トークン

認証方式で「OAuth2.0」を選択したときに設定できます。

現在のトークンの状態を表示します。

取得/削除

トークンを取得していない状態のときは「取得」キー、トークンを取得しているときは「削除」キーが表示されます。

ユーザー名

認証方式で「SMTP認証」を選択したときに設定できます。

ユーザー名を入力します。

パスワード

認証方式で「SMTP認証」を選択したときに設定できます。

パスワードを入力します。

パスワードを変更する場合は、「パスワードを変更する」をにします。

POP before SMTP

認証方式で「OAuth2.0」以外を選択したときに設定できます。

にすると、SMTPの使用の前にPOPサーバーとの認証をします。

• POP3サーバー：POP before SMTPで用いるPOP3サーバーのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

工場出荷時：無効

• ポート番号：POP before SMTPで用いるPOP3のポート番号を入力します。

工場出荷時：110

• POP認証：にすると、POP3サーバーの認証に認証プロトコル（APOP含む）を使用します。

工場出荷時：無効

• ユーザー名：POP before SMTPで用いるユーザー名を入力します。

• パスワード：POP before SMTPで用いるパスワードを入力します。パスワードを変更する場合は、「パスワードを変更する」をにします。

工場出荷時：無効

接続テスト

[実行] キーをタップすると、SMTPサーバーへの接続をテストします。



ファームウェアアップデート設定

USBメモリーを使用せずに、LAN経由で本機のファームウェアのアップデートが行えます。

ファームウェアアップデート

ファームウェアアップデートを有効にするかを設定します。自動モードに設定すると、設定した時刻にファームウェアをアップデートします。管理者確認モードに設定すると、本機の管理者がファームウェアを手動でアップデートします。

自動モードの受付時刻

ファームウェアアップデートで自動モードを選択したときに、ファームウェアをアップデートする時刻を設定します。



- この設定を有効にする前に、ファームウェアアップデートサービス利用規約をご確認ください。
- この設定を [自動モード] または [管理者確認モード] にした場合は、ファームウェアアップデートサービス利用規約が表示されます。
ファームウェアアップデートを使用する場合は、「同意する」にチェックマークを入れて、[OK] キーをタップしてください。(Web ページの場合は、「利用規約に同意する」にチェックマークを入れて、[登録] キーをタップしてください。)
- ファームウェアのアップデート中は本機の電源を切らないでください。
- この設定は、操作パネルのシステム管理にもあります。



画質調整



この設定は操作パネルでのみ設定できます。

定着クリーニング

印字された出力紙上に黒点や汚れが出た時には、この機能を使って定着のクリーニングをしてください。この機能が実行されると、黄色の印刷された用紙が出力され、定着部のクリーニングが行われます。



この機能を一度使用しても改善が確認できない場合は、再度機能を実行してみてください。

レジスト調整

カラープリントしたときに印刷面の色がずれる場合、各色の印字位置を調整して、色ズレを低減します。
[実行] キーをタップします。

オートキャリブレーション

色階調がずれた場合、色階調を補正します。
プリントしたテストパターンを原稿として読み込ませることで、自動的に階調のずれを補正します。
[実行] キーをタップしてテストパターンをプリントしたあと、自動調整の開始を求めるメッセージを表示します。
メッセージに従って、カラー調整を行ってください。



- オートキャリブレーションしても、色階調のずれが残る場合は、もう一度実行すると改善することがあります。
- オートキャリブレーションする前に、レジスト調整が合っているか確認します。
レジスト調整が合っていない場合は、「レジスト調整」をします。

黒筋検知の警告メッセージを表示する

原稿送り装置が黒筋汚れを検知したときに警告メッセージを表示させる場合に設定します。
メッセージの内容にしたがって該当部分を清掃することにより、黒筋汚れを減らすことができます。

工場出荷時：有効



初期設置設定

本機を設置するときに最初に設定する項目をまとめています。初期設置設定の各項目については同名の他の項目と同一です。内容については、他の項目を参照してください。



この設定はWebページでのみ設定できます。

項目	説明ページ
基本設定	
名称	システム設定→共通設定→ マシン情報の設定 (8-66ページ)
マシンコード	
設置場所	
日付/時刻設定	システム設定→共通設定→ 日付/時刻設定 (8-66ページ)
サマータイム設定	
予熱モードの設定	システム設定→省エネルギー設定→ Eco設定 (8-109ページ)
オートパワーシャットオフ	
スリープモード設定	
ネットワーク簡易設定	システム設定→ネットワーク設定→ 簡易設定 (8-76ページ)
給紙トレイ設定	システム設定→共通設定→用紙設定→ 給紙トレイ設定 (8-61ページ)
プロダクトキー入力	システム設定→共通設定→ プロダクトキー入力 (8-69ページ)

システム設定以外の操作パネルからの設定モード

操作パネルから設定できるシステム設定以外の設定モードについて説明します。

明度調整

タッチパネルの明るさを調整します。

総使用枚数表示

本機で使用した総使用枚数と白黒とフルカラーで使用した内訳が表示されます。また、各色のトナー残量が表示されます。

言語設定

タッチパネルで表示される言語を切り替えます。



こまったときは

Q&A

共通の問題.....	9-2
チェックリスト.....	9-2
コピーの問題.....	9-13
チェックリスト.....	9-13
プリンターの問題.....	9-16
チェックリスト.....	9-16
ファックスの問題.....	9-25
チェックリスト.....	9-25
イメージ送信の問題.....	9-33
チェックリスト.....	9-33

紙づまり

紙づまりの対応.....	9-39
--------------	------



Q&A

共通の問題

チェックリスト

管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？

設定モードで、機能を使用できないように設定している場合があります。ユーザー認証設定時、ログインしているユーザーの設定によっては、使用できる機能が制限されていることがあります。管理者にご確認ください。

❓ 問題	✔ チェック	ページ
特定の機能や周辺装置が使用できない	管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？	9-4
総使用枚数の確認方法が分からない	[ホーム画面]キーを長押ししてください。 設定モードのステータスで確認することができます。	9-4
操作ができない	主電源ランプは点灯していますか？ 電源を入れた直後ではありませんか？ 主電源ランプが青色に点滅していませんか？ 各カバーや装置類が開いたり、離れたりしていませんか？ ログインを3回連続して失敗しませんでしたか？ タッチパネルに「エラーです。コード:xx-xx※ 電源を入れ直してください。」というメッセージを表示していませんか？	9-4
プリントできない、またはプリントが途中で止まる	用紙切れを起こしていませんか？ トナー切れを起こしていませんか？ 紙づまりを起こしていませんか？ 排紙トレイに用紙が満杯になっていませんか？ トナー回収容器が満杯になっていませんか？ ファクスで使用する給紙トレイが制限されていませんか？	9-5
カラープリントを禁止する方法が分からない	ユーザー管理でカラーの使用を禁止することができます。 プリンターの場合は、プリンタードライバーの設定を白黒優先にすることができます。	9-5
手差しの用紙サイズ表示が違う	手差しガイドがセットした用紙の幅に合っていますか？	9-5
原稿がつまる(原稿自動送り装置)	原稿セット台にセットした原稿枚数が上限を超えていませんか？ 長尺の原稿を使用していませんか？ 原稿に厚紙を使用していませんか？ 原稿給紙ローラーが汚れていませんか？	9-6
原稿が複数枚同時に給紙され正しく読み込めない(原稿自動送り装置)	原稿が反ったり、折れたりしていませんか？ 糊がついた用紙を使用していませんか？	9-6
排出された原稿がきれいにそろわない(原稿自動送り装置)	原稿が正しくセットされていますか？	9-6



？問題	✓チェック	ページ
用紙がつまる	内部に用紙の破片が残っていませんか？	9-7
	トレイにセットした用紙枚数が上限を超えていませんか？	9-7
	用紙を何枚か重ねて給紙していませんか？	9-7
	規定外の用紙を使用していませんか？	9-7
	給紙トレイ内の用紙が吸湿していませんか？	9-7
	手差しトレイのガイドが用紙の幅と合っていますか？	9-7
	手差し給紙ローラーが汚れていませんか？	9-7
	用紙サイズを設定していますか？	9-7
	トレイに用紙をつぎたしましたか？	9-7
	パンチ済み紙を使用していますか？	9-7
	使用できないラベル用紙を使用していませんか？	9-7
	用紙を一度取り出し、裏返してからセットし直してください。用紙の種類によっては改善される場合があります。	9-7
	封筒をセットしていませんか？	9-7
給紙トレイから用紙が給紙されない	給紙トレイに用紙を正しくセットしていますか？	9-8
	ファクスで使用する給紙トレイを制限していませんか？	9-8
用紙サイズの変更方法が分からない	給紙トレイ設定で各トレイの用紙サイズを設定してください。	9-8
排出された用紙のカールが大きく、不揃いになる	用紙を一度取り出し、裏返してからセットし直してください。用紙の種類によっては改善される場合があります。	9-8
	用紙に対して斜めにプリント/スキャンされる	手差しトレイにセットした用紙枚数が上限を超えていませんか？ 手差しトレイのガイドが用紙の幅と合っていますか？
画像にすじ状の汚れが写る	原稿ガイドが原稿の幅と合っていますか？	9-8
	原稿台(ガラス面)、原稿自動送り装置の原稿読み取り部が汚れていませんか？	9-9
	手差し給紙ローラーが汚れていませんか？ 書き込みユニットを清掃しましたか？	9-9 9-9
プリントした用紙が汚れる	規定外の用紙を使用していませんか？	9-9
	パンチ紙を使用してプリントしていませんか？	9-9
	メンテナンス(保守点検)の実施時期であることをお知らせするメッセージを表示していませんか？	9-9
	用紙を一度取り出し、裏返してからセットし直してください。用紙の種類によっては改善される場合があります。	9-9
	用紙の種類が正しく設定されていますか？	9-9
厚紙をプリントすると2枚目からプリント結果が汚れてしまう		
画像が欠ける	原稿サイズを設定してください。	9-10
	原稿のセット位置をまちがえていませんか？	9-10
用紙のプリントしたい面の裏側にプリントされる	トレイにセットした用紙の向き(表・裏)は合っていますか？	9-10
接続したUSB機器が使用できない	お使いのUSB機器は本機に対応していますか？	9-10
	接続されたUSB機器は正しく認識されていますか？	9-10
タッチパネルの画面が見にくい	画面の見やすさを調整していますか？	9-10
何もしていないのに、勝手にログアウトしてしまう	オートクリアモードがはたらいていませんか？	9-11
IPアドレスの設定が分からない	設定モードのネットワーク設定でIPアドレスを設定します。	9-11
ホーム画面にショートカットを追加/削除する方法が分からない	Webページでショートカットを変更することができます。	9-11
省エネモードの移行時間の調整方法が分からない	設定モードの省エネルギー設定で省エネモードの移行時間を設定します。	9-11
管理者パスワードを忘れてしまった	工場出荷時の管理者パスワードを変更しましたか？	9-12
保守サービスの連絡先が分からない	お客様ご相談窓口の内容を確認してください。	9-12
「マシン内部を冷却しています。しばらくお待ちください。」のメッセージが表示される	障害物で本機の排気口をふさいでいたり、室内の温度が高温になっていませんか？	9-12



特定の機能や周辺装置が使用できない

✓ チェック

管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？

! 解決法

■ 管理者に問い合わせてください。
設定モードで、機能を使用できないように設定している場合があります。ユーザー認証設定時、ログインしているユーザーの設定によっては、使用できる機能が制限されていることがあります。

総使用枚数の確認方法が分からない

✓ チェック

[ホーム画面]キーを長押ししてください。

! 解決法

■ [ホーム画面]キーを長押しすると、総使用枚数やトナー残量の確認メッセージが表示されます。

設定モードのステータスで確認することができます。

■ 設定モードの[ステータス]に[総使用枚数の表示]の項目があります。この項目から総使用枚数を確認することができます。

操作ができない

✓ チェック

主電源ランプは点灯していますか？

! 解決法

■ 点灯していない場合は、電源を入れてください。
電源プラグが確実に差し込まれていることを確認してください。

電源を入れた直後ではありませんか？

■ [電源]ボタンを“入”にすると、しばらくの間ウォームアップします。ウォームアップ動作中は各機能の設定はできませんが、ジョブの実行はできません。

主電源ランプが青色に点滅していませんか？

■ オートパワーシャットオフモードになっています。[電源]ボタンを押すとオートパワーシャットオフモードを解除します。詳しくは「[電源の入れかた \(1-7ページ\)](#)」を参照してください。

各カバーや装置類が開いたり、離れたりしていませんか？

■ メッセージをよく読んで対処してください。
各カバーが確実に閉められていないときや装置類が離れていると、警告メッセージを表示します。

ログインを3回連続して失敗しましたか？

■ 復帰後、正しいユーザー情報でログインしてください。
設定モードで[ログイン失敗時の警告]が設定されていると、3回連続してログインを失敗したときに警告が表示され、ユーザー認証の操作を5分間禁止します。(ユーザー情報が不明なときは、管理者に連絡してください。)
⇒ Web ページ → [システム設定] → [認証設定] → [初期設定] → [ログイン失敗時の警告]

タッチパネルに「エラーです。コード:xx-xx※ 電源を入れ直してください。」というメッセージを表示していませんか？
※ xx-xx はアルファベットと数字を表示します。

■ 電源を入れ直してください。
■ 固定領域エリアなどを確認し、実行中のジョブがないことを確認し、[電源]ボタンを押してください。そして10秒以上経ってから電源を入れてください。
■ 何度か[電源]ボタンを入れ直しても同じメッセージを表示するときは、故障の可能性がありますので、この場合は、すみやかに使用をやめて電源プラグを抜き、お買いあげの販売店、またはシャープお客様ご相談窓口にご連絡してください。(ご連絡時は、表示されているエラーコード番号も一緒にご連絡ください。)



プリントできない、またはプリントが途中で止まる

✓ チェック

用紙切れを起こしていませんか？

トナー切れを起こしていませんか？

紙づまりを起こしていませんか？

排紙トレイに用紙が満杯になっていませんか？

トナー回収容器が満杯になっていませんか？

ファクスで使用する給紙トレイが制限されていませんか？

! 解決法

■ タッチパネルに表示されるメッセージに従い、用紙を補給してください。

■ トナーカートリッジを交換してください。[トナーカートリッジの交換 \(1-32ページ\)](#)

■ タッチパネルに表示されるメッセージに従い、つまった紙を取り除いてください。

■ 排紙トレイの出力枚数が上限に達しました。トレイから用紙を取り出し、[印刷再開]キーをタップして印刷を再開してください。

■ タッチパネルに表示されるメッセージに従い、トナー回収容器を交換してください。

■ [給紙トレイ設定]でチェックボックス([給紙許可ジョブ])にチェックマークが付いているか確認してください。
チェックマークが付いていない機能は、そのトレイでプリントできません。
⇒ Webページ→[システム設定] → [共通設定] → [用紙設定] → [給紙トレイ設定] → [給紙許可ジョブ (ファクス)]

カラープリントを禁止する方法が分からない

✓ チェック

ユーザー管理でカラーの使用を禁止することができます。

プリンターの場合は、プリンタードライバーの設定を白黒優先にすることができます。

! 解決法

■ ユーザー認証を使用する場合は、カラーのプリントを禁止したいユーザーに対しては、カラーの使用禁止を設定することができます。
⇒ Webページ→ [ユーザー管理] → [ユーザー設定] → [ユーザーリスト]、
Webページ→ [ユーザー管理] → [アクセス制御設定] → [マシン使用枚数制限設定]

■ カラープリントの枚数を抑える方法として、カラーモードを白黒優先にすることができます。
⇒ プリンタードライバーの[メイン]タブで[グレースケール]を選択してください。

手差しの用紙サイズ表示が違う

✓ チェック

手差しガイドがセットした用紙の幅に合っていますか？

! 解決法

■ ホーム画面等で給紙トレイ設定を行い、手差トレイの用紙サイズ設定で補給した用紙サイズに変更ください。



原稿がつまる(原稿自動送り装置)

✓ チェック

原稿セット台にセットした原稿枚数が上限を超えていませんか？

長尺の原稿を使用していませんか？

原稿に薄紙を使用していませんか？

原稿に厚紙を使用していませんか？

原稿給紙ローラーが汚れていませんか？

! 解決法

■ 指示線以内に収まるように原稿をセットし直してください。
[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

■ 原稿自動送り装置を使用して長尺原稿を読み込む場合は、原稿の読み込みサイズを[長尺]に設定してください。
(ただし、コピー機能では長尺原稿は使用できません。)

■ 原稿を原稿台(ガラス面)にセットして読み込んでください。

■ 原稿を原稿台(ガラス面)にセットして読み込んでください。

■ 原稿給紙ローラーの表面を清掃してください。
[原稿給紙ローラーの清掃 \(1-31ページ\)](#)

原稿が複数枚同時に給紙され正しく読み込めない(原稿自動送り装置)

✓ チェック

原稿が反ったり、折れたりしていませんか？

糊がついた用紙を使用していませんか？

! 解決法

■ 原稿の反りや折れを直してください。
よくさばいてからセットしてください。
原稿の状態や紙の種類、使用時の温度、湿度環境によっては、用紙が重なり複数枚同時に給紙され正しく読み込めない場合があります。下記の設定により改善される場合があります。

・ コピーの場合：読込解像度600x600dpiに設定
⇒ [原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

排出された原稿がきれいにそろわない(原稿自動送り装置)

✓ チェック

原稿が正しくセットされていますか？
原稿の状態や紙の種類、使用時の温度、湿度環境によっては 排出された原稿がきれいにそろわない場合があります。

! 解決法

■ 原稿の端を揃え、原稿サイズを合わせてセットしてください。
原稿の状態や紙の種類、使用時の温度、湿度環境によっては排出された原稿がきれいにそろわない場合があります。下記の設定により改善される場合があります。

・ コピーの場合：読込解像度600x600dpiに設定
⇒ [原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)



用紙がつまる

✓ チェック

内部に用紙の破片が残っていませんか？

トレイにセットした用紙枚数が上限を超えていませんか？

用紙を何枚か重ねて給紙していませんか？

規定外の用紙を使用していませんか？

給紙トレイ内の用紙が吸湿していませんか？

手差しトレイのガイドが用紙の幅と合っていますか？

手差し給紙ローラーが汚れていませんか？

用紙サイズを設定していますか？

トレイに用紙をつぎたしましたか？

パンチ済み紙を使用していますか？

使用できないラベル用紙を使用していませんか？

用紙を一度取り出し、裏返してからセットし直してください。用紙の種類によっては改善される場合があります。

封筒をセットしていませんか？

! 解決法

■ タッチパネルの指示にしたがい残っている用紙を完全に取り除いてください。

■ 上限枚数以内で指示線を超えないように用紙をセットし直してください。
[用紙補給する前に \(1-8ページ\)](#)、[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

■ 用紙をよくさばいてからセットしてください。

■ シャープ推奨紙をお使いください。
対応していない用紙を使用すると、紙づまりや用紙のシワ寄り、プリント汚れなどの原因となります。
⇒ スタートガイドの「消耗品の種類と保管方法」
■ 使用が禁止または推奨されていない用紙については、「[用紙補給について \(1-8ページ\)](#)」を参照してください。

■ 用紙を長期間使用しないときは、トレイから用紙を取り出し、吸湿しないように袋に入れて冷暗所に保管してください。

■ 手差しトレイのガイドをプリントする用紙の幅に合わせて軽く当てるようにしてください。
[手差しトレイへの用紙補給 \(1-16ページ\)](#)

■ 手差し給紙ローラーの表面を清掃してください。
[手差し給紙ローラーの清掃 \(1-31ページ\)](#)

■ 不定形サイズの用紙をセットするときは必ず用紙サイズを設定してください。
また、トレイの用紙サイズを変更した場合は、必ず用紙サイズの設定も確認してください。
⇒ 操作パネル→[給紙トレイ設定]

■ 用紙をつぎたすときは、用紙圧板をロックするまで押し下げて、手差しトレイ上の用紙をいったん取り出し、つぎたす用紙と一緒にそろえてからもう一度セットしてください。
そのままつぎたすと、紙づまりの原因となります。
手差しトレイ以外のトレイでは用紙のつぎたしはできません。

■ パンチ紙を使用するときは、用紙タイプをパンチ済み用紙に設定してください。
⇒ 操作パネル→[給紙トレイ設定]

■ 糊控え、ラベル控えのないラベル紙では、搬送面に糊が付着して紙づまりの原因となります。

■ 用紙カールの状態によっては改善される場合があります。
[用紙補給する前に \(1-8ページ\)](#)、[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

■ 封筒をセットするとき、指示線を超えてセットしないでください。
■ 用紙タイプは「封筒」にし、用紙サイズは、セットした用紙サイズを指定してください。



給紙トレイから用紙が給紙されない

✓ チェック

給紙トレイに用紙を正しくセットしていますか？

ファクスで使用する給紙トレイを制限していませんか？

! 解決法

■ セットする用紙のサイズにガイドを合わせてください。
また、上限枚数以内で指示線を超えないように用紙をセットしてください。
[用紙補給について \(1-8ページ\)](#)

■ [給紙トレイ設定]で各モードのチェックボックス([給紙許可ジョブ])にチェックマークが付いているか確認してください。
チェックマークが付いていない機能は、そのトレイでプリントできません。
⇒ Webページ → [システム設定] → [共通設定] → [用紙設定] → [給紙トレイ設定] → [給紙許可ジョブ (ファクス)]

用紙サイズの変更方法が分からない

✓ チェック

給紙トレイ設定で各トレイの用紙サイズを設定してください。

! 解決法

■ ホーム画面に「給紙トレイ設定」キーがあります。このキーをタップすると、給紙トレイ設定画面が表示されます。用紙サイズを変更したいトレイをタップし、用紙タイプを選択した後、[サイズ]タブをタップしてください。用紙サイズを選択し、[OK]キーをタップしてください。
手差しトレイで特殊なサイズの用紙をセットした場合は、[サイズ]タブをタップしたあと、[直接入力]キーをタップし、用紙サイズを手動で入力し、[OK]キーをタップしてください。

排出された用紙のカールが大きく、不揃いになる

✓ チェック

用紙を一度取り出し、裏返してからセットし直してください。用紙の種類によっては改善される場合があります。

! 解決法

■ 用紙カールの状態によっては改善される場合があります。
[用紙補給する前に \(1-8ページ\)](#)、[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

用紙に対して斜めにプリント/スキャンされる

✓ チェック

手差しトレイにセットした用紙枚数が上限を超えていませんか？

手差しトレイのガイドが用紙の幅と合っていますか？

原稿ガイドが原稿の幅と合っていますか？

! 解決法

■ 上限枚数以内で指示線を超えないように用紙をセットしてください。上限枚数は用紙タイプによって異なります。

■ 手差しトレイのガイドをプリントする用紙の幅に軽く当てるように合わせてください。

■ 原稿ガイドを原稿の幅に合わせてください。



画像にすじ状の汚れが写る

✓ チェック

原稿台(ガラス面)、原稿自動送り装置の原稿読み取り部が汚れていませんか？

手差し給紙ローラーが汚れていませんか？

書き込みユニットを清掃しましたか？

! 解決法

■ 原稿台(ガラス面)、原稿自動送り装置の原稿読み取り部を清掃してください。
[日常のお手入れ \(1-25ページ\)](#)

■ 手差し給紙ローラーの表面を清掃してください。
[手差し給紙ローラーの清掃 \(1-31ページ\)](#)

■ 書き込みユニットを清掃してください。清掃方法の詳細は、ユーザーズマニュアルを参照してください。

プリントした用紙が汚れる

✓ チェック

規定外の用紙を使用していませんか？

パンチ紙を使用してプリントしていませんか？

メンテナンス(保守点検)の実施時期であることをお知らせするメッセージを表示していませんか？

用紙を一度取り出し、裏返してからセットし直してください。用紙の種類によっては改善される場合があります。

! 解決法

■ シャープ推奨紙をお使いください。
対応していない用紙を使用すると、紙づまりや用紙のシワ寄り、プリント汚れなどの原因となります。
⇒ スタートガイドの「消耗品の種類と保管方法」

■ 用紙タイプを厚めまたは薄めの設定に切り替えてプリントしてください。(普通紙の場合、普通紙1を普通紙2に、または普通紙2を普通紙1に切り替える。)用紙タイプによっては改善される場合があります。詳しくは、お買いあげの販売店またはシャープお客様ご相談窓口へお問い合わせください。

■ パンチ紙の穴のあいている位置に原稿の画像が重ならないようにしてください。パンチ紙の穴のあいている位置に原稿の画像が重なると、片面プリントの場合は、出力紙の裏面に、両面プリントの場合は、出力紙の表面と裏面に、汚れが写る場合があります。

■ すみやかに買いあげの販売店、またはシャープお客様ご相談窓口に連絡してください。

■ 用紙カールの状態によっては改善される場合があります。
[用紙補給する前に \(1-8ページ\)](#)、[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

厚紙をプリントすると2枚目からプリント結果が汚れてしまう

✓ チェック

用紙の種類が正しく設定されていますか？

! 解決法

■ 使用する用紙に合わせてトレイ設定を行ってください。
特に以下のような場合には注意が必要です。
・厚紙を使用しているときは、トレイ設定の用紙種類で厚紙を選択してください。(こすると画像が消えることがあります。)
・厚紙以外の用紙を使用しているときに、トレイ設定で厚紙を選択している。(用紙のシワ寄りや紙づまりの原因となります。)
⇒ 操作パネル→[給紙トレイ設定]



画像が欠ける

✓ チェック

原稿サイズを設定してください。

原稿のセット位置をまちがえていませんか？

! 解決法

■ 原稿サイズを設定してください。

■ 原稿を原稿台(ガラス面)にセットするときは、ガラス面の左奥を基準にセットしてください。

[用紙補給する前に \(1-8ページ\)](#)、[原稿自動送り装置 \(1-21ページ\)](#)

用紙のプリントしたい面の裏側にプリントされる

✓ チェック

トレイにセットした用紙の向き(表・裏)は合っていますか？

! 解決法

■ 用紙の向きを確認してください。

・トレイ1からトレイ2、手差しトレイ：

プリントする面を上向き※にセットしてください。

※用紙タイプが「印刷済み用紙」または「レターヘッド紙」の場合は、プリントする面を逆にセットしてください。(ただし、設定モードで[両面機能の使用禁止]が設定されている場合を除きます。設定の状態については、管理者に問い合わせてください。)

接続したUSB機器が使用できない

✓ チェック

お使いのUSB機器は本機に対応していますか？

! 解決法

■ USBメモリーのフォーマットを確認してください。

USBメモリーのフォーマットがFAT32形式、NTFS形式、またはexFAT形式以外になっている場合は、お使いのコンピューターでFAT32形式、NTFS形式、またはexFAT形式のフォーマットに変更してください。

接続されたUSB機器は正しく認識されていますか？

■ USBメモリーなどを本機に接続して正しく認識されると、タッチパネル下部にアイコン()が表示されます。認識されていない場合は、もう一度接続し直してみてください。

タッチパネルの画面が見にくい

✓ チェック

画面の見やすさを調整していますか？

! 解決法

■ ホーム画面の[メニュー]アイコンをタップし、[明度調整]キーをタップして、画面の見やすさを調整してください。



何もしていないのに、勝手にログアウトしてしまう

✓ チェック

オートクリアモードがはたらいていませんか？

! 解決法

■ ユーザー認証時、オートクリアモードがはたらくと、ログイン中のユーザーを自動的にログアウトします。もう一度ログインしてください。
あなたが管理者の場合で、オートクリアモードの設定を変えたい場合は、[オートクリアモードの設定]で設定時間を変更するか、使用を禁止してください。
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [共通設定] → [操作設定] → [オートクリアモードの設定]

IPアドレスの設定が分からない

✓ チェック

設定モードのネットワーク設定でIPアドレスを設定します。

! 解決法

■ 固定のIPアドレスを設定する場合は、あらかじめネットワーク管理者に本機に割り当てられたIPアドレスなどネットワークの設定に必要な情報を確認してください。
⇒ Webページ→[システム設定] → [ネットワーク設定] → [インターフェース設定]
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [ネットワーク設定] → [有線設定]→[IPv4設定]、[IPv6設定]

ホーム画面にショートカットを追加/削除する方法が分からない

✓ チェック

Webページでショートカットを変更することができます。

! 解決法

■ 管理者パスワードを入力し、追加したい箇所をタップして、ショートカットキーを追加したり、削除したいショートカットキーをタップして、削除してください。

省エネモードの移行時間の調整方法が分からない

✓ チェック

設定モードの省エネルギー設定で省エネモードの移行時間を設定します。

! 解決法

■ 設定モードの省エネルギー設定で、省エネモードの移行時間を設定してください。
予熱モードの移行時間の設定
⇒ Webページ→[システム設定] → [省エネルギー設定] → [Eco設定]→[予熱モードの設定]
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [省エネルギー設定] → [予熱モードの設定]
オートパワーシャットオフへの移行時間の設定
⇒ Webページ→[システム設定] → [省エネルギー設定] → [Eco設定]→[オートパワーシャットオフ設定]
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [省エネルギー設定] → [オートパワーシャットオフ設定]



管理者パスワードを忘れてしまった

✓ チェック

工場出荷時の管理者パスワードを変更しましたか？

! 解決法

■ お買いあげの販売店、またはシャープお客様ご相談窓口にご連絡してください。工場出荷時の管理者パスワードはスタートガイドの「管理者について」を参照してください。パスワードを変更される場合は、必ず覚えておいてください。

保守サービスの連絡先が分からない

✓ チェック

お客様ご相談窓口の内容を確認してください。

! 解決法

■ お客様ご相談窓口はスタートガイドの裏表紙に記載されています。

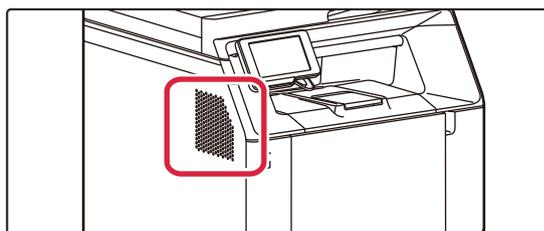
「マシン内部を冷却しています。しばらくお待ちください。」のメッセージが表示される

✓ チェック

障害物で本機の排気口をふさいでいたり、室内の温度が高温になっていませんか？

! 解決法

■ 本機の内部が高温になると、自動的に冷却モードに移行し、印字の間隔が空いて出力されます。障害物で本機の排気口をふさいでいないか、室内の温度が高温になっていないか、確認してください。メッセージが出続ける場合は、電源を切って数分お待ちの上、再度お試しください。





コピーの問題

チェックリスト

管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？

設定モードで、機能を使用できないように設定している場合があります。ユーザー認証設定時、ログインしているユーザーの設定によっては、使用できる機能が制限されていることがあります。管理者にご確認ください。

? 問題	✓ チェック	ページ
両面コピーできない	特殊な種類やサイズの内紙を使用していませんか？	9-14
	両面コピーができない設定でコピーを実行していませんか？	9-14
拡大・縮小コピーがうまくできない	原稿と用紙の設定と、倍率の設定が正しいですか？	9-14
画像が薄い、または濃い	原稿の画像が薄くありませんか？	9-14
	原稿の画像が濃くありませんか？	9-14
	原稿の種類に適した画質を選択していますか？	9-14
色がずれる	[レジスト調整]は行いましたか？	9-14
画像が欠ける	原稿サイズと用紙サイズの組み合わせに適した倍率を設定していますか？	9-15
	インチ系のサイズの原稿を使用していませんか？	9-15
コピーが白紙になる	原稿をセットする面をまちがえていませんか？	9-15
複数枚のA4原稿を、A4用紙一枚に並べてコピーしたい	ページ集約を使用してください。	9-15



両面コピーできない

✓ チェック

特殊な種類やサイズ of 用紙を使用していないですか？

両面コピーができない設定でコピーを実行していませんか？

! 解決法

■ 両面コピーできる用紙の種類やサイズなどについては、「[仕様 \(10-2ページ\)](#)」を参照してください。

■ 両面コピーは必要に応じて他の機能と組み合わせますが、他の機能の種類によっては、組み合わせで使用できない場合があります。その場合、タッチパネルにメッセージを表示します。

拡大・縮小コピーがうまくできない

✓ チェック

原稿と用紙の設定と、倍率の設定が正しいですか？

! 解決法

■ 画面に表示されている原稿サイズが正しいか確認してください。そのあと、使用する用紙が正しく選択されているか確認してください。[倍率]キーをタップし、[倍率自動選択]キーをタップすると、原稿と用紙に適した倍率が表示されます。

画像が薄い、または濃い

✓ チェック

原稿の画像が薄くありませんか？

原稿の画像が濃くありませんか？

原稿の種類に適した画質を選択していますか？

! 解決法

■ セットした原稿の種類に応じた画質に切り替えて、コピー濃度を手動で調整してください。

■ セットした原稿に応じて、原稿種類を以下の中から選択してコピーしてください。

- 文字
通常の文字原稿に適しています。
- 文字/印画紙写真
印画紙の写真を貼りつけた文字原稿などをコピーするのに適しています。
- 印画紙写真
印画紙の写真をコピーするのに適しています。

色がずれる

✓ チェック

[レジスト調整]は行いましたか？

! 解決法

■ 管理者に依頼して、[レジスト調整]をしてください。
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [画質調整] → [レジスト調整]

■ 色階調がずれている場合は、レジスト調整終了後[オートキャリブレーション]をしてください。(ずれが残るときは、もう一度実行すると改善されることがあります。)
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [画質調整] → [オートキャリブレーション]



画像が欠ける

✓ チェック

原稿サイズと用紙サイズの組み合わせに適した倍率を設定していますか？

インチ系のサイズ of 原稿を使用していますか？

! 解決法

■ 原稿とコピーする用紙に合った倍率でコピーしてください。

■ インチ系のサイズ of 原稿をコピーするときは、原稿サイズを手動で設定してください。

コピーが白紙になる

✓ チェック

原稿をセットする面をまちがえていませんか？

! 解決法

■ 原稿台(ガラス面)をお使いの場合はコピーする面を下向きに、原稿自動送り装置をお使いの場合はコピーする面を上向きにそれぞれセットしてください。

複数枚のA4原稿を、A4用紙一枚に並べてコピーしたい

✓ チェック

ページ集約を使用してください。

! 解決法

■ ページ集約を使用すると、A4サイズの原稿でA4用紙に最大8枚分のイメージを縮小してコピーすることができます。[ページ集約]キーをタップしてください。



プリンターの問題

チェックリスト

管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？

設定モードで、機能を使用できないように設定している場合があります。ユーザー認証設定時、ログインしているユーザーの設定によっては、使用できる機能が制限されていることがあります。管理者にご確認ください。

問題	チェック	ページ
プリントできない	本機とコンピューターを正しく接続していますか？	9-17
	お使いのコンピューターと同じネットワーク環境(LANなど)に本機を接続していますか？	9-17
	IPアドレスを正しく設定していますか？(Windows)	9-17
	Standard TCP/IP Portで作成したプリンターポートを使用していますか？(Windows)	9-17
	コンピューターが不安定な状態になっていませんか？	9-17
	プリントするアプリケーションソフトで、本機を正しく指定していますか？	9-18
	ネットワークを接続している装置類は正常に作動していますか？	9-18
	I/Oタイムアウトの時間を短くしていませんか？	9-18
	注意通告ページがプリントされていませんか？	9-18
	管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？	9-20
	現在の周辺装置の構成で利用できない設定が基本設定に登録されていませんか？	9-18
	どのプリンタードライバーをインストールしたらよいか分からない	それぞれのプリンタードライバーの特長を確認してインストールしてください。
プリントの中止方法が分からない	次の方法でプリントを中止してください。	9-19
カラープリントできない	カラーモードを[カラー]に設定していますか？	9-19
	管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？	9-20
カラー/白黒プリントの切り換え方法が分からない	プリンタードライバーで、カラーモードを設定します。	9-19
特殊な用紙(はがきや封筒など)の印刷方法が分からない	はがきや封筒はトレイ1、2または手差しトレイ、ラベル紙など特殊な用紙は手差しトレイを使用します。	9-19
はがきの印刷が開始されない。	用紙トレイ/用紙タイプが正しく設定されていますか？	9-20
両面プリントできない	特殊な種類やサイズの用紙を使用していませんか？	9-20
	管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？	9-20
コンピューターの共有フォルダー内のファイルを直接プリントできない	本機の[IPsec設定]が有効になっていませんか？	9-20
本機に装着しているトレイなどの周辺装置が使用できない	本機に装着している周辺装置をプリンタードライバーで設定しましたか？	9-21
画像が粗い	プリンタードライバーの設定がプリントデータに合っていますか？	9-21
画像が明るい、もしくは暗い	プリント濃度が全体的に薄くありませんか？	9-22
	写真画像などのデータに補正が必要ではありませんか？(Windows)	9-21
色がずれる	[レジスト調整]は行いましたか？	9-21
文字や線が薄くて見づらい	カラーデータを白黒でプリントしましたか？(Windows)	9-22
	プリント濃度が全体的に薄くありませんか？	9-22
画像が欠ける	データの用紙サイズとトレイにセットした用紙サイズは合っていますか？	9-22
	プリント方向(縦・横)の設定をまちがえていませんか？	9-22
	アプリケーションソフトのレイアウト設定で、余白を正しく設定していますか？	9-22



問題	チェック	ページ
データの内容が上下逆さまになる	一定の方向にしかセットできない用紙 (封筒、パンチ紙など) を使用していませんか？	9-22
文字化けしたデータが大量にプリントされる	両面プリントのと同じ位置(縦・横)をまちがえていませんか？ コンピューターまたは本機が不安定な状態になっていませんか？	9-23 9-17
ルーターを交換したら、本機で印刷ができなくなった	お使いのコンピューターと本機が接続できていますか？	9-24

プリントできない

✓ チェック

本機とコンピューターを正しく接続していますか？

お使いのコンピューターと同じネットワーク環境(LANなど)に本機を接続していますか？

コンピューターを差し替えたり、ルーターを新たに追加したりしてネットワークの環境を変更しましたか？

IPアドレスを正しく設定していますか？ (Windows)

Standard TCP/IP Portで作成したプリンターポートを使用していませんか？ (Windows)

コンピューターが不安定な状態になっていませんか？

! 解決法

■ コンピューターと本機の LAN コネクタにケーブルを正しく接続しているか確認してください。

ネットワークに接続しているときは、LANケーブルを接続しているハブ側でも確認してください。

[内部、側名、背面 \(1-3ページ\)](#)

■ お使いのコンピューターが接続しているネットワークに本機を接続してください。接続しているネットワークが不明なときは、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

■ お使いのコンピューターを差し替えたり、またネットワーク環境が変更になったことで、IPアドレスが変更になったりして、本機との接続が正しく行われていない場合があります。ネットワーク管理者に問い合わせ、本機とお使いのコンピューター、またはネットワーク環境が正しく設定されているか確認してください。

■ IPアドレスの設定を確認してください。本機のIPアドレスを固定していない場合(DHCP環境でお使いの場合など)、IPアドレスが変更されるとプリントできなくなります。本機のIPアドレスを設定モードの[ネットワークの状況]で確認のうえ、IPアドレスが変更されている場合はプリンタードライバのポートを設定し直してください。

⇒ Webページ → [ステータス] → [ネットワークの状況]

参照：ソフトウェアセットアップガイド

■ 頻繁にIPアドレスが変更される場合は、IPアドレスを固定にしてお使いになることをお勧めします。

⇒ 操作パネルまたはWebページ → [システム設定] → [ネットワーク設定]

■ コンピューターの設定を確認してください。OS標準のStandard TCP/IP Portで作成したポートを使用している場合、[SNMPステータスを有効にする]チェックボックスが になっていると、正しくプリントできない場合があります。[SNMPステータスを有効にする]チェックボックスを にしてください。

参照：ソフトウェアセットアップガイド

■ コンピューターを再起動してください。アプリケーションソフトを多数起動しているときや、コンピューターのメモリーの空き容量が少なくなっているときなどは、プリントできない場合があります。コンピューターを再起動してください。



✓ チェック

プリントするアプリケーションソフトで、本機を正しく指定していますか？

! 解決法

■ アプリケーションソフトのプリント画面で本機のプリンタードライバーを選択しているか確認してください。
本機のプリンタードライバーが表示されない場合は、正しくインストールできていない場合があります。プリンタードライバーを削除後、もう一度インストールしてください。
参照：ソフトウェアセットアップガイド

ネットワークを接続している装置類は正常に作動していますか？

■ ネットワークを接続しているルーターなどの動作を確認してください。
電源が入っていなかったり、エラー表示が出ている場合などは、機器に付属の取扱説明書を参照して問題を解決してください。

I/Oタイムアウトの時間を短くしていませんか？

■ 管理者に問い合わせてください。
I/Oタイムアウト時間が短すぎると、プリンターへの書き込みエラーが発生することがあります。管理者に依頼して、[I/Oタイムアウト時間]で適切な時間を設定してください。
⇒ Webページ→[システム設定] → [プリンター設定] → [基本設定] → [I/Oタイムアウト時間]

注意通告ページがプリントされていませんか？

■ 注意通告ページを確認してください。
指定したとおりのプリントが行えない場合で、かつその原因が操作パネルに表示されないときは 指定されたとおりにプリントが行えない原因を記載した注意通告ページをプリントしてください。プリントされた内容をよく読んで対処してください。
たとえば、次のような場合に注意通告ページをプリントしてください。
• プリントデータが多くてメモリーに入りきらないとき
• 管理者によって禁止されている機能が指示されているとき
工場出荷時は注意通告ページをプリントしないように設定されています。

管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？

■ 管理者に問い合わせてください。
ユーザー認証設定時、ログインしているユーザーの設定によっては、使用できる機能が制限されていることがあります。管理者に問い合わせてください。

現在の周辺装置の構成で利用できない設定が基本設定に登録されていませんか？

■ 基本設定を初期化してください。
基本設定を変更した後、周辺装置の構成を変えると、印刷設定画面が表示しなくなることがあります。周辺装置の構成をもとに戻すか、基本設定を初期化してください。

どのプリンタードライバーをインストールしたらよいか分からない

✓ チェック

それぞれのプリンタードライバーの特長を確認してインストールしてください。

! 解決法

■ プリンタードライバーにはそれぞれ特長があります。用途に応じてプリンタードライバーをインストールして使用してください。

- SPDL2-cプリンタードライバー ※
シャープの提供するページ記述言語SPDL2に対応しています。
高速な印字が可能で、一般的な印刷に適しています。
- PSプリンタードライバー
Adobe社開発のページ記述言語PostScript 3に対応しています。
微細なグラフィックを含む画像の再現性に優れています。
- PPDドライバー
Windows標準のPSプリンタードライバーを使用するためのドライバーです。
※ SPDLとは、Sharp Printer Description Languageの略称です。



プリントの中止方法が分からない

✓ チェック

次の方法でプリントを中止してください。

! 解決法

■ 本機にプリントデータをスプールする前では、OS やアプリケーションの説明書を参照してください。

カラープリントできない

✓ チェック

カラーモードを[カラー]に設定していますか？

! 解決法

■ カラーモードの設定で[自動]または[カラー]を選択してください。
Windows :
プリンタードライバーの[メイン]タブまたは[画質]タブで設定してください。
macOS :
プリンタードライバー設定画面の[画質]メニューで設定してください。

管理者によって、機能の使用制限を設定していませんか？

■ 管理者に問い合わせてください。
ユーザー認証設定時、ログインしているユーザーの設定によっては、使用できる機能が制限されていることがあります。

カラー / 白黒プリントの切り換え方法が分からない

✓ チェック

プリンタードライバーで、カラーモードを設定します。

! 解決法

■ Windows :
プリンタードライバーの[メイン]タブで設定してください。
macOS :
プリンタードライバー設定画面の[画質]メニューで設定してください。

特殊な用紙（はがきや封筒など）の印刷方法が分からない

✓ チェック

はがきや封筒はトレイ1、2または手差しトレイ、ラベル紙など特殊な用紙は手差しトレイを使用します。

! 解決法

■ はがき（往復はがきを含む）や封筒の場合、トレイ1、2または手差しトレイにセットしてください。ラベル紙などの特殊な用紙は手差しトレイに用紙をセットしてください。そのあと、ホーム画面の[給紙トレイ設定]より用紙に合わせて用紙サイズ、用紙タイプを設定してください。用紙の設定方法やセットできる封筒の種類など用紙のタイプやサイズについても確認してください。本機での設定が完了後、設定に合わせてプリンタードライバーの[メイン]タブで「原稿サイズ」や「出力用紙サイズ」を設定してください。



はがきの印刷が開始されない。

✓ チェック

用紙トレイ/用紙タイプが正しく設定されていますか？

! 解決法

■ はがきを使用する場合、トレイによって Web ページにある「システム設定」の「はがき印刷時の用紙タイプ設定」から用紙タイプを変更する必要があります。詳細は「[はがき印刷時の用紙タイプ設定 \(8-61ページ\)](#)」を参照してください。また、ホーム画面にある「給紙トレイ設定」で「用紙タイプ」を次のように設定してください。

- トレイ1から給紙する場合
[厚紙1]に設定してください。
- 手差しトレイまたはトレイ2から給紙する場合
[厚紙2]に設定してください。

両面プリントできない

✓ チェック

特殊な種類やサイズ of 用紙を使用していないですか？

! 解決法

■ 両面プリントできる用紙の種類やサイズなどを確認してください。

管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？

■ 管理者に問い合わせてください。
設定モードで、機能を使用できないように設定している場合があります。管理者に問い合わせてください。
ユーザー認証設定時、ログインしているユーザーの設定によっては、使用できる機能が制限されていることがあります。管理者に問い合わせてください。

コンピューターの共有フォルダー内のファイルを直接プリントできない

✓ チェック

本機の[IPsec設定]が有効になっていませんか？

! 解決法

■ 管理者に問い合わせてください。
設定モードで[IPsec設定]が有効になっている場合、お使いのコンピューターの使用環境によっては共有フォルダー内のファイルをプリントできない場合があります。[IPsec設定]については管理者に問い合わせてください。
⇒ Webページ→[セキュリティ設定] → [IPsec設定]



本機に装着しているトレイなどの周辺装置が使用できない

✓ チェック

本機に装着している周辺装置をプリンタードライバーで設定しましたか？

! 解決法

■ プリンターのプロパティを開き、[オプション]タブの[オプション自動設定]をクリックしてください。(Windows)
自動設定が行えない場合は、ソフトウェアセットアップガイドを参照してください。

画像が粗い

✓ チェック

プリンタードライバーの設定がプリントデータに合っていますか？

! 解決法

■ プリンタードライバーの設定を確認してください。
プリント時の設定で、プリントモードを、[600dpi]、[600dpi(高品質)]から選択してください
Windows：プリンタードライバー設定画面の[画質]タブで設定してください。
macOS：プリンタードライバー設定画面の[画質]メニューで設定してください。

画像が明るい、もしくは暗い

✓ チェック

プリント濃度が全体的に薄くありませんか？

! 解決法

■ プリントの画質を以下の設定で変更してください。
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [画質調整] → [オートキャリブレーション]

写真画像などのデータに補正が必要ではありませんか？
(Windows)

■ プリンタードライバーの設定を確認してください。
プリンタードライバーの[画質]タブの中にある[イメージ調整]で明るさやコントラストを補正してください。画像の編集ソフトがお使いのコンピューターにインストールされていないときなどに、簡易補正します。

色がずれる

✓ チェック

[レジスト調整]は行いましたか？

! 解決法

■ 管理者に依頼して、[レジスト調整]をしてください。
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [画質調整] → [レジスト調整]
色階調がずれている場合は、レジスト調整終了後[オートキャリブレーション]をしてください。(ずれが残るときは、もう一度実行すると改善されることがあります。)
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [画質調整] → [オートキャリブレーション]



文字や線が薄くて見づらい

✓ チェック

カラーデータを白黒でプリントしましたか？ (Windows)

プリント濃度が全体的に薄くありませんか？

! 解決法

■ プリンタードライバーの設定を確認してください。
カラーの文字や線は、白黒でプリントすると薄くて見づらくなる場合があります。プリンタードライバーの[画質]タブで、[文字を黒色で印刷する]または[線を黒色で印刷する]を選択すると、淡くプリントされるカラーの文字または線(面)を黒色に変換してプリントします。(ビットマップ画像などのラスターデータは補正できません。)

■ プリントの画質を以下の設定で変更してください。
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [画質調整] → [オートキャリブレーション]

画像が欠ける

✓ チェック

データの用紙サイズとトレイにセットした用紙サイズは合っていますか？

プリント方向(縦・横)の設定をまちがえていませんか？

アプリケーションソフトのレイアウト設定で、余白を正しく設定していますか？

! 解決法

■ 用紙サイズの設定が本機にセットした用紙サイズと合っているかを確認してください。
Windows : プリンタードライバーの[給紙]タブで設定してください。
[給紙トレイ]を設定している場合は、トレイにセットしている用紙と設定している用紙サイズが合っているかを確認してください。
macOS : [ページ設定]メニューで設定してください。

■ プリント方向を画像データに合わせて設定してください。
Windows : プリンタードライバーの[メイン]タブで設定してください。
macOS : [ページ設定]メニューで設定してください。

■ アプリケーションソフトのレイアウト設定で、適切な用紙サイズと余白を設定してください。
用紙の端など、本機でのプリント可能領域を超えた箇所に画像データがあると、画像が欠ける原因となります。

データの内容が上下逆さまになる

✓ チェック

一定の方向にしかセットできない用紙(封筒、パンチ紙など)を使用していますか？

! 解決法

■ データを180°回転してプリントしてください。
データと用紙のサイズが同じで向きが異なる場合、自動的に向きを回転してプリントしますが、プリント方向が決まっている用紙に上下が逆さまにプリントされてしまうことがあります。そのようなときは、データを180°回転してプリントしてください。
Windows : プリンタードライバーの[メイン]タブ「原稿の向き」で設定してください。
macOS : プリント画面の[レイアウト]メニューで設定してください。



✓ チェック

両面プリントのとじ位置(縦・横)をまちがえていませんか？

! 解決法

- とじ位置を適切に設定してください。
両面プリント時、とじ位置の設定によってはページごとに天地を逆にプリントします。
Windows : プリンタードライバーの[メイン]タブで設定してください。
macOS : プrint画面の[レイアウト]メニューで設定してください。

文字化けしたデータが大量にプリントされる

✓ チェック

コンピューターまたは本機が不安定な状態になっていませんか？

! 解決法

- プリントを中止し、コンピューターと本機を再起動してからプリントし直してください。コンピューターのメモリーの空き容量が少なくなっているとき、また、本機側で多数のジョブがスプールされメモリーの空き容量が少なくなっているときなどは、プリントした文字が化けることがあります。
プリントを中止するには、
 - Windows : タスクバー右下に表示されるプリンターアイコンをダブルクリックし、[プリンタ]メニューから[すべてのドキュメントの取り消し](または[印刷ドキュメントの削除])をクリックしてください。
 - macOS : プリンターリストの本機の名前をダブルクリックし、削除するプリントデータを選択して削除してください。
 - 本機での操作 :
再起動後にプリントを行って文字が化ける場合は、管理者に依頼して、設定モードの[I/Oタイムアウト時間]でタイムアウト時間を長く設定してください。
⇒ Webページ→[システム設定] → [プリンター設定] → [基本設定] → [I/Oタイムアウト時間]
- これらの対処法を行っても文字が化けるときは、プリンタードライバーを削除してインストールし直してください。



ルーターを交換したら、本機で印刷ができなくなった

✓ チェック

お使いのコンピューターと本機が接続できていますか？

! 解決法

- 本機とお使いのコンピューターのネットワーク接続が正しく動作していない可能性があります。本機のIPアドレスまたは、お使いのコンピューターのIPアドレスを確認し、コンピューターと本機が接続できることを確認してください。また、コンピューター側のドライバー設定で「印刷ポート」が正しいか確認してください。
- IPアドレスの設定を確認してください。
本機のIPアドレスを固定していない場合(DHCP環境でお使いの場合など)、IPアドレスが変更されるとプリントできなくなります。
本機のIPアドレスを設定モードの[ネットワークの状況]で確認のうえ、IPアドレスが変更されている場合はプリンタードライバーのポートを設定し直してください。
⇒ Webページ→ [ステータス] → [ネットワークの状況]
参照：ソフトウェアセットアップガイド
- 頻繁にIPアドレスが変更される場合は、IPアドレスを固定にしてお使いになることをお勧めします。
⇒ 操作パネルまたはWebページ→ [システム設定] → [ネットワーク設定]
- コンピューター側の印刷ポートの設定が正しいか確認してください。
Windows :
[スタート] ボタンをクリックし、[設定] → [デバイス] → [デバイスとプリンター] をクリックします。
(Windows 11をお使いの場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] → [Bluetoothとデバイス] → [プリンターとスキャナ] をクリックします。)
macOS :
いったんプリンターを削除し、インストールし直してください。



ファクスの問題

チェックリスト

管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？

設定モードで、機能を使用できないように設定している場合があります。ユーザー認証設定時、ログインしているユーザーの設定によっては、使用できる機能が制限されていることがあります。管理者にご確認ください。

? 問題	✓ チェック	ページ
送信できない	電話機がはずれていませんか？	9-28
	電話回線の種類は正しく設定されていますか？	9-26
	相手が話し中ではありませんか？	9-26
	通信エラーが起きていませんか？	9-26
	メモリーオーバーをお知らせするメッセージを表示していませんか？	9-26
	送信できなかったという内容が、ジョブ状況画面(完了)や通信結果表に出ていませんか？	9-26
送信した原稿の画像が白紙でプリントされる	折りたたまれた状態の原稿をセットしていませんか？	9-26
	原稿をセットする面をまちがえていませんか？	9-27
指定した時刻に通信が開始できない	相手側の記録紙が感熱紙で、表裏逆にセットされていませんか？	9-27
	本機に内蔵されている時計を現在時刻に設定していますか？	9-27
受信してもプリントしない	通信中ではありませんか？	9-27
	受信データの転送機能が設定されていませんか？	9-27
手動受信ができない	ファクス受信で印刷できる用紙サイズ以外がセットされていませんか？	9-27
	ファクス受信メモリーが少なくなっていますか？	9-28
受信した画像が薄い	相手側の送信原稿が薄くありませんか？	9-28
本機がファクス受信に切り替わらない	設定モードで受信モードが[手動受信]になっていませんか？	9-28
	ファクス受信メモリーが少なくなっていますか？	9-27
ダイヤルできない	電話機がはずれていませんか？	9-28
	設定モードで外部電話機を設定していますか？	9-28
	回線が使用中ではないですか？	9-28
留守番電話機能がはたらかない	設定モードで留守番電話機能を設定しましたか？	9-29
	設定モードで外部電話機を設定していますか？	9-29
	留守番電話機側の設定は適切ですか？	9-29
相手と通話できない	オンフックダイヤルで電話をかけていませんか？	9-29
宛先(ワンタッチキー (またはグループキー))が登録できない	登録件数が上限に達していませんか？	9-29
宛先(ワンタッチキー (またはグループキー))が修正/削除できない	修正または削除したいキーに、送信予約中または通信中の宛先が含まれていませんか？	9-30
	管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？	9-30
	管理者によって、修正または削除ができなくなる機能が設定されていませんか？	9-30
送受信の履歴を確認したい	[送信履歴]キーを押します。(送信履歴のみ)	9-30
	[ファクス状況]キーで確認します。	9-30
ファクス受信データの転送方法が分からない	設定モードの受信データの転送設定を使用します。	9-30
通知音が大きい/小さい、鳴らない(音量の調整)	設定モードの音設定で音量を調整しましたか？	9-31
	設定モードの原稿読み取り終了音の設定で原稿読み取りが終了したときの音を調整できます。	9-31
発信元の登録やプリントの方法が分からない	発信元の登録は、設定モードの発信元登録で行います。	9-31
同報送信ができない	設定モードで同報送信が禁止されていませんか？	9-31



問題	チェック	ページ
インフォメーションランプが消えない	ファクスの受信データがエラーなどで出力できない状態になっていませんか？	9-31
送信時の宛先の確認方法が分からない	[宛先一覧]キーをタップします。	9-32
	設定モードのファクス宛先確認機能を有効にしていますか？	9-32

送信できない

✓ チェック

電話線がはずれていませんか？

■ 回線端子、モジュラーコンセント、モジュラー延長アダプターなど、すべての接続箇所を確認して、はずれている場合は確実に接続してください。
[内部、側名、背面 \(1-3ページ\)](#)

電話回線の種類は正しく設定されていますか？

■ お使いの電話回線に合った設定になっているか、管理者に問い合わせてください。
「ダイヤル発呼信号設定」で電話回線の種類を選択してください。
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [ダイヤル発呼信号設定]

相手が話し中ではありませんか？

■ 相手が話し中のときは、いったん送信を中止し、のちほど自動的に送信し直してください。(工場出荷時：3分間隔で2回)
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [宛先ビジー時の再コール設定]
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [宛先ビジー時の再コール設定]

■ 送信を中止するときは、[中止]キーをタップしてください。

通信エラーが起きていませんか？

■ 何らかの原因でエラーが起これ、送信が正常に行われなかったときは、いったん送信を中止し、のちほど自動的に送信し直してください。(工場出荷時：3分間隔で2回)
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [通信エラー時の再コール設定]
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [通信エラー時の再コール設定]

■ 送信を中止するときは、[中止]キーをタップしてください。
本機はECM(自動誤り再送機能)に対応しており、回線のノイズなどで送信画像が乱れた部分を自動的に送信し直すように設定されています。
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [ECM]

メモリーオーバーをお知らせするメッセージを表示していませんか？

■ 複数回に分けて送信するか、直接送信してください。
メモリーがいっぱいになると、その送信をキャンセルしてください。

折りたたまれた状態の原稿をセットしていませんか？

■ 表示されているメッセージに従って、原稿を伸ばした状態でセットし直し、もう一度読み込んでください。

送信できなかったという内容が、ジョブ状況画面(完了)や通信結果表に出ていませんか？

■ あらためて送信し直してください。
[宛先ビジー時の再コール設定]、[通信エラー時の再コール設定]で設定されている再コールが行われても送信できなかった場合、ジョブ状況画面や通信結果表などに送信できなかった内容を表示します。



送信した原稿の画像が白紙でプリントされる

✓ チェック

原稿をセットする面をまちがえていませんか？

相手側の記録紙が感熱紙で、表裏逆にセットされていませんか？

! 解決法

■ 正しい向きにセットし直し、もう一度送信してください。
原稿台(ガラス面)をお使いの場合は画像面を下向きに、原稿自動送り装置をお使いの場合は画像面を上向きにそれぞれセットして、もう一度送信してください。

■ 相手側に確認してください。

指定した時刻に通信が開始できない

✓ チェック

本機に内蔵されている時計を現在時刻に設定していますか？

通信中ではありませんか？

! 解決法

■ 現在時刻に設定し直してください。
⇒ 操作パネルまたはWebページ→[システム設定] → [共通設定] → [デバイス設定] → [日付/時刻設定]

■ 指定した時刻に他の通信が実行中の場合、その通信が終了してから時刻指定した通信を開始します。

受信してもプリントしない

✓ チェック

受信データの転送機能が設定されていますか？

ファクス受信で印刷できる用紙サイズ以外がセットされていませんか？

! 解決法

■ 受信データのプリントが必要な場合は、管理者に依頼してください。
受信データの転送機能が設定されている場合、受信したデータを自動的に指定のアドレスに転送します。この設定で[エラー時のみプリント]が選択されていると、受信データはエラー時以外にプリントされません。
⇒ Webページ→[ファクス/イメージ送信設定] → [受信データの転送設定] → [管理設定] → [受信データの転送設定]

■ A5、B5、A4、8-1/2"x11"、8-1/2"x13"、8-1/2"x13-2/5"、8-1/2"x13-1/2"以外の用紙のみが本機にセットされている場合、ファクスを受信しても印刷することはできません。上記のサイズの用紙をセットしてください。

手動受信ができない

✓ チェック

ファクス受信メモリーが少なくなっていますか？

! 解決法

■ 下記の事項に該当する場合は、受信データをプリントまたは削除して、ファクス受信メモリーの残量を増やしてください。



受信した画像が薄い

✓ チェック

相手側の送信原稿が薄くありませんか？

! 解決法

■ 相手側に適切な濃度(濃くする)での再送信を依頼してください。

本機がファクス受信に切り替わらない

✓ チェック

設定モードで受信モードが[手動受信]になっていませんか？

! 解決法

- 受信モードを[自動受信]に設定してください。
受信モードを[手動受信]にしていると、ファクスを自動で受信しません。
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定]→ [受信/転送設定(手動)] → [受信設定]
- また、設定モードの[手動受信から自動受信への切替設定]を設定すると、手動受信モードでファクスの着信があった場合、指定回数の呼出音を鳴らしたあと、自動的に自動受信に切り替えてファクスを受信します。
管理者に設定を依頼してください。
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [受信設定]→ [手動受信から自動受信への切替設定] → [自動受信への切替設定]→

ファクス受信メモリーが少なくなっていますか？

■ 下記の事項に該当する場合は、受信データをプリントまたは削除して、ファクス受信メモリーの残量を増やしてください。

ダイヤルできない

✓ チェック

電話機がはずれていませんか？

! 解決法

■ 接続箇所を確認してください。
回線端子、外部電話機接続端子、モジュラーコンセント、モジュラー延長アダプターなど、すべての接続箇所を確認して、はずれている場合は確実に接続してください。

設定モードで外部電話機を設定していますか？

■ 管理者に依頼して、[外部電話接続]を有効な状態にしてください。
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [外部電話接続]→
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [外部電話接続]→

回線が使用中ではないですか？

■ 回線の使用が終わるまで待ってください。
外部電話を使用するときは、回線を使用してください。



留守番電話機能がはたらかない

✓ チェック

設定モードで留守番電話機能を設定しましたか？

設定モードで外部電話機が設定されていますか？

留守番電話機側の設定は適切ですか？

! 解決法

■ 管理者に依頼して、[留守番電話接続設定]を有効な状態にしてから、[受信設定]を[留守接続]に設定してください。
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [留守番電話接続設定] → [留守番電話接続する] →
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [留守番電話接続設定] → [On]

■ 管理者に依頼して、[外部電話接続]を有効な状態にしてください。
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [外部電話接続] →
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [外部電話接続] →

■ 管理者に問い合わせてください。
本機に取り付けている留守番電話機側での呼出音回数の設定を、設定モードの[留守番電話接続設定]で設定している回数よりも少なくしてください。
回数を少なくしないと、外部電話機の留守番電話機能がはたらく前にファクスを受信してしまいます。
設定モードの設定については、管理者に問い合わせてください。
⇒ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [留守番電話接続設定] → [呼出音回数]
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [ファクス設定] → [基本設定] → [留守番電話接続設定] → [呼出音回数]

相手と通話できない

✓ チェック

オンフックダイヤルで電話をかけていませんか？

! 解決法

■ 外部電話機の手話器を取ってお話してください。
オンフックダイヤルで電話をかけた場合、相手の声は聞こえますがこちらの声は相手に聞こえません。(外部電話機を装着していない場合、相手と通話できません。)

宛先(ワンタッチキー (またはグループキー))が登録できない

✓ チェック

登録件数が上限に達していませんか？

! 解決法

■ 登録件数を調整してください。
使用していない宛先(ワンタッチキー (またはグループキー))を削除するなどして、登録件数を調整してください。



宛先(ワンタッチキー (またはグループキー))が修正／削除できない

✓ チェック

修正または削除したいキーに、送信予約中または通信中の宛先が含まれていませんか？

管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？

管理者によって、修正または削除ができなくなる機能が設定されていませんか？

! 解決法

■ 送信予約を解除するか、通信が終了してから修正／削除をしてください。

■ 管理者に問い合わせてください。
設定モードで、機能を使用できないように設定している場合があります。

■ 管理者に問い合わせてください。
[受信データの転送設定]などが管理者によって設定されていると修正／削除できません。
⇒ Webページ→[ファクス／イメージ送信設定] → [受信データの転送設定] → [受信データの転送設定]

送受信の履歴を確認したい

✓ チェック

[送信履歴]キーを押します。(送信履歴のみ)

[ファクス状況]キーで確認します。

! 解決法

■ [送信履歴]キーをタップすると、今までの宛先や宛先番号の履歴が確認できます。

■ [ファクス状況]キーをタップすると、ファクスのジョブ状況が確認できます。
[通信完了状況]キーをタップすると、それまで送信または受信した履歴を確認することができます。

ファクス受信データの転送方法が分からない

✓ チェック

設定モードの受信データの転送設定を使用します。

! 解決法

■ あらかじめ設定した転送先に受信データを転送することができます。Webページ → [システム設定] → [ファクス／イメージ送信設定] → [受信データの転送設定] → [管理設定] で [受信データの転送設定] を有効にしてください。
[追加] キーをタップし、転送先や転送条件などを設定してください。設定が終了すると、設定した条件に従って、受信データが転送されます。



通知音が大きい/小さい、鳴らない(音量の調整)

✓ チェック

設定モードの音設定で音量を調整しましたか？

設定モードの原稿読み取り終了音の設定で原稿読み取りが終了したときの音を調整できます。

! 解決法

■ オンフック時の音量や呼出音、回線モニター音、送受信終了音、送受信エラー音は、「オーディオ設定」で調整してください。
⇒ 操作パネル→[システム設定] → [オーディオ設定] → [報知音設定 (ファクス)]

■ 原稿の読み取りが終了したときに終了音がなりません。音量は、操作パネル→[システム設定] → [共通設定] → [オーディオ設定] → [報知音設定 (共通)] → [原稿読み込み終了音(スキャン/ファクス)]で調整できます。

発信元の登録やプリントの方法が分からない

✓ チェック

発信元の登録は、設定モードの発信元登録で行います。

! 解決法

■ 発信元の登録は、Webページ→[システム設定]→[ファクス/イメージ送信設定]→[共通設定]→[発信元登録]で登録できます。

同報送信ができない

✓ チェック

設定モードで同報送信が禁止されていますか？

! 解決法

■ Webページ→[システム設定] → [ファクス/イメージ送信設定] → [ファクス設定] → [送信設定] → [ファクス同報送信の禁止]を無効にすると、同報送信できます。

インフォメーションランプが消えない

✓ チェック

ファクスの受信データがエラーなどで出力できない状態になっていませんか？

! 解決法

■ 出力されずに、本機のメモリーに受信データが残ったままの状態だと、インフォメーションランプは点滅したままとなります。原因となるエラーを解除してください。



送信時の宛先の確認方法が分からない

✓ チェック

[宛先一覧]キーをタップします。

設定モードのファクス宛先確認機能を有効にしていますか？

! 解決法

■ [宛先一覧]キーをタップすると宛先一覧画面で宛先を確認することができます。

■ Webページ→[システム設定]→[ファクス/イメージ送信設定]→[ファクス設定]→[基本設定]→[ファクス宛先確認機能]を有効にしてください。この機能を有効にすると、ファクスを送信するとき、誤送信を防止するために宛先確認メッセージを表示します。



イメージ送信の問題

チェックリスト

管理者によって、機能の使用制限が設定されていませんか？

設定モードで、機能を使用できないように設定している場合があります。ユーザー認証設定時、ログインしているユーザーの設定によっては、使用できる機能が制限されていることがあります。管理者にご確認ください。

問題	チェック	ページ
送信できない	送信先(送信先情報)の選択をまちがえていませんか？また、登録されている送信先(E-mailアドレスやFTPサーバーの送信先情報)の設定をまちがえていませんか？	9-34
	設定モードで上限設定されている最大送信データ量を超えていませんか？	9-34
	メールサーバーの管理者によって制限されている最大送信データ量を超えていませんか？	9-34
	送信先に指定したコンピューターのフォルダーを書き込みできるように共有設定していますか？	9-34
	本機の[IPsec設定]が有効になっていませんか？	9-34
	折りたたまれた状態の原稿をセットしていませんか？	9-34
	受け取った画像データを開けない	受信側で使用しているビューワーなどのソフトウェアが受け取った画像データの形式に対応していますか？
送信に時間がかかる	スキャン時の解像度設定は適切ですか？	9-35
読み取った画像が欠ける	原稿の読み取りサイズ設定で原稿のサイズよりも小さなサイズを設定していませんか？	9-35
読み取った画像の質が悪い	印刷物の原稿を読み取っていませんか？	9-36
	カラー原稿やグレースケールの原稿を読み込むときに、カラーモードが[白黒2値]になっていませんか？	9-36
	解像度の設定が低くありませんか？	9-36
	圧縮率の設定が高くありませんか？	9-36
白紙でスキャンされる	原稿をセットする面をまちがえていませんか？	9-36
ファイル形式でJPEGを選択したがTIFFで生成された	[白黒スタート]キーをタップしましたか？	9-36
ファイルサイズが大きい	モノクロの原稿を読み込むときに、カラーモードが[グレースケール]になっていませんか？	9-37
	解像度の設定が高くありませんか？	9-37
	圧縮率の設定が低くありませんか？	9-37
宛先(ワンタッチキー(またはグループキー))が登録できない	登録件数が上限に達していませんか？	9-37
宛先(ワンタッチキー(またはグループキー))が修正/削除できない	修正または削除したいキーに、通信中の宛先が含まれていませんか？	9-37
	管理者によって、修正または削除ができなくなる機能が設定されていませんか？	9-37
スキャンした画像のフォーマットや圧縮率を変更したい	[フォーマット]キーで設定できます。	9-37
送信時の宛先の確認方法が分からない	[宛先一覧]キーをタップします。	9-38
ルーターを交換したら、共有フォルダーへのスキャン保存、スキャンができなくなった	本機のIPアドレスが変更されていませんか？	9-38



送信できない

✓ チェック

送信先(送信先情報)の選択をまちがえていませんか？また、登録されている送信先(E-mailアドレスやFTPサーバーの送信先情報)の設定をまちがえていませんか？

設定モードで上限設定されている最大送信データ量を超えていませんか？

メールサーバーの管理者によって制限されている最大送信データ量を超えていませんか？
(E-mail送信スキャン時)

送信先に指定したコンピューターのフォルダーを書き込みできるように共有設定していますか？
(共有フォルダー送信スキャン時)

本機の[IPsec設定]が有効になっていませんか？
(共有フォルダー送信スキャン時)

折りたたまれた状態の原稿をセットしていませんか？

! 解決法

■ 正しい送信先(送信先情報)の設定と選択をしてください。
E-mail送信(E-mail送信スキャン)でデータが送信先に届かないときは、不達通知などのエラー情報があらかじめ設定されている管理者のE-mailアドレスに届いている場合があります。データが送信先に届かない原因を調べるときの参考にしてください。

■ 管理者に問い合わせてください。
管理者によって最大送信データ量に上限値が設定されている場合、上限を超えたデータを送信できません。

■ 1回のE-mail送信のデータ量(読み込む原稿のページ数)を少なくしてください。または、読み込み時の解像度の設定を下げることでデータ量を減らしてください。1回のE-mail送信で扱える最大送信データ量はメールサーバーの管理者(プロバイダなど)に確認してください。

■ 送信先のフォルダーが共有になっていない場合はフォルダーのプロパティで共有に設定してください。
フォルダーの移動などに伴い、共有が解除されることがあります。

■ 管理者に問い合わせてください。
設定モードで[IPsec設定]が有効になっている場合、お使いのコンピューターの環境によっては共有フォルダーへのスキャンができない場合があります。
⇒ Webページ→[システム設定]→[セキュリティ設定]→[IPsec設定]

■ 表示されているメッセージに従って、原稿を伸ばした状態でセットし直し、もう一度読み込んでください。

受け取った画像データを開けない

✓ チェック

受信側で使用しているビューワーなどのソフトウェアが受け取った画像データの形式に対応していますか？

! 解決法

■ ファイルタイプと圧縮形式の組み合わせに対応したソフトウェアを使用して開いてください。
送信時に選択するファイルタイプと圧縮形式の組み合わせを変更すると開く場合があります。



送信に時間がかかる

✓ チェック

スキャン時の解像度設定は適切ですか？

! 解決法

■ 送信目的に応じた適切な解像度やデータ圧縮の設定をしてください。解像度とファイルサイズのバランスがとれた画像データを生成するために以下の点にご注意ください。
解像度のモードについて：
最初は標準値として[200X200dpi](「E-mail」、「FTP/Desktop」、「共有フォルダー」、「USBメモリーにスキャン保存する」)/[200X100dpi] に設定されています。ハーフトーン画像(写真やイラストなど) が含まれない原稿については、標準値で読み込ませるほうがより実用的なスキャン画像が得られます。それより高い解像度は写真などの画像が含まれる原稿で 写真部分の画質を優先したい場合にのみ選択してください。その場合、標準値よりもファイルサイズが大きくなりますのでご注意ください。

読み取った画像が欠ける

✓ チェック

原稿の読み取りサイズ設定で原稿のサイズよりも小さなサイズを設定していませんか？

! 解決法

■ 実際の実原稿サイズを設定してください。
意図的に原稿の実サイズよりも小さなサイズを設定している場合は、設定した読み取りサイズでの原稿セット基準位置を想定して原稿をセットしてください。たとえば原稿台(ガラス面)に実サイズA4の原稿をB5サイズの読み取りサイズ設定でセットする場合は、ガラス面左端の原稿台スケール側を基準としたB5サイズ原稿のセット範囲内に、読み込ませたい画像範囲がおさまるように原稿をセットしてください。



読み取った画像の質が悪い

✓ チェック

印刷物の原稿を読み取っていませんか？

カラー原稿やグレースケールの原稿を読み込むときに、カラーモードが[白黒2値]になっていませんか？

解像度の設定が低くありませんか？

圧縮率の設定が高くありませんか？

! 解決法

■ 以下の方法でモアレの発生を低減してください。
印刷物の原稿の場合、しま模様(モアレ)が多少発生することがあります。[その他の機能] → [シャープネス]機能を使用し、輪郭をソフトにすると、モアレの発生を低減します。また、読み取り解像度を変えたり、原稿台(ガラス面)のガラス面に原稿をセットしている場合は、原稿の位置やセット角度を少しずらすとモアレの発生を多少軽減できる場合があります。

■ カラーモードが[白黒2値]に設定されていると、原稿で使用されている色を白か黒かに置き換えてスキャンします。文字のみの原稿には適していますが、イラストなどの画像を含む原稿を読み込むときは、カラーモードを[フルカラー]または[グレースケール]に設定してスキャンしてください。

■ 解像度が低く設定されていると粗い画質になります。解像度設定を上げるときめの細かい画質になります。(解像度を上げるとファイルサイズが大きくなります)

■ 「カラーモード」がフルカラー、グレースケール送信の場合、圧縮率が高く設定されているとノイズが目立ったり、色がくすんで見える場合があります。[フォーマット] → 「圧縮率」設定で圧縮率を低く設定するとノイズや、くすみの少ない画質になります(圧縮率を低く設定するとファイルサイズが大きくなります)。

白紙でスキャンされる

✓ チェック

原稿をセットする面をまちがえていませんか？

! 解決法

■ 正しい向きにセットし直し、もう一度送信してください。
原稿台(ガラス面)をお使いの場合は送信する面または画像面を下向きに、原稿自動送り装置をお使いの場合は送信する面または画像面を上向きにそれぞれセットしてください。

ファイル形式でJPEGを選択したがTIFFで生成された

✓ チェック

[白黒スタート]キーをタップしましたか？

! 解決法

■ フォーマット画面の「カラー/グレースケール」を[JPEG]で選択し、[カラースタート]キーをタップしてください。[白黒スタート]キーをタップするとJPEGでファイルを保存することができません。



ファイルサイズが大きい

✓ チェック

モノクロの原稿を読み込むときに、カラーモードが[グレースケール]になっていませんか？

解像度の設定が高くありませんか？

圧縮率の設定が低くありませんか？

! 解決法

■ カラーモードが[グレースケール]の場合、文字も写真もきれいにスキャンしたい場合には適していますが、ファイルサイズが大きくなります。文字のみの原稿の場合[白黒2値]に設定してスキャンするとファイルサイズを大幅に小さくすることができます。

■ 解像度が高く設定されているとファイルサイズが大きくなります。解像度設定を下げると画質が粗くなりますが、ファイルサイズを小さくすることができます。

■ カラーモードが[フルカラー]、[グレースケール]の場合、圧縮率が低く設定されているとファイルサイズが大きくなります。[フォーマット] → 「圧縮率」設定で圧縮率を高く設定するとノイズが目立ったり、色がくすんで見える場合がありますが、ファイルサイズを小さくすることができます。

宛先(ワンタッチキー (またはグループキー))が登録できない

✓ チェック

登録件数が上限に達していませんか？

! 解決法

■ 登録件数を調整してください。
使用していない宛先(ワンタッチキー (またはグループキー))を削除するなどしてください。

宛先(ワンタッチキー (またはグループキー))が修正／削除できない

✓ チェック

修正または削除したいキーに、通信中の宛先が含まれていませんか？

管理者によって、修正または削除ができなくなる機能が設定されていませんか？

! 解決法

■ 通信が終了してから修正／削除をしてください。

■ 管理者に問い合わせてください。
[受信データの転送設定]などが管理者によって設定されていると修正／削除できません。

スキャンした画像のフォーマットや圧縮率を変更したい

✓ チェック

[フォーマット]キーで設定できます。

! 解決法

■ [フォーマット]キーで保存や送信するファイルのフォーマット、圧縮率を設定することができます。原稿の枚数ごとにファイル化できる[ページ毎にファイル化]が使用できます。



送信時の宛先の確認方法が分からない

✓ チェック

[宛先一覧]キーをタップします。

! 解決法

■ [宛先一覧]キーをタップすると宛先一覧画面で宛先を確認することができます。

ルーターを交換したら、共有フォルダーへのスキャン保存、スキャンができなくなった

✓ チェック

本機のIPアドレスが変更されていませんか？

! 解決法

- IPアドレスの設定を確認してください。
本機のIPアドレスを固定していない場合(DHCP環境でお使いの場合など)、IPアドレスが変更されると共有フォルダーへのスキャン保存、スキャンができなくなります。
本機のIPアドレスを設定モードの[ネットワークの状況]で確認のうえ、IPアドレスが変更されている場合はプリンタードライバーのポートを設定し直してください。
⇒ Webページ → [ステータス] → [ネットワークの状況]
参照：ソフトウェアセットアップガイド
- 頻繁にIPアドレスが変更される場合は、IPアドレスを固定にしてお使いになることをお勧めします。
⇒ 操作パネルまたはWebページ → [システム設定] → [ネットワーク設定]



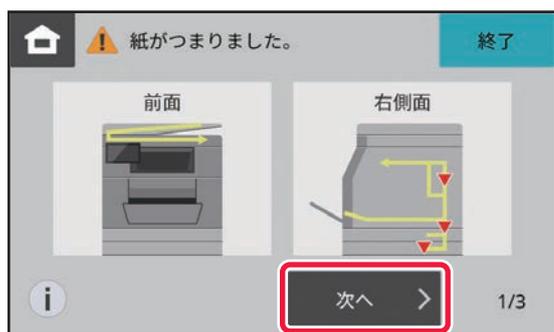
紙づまり

紙づまりの対応

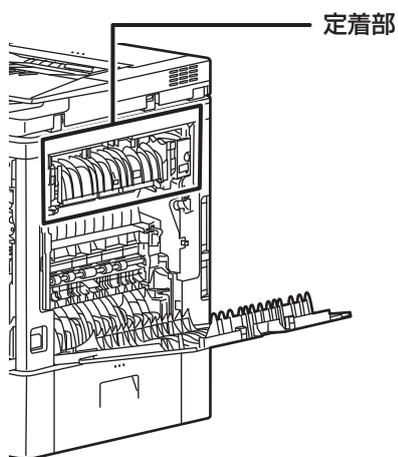
紙づまりが発生すると、タッチパネルに紙がつまっていることをお知らせするメッセージが表示され、プリントや原稿の読み込みが中断されます。

このようなときは、タッチパネルに表示されている紙づまりの処理方法を見るための[次へ]キーをタップしてください。

キーをタップすると、紙づまりの処置方法のガイダンスが表示されるので、ガイダンスに従って紙づまりの処置を行ってください。紙づまりを解除すると、メッセージは自動的に終了します。



- 定着部、排紙部は高温になっています。
- 紙づまりの処置の際は、定着部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。





付録

仕様

仕様	10-2
基本仕様/コピー仕様	10-2
両面原稿自動送り装置	10-2
給紙ユニット	10-2
ネットワークプリンター仕様	10-3
ネットワークスキャナー仕様	10-3
ファクス仕様	10-3
無線LAN仕様	10-3
商標について	10-4
JIS漢字コード表	10-5
第1水準	10-5
第2水準	10-8



仕様

仕様

基本仕様/コピー仕様

名称	BP-C131WD		
形式	デスクトップ		
カラー対応	フルカラー		
複写方式	レーザー静電複写機		
解像度	読み取り：	原稿自動送り装置：600 x 600dpi、600 x 300dpi	
	書き込み：	原稿台：600 x 600dpi、600 x 400dpi 書き込み：600 x 600 dpi	
階調	読み取り：	256 階調相当	
	書き込み：	256 階調相当	
複写原稿	最大A4/ シート・ブック原稿		
複写サイズ	A4 (216×356mm) ~A6/		
	郵便はがき※/往復はがき※		
	封筒 (長形3号・長形4号・長形40号・洋形2号・洋形4号・角形3号・角形6号)		
	本体トレイA4 (216×297mm) ~A6/		
	封筒 (長形3号・長形4号・長形40号)		
	手差しトレイA4 (216×356mm) ~A6/		
	郵便はがき※/往復はがき※/		
	封筒 (長形3号・長形4号・長形40号・洋形2号・洋形4号・角形3号・角形6号)		
	※日本郵便株式会社発行のはがきを郵便はがき/往復はがきと記載しています。		
	欠け幅 先端5.0±1.0 mm、後端2.0~6.4 mm、左右端 合計8 mm		
用紙タイプ	本体トレイ：普通紙、厚紙、封筒、はがき、再生紙、色紙、レターヘッド紙、印刷済み用紙、パンチ済み紙		
	手差しトレイ：普通紙、厚紙、封筒、はがき、再生紙、色紙、レターヘッド紙、印刷済み用紙、パンチ済み紙、特殊紙		
	坪量：本体トレイ 60g/m ² ~176g/m ² 手差しトレイ 60g/m ² ~200g/m ²		
	• 使用条件、用紙種類によっては正しく印刷されない場合があります。 特殊紙(ラベル紙、光沢紙等)および坪量106g/m ² ~200g/m ² の用紙をお使いになる際にはお買いあげ販売店またはもよりのシャープお客様相談窓口へお問い合わせください。		
ウォームアップタイム	カラー/モノクロ：33秒※ 環境により異なる場合があります。 ※ 電源ボタンからの場合。		
ファーストコピータイム※	フルカラー	モノクロ	
	原稿台 (ガラス面) DSPF	7.2秒 9.2秒	6.0秒 7.4秒
連続複写速度※	• 本機の状態により異なる場合があります。 ※ A4 (8-1/2" × 11") サイズをたて送りで給紙。		
	A4	31枚/分	
複写倍率	A5、B5、A6、B6	15枚/分	
	※たて送り、同一原稿の連続速度。画質安定化処理のために、出力を一時的に中断する場合があります。 環境によっては速度が落ちる場合があります。		
等倍	1:1 ± 0.8 %		
	拡大	115 %、122 %、141 %、200 %、400 %	
縮小	25 %、50 %、70 %、81 %、86 %		
	ズーム幅：25 % ~ 400 % の範囲で1 %ごとに376 段階、mm 指定による倍率計算機能にも対応 両面原稿自動送り装置使用時は、25 % ~ 200 %		
給紙方式/給紙容量	1トレイ方式 (250枚) + 手差しトレイ (50枚) = 300枚 64 g/m ² 紙の場合		
最大給紙方式/最大給紙容量	1トレイ方式 (250枚) + 1段給紙ユニット (500枚) + 手差しトレイ (50枚) = 800枚 64 g/m ² 紙の場合		
連続複写	最大999 枚		

メモリー容量	メモリー：標準2GB、eMMC16GB 1 GB は10 億バイトとして換算しています。実際のストレージ容量は少なくなります。		
電源	AC100V±10%、10A (50 Hz / 60 Hz 共通) 最大消費電力 1 kW 以下		
動作環境	使用環境条件	10~35℃ (20~85% RH) (温度が35℃の場合は、湿度60%以下 湿度が85%の場合は、温度30℃以下) 気圧800~1,013 hPa	
	標準環境条件	21~25℃ (50 ± 10% RH)	
エネルギー消費効率	55kWh/年 区分：複合機a		
大きさ	410 mm (幅) x 410 mm (奥行) x 399 mm (高さ)		
質量 (感光体含む、消耗品含まず)	約22 kg		
機械占有寸法	410 mm (幅) x 658 mm (奥行) (手差しトレイ伸長時)		

両面原稿自動送り装置

原稿送り装置の種類	両面同時原稿自動送り装置 (DSPF)		
原稿サイズ	A4~A5		
原稿紙厚	両面：50~105 g/m ²		
原稿の収容枚数	50枚 (64 g/m ²) モノクロ 片面：30ページ/分 (600 x 300dpi) 片面：15ページ/分 (600 x 600dpi) 両面：60ページ/分 (600 x 300dpi) 両面：30ページ/分 (600 x 600dpi)		
原稿読み取り速度 (コピー時)	カラー	片面：20ページ/分 (600 x 300dpi) 片面：10ページ/分 (600 x 600dpi) 両面：30ページ/分 (600 x 300dpi) 両面：20ページ/分 (600 x 600dpi) A4 タテで読み取り	

給紙ユニット

名称	1段給紙ユニット (BP-CS13)		
用紙サイズ	A4、B5、A5、B6、A6、封筒 (長形3号・長形4号・長形40号)、郵便はがき、往復はがき		
使用可能用紙	紙厚 60 ~ 200 g/m ²		
給紙容量	500 枚		
大きさ	幅 410 x 奥行 410 x 高さ 155 mm		
質量	約 3.9 kg		



ネットワークプリンター仕様

形式	内蔵型
連続プリント速度	連続複写速度と同じ
解像度	600×600 dpi
ページ記述言語	標準 SPDL2-c ※1、PostScript®3互換
対応プロトコル	TCP/IP(LPD/Port9100/IPP/FTP/WSD)
対応OS※2	Windows 10、Windows 11、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022 macOS (10.10、10.11、10.12、10.13、10.14、10.15、11、12、13、14)
内蔵フォント	(SPDL2-c ※1用) 欧文：80 書体 (PostScript®3互換) 欧文：136 書体 和文：2 書体
メモリー	本体システムメモリーを利用。
インタフェース	10 BASE-T/100 BASE-TX/1000 BASE-T、 USB 2.0 (ホスト、ハイスピードモード)、 IEEE802.11 a/b/g/n/ac

※1 SPDL はSharp Printer Description Language の略称です。

※2 接続できない場合もありますので、詳しくは販売店にお問い合わせください。

ドライバーソフトはホームページよりダウンロードできます。

ネットワークスキャナー仕様

形式	カラースキャナー
読み取り解像度 (主走査×副走査)	100×100 dpi 150×150dpi 200×200 dpi 300×300 dpi 400×400dpi 600×600 dpi (ブ シュスキャン) 50 ~ 9,600 dpi ※1 (プルスキャン)
原稿読み取り速 度 (A4)	片面 モノクロ30ページ/分(200x200/300x300dpi、1bit) カラー 20ページ/分(200x200/300x300dpi、8bit) 両面 モノクロ60ページ/分(200x200/300x300dpi、1bit) カラー 40ページ/分(200x200/300x300dpi、8bit) 当社標準原稿 (A4 サイズ6% 原稿) 標準モード。原稿の データ量により速度は変動します。
インタフェース	10 BASE-T/100 BASE-TX/1000 BASE-T、USB2.0、 IEEE802.11 a/b/g/n/ac
対応プロトコル	TCP/IP
対応OS プルスキャン (TWAIN) ※2	Windows 10、Windows 11、Windows Server 2016、 Windows Server 2019、Windows Server 2022
出力フォーマッ ト	モノクロ： TIFF、PDF 圧縮方式：非圧縮、G3 (MH)、G4 (MMR) グレースケール/ カラー： TIFF、JPEG、PDF 圧縮方式：JPEG (高圧縮、中圧縮、低圧縮)
ドライバー	TWAIN 準拠

※1 解像度を大きくすると読み取り範囲を小さくする必要があります。

※2 接続できない場合もありますので、詳しくは販売店にお問い合わせください。

ファクス仕様

適用回線	一般加入電話回線、ファクシミリ通信網 (Fネット)、自営構内 回線 (PBX)、PB ダイヤルイン
走査線密度	普通字：8 dot/mm × 3.85 本/mm 小さな字：8 dot/mm × 7.7 本/mm 精細：8 dot/mm × 15.4 本/mm 高精細：16 dot/mm × 15.4 本/mm
通信速度	スーパー G3：33.6kbps/G3：14.4kbps
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
通信モード	スーパー G3/G3
送信原稿サイズ	A4、16K、216mm x 340mm、216mm x 343mm (最大 500mm までの長尺原稿 (片面/モノクロのみ) の送信が可 能。)
記録紙サイズ	A5、B5、A4、8-1/2" x 11"、8-1/2" x 13"、 8-1/2" x 13-2/5"、8-1/2" x 13-1/2"
電送時間	2 秒台※ (当社A4 標準原稿・普通字モード・スーパー G3 (JBIG) 送信時) 6 秒台 (G3ECM)
メモリー	64 MB
備考	宛先 最大300 件 グループに登録できる宛先数：最大100 件 順次同報送信：最大100 件

※ ITU-T (国際電気通信連合) により、標準化されたスーパー G3 ファクシ
ミリの33.6kbps 電送方式に準拠。
A4 判700 字程度の原稿を標準的画質 (8 × 3.85 本/mm) で高速モード
(33.6kbps) 送信時の速さです。
これは画像情報のみを電送速度で通信の制御時間は含まれておりません。
なお、実際の送信時間は、原稿の内容、相手機種、回線の状態によって異な
ります。

無線LAN仕様

形式	標準 (内蔵型)
準拠規格	IEEE802.11a/b/g/n/ac
伝送方式	OFDM方式(IEEE802.11a/g/n/ac) DS-SS方式(IEEE802.11b)
周波数帯	2.4GHz 2412MHz ~ 2472MHz 5GHz 5180MHz~5720MHz
チャンネル	[2.4GHz] 802.11 b/g/n: 1-13ch [5GHz] 802.11a/n/ac: 36-144ch
伝送速度 (規格 値) ※1	IEEE802.11b 最大 11 Mbps IEEE802.11n 最大 150 Mbps IEEE802.11ac 最大 433 Mbps
対応プロトコル	TCP/IP (IPv4)
セキュリティ	WEP、WPA/WPA2-mixed パーソナル(PSK)、 WPA/WPA2-mixed エンタープライズ (EAP)※2、 WPA2 パーソナル(PSK)、WPA2 エンタープライズ (EAP)※2、 WPA2/WPA3-mixed パーソナル(PSK/SAE)、 WPA3 パーソナル(SAE)、 WPA2/WPA3-mixed エンタープライズ (EAP)※2、 WPA3 エンタープライズ(EAP)※2

※1 表示の数値は無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速
度を示すものではありません。

※2 アクセスポイントモード時は使用できません。



商標について

本機と本機の周辺装置およびその付属品に使用されている商標または登録商標は以下のとおりです。

- Microsoft、Windows、Windows Server2012、Windows10、Windows11、Windows Server2016、Windows Server2019は、マイクロソフトグループの企業の商標です。
- Intel®は、Intel社の米国及び他の国々における商標です。
- Adobe、PostScriptは、Adobe(アドビ社)の登録商標または商標です。
- Apple、MacはApple Inc.の商標です。
- iOSはCiscoの米国およびその他の国の商標または登録商標であり、Apple Inc.がライセンスに基づき使用しています。
- iPhoneはアイホン株式会社の商標であり、Apple Inc.がライセンスに基づき使用しています。
- Mozilla、Firefox は、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Sharpdesk® はシャープ株式会社の登録商標です。
- © 2021 ACCESS CO., LTD.

ACCESS™

- RealVNC は、英国RealVNC Limited の商標です。
- Android、Google Play、GmailおよびGoogle Driveは Google LLCの商標です。
この商標の使用には Google 使用許諾が適用されます。
- Wi-Fi、Wi-Fi Directは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。
- WPAおよび WPA2、WPA3は、Wi-Fi Allianceの商標です。
- QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。
- その他、取扱説明書の中で記載されている会社名や商品名は各社の商標または登録商標です。

本プリンターの内蔵フォントはMonotype ImagingのMicroType®フォント圧縮技術を使用しており、ラスタライズには同社のUFST® (Universal Font Scaling Technology) のスケーラブルフォントレンダリングサブシステムを使用しています。

MicroType®とUFST®はアメリカ合衆国の特許商標局で登録されているMonotype Imaging, Inc.の登録商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Candid、Gold、Taffyはアメリカ合衆国の特許商標局で登録されているMonotype Imaging, Inc.の登録商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

CG Omega、CG Times、Garamond Antiqua、Garamond Halbfett、Garamond Kursiv、Garamond Halbfett Kursiv はMonotype Imaging, Inc.の商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Albertus、Arial、Ashley Script、Coronet、Gill Sans、Joanna、Times New Romanはアメリカ合衆国の特許商標局で登録されているThe Monotype Corporationの登録商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Avant Garde、ITC Bookman、Lubalin Graph、Mona Lisa、Zapf Chancery、Zapf Dingbatsはアメリカ合衆国の特許商標局で登録されているInternational Typeface Corporationの登録商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Clarendon、Eurostile、Helvetica、Optima、Palatino、Stempel Garamond、Times、UniversはHeidelberger Druckmaschinen AGの完全所有の子会社であるLinotype Library GmbHから独占的なライセンスを受けている Heidelberger Druckmaschinen AGの商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Apple Chancery、Chicago、Geneva、Monaco、New York はApple Inc.の商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Wingdings はアメリカ合衆国とその他の国々で登録されているMicrosoft Corporationの登録商標です。

MarigoldとOxfordはArthur Bakerの商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Antique OliveはMarcel Oliveの商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Hoefler Text はJohnathan Hoeflerの商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

HGGothicB、HGMinchoL、HGP GothicB and HGPMinchoLは株式会社リコーの商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。ITCはアメリカ合衆国の特許商標局で登録されるInternational Typeface Corporationの登録商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

AgfaはAgfa-Gevaert Groupの商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Intellifont、MicroType及びUFSTはアメリカ合衆国の特許商標局で登録されているMonotype Imaging, Inc.の登録商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

TrueTypeはアメリカ合衆国の特許商標局及びその他の国々で登録されているApple Inc.の登録商標です。

PostScriptはAdobe社の商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

HP、FontSmart及びLaserJetはHewlett-Packard Companyの商標であり、そしてその他の管轄区域で登録されている場合があります。

Monotype Imaging社のUFST製品に内蔵されているType 1プロセッサはElectronics For Imaging, Incからライセンスを受けているものです。



第2水準

第2水準 第1水準	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2A	2B	2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	3A	3B	3C	3D	3E	3F
50	式	丐	丕	个	卯	、	井	ノ	又	乖	乘	亂	丁	豫	事	舒	式	于	亞	亟	一	亢	京	毫	亶	从	仍	仄	仆	伉	仗	
51	僉	僂	傳	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	
52	辦	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	劬	
53	思	晒	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	咤	
54	圈	國	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	圍	
55	奸	妁	妝	佞	佞	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	妣	
56	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	屐	
57	廖	廣	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	廡	
58	悄	俊	倅	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	悒	
59	憂	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	戡	
5A	據	擒	擅	擇	捷	擘	插	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	擱	
5B	曄	瞭	暖	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	曠	
5C	楫	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	棧	
5D	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	槩	
5E	沍	泛	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	汎	
5F	漾	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	瀉	
60	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	燠	
61	瓠	瓣	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	坵	
62	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	癩	
63	磧	磚	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	磧	
64	筐	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	筭	
65	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	紂	
66	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	罅	
67	隋	腆	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	脾	
68	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵
69	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	
6A	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	蟪	
6B	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	
6C	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	譟	
6D	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	
6E	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	
6F	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	鎚	
70	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝	陝		
71	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	
72	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	
73	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	
74	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	
75																																
76																																
77																																
78																																
79																																
7A																																
7B																																
7C																																
7D																																
7E																																
7F																																

ライセンス情報

本機で使用しているソフトウェアのライセンス情報

ソフトウェア構成

本機に組み込まれているソフトウェアは、それぞれ当社または第三者の著作権が存在する、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成されています。

当社開発ソフトウェアとフリーソフトウェア

本機のソフトウェアコンポーネントのうち、当社が開発または作成したソフトウェアおよび付帯するドキュメント類には当社の著作権が存在し、著作権法、国際条約およびその他の関連する法律によって保護されています。

また本機は、第三者が著作権を所有しフリーソフトウェアとして配布されているソフトウェアコンポーネントを使用しています。それらの一部には、GNU General Public License (以下、GPL)、GNU Lesser General Public License (以下、LGPL)、またはその他のライセンス契約の適用を受けるソフトウェアコンポーネントが含まれています。

ソースコードの入手方法

フリーソフトウェアには、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、そのコンポーネントのソースコードの入手を可能にすることを求めるものがあります。GPL およびLGPL も、同様の条件を定めています。こうしたフリーソフトウェアのソースコードの入手方法ならびにGPL、LGPL およびその他のライセンス契約の確認方法については、以下のWEB サイトをご覧ください。

<https://jp.sharp/business/print/support/source/download/index.html>

なお、フリーソフトウェアのソースコードの内容に関するお問い合わせはご遠慮ください。

また当社が所有権を持つソフトウェアコンポーネントについては、ソースコードの提供対象ではありません。

本機で使用しているソフトウェアのライセンス表示

Copyright (c) 2000 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2.Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3.The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For permission or any other legal details, please contact
Office of Technology Transfer Carnegie Mellon University 5000 Forbes Avenue Pittsburgh, PA 15213-3890
(412) 268-4387, fax: (412) 268-7395
tech-transfer@andrew.cmu.edu

Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

"This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Copyright (c) 1995 - 2008 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.

All rights reserved. Export of this software from the United States of America may require a specific license from the United States Government. It is the responsibility of any person or organization contemplating export to obtain such a license before exporting.

WITHIN THAT CONSTRAINT, permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of M.I.T. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. Furthermore if you modify this software you must label your software as modified software and not distribute it in such a fashion that it might be confused with the original MIT software. M.I.T. makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "**AS IS**" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Individual source code files are copyright MIT, Cygnus Support, OpenVision, Oracle, Sun Soft, FundsXpress, and others.

Project Athena, Athena, Athena MUSE, Discuss, Hesiod, Kerberos, Moira, and Zephyr are trademarks of the Massachusetts Institute of Technology (MIT). No commercial use of these trademarks may be made without prior written permission of MIT.

"Commercial use" means use of a name in a product or other for-profit manner. It does NOT prevent a commercial firm from referring to the MIT trademarks in order to convey information (although in doing so, recognition of their trademark status should be given).

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2004 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2.Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3.All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
- 4.The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
- 5.Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
- 6.Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscape's SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version orderivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply becoped and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

D3DES License

Copyright (c) 1988,1989,1990,1991,1992 by Richard Outerbridge. (GENie : OUTER; CIS : [71755,204]) Graven Imagery, 1992.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same

sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You

may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO

THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.> Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the

library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY

YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.> Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 3, 29 June 2007

Copyright (C) 2007 Free Software Foundation, Inc. <<http://fsf.org/>>

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The GNU General Public License is a free, copyleft license for software and other kinds of works.

The licenses for most software and other practical works are designed to take away your freedom to share and change the works. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change all versions of a program--to make sure it remains free software for all its users. We, the Free Software Foundation, use the GNU General Public License for most of our software; it applies also to any other work released this way by its authors. You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for them if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs, and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to prevent others from denying you these rights or asking you to surrender the rights. Therefore, you have certain responsibilities if you distribute copies of the software, or if you modify it: responsibilities to respect the freedom of others.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must pass on to the recipients the same freedoms that you received. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

Developers that use the GNU GPL protect your rights with two steps:

(1) assert copyright on the software, and (2) offer you this License giving you legal permission to copy, distribute and/or modify it.

For the developers' and authors' protection, the GPL clearly explains that there is no warranty for this free software. For both users' and authors' sake, the GPL requires that modified versions be marked as changed, so that their problems will not be attributed erroneously to authors of previous versions.

Some devices are designed to deny users access to install or run modified versions of the software inside them, although the manufacturer can do so. This is fundamentally incompatible with the aim of protecting users' freedom to change the software. The systematic pattern of such abuse occurs in the area of products for individuals to use, which is precisely where it is most unacceptable. Therefore, we have designed this version of the GPL to prohibit the practice for those products. If such problems arise substantially in other domains, we stand ready to extend this provision to those domains in future versions of the GPL, as needed to protect the freedom of users.

Finally, every program is threatened constantly by software patents. States should not allow patents to restrict development and use of software on general-purpose computers, but in those that do, we wish to avoid the special danger that patents applied to a free program could make it effectively proprietary. To prevent this, the GPL assures that patents cannot be used to render the program non-free.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS

0. Definitions.

"This License" refers to version 3 of the GNU General Public License.

"Copyright" also means copyright-like laws that apply to other kinds of works, such as semiconductor masks.

"The Program" refers to any copyrightable work licensed under this License. Each licensee is addressed as "you". "Licensees" and "recipients" may be individuals or organizations.

To "modify" a work means to copy from or adapt all or part of the work in a fashion requiring copyright permission, other than the making of an exact copy. The resulting work is called a "modified version" of the earlier work or a work "based on" the earlier work.

A "covered work" means either the unmodified Program or a work based on the Program.

To "propagate" a work means to do anything with it that, without permission, would make you directly or secondarily liable for infringement under applicable copyright law, except executing it on a computer or modifying a private copy. Propagation includes copying, distribution (with or without modification), making available to the public, and in some countries other activities as well.

To "convey" a work means any kind of propagation that enables other parties to make or receive copies. Mere interaction with a user through a computer network, with no transfer of a copy, is not conveying.

An interactive user interface displays "Appropriate Legal Notices" to the extent that it includes a convenient and prominently visible feature that (1) displays an appropriate copyright notice, and (2) tells the user that there is no warranty for the work (except to the extent that warranties are provided), that licensees may convey the work under this License, and how to view a copy of this License. If the interface presents a list of user commands or options, such as a menu, a prominent item in the list meets this criterion.

1. Source Code.

The "source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. "Object code" means any non-source form of a work.

A "Standard Interface" means an interface that either is an official standard defined by a recognized standards body, or, in the case of interfaces specified for a particular programming language, one that is widely used among developers working in that language.

The "System Libraries" of an executable work include anything, other than the work as a whole, that (a) is included in the normal form of packaging a Major Component, but which is not part of that Major Component, and (b) serves only to enable use of the work with that Major Component, or to implement a Standard Interface for which an implementation is available to the public in source code form. A "Major Component", in this context, means a major essential component (kernel, window system, and so on) of the specific operating system (if any) on which the executable work runs, or a compiler used to produce the work, or an object code interpreter used to run it.

The "Corresponding Source" for a work in object code form means all the source code needed to generate, install, and (for an executable work) run the object code and to modify the work, including scripts to control those activities. However, it does not include the work's System Libraries, or general-purpose tools or generally available free programs which are used unmodified in performing those activities but which are not part of the work. For example, Corresponding Source includes interface definition files associated with source files for the work, and the source code for shared libraries and dynamically linked subprograms that the work is specifically designed to require, such as by intimate data communication or control flow between those subprograms and other parts of the work.

The Corresponding Source need not include anything that users can regenerate automatically from other parts of the Corresponding Source.

The Corresponding Source for a work in source code form is that same work.

2. Basic Permissions.

All rights granted under this License are granted for the term of copyright on the Program, and are irrevocable provided the stated conditions are met. This License explicitly affirms your unlimited permission to run the unmodified Program. The output from running a covered work is covered by this License only if the output, given its content, constitutes a covered work. This License acknowledges your rights of fair use or other equivalent, as provided by copyright law.

You may make, run and propagate covered works that you do not convey, without conditions so long as your license otherwise remains in force. You may convey covered works to others for the sole purpose of having them make modifications exclusively for you, or provide you with facilities for running those works, provided that you comply with the terms of this License in conveying all material for which you do not control copyright. Those thus making or running the covered works for you must do so exclusively on your behalf, under your direction and control, on terms that prohibit them from making any copies of your copyrighted material outside their relationship with you.

Conveying under any other circumstances is permitted solely under the conditions stated below. Sublicensing is not allowed; section 10 makes it unnecessary.

3. Protecting Users' Legal Rights From Anti-Circumvention Law.

No covered work shall be deemed part of an effective technological measure under any applicable law fulfilling obligations under article 11 of the WIPO copyright treaty adopted on 20 December 1996, or similar laws prohibiting or restricting circumvention of such measures.

When you convey a covered work, you waive any legal power to forbid circumvention of technological measures to the extent such circumvention is effected by exercising rights under this License with respect to the covered work, and you disclaim any intention to limit operation or modification of the work as a means of enforcing, against the work's users, your or third parties' legal rights to forbid circumvention of technological measures.

4. Conveying Verbatim Copies.

You may convey verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice; keep intact all notices stating that this License and any non-permissive terms added in accord with section 7 apply to the code; keep intact all notices of the absence of any warranty; and give all recipients a copy of this License along with the Program.

You may charge any price or no price for each copy that you convey, and you may offer support or warranty protection for a fee.

5. Conveying Modified Source Versions.

You may convey a work based on the Program, or the modifications to produce it from the Program, in the form of source code under the terms of section 4, provided that you also meet all of these conditions:

a) The work must carry prominent notices stating that you modified it, and giving a relevant date.

b) The work must carry prominent notices stating that it is released under this License and any conditions added under section

7. This requirement modifies the requirement in section 4 to "keep intact all notices".

c) You must license the entire work, as a whole, under this License to anyone who comes into possession of a copy. This License will therefore apply, along with any applicable section 7 additional terms, to the whole of the work, and all its parts, regardless of how they are packaged. This License gives no permission to license the work in any other way, but it does not invalidate such permission if you have separately received it.

d) If the work has interactive user interfaces, each must display Appropriate Legal Notices; however, if the Program has interactive interfaces that do not display Appropriate Legal Notices, your work need not make them do so.

A compilation of a covered work with other separate and independent works, which are not by their nature extensions of the covered work, and which are not combined with it such as to form a larger program, in or on a volume of a storage or distribution medium, is called an "aggregate" if the compilation and its resulting copyright are not used to limit the access or legal rights of the compilation's users beyond what the individual works permit. Inclusion of a covered work in an aggregate does not cause this License to apply to the other parts of the aggregate.

6. Conveying Non-Source Forms.

You may convey a covered work in object code form under the terms of sections 4 and 5, provided that you also convey the machine-readable Corresponding Source under the terms of this License, in one of these ways:

a) Convey the object code in, or embodied in, a physical product (including a physical distribution medium), accompanied by the Corresponding Source fixed on a durable physical medium customarily used for software interchange.

b) Convey the object code in, or embodied in, a physical product (including a physical distribution medium), accompanied by a written offer, valid for at least three years and valid for as long as you offer spare parts or customer support for that product model, to give anyone who possesses the object code either (1) a copy of the Corresponding Source for all the software in the product that is covered by this License, on a durable physical medium customarily used for software interchange, for a price no more than your reasonable cost of physically performing this conveying of source, or (2) access to copy the Corresponding Source from a network server at no charge.

c) Convey individual copies of the object code with a copy of the written offer to provide the Corresponding Source. This alternative is allowed only occasionally and noncommercially, and only if you received the object code with such an offer, in accord with subsection 6b.

d) Convey the object code by offering access from a designated place (gratis or for a charge), and offer equivalent access to the Corresponding Source in the same way through the same place at no further charge. You need not require recipients to copy the Corresponding Source along with the object code. If the place to copy the object code is a network server, the Corresponding Source may be on a different server (operated by you or a third party) that supports equivalent copying facilities, provided you maintain clear directions next to the object code saying where to find the Corresponding Source. Regardless of what server hosts the Corresponding Source, you remain obligated to ensure that it is available for as long as needed to satisfy these requirements.

e) Convey the object code using peer-to-peer transmission, provided you inform other peers where the object code and Corresponding Source of the work are being offered to the general public at no charge under subsection 6d.

A separable portion of the object code, whose source code is excluded from the Corresponding Source as a System Library, need not be included in conveying the object code work.

A "User Product" is either (1) a "consumer product", which means any tangible personal property which is normally used for personal, family, or household purposes, or (2) anything designed or sold for incorporation into a dwelling. In determining whether a product is a consumer product, doubtful cases shall be resolved in favor of coverage. For a particular product received by a particular user, "normally used" refers to a typical or common use of that class of product, regardless of the status of the particular user or of the way in which the particular user actually uses, or expects or is expected to use, the product. A product is a consumer product regardless of whether the product has substantial commercial, industrial or non-consumer uses, unless such uses represent the only significant mode of use of the product.

"Installation Information" for a User Product means any methods, procedures, authorization keys, or other information required to install and execute modified versions of a covered work in that User Product from a modified version of its

Corresponding Source. The information must suffice to ensure that the continued functioning of the modified object code is in no case prevented or interfered with solely because modification has been made.

If you convey an object code work under this section in, or with, or specifically for use in, a User Product, and the conveying occurs as part of a transaction in which the right of possession and use of the User Product is transferred to the recipient in perpetuity or for a fixed term (regardless of how the transaction is characterized), the Corresponding Source conveyed under this section must be accompanied by the Installation Information. But this requirement does not apply if neither you nor any third party retains the ability to install modified object code on the User Product (for example, the work has been installed in ROM).

The requirement to provide Installation Information does not include a requirement to continue to provide support service, warranty, or updates for a work that has been modified or installed by the recipient, or for the User Product in which it has been modified or installed. Access to a network may be denied when the modification itself materially and adversely affects the operation of the network or violates the rules and protocols for communication across the network.

Corresponding Source conveyed, and Installation Information provided, in accord with this section must be in a format that is publicly documented (and with an implementation available to the public in source code form), and must require no special password or key for unpacking, reading or copying.

7. Additional Terms.

"Additional permissions" are terms that supplement the terms of this License by making exceptions from one or more of its conditions. Additional permissions that are applicable to the entire Program shall be treated as though they were included in this License, to the extent that they are valid under applicable law. If additional permissions apply only to part of the Program, that part may be used separately under those permissions, but the entire Program remains governed by this License without regard to the additional permissions.

When you convey a copy of a covered work, you may at your option remove any additional permissions from that copy, or from any part of it. (Additional permissions may be written to require their own removal in certain cases when you modify the work.) You may place additional permissions on material, added by you to a covered work, for which you have or can give appropriate copyright permission.

Notwithstanding any other provision of this License, for material you add to a covered work, you may (if authorized by the copyright holders of that material) supplement the terms of this License with terms:

- a) Disclaiming warranty or limiting liability differently from the terms of sections 15 and 16 of this License; or
- b) Requiring preservation of specified reasonable legal notices or author attributions in that material or in the Appropriate Legal Notices displayed by works containing it; or
- c) Prohibiting misrepresentation of the origin of that material, or requiring that modified versions of such material be marked in reasonable ways as different from the original version; or
- d) Limiting the use for publicity purposes of names of licensors or authors of the material; or
- e) Declining to grant rights under trademark law for use of some trade names, trademarks, or service marks; or
- f) Requiring indemnification of licensors and authors of that material by anyone who conveys the material (or modified versions of it) with contractual assumptions of liability to the recipient, for any liability that these contractual assumptions directly impose on those licensors and authors.

All other non-permissive additional terms are considered "further restrictions" within the meaning of section 10. If the Program as you received it, or any part of it, contains a notice stating that it is governed by this License along with a term that is a further restriction, you may remove that term. If a license document contains a further restriction but permits

relicensing or conveying under this License, you may add to a covered work material governed by the terms of that license document, provided that the further restriction does not survive such relicensing or conveying.

If you add terms to a covered work in accord with this section, you must place, in the relevant source files, a statement of the additional terms that apply to those files, or a notice indicating where to find the applicable terms.

Additional terms, permissive or non-permissive, may be stated in the form of a separately written license, or stated as exceptions; the above requirements apply either way.

8. Termination.

You may not propagate or modify a covered work except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to propagate or modify it is void, and will automatically terminate your rights under this License (including any patent licenses granted under the third paragraph of section 11).

However, if you cease all violation of this License, then your license from a particular copyright holder is reinstated (a) provisionally, unless and until the copyright holder explicitly and finally terminates your license, and (b) permanently, if the copyright holder fails to notify you of the violation by some reasonable means prior to 60 days after the cessation.

Moreover, your license from a particular copyright holder is reinstated permanently if the copyright holder notifies you of the violation by some reasonable means, this is the first time you have received notice of violation of this License (for any work) from that copyright holder, and you cure the violation prior to 30 days after your receipt of the notice.

Termination of your rights under this section does not terminate the licenses of parties who have received copies or rights from you under this License. If your rights have been terminated and not permanently reinstated, you do not qualify to receive new licenses for the same material under section 10.

9. Acceptance Not Required for Having Copies.

You are not required to accept this License in order to receive or run a copy of the Program. Ancillary propagation of a covered work occurring solely as a consequence of using peer-to-peer transmission to receive a copy likewise does not require acceptance. However, nothing other than this License grants you permission to propagate or modify any covered work. These actions infringe copyright if you do not accept this License. Therefore, by modifying or propagating a covered work, you indicate your acceptance of this License to do so.

10. Automatic Licensing of Downstream Recipients.

Each time you convey a covered work, the recipient automatically receives a license from the original licensors, to run, modify and propagate that work, subject to this License. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

An "entity transaction" is a transaction transferring control of an organization, or substantially all assets of one, or subdividing an organization, or merging organizations. If propagation of a covered work results from an entity transaction, each party to that transaction who receives a copy of the work also receives whatever licenses to the work the party's predecessor in interest had or could give under the previous paragraph, plus a right to possession of the Corresponding Source of the work from the predecessor in interest, if the predecessor has it or can get it with reasonable efforts.

You may not impose any further restrictions on the exercise of the rights granted or affirmed under this License. For example, you may not impose a license fee, royalty, or other charge for exercise of rights granted under this License, and you may not initiate litigation (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that any patent claim is infringed by making, using, selling, offering for sale, or importing the Program or any portion of it.

11. Patents.

A "contributor" is a copyright holder who authorizes use under this License of the Program or a work on which the Program is based. The work thus licensed is called the contributor's "contributor version".

A contributor's "essential patent claims" are all patent claims owned or controlled by the contributor, whether already acquired or hereafter acquired, that would be infringed by some manner, permitted by this License, of making, using, or selling its contributor version, but do not include claims that would be infringed only as a consequence of further modification of the contributor version. For purposes of this definition, "control" includes the right to grant patent sublicenses in a manner consistent with the requirements of this License.

Each contributor grants you a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under the contributor's essential patent claims, to make, use, sell, offer for sale, import and otherwise run, modify and propagate the contents of its contributor version.

In the following three paragraphs, a "patent license" is any express agreement or commitment, however denominated, not to enforce a patent (such as an express permission to practice a patent or covenant not to sue for patent infringement). To "grant" such a patent license to a party means to make such an agreement or commitment not to enforce a patent against the party.

If you convey a covered work, knowingly relying on a patent license, and the Corresponding Source of the work is not available for anyone to copy, free of charge and under the terms of this License, through a publicly available network server or other readily accessible means, then you must either (1) cause the Corresponding Source to be so available, or (2) arrange to deprive yourself of the benefit of the patent license for this particular work, or (3) arrange, in a manner consistent with the requirements of this License, to extend the patent license to downstream recipients. "Knowingly relying" means you have actual knowledge that, but for the patent license, your conveying the covered work in a country, or your recipient's use of the covered work in a country, would infringe one or more identifiable patents in that country that you have reason to believe are valid.

If, pursuant to or in connection with a single transaction or arrangement, you convey, or propagate by procuring conveyance of, a covered work, and grant a patent license to some of the parties receiving the covered work authorizing them to use, propagate, modify or convey a specific copy of the covered work, then the patent license you grant is automatically extended to all recipients of the covered work and works based on it.

A patent license is "discriminatory" if it does not include within the scope of its coverage, prohibits the exercise of, or is conditioned on the non-exercise of one or more of the rights that are specifically granted under this License. You may not convey a covered work if you are a party to an arrangement with a third party that is in the business of distributing software, under which you make payment to the third party based on the extent of your activity of conveying the work, and under which the third party grants, to any of the parties who would receive the covered work from you, a discriminatory patent license (a) in connection with copies of the covered work conveyed by you (or copies made from those copies), or (b) primarily for and in connection with specific products or compilations that contain the covered work, unless you entered into that arrangement, or that patent license was granted, prior to 28 March 2007.

Nothing in this License shall be construed as excluding or limiting any implied license or other defenses to infringement that may otherwise be available to you under applicable patent law.

12. No Surrender of Others' Freedom.

If conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot convey a covered work so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not convey it at all. For example, if you agree to terms that obligate you to collect a royalty for further conveying from those to whom you convey the Program, the only way you could satisfy both those terms and this License would be to refrain entirely from conveying the Program.

13. Use with the GNU Affero General Public License.

Notwithstanding any other provision of this License, you have permission to link or combine any covered work with a work licensed under version 3 of the GNU Affero General Public License into a single combined work, and to convey the resulting work. The terms of this License will continue to apply to the part which is the covered work, but the special requirements of the GNU Affero General Public License, section 13, concerning interaction through a network will apply to the combination as such.

14. Revised Versions of this License.

The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the GNU General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies that a certain numbered version of the GNU General Public License "or any later version" applies to it, you have the option of following the terms and conditions either of that numbered version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of the GNU General Public License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

If the Program specifies that a proxy can decide which future versions of the GNU General Public License can be used, that proxy's public statement of acceptance of a version permanently authorizes you to choose that version for the Program.

Later license versions may give you additional or different permissions. However, no additional obligations are imposed on any author or copyright holder as a result of your choosing to follow a later version.

15. Disclaimer of Warranty.

THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. Limitation of Liability.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MODIFIES AND/OR CONVEYS THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

17. Interpretation of Sections 15 and 16.

If the disclaimer of warranty and limitation of liability provided above cannot be given local legal effect according to their terms, reviewing courts shall apply local law that most closely approximates an absolute waiver of all civil liability in connection with the Program, unless a warranty or assumption of liability accompanies a copy of the Program in return for a fee.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively state the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

```
<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>  
Copyright (C) <year> <name of author>
```

This program is free software: you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation, either version 3 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program. If not, see <http://www.gnu.org/licenses/>.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program does terminal interaction, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

```
<program> Copyright (C) <year> <name of author>  
This program comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'.  
This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.
```

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, your program's commands might be different; for a GUI interface, you would use an "about box".

You should also get your employer (if you work as a programmer) or school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary.

For more information on this, and how to apply and follow the GNU GPL, see <http://www.gnu.org/licenses/>.

The GNU General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License. But first, please read <http://www.gnu.org/philosophy/why-not-lgpl.html>.

-----libtiff-----

Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler
Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or publicity relating to the software without the specific, prior written permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

-----libjpeg-----

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

ソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェアをお使いになる前に、以下の使用許諾契約書を注意してお読みください。本ソフトウェアを使用することによって、お客様はこの使用許諾契約書の条件に拘束されることを承諾されたものとします。

1. 実施許諾

ディスク、読み出し専用記憶素子又はその他の媒体に格納され、本使用許諾契約に付属するアプリケーション、デモ用プログラム、システム及び他のソフトウェア（以下「本ソフトウェア」という）、並びに関連する文書は、SHARPからお客様に実施許諾されるものです。お客様は本ソフトウェアが記録されているディスクを所有しますが、SHARP及び／又はSHARPのライセンサーが本ソフトウェアと関連文書の権限を留保します。本使用許諾契約により、お客様は1台のプリンタに接続された1台または複数のコンピュータ上で本ソフトウェアを使用し、バックアップだけを目的として本ソフトウェアの機械可読形式のコピーを1部だけ作成することができます。お客様は、当該コピーの中に、SHARPの著作権表示、SHARPのライセンサーの著作権表示、並びにSHARP及び／又はライセンサーが所有する本ソフトウェアの元のコピーに収められていたその他の記号一覧を複製しなければなりません。またお客様は、本ソフトウェア、本ソフトウェアのバックアップ用コピー、関連文書及び本使用許諾契約の写しに関するあらゆる権利を第三者に譲渡することができますが、その場合は当該第三者が本使用許諾契約の条件を読んだうえ、それに同意することが条件となります。

2. 制限

本ソフトウェアには、SHARP及び／又はそのライセンサーが所有する著作権物、企業秘密及びその他の専有物が含まれており、それらを保護するため、お客様は本ソフトウェアを逆コンパイル、リバースエンジニアリング、逆アセンブル又はその他人間が認識可能な形式に変換することはできません。お客様は、本ソフトウェアに基づく派生物の全部又は一部について、修正、ネットワーク接続、レンタル、リース、貸与、頒布又は作成することはできません。本ソフトウェアを1台のコンピュータから別のコンピュータに、又はネットワーク経由で、電子的に送信することはできません。

3. 終了

本使用許諾契約は、終了されるまで有効です。お客様は、本ソフトウェア、関連文書及びそれらのすべてのコピーを破棄することで、本使用許諾契約をいつでも終了できます。お客様が本使用許諾契約のいずれかの条項を遵守されなかった場合、SHARP及び／又はSHARPのライセンサーからの通告なしに、本使用許諾契約は直ちに終了します。お客様は、契約終了と同時に、本ソフトウェア、関連文書及びそれらの一切のコピーを破棄しなければなりません。

4. 輸出法規に関する保証

お客様は、米国の法律及び規制により認可されている場合を除き、本ソフトウェア若しくはSHARPから受領したその他の技術データ、又はそれらから直接派生する製品が米国外に輸出されないことに同意して保証します。本ソフトウェアがお客様により米国外で適法に取得されている場合は、お客様は、本ソフトウェア若しくはSHARPから受領したその他の技術データ、又はそれらから直接派生した製品については、米国の法律と規制及び本ソフトウェアを取得された管轄地域の法律と規制で許可されている場合を除き、再輸出しないことに同意されます。

5. 政府の最終利用者

お客様が本ソフトウェアを米国政府の組織又は機関を代理して取得される場合、以下の規定が適用されます。政府は、以下の規定に同意されるものとします。

- (i) 本ソフトウェアが国防省に供給される場合、本ソフトウェアは「商用コンピュータ・ソフトウェア」と分類され、政府は、DFARSの第252.227-7013(c)(1)項(1988年10月)に定義される条件に従い、本ソフトウェアとその文書について「制限付きの権利」を取得することになります。
- (ii) 本ソフトウェアが国防省以外のいずれかの政府組織又は機関に供給される場合、本ソフトウェアは、48 C.F.R. 2.101に定義される条件に従い「商用品目」と分類され、かつ、48 C.F.R. 12.212に定義される条件に従い「商用コンピュータ・ソフトウェア」と分類され、本ソフトウェアとその文書における政府の権利は、FARの第52.227-19(c)(2)項に定義される内容となり、NASAの場合は、FARにおけるNASAの補遺第18-52.227-86(d)項に定義される内容となります。

6. 媒体に対する制限保証

SHARPは、本ソフトウェアが記録されているディスクには通常の使用において、材料及び製造上の瑕疵がないことを、領収書の控えを証拠とするお買上の日付から90日間に限り保証します。SHARP及び／又はそのライセンサーの一切の責任、並びにお客様への唯一の救済手段は、本条に定める制限保証に適合しないディスクを交換することです。ディスクが領収書の控えとともにSHARP又はSHARPの正式代表者に返品された場合に、その交換に応じます。SHARPは、事故、濫用又は誤用によって破損したディスクについては交換する責を負いません。

商品性及び特定目的への適合性に関する暗黙の保証も含め、ディスクに関する一切の暗黙の保証は、引渡日から90日間までに限定されます。当該保証によりお客様には特定の法律上の権利が与えられ、管轄地域によってはその他の権利が与えられる場合もあります。

7. 本ソフトウェアに関する保証の否認

お客様は、本ソフトウェアの使用においてはお客様だけが責任を負われることを明白に確認して同意するものとします。本ソフトウェアと関連文書は、「現状のまま」一切の保証なしに提供されるものであり、SHARP及びSHARPのライセンサーは（本条と8条の目的上、SHARPとSHARPのライセンサーは総称的に「SHARP」と称する）、商品性と特定目的への適合性に関する暗黙の保証等も含め、明示又は暗黙を問わず、一切の保証を明白に否認します。SHARPは、本ソフトウェアに含まれる機能がお客様の要件に適合すること、本ソフトウェアの操作において中断や誤りがないこと、又は本ソフトウェアの欠陥が修正されることについては保証しません。さらにSHARPは、本ソフトウェア若しくは関連文書の使用又は使用の結果につき、その正しさ、正確さ、信頼性又はその他についても保証又は一切の表明を行いません。SHARP又はSHARPの正式代表者による口頭又は書面による情報や助言は、保証となるものではなく、本保証の範囲をいかなる点でも拡張するものでもありません。本ソフトウェアに欠陥が見つかった場合、不具合の修復、又は訂正において必要な一切の費用を、（SHARP又はSHARPの正式代表者ではなく）お客様が負担されることとなります。管轄地域によっては暗黙の保証の除外を認めない地域もありますので、お客様には上記の除外規定が適用されない場合もあります。

8. 責任の制限

SHARPは、過失も含めいかなる状況でも、本ソフトウェア若しくは関連文書の使用又は使用不能から生じる付随的損害、特別損害又は間接損害については、SHARP又はSHARPの正式代表者がかかる損害の可能性について知らされていた場合でも、一切責任を負いません。管轄地域によっては付随的又は間接的な損害に関する責任の制限又は除外を認めていないところもあるので、お客様には上記の制限又は除外規定が適用されないこともあります。

損害、損失及び訴訟事由（契約上、不法行為（過失も含む）その他を問わない）に対するSHARPからお客様への全責任は、いかなる場合でもお客様が本ソフトウェアに支払った金額を超えないものとします。

9. 準拠法と分離性

AppleのMacintosh及びMicrosoftのWindowsに関連する本ソフトウェアの部分については、本使用許諾契約は、それぞれカリフォルニア州とワシントン州の法律に準拠し、それぞれの法律に従って解釈されます。管轄裁判所が何らかの理由で本使用許諾契約の条項又はその一部について施行不能と判断した場合、契約当事者の意図が達成されるよう最大限の許容範囲で本使用許諾契約の当該条項が執行され、本使用許諾契約の残りの部分はすべて有効に存続するものとします。

10. 完全なる合意

本使用許諾契約は、本ソフトウェアと関連文書の使用に関して契約当事者間における完全な合意となるものであり、かかる主題に関する口頭又は書面による従前又は同時期の一切の了解又は合意に取って代わるものです。SHARPの正式代表者により書面に署名されない限り、本使用許諾契約の修正や変更は拘束力を持たないものとします。

シャープ株式会社